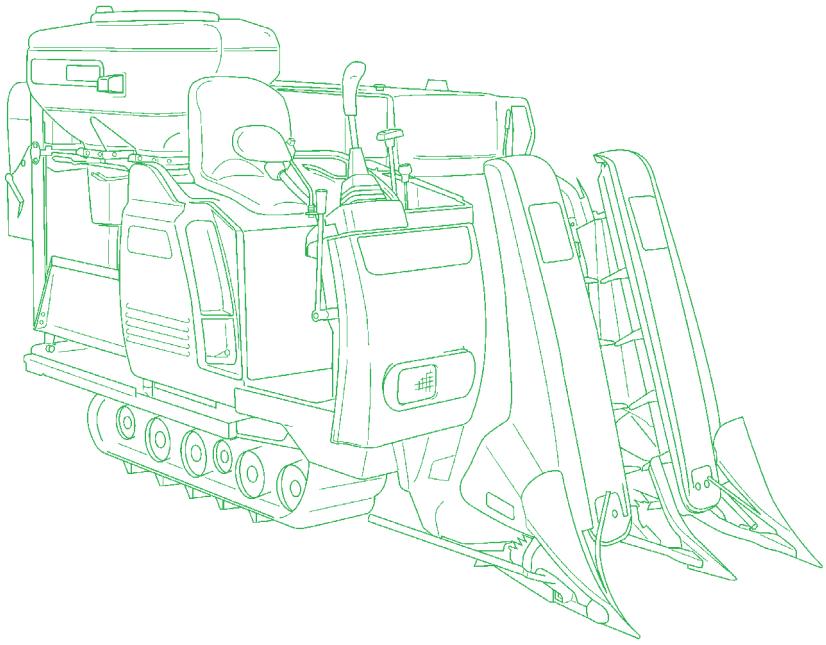
コンバイン

取扱説明書

VMS15(G)



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはコンバインをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象になりません。
（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，**安全作業のために**からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

● **安全な作業をするための注意事項は？** **安全作業のために** 安全作業説明編

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

● **使用前に知っておかなければならないことは？** **ご使用まえに** ①

機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。

● **各部のはたらきを知るには？** **各部のはたらき** ⑤

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

● **コンバインを動かすには？** **運転のしかた** ㉗

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた等を説明しています。

● **収穫作業を行うには？** **作業のしかた** ㉟

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

● **自動装置を使用して作業するには？** **自動装置について** ㊷

各自動装置の取扱いについて説明しています。

● **機械を長もちさせるには？** **手入れのしかた** ㊻

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

● **機械を3ケ月以上格納するときは？** **長期格納のしかた** ⑫⓪

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

● **故障かなと思ったら？** **不調時の処置** ⑫②

作業中のトラブルや不調，異常を感じた時はすぐ原因を調べ処置してください。

● **諸元・電気配線図・関連部品は？** **付　　表** ⑬⓪

機械に係る諸元表・消耗部品等を一覧表で説明し，また，取扱説明書にでてくる専門用語を解説しています。

もくじ

安全作業のために……(安-1)～(安-23)

(安全作業説明編)

ご使用まえに……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 3
4．小型特殊自動車について…… 4
　1．小型特殊自動車の届出…… 4
　2．公道走行するために…… 4

各部のはたらき……5

1．各部の名称…… 5
　1．ホッパ仕様…… 5
　2．グレンタンク仕様…… 6
2．運転装置の取扱い…… 7
　1．スイッチ・計器関係…… 7
　2．ペダル・レバー関係……13
　3．電装関係……24

運転のしかた……27

1．運転まえの点検……27
2．エンジンの始動と停止……29
　1．エンジン始動のしかた……29
　2．エンジン停止のしかた……30
3．走行・停車のしかた……30
　1．走行のしかた……30
　2．停車のしかた……31
4．自動車への積込み・積降ろし……32
　1．自動車・アユミについて……32
　2．コンバインの取扱い……33
5．ほ場への出入り……34
　1．ほ場への出入りのしかた……34

作業のしかた……35

1．作業まえの準備……35
　1．作物の条件について……35
　2．ほ場の条件について……35
　3．ほ場の準備……36
　4．機械の準備……36
2．刈取り作業のしかた……40
　1．刈取り操作の手順……40
　2．刈取部スライドの使い方……42
　3．ほ場の刈取り手順……43
　4．モミ袋の交換のしかた[ホッパ仕様]……46
　5．こく粒の排出操作方法……47
　6．グレンタンク補助樋口の取扱い……49
　7．作業に適した調整のしかた……50
　8．トルクリミッタの取扱い……51
　9．手こぎ作業……51
　10．エンジン停止スイッチの取扱い……52
　11．エンジン自動停止の取扱い……53
　12．夜間作業……54
　13．警報装置について……57
　14．刈取り作業終了後の取扱い……58
3．ワラ処理部の取扱い……59
　1．カッタ作業……59
　2．排ワラ，ドロッパ作業……61
　3．中割り作業……61

自動装置について……62

1．こぎ深さ自動制御……62
　1．運転装置……62
　2．こぎ深さセンサの調整……63
　3．こぎ深さ自動制御が使えない条件……63
2．方向自動制御［A仕様］……64
　1．運転装置……64
　2．作業のしかた……65
　3．方向自動制御の使えない条件……65

手入れのしかた……66

1．定期点検整備……66
　「定期点検整備表」……66
2．給油・注油・給水のしかた……70
　「給油・注油・給水表」……70
　1．燃料の補給……71
　2．エンジンカバーの開閉のしかた……71
　3．エンジンオイルの点検・交換……72
　4．エンジンオイルフィルタの交換……73

5．ラジエータ冷却水の点検・交換……73
6．トランスミッションケースのオイル点検・交換 …75
7．油圧作動油の点検・交換……75
8．スターホイルギヤケース……76
9．集中注油タンク……76
10．ローラ，アイドラのグリスアップ……76
11．こぎ深さ搬送チェン・
脱こくフィードチェンの注油……77
12．排ワラチェンの注油……77
13．グレン入力ギヤケース
［グレンタンク仕様］……77
14．その他の注油個所 ……78
15．集中注油の使いかた……79
3．各部の点検と掃除のしかた……80
1．ラジエータ吸気部の掃除……80
2．エアクリーナの掃除……80
5．燃料フィルタの掃除・交換……81
4．燃料のエア抜きのしかた ……82
5．電気配線の点検と掃除……82
6．バッテリの点検と充電……83
7．グレンタンクの回動のしかた……86
8．脱こく内部の掃除……87
9．グレンタンク部の掃除……94
10．引起しケースカバーの外しかた……96
11．カッタオープンのしかた……96
4．各部の点検と部品交換のしかた……98
1．カッタ刃組品の取外しと分解……98
2．爪の交換のしかた…… 105
3．刈刃の交換のしかた…… 105
4．ワラ切カマの交換…… 106
5．こぎ歯の点検と交換…… 107
6．ホース類の点検と交換…… 107
5．各部の点検と調整のしかた…… 108
「各部の取外し」
1．運転席左下カバーの取外しかた…… 108
「レバーの点検，調整」
2．外部駐車ブレーキレバー…… 108
3．刈取クラッチレバー…… 109
4．作業機クラッチレバー…… 109
5．こく粒排出レバー[グレンタンク仕様] … 111
「ベルトの点検・調整」
6．走行駆動ベルト…… 112
7．カウンタ駆動ベルト…… 112
8．エンジンファンベルト…… 114
9．２番ラセン駆動ベルト…… 114
10．こぎ胴駆動ベルト…… 115
11．選別ベルト…… 115
12．排ワラ入力ベルト…… 116
13．カッタベルト…… 116
14．かき込みベルト（刈取部）…… 117
15．穂先ハイワラベルト…… 117
「チェンの点検・調整」
16．穂先チェン…… 117
17．脱こくフィードチェン…… 118
18．排ワラチェン…… 118
「クローラの点検・調整」
19．クローラ…… 119
「刈刃の上下調節」
20．刈刃…… 119
長期格納のしかた ……120
1．機械の掃除と洗浄…… 120
2．錆止めと注油…… 120
3．エンジンの手入れ…… 120
4．点検・整備…… 121
5．格納…… 121
6．再使用にあたって…… 121
不調時の処置 ……122
1．エンジン部…… 122
2．走行・運転操作部…… 124
3．電気・自動制御部…… 124
4．刈取部…… 125
5．脱こく部…… 126
6．ワラ処理部…… 129
7．グレンタンク部…… 129
付　　表 ……130
1．主要諸元…… 130

も　く　じ

2．電気配線図…… 131
3．ベルト一覧表…… 133
4．主な消耗部品…… 134
　1．爪関係…… 134
　2．ヒューズ，ランプ…… 134
　3．刈刃・カマ関係…… 135
　4．カッタ関係…… 135
5．アタッチメント（別売り）…… 136
6．潤滑油について…… 137
　1．エンジンオイル…… 137
　2．油圧作動油…… 137
　3．ギヤオイル…… 137
　4．三菱農機(純正油)マルチオイル…… 138
7．コンバイン関連商品…… 139
8．用語解説…… 140

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備及び掃除をする時は……（安-5）

⚠エンジンを始動する時は……（安-9）

⚠路上走行をする時は……（安-10）

⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……（安-12）

⚠ほ場で作業をする時は……（安-13）

⚠１日の作業が終わったら……（安-16）

⚠長期格納する時は……（安-17）

2．表示ラベルについて……（安-18）

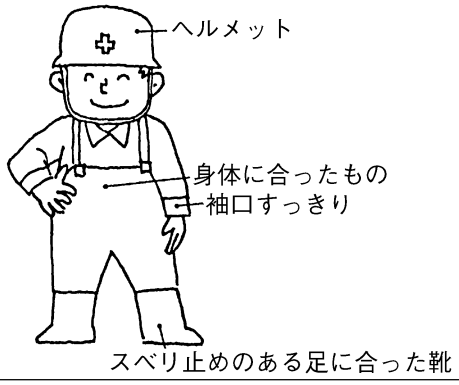
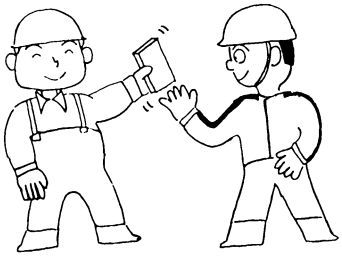
安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項の安全作業の説明は**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ● 酒気をおびた人 ● 妊娠している人 ● 16才未満の人 ● 指導者のいない運転未熟練者 ● 過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

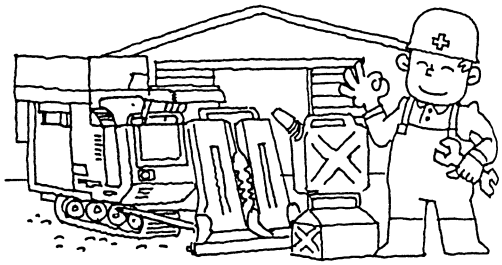
安全作業のポイント

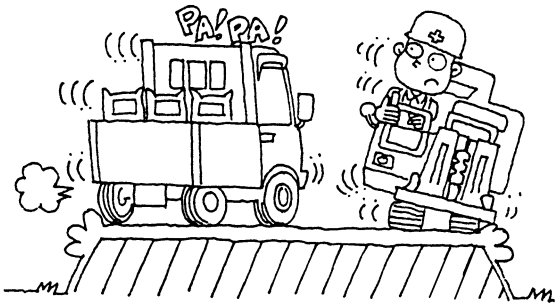


- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする

始業・点検　準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する
- バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する
- 集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない
- 給油，冷却水の点検はエンジンが冷えているときに行う
- 燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない
- 方向指示灯などの保安部品の作動を確認する
- 刈取部を上げて掃除や点検をするときは油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く
- 機械は改造しない
- 油脂類の廃却は，廃却設備のある所で処理する





エンジン始動

- 始動前にすべてのカバーを取付ける
- 駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《N》（中立）または《切》にする
- 屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする
- 機械の周囲から人を遠ざける
- エンジンの始動はシートに座って行う
- 始動のときは周囲の人に「合図」をする

走行・運転

- 刈取部先端部にバンパを取付ける
- 補助モミ台，ナローガイド，排出オーガを収納する
- 機械に子供等，人や物をのせない
- 走行する前にこく粒タンク内のこく粒をすべて排出する
- 発進時は周囲をたしかめる
- 走行時の旋回は低速で行う
- 後進時は後方を確認する
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない
- 作業機クラッチ，刈取クラッチを《切》にする
- 運転中は子供等，人を機械に近づけない

道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける
- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る
- 取扱説明書で指定された作業機以外は取外す
- 前後左右を確認し，低速車線を走る
- 夜間走行は前照灯をつける（作業灯は消す）
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

- 速度を落として走行する
- 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
- 急な坂道でのギヤ変速操作はしない
- 下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使用する
- 急傾斜地は走行しない
- 坂道での旋回は低速で行う

停車・駐車

- 平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 傾斜地では駐車しない
  （やむを得ず駐車するときは歯止めをする）
- 機械を離れるときはスタータスイッチよりキーを抜取る
- 副変速レバーを《作業》に入れる。

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上），すべり止め，フックのあるものを使用する
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械の周囲には人を近づけない
- 作業機，刈取クラッチは《切》にする
- 積込みは前進，積降ろしは後進で低速で行う
- アユミの上では進路変更や変速操作をしない
- 刈取スライドを右スライドにする

ほ場作業　ほ場の出入り

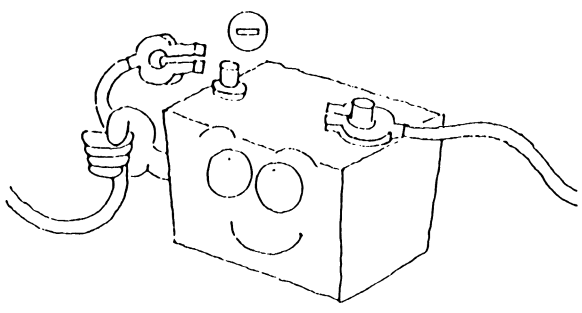
- ホッパ，グレンタンク内のこく粒を排出して行う
- 変速は低速であぜに対して直角に行う
- あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用する
- あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う

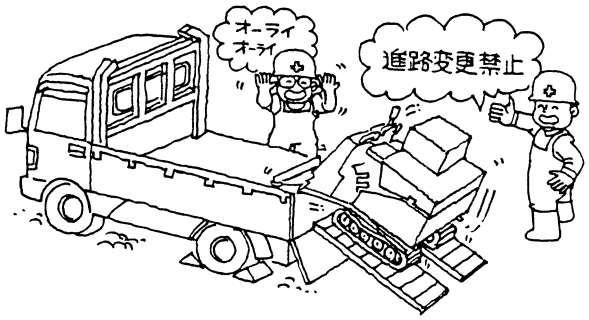
ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には周囲を確認する
- 刈取り作業は機械の周囲に子供等，人を近づけない
- 旋回時は周囲の状況を確認し，低速で行う
- 排出オーガの排出口やホッパのシャッタ内に手を入れない
- 運転走行中の乗り降りはしない
- 過労にならぬようゆとりをもって，作業の間に休憩を入れる
- あぜぎわでの旋回時は周囲を確認する
- ノッタの結束ひもを交換するときはエンジンを停止する（ノッタ仕様）
- ノッタのそばに手や身体を近づけない

手こぎ作業

- 刈取クラッチを《切》にして，走行を停止して行う
- 手袋は使用しない
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない
- カッタの切ワラがたまったら，手こぎを中断して移動する
- ワラクズの近くに機械を停止しない







作業中途の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する
- 詰まり等の異常時にはエンジンを停止して行う
- 脱こくこぎ室カバーまたはこぎ胴部を開いたらストッパをかける
- カッタをオープンしたときはストッパをかける
- 取外したカバー類はすべて取付けて作業を始める

終業・格納　１日の作業が終わったら

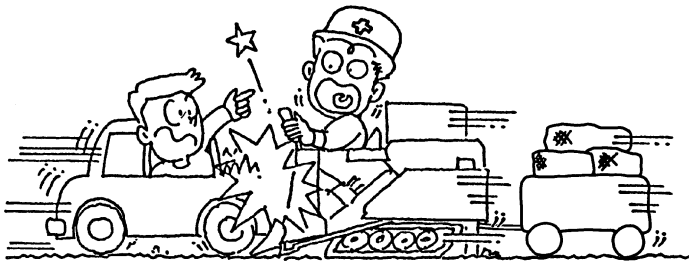
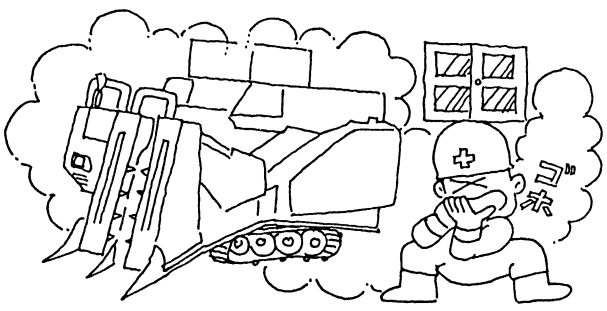
- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて歯止めをする
- スタータスイッチよりキーを抜取っておく
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する
- マフラやラジエータ等は冷えるまで直接触れない
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

長期格納

- １シーズンごとに定期点検をする
- 燃料コックを閉じる（ガソリン車は燃料を抜取る）
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに歯止めをする
  格納フックまたはプレートのあるものは走行クラッチペダルを固定し，クローラに歯止めをして駐車ブレーキを解除する
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談する

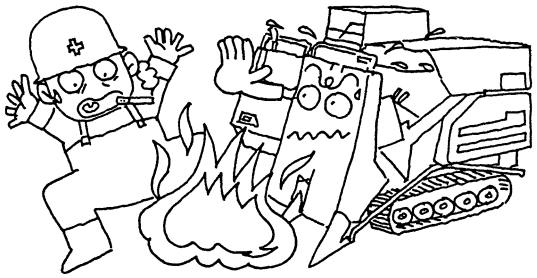
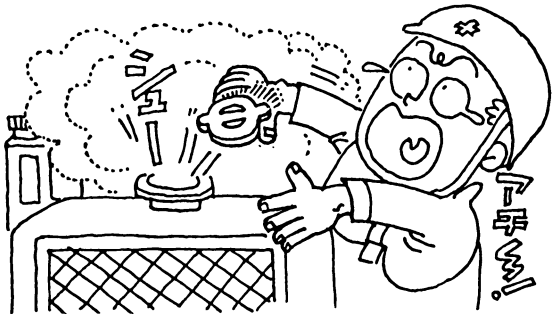
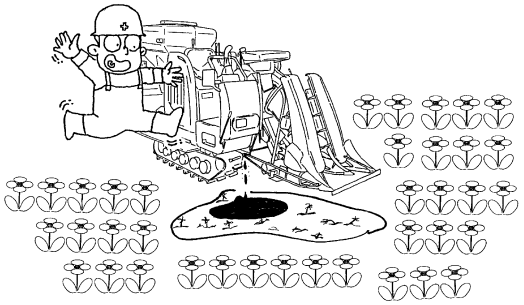
⚠作業前の一般的な注意事項

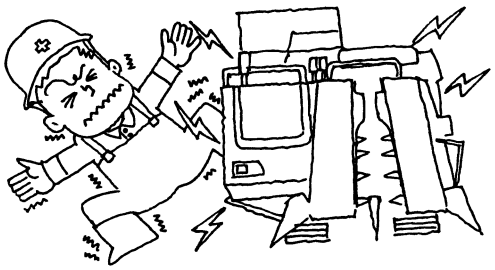
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

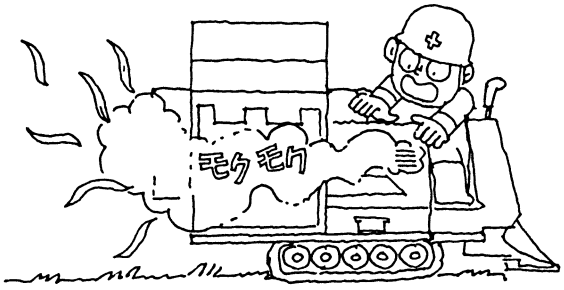
⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。 
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆毎日の運転まえには,「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆１年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行なってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。 

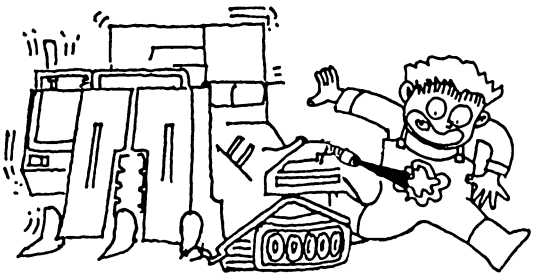
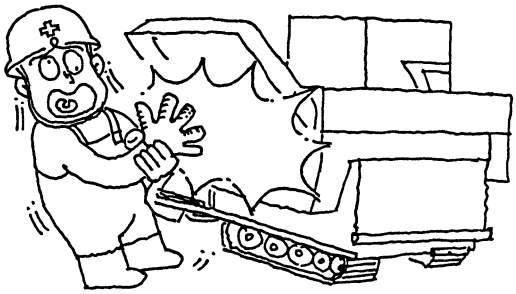
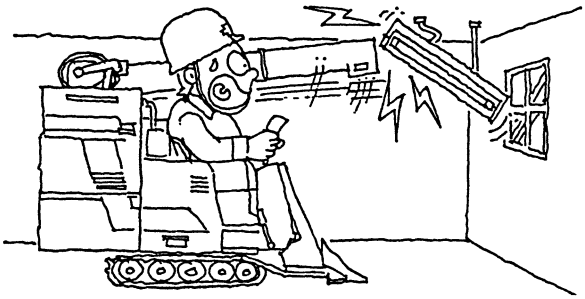
⚠点検・整備及び掃除をする時は……

必ず守ってください ⟶ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し各部の回転が止まってから行なってください。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠危険 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ● 燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。 ● エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。 ◆燃料ホースの破損や燃料もれがないか，点検してください。 ● 燃料ホースは 2 年ごとに交換する。	燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを開けないでください。 ● ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ● 冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 
⚠警告 ◆エンジンオイル等の油脂類や不凍液の廃却は，廃却設備のある所で処理してください。	環境汚染の原因となります。 

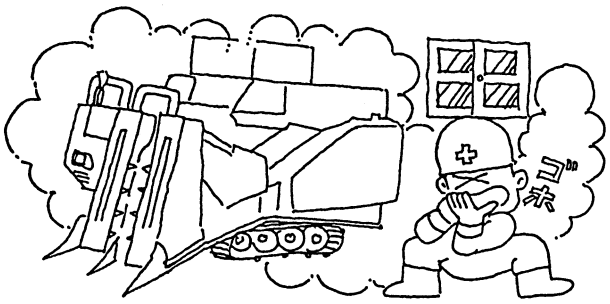
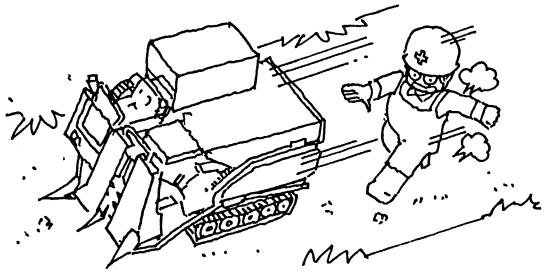
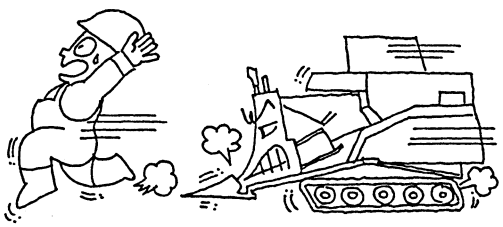
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についた時は，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだ時は医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明やヤケドをすることがあります。 
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外す時は，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ●バッテリは指定されたバッテリを使用する。 ●㊉，㊀を逆に接続しない。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●クランプや固定金具のゆるみがないか点検する。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。 ●ベルトカバー内のワラクズを取除く。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆方向指示灯などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。	交通事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆マルチステアリングレバーのき き具合や，片ぎきなどがないか点検調整してください。	正常な走行ができず事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をもっとも下げた状態にして残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。		圧力がかかって噴出した油は皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸入した場合，取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。		機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 
⚠注意 ◆グレンタンク仕様の排出オーガの作動確認は周囲にゆとりのある広い場所で行なってください。 ●屋外では電線等に引っ掛けない。		屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引っ掛けて損害事故を起こすことがあります。 

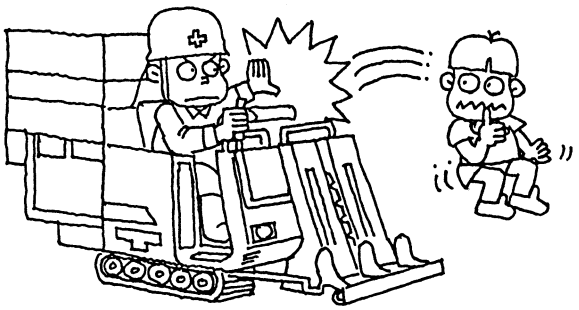
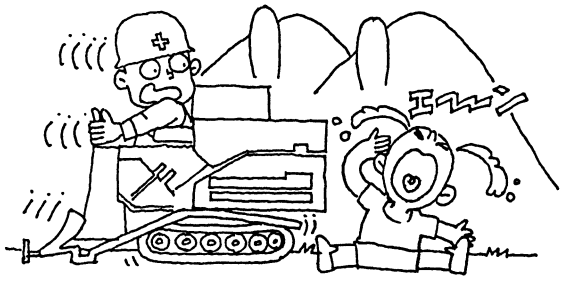
⚠エンジンを始動する時は……

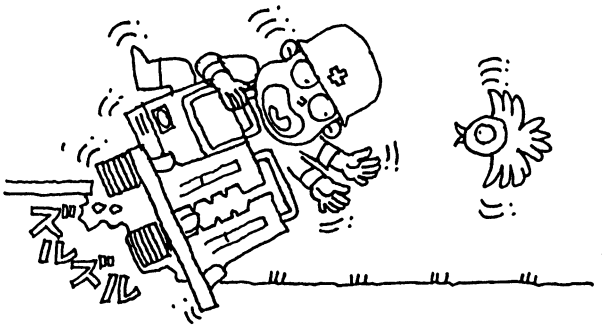
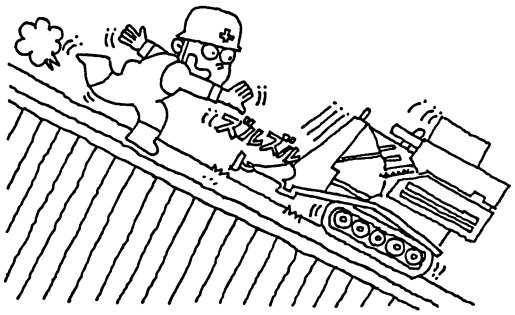
必ず守ってください ⟶ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。 
⚠警告 ◆始動は運転席のシートに座って（乗用型）行なってください。 ◆歩行型の始動は運転位置で行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆主変速を《中立》にしてください。 ◆作業機クラッチ・刈取クラッチを《切》にしてください。 ●主変速が《中立》になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速（無段変速）を《中立》，作業機クラッチ・刈取クラッチを《切》にして行なってください。	急に発進したりして思わぬ事故の原因となります。 

⚠路上走行をする時は……

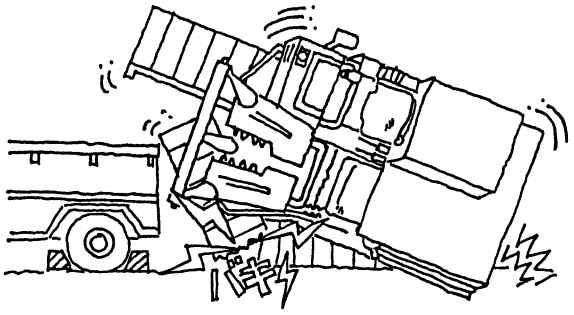
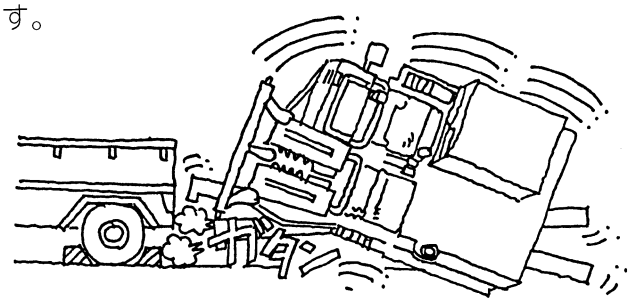
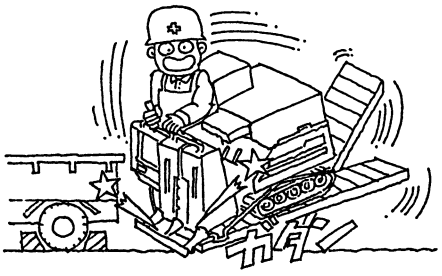
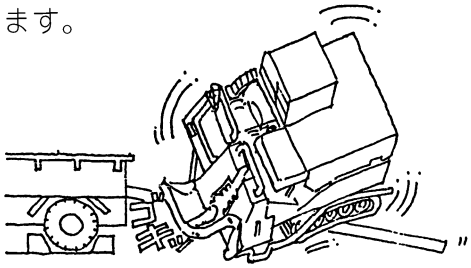
必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆人や物をのせないでください。 ◆走行時は補助モミ受台，ナローガイド，排出オーガを収納してください。 ◆ホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ●子供等，人や物を機械にのせない。 ●荷物は別の自動車（運搬車）などで運ぶ。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠注意 ◆路上走行するときは刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は取外してください。 ◆合わせマークの位置まで刈取部を上げて油圧を固定してください。 ●合わせマークのない機械は刈取部先端を30㎝程度上げます。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけてください。 ◆作業機・刈取クラッチが《切》になっていることを確認してください。 ◆低速で発進してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回しない。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしない。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆路上走行時は交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は前照灯をつける。作業灯は消す。	思わぬ傷害事故の原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ●雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。 ●凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行する。	路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道の途中で走行クラッチペダルを踏込んだり急激に主変速（無段変速）レバーを操作しないでください。 ●坂の手前でいったん減速して，登り降りする。 ●坂道での旋回は低速で行う。 ●急傾斜地を走行しない。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道では駐車しない。やむをえず坂道の途中で駐車するときは駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで歯止めをしてください。 ●刈取部は下げておく。 ●機械から離れるときは，スタータスイッチからキーを抜取る。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。 

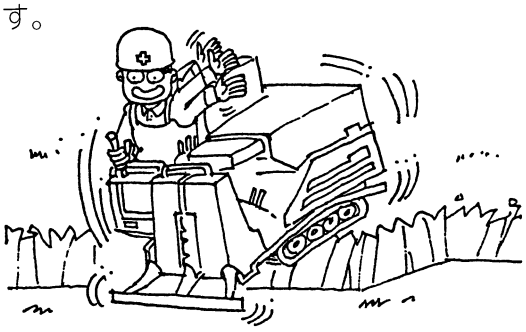
⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……

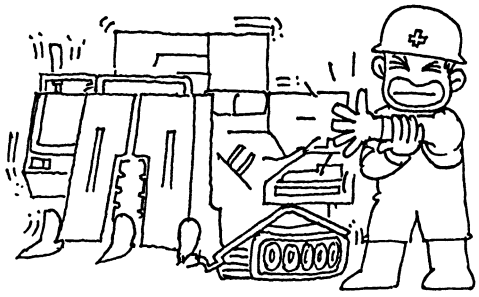
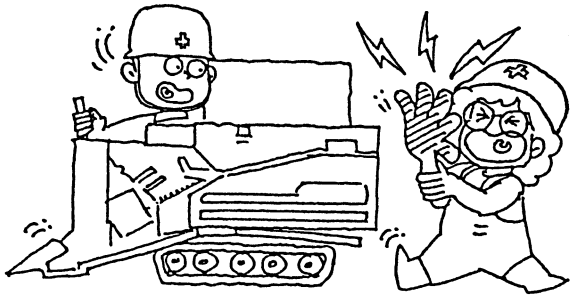
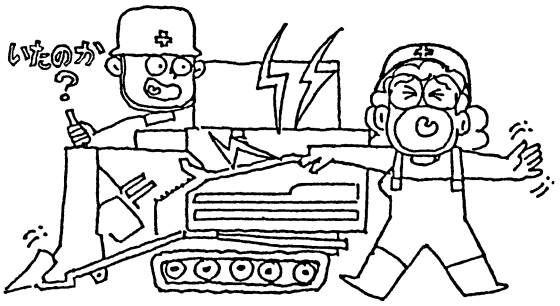
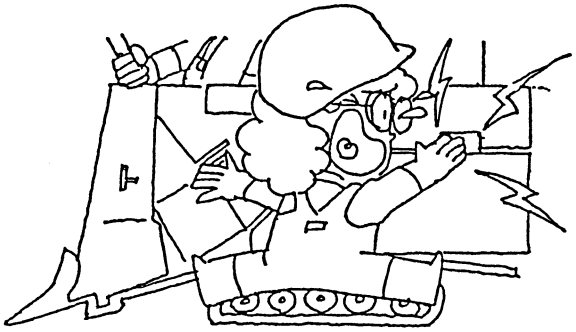
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆自動車は積載重量を超えない車で荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ●自動車は駐車ブレーキをかけエンジンを停止し変速を1速か後進に入れ，タイヤに歯止めをする。 ◆アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの4倍以上），すべり止め，フックのあるものを使ってください。 ●アユミの幅はクローラ幅に合ったものを使う。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行にまっすぐにかけてください。 ●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認する。	アユミが外れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ◆積込みは前進，積降ろしは後進で変速は低速で行なってください。 ●補助者立会誘導のもとに行う。機械の周囲に子供等，人を近づけない。 ◆[方向制御仕様]は自動スイッチを「切」にしてください。 ●こぎ深さ自動スイッチも「切」にする。	万一のときに逃げることができなくなり，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆アユミの上では進路変更や変速操作をしないでください。 ●機械をアユミに対してまっすぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，途中で機械を止める必要がないようにする。	急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。 

⚠ほ場で作業をする時は……

必ず守ってください ⟶ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆10 cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のある**ほ場への出入り**はアユミを使ってください。 ●こく粒タンク内のこく粒を排出して行う。 ●機械から降りて行う。 ●アユミ上では進路変更しない。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆**あぜ越え**は，変速を低速にしてあぜに直角に横切るようにしてください。 ●機械から降りて行う。 ●あぜがくずれないことを確認して行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ●エンジン始動や発進するとき，作業機・刈取クラッチを入れるときはホーンで合図する。 ◆作業時の旋回は低速で行なってください。 ●旋回するときは周囲を確認し，低速で行う。 ●機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆手こぎ作業のときは手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ●手袋は使用しない。 ●供給口が見えなくなるほど多量の作物を供給しない。 ●カッタ切ワラがたまったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ●手こぎ作業は走行を停止して刈取クラッチを《切》にして行う。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆詰まり等の除去や，ノッタのひも交換（ノッタ仕様）をする時は，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。 ●脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。 ●エンジンを停止して各部の動きが止まってから行う。 ●脱こくこぎ室カバーまたはこぎ胴部を開いたときはストッパをかける。	傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者は作業中はワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。 ◆補助者は機械に近づく時運転者に合図をして，確認を取ってください。 ◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，作業機クラッチ操作をしてください。 ●カッタでの事故がいちばん多く発生していることを，作業者は認識しておく。 ●エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけない。 ●補助者に機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておく。 ●作業中は機械に人を近づけない。 ●モミ袋を交換するときは機械を止めて行う。 ●運転者は常に補助者の状態を確認しながら作業をする。 ●特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には作業中は近づかない。 ●ワラなどの巻付き・詰まり等が発生しても，作動中は手を出さない。 ●運転者と補助者は常に「合図」し合いながら作業する。	傷害事故を引起こすことがあります。   

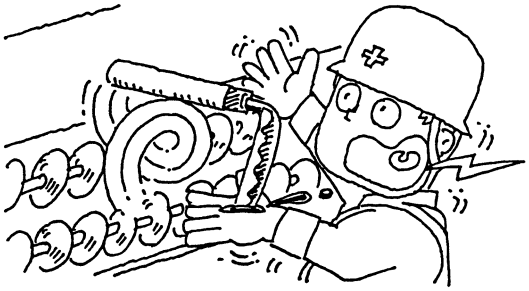
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆作業中にカマなどを使って脱こく部やカッタの掃除をしないでください。

- カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしない。カッタのカバーを開閉するときはエンジンを停止する。
- カッタをオープンしたときはストッパをかける。

カマなどがはね飛ばされて，傷害事故の原因となります。



⚠警告

◆ワラクズの近くには機械を止めないでください。

- エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに止める。
- 手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしない。

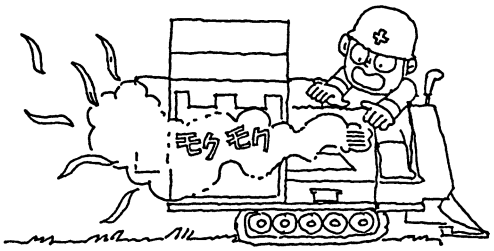
マフラの排気で火災になることがあります。



⚠警告

◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズがたまった場合はエンジンを停止して掃除をしてください。

火災の原因となることがあります。



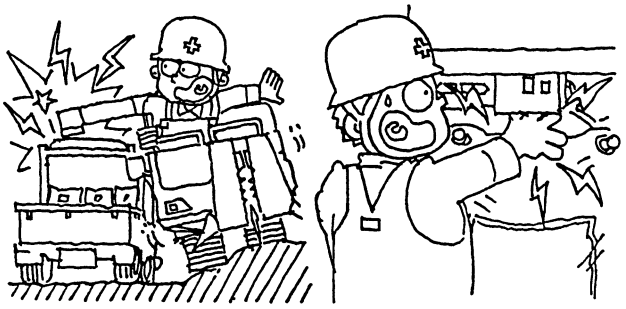
⚠注意

◆排出オーガの排出口やホッパのシャッタ内には手を入れないでください。

◆グレンタンク仕様の場合排出オーガの操作は周囲を確認してから行なってください。

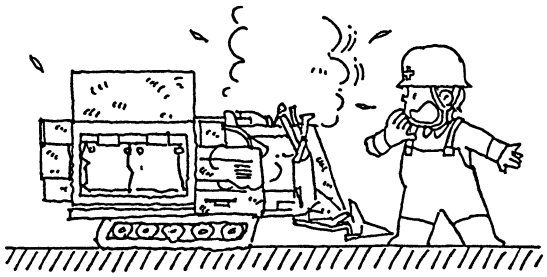
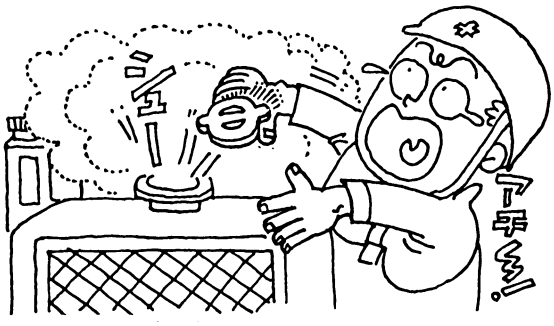
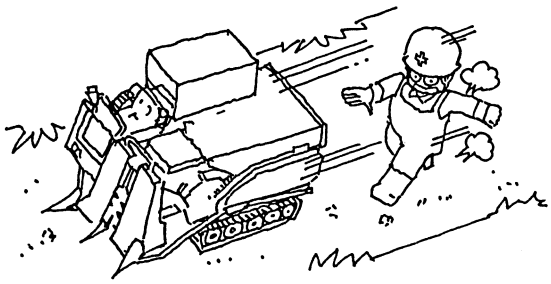
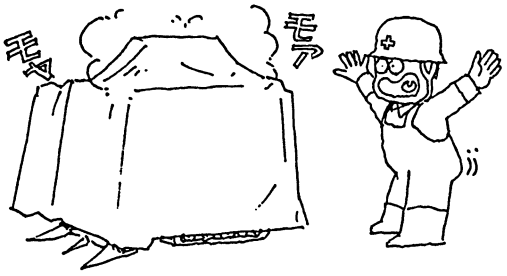
- 走行の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認する。

ラセンに巻込まれたり，シャッタに手をはさまれたりして負傷することがあります。
排出オーガが周囲の人にあたり，負傷したりすることがあります。



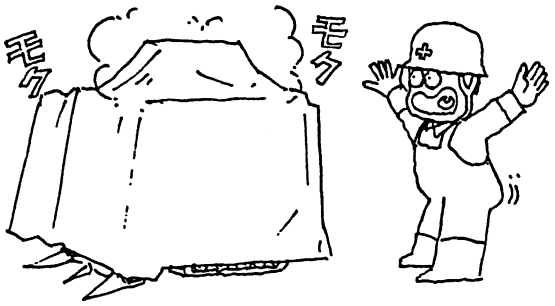
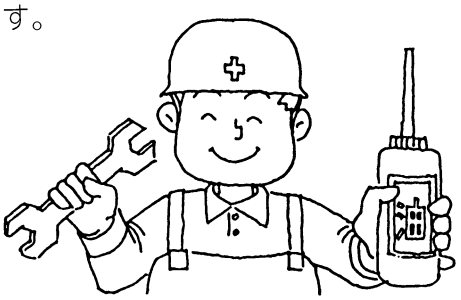
⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 
⚠警告 ◆保管は平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけてください。 ●副変速レバーを《低速》に入れ，駐車ブレーキをかける。 ●スタータスイッチからキーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆エンジンが熱い時は，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。 

⚠長期格納する時は……

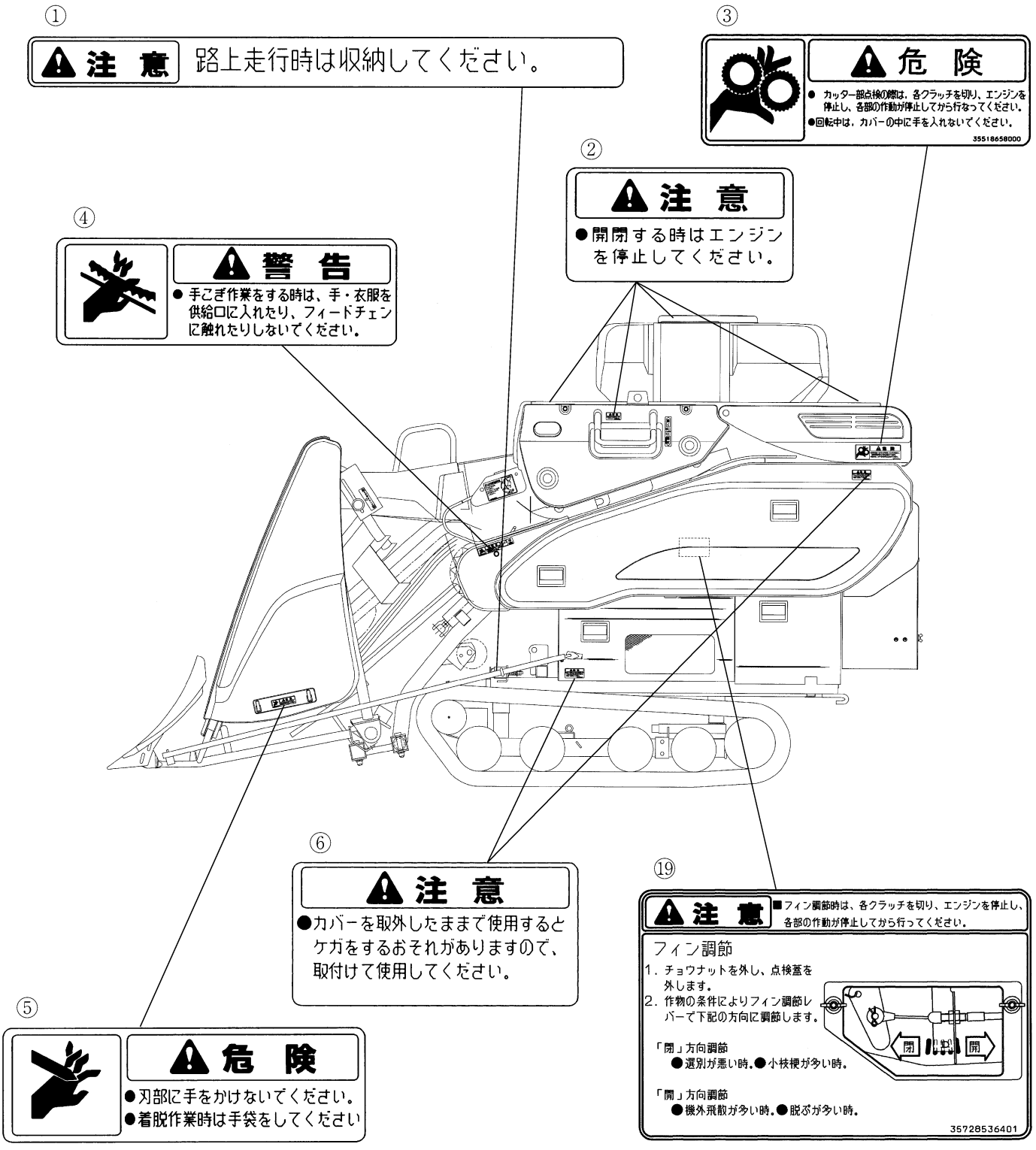
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

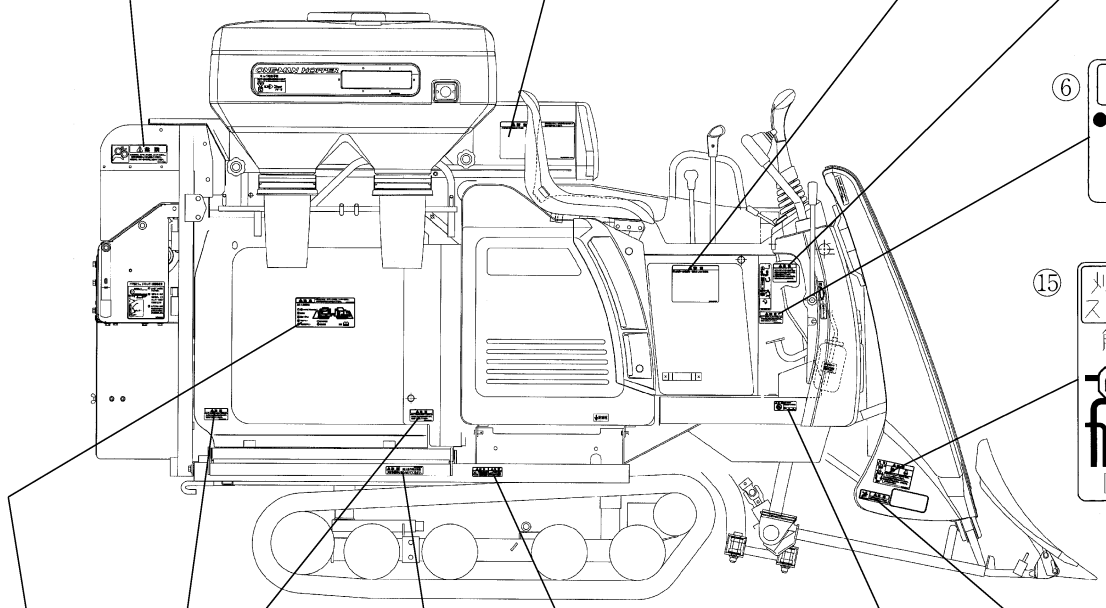
⚠警告 ◆平坦な場所に置き刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて歯止めをしてください。 ●副変速を《低速》に入れ，クローラに歯止めをする。 ●スタータスイッチよりキーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外してください。 ●１ケ月に１回程度補充電をする。 ◆燃料コックを閉じてください。 ●ガソリン車の場合は，燃料を抜取る。	思わぬ火災事故を起こす場合があります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。 ●１年ごとに定期点検・整備をお買いあげ先で純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。 ●部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談して処理します。 	整備不良のまま使用すると思わぬ事故を引起こす原因となります。

2．表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。





③
危 険
- カッター部点検の際は，各クラッチを切り，エンジンを停止し，各部の作動が停止してから行なってください。
- 回転中は，カバーの中に手を入れないでください。

35518658000

⑦
警告
■自動車への積込み・積降ろしをする時は
- 平坦な場所を選んで，補助者の立会誘導のもとに行なってください。また，機械の周囲に人を近づけないでください。
- アユミは機械の重量に耐えられる強度で長さは，自動車荷台高さの４倍以上のものを使用してください。
- アユミの上では進路変更、変速操作を行なわないでください。操向操作をすると転倒する危険があります。左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットしてください。
- 自動車へ積み込む場合、主変速レバー《前進－低速》、副変速レバー《車輌積降し（低速）》の位置で操作します。
- 自動車への積込みは、マルチステアリングレバーを《上る》に操作し，刈取部を上げます積込みが終ったらマルチステアリングレバーを《下る》にして刈取部を一杆下げます。
- 自動車から積降ろす場合、主変速レバー《後進－低速》、副変速レバー《車輌積降し（低速）》の位置で操作します。
- 積込み、積降し中のサイドクラッチ及びジャストディレクタの操作をしないで下さい。



⑧
警 告
傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起さないために
■ エンジンを始動する前
- 機械の周囲から人を遠ざけてください。
- 各部のカバーをすべて取付けてください。
- 座席に座り（乗用）、駐車ブレーキをかけてください。
- 各操作レバーを《N》（中立）又は《切》にしてください。
- 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

■ 正しい操作方法で
- 機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
- エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- 発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
- 手こぎ作業は、平坦な場所で走行を停止し、刈取クラッチを切り、刈取部の作動停止を確認してから行なってください。
- 手こぎ作業中は、手・衣服を供給口に入れたり、脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。
- 詰まりを取除く時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。

■ 転倒防止
- 発進、旋回操作、荒地での運転は低速で行なってください。
- 傾斜地及び急な斜面では旋回しないでください。
- 軟弱な路肩、草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがありますので走行しないでください
- あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

■ 停止する時は
- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、刈取部を下げ、排出オーガ（グレンタンク仕様）を収納位置に戻して各操作レバーを《N》（中立）にした後、エンジンを停止してください。
その後、副変速レバーを《低》又は《副伏》に入れてください。

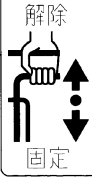
■ 清掃・点検・整備
- エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- 火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。

⑨
警 告
- マルチステアリングレバーヌはジャストディレクタで旋回（左右）操作をする時は走行クラッチペダルに足を乗せないでください。
- ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。

355685250011

⑥
注 意
- カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

⑮
警 告
刈取スライド 解除 / 固定







- 刈取スライドレバーを操作する時は、エンジンを停止してください。
- この付近に手を置かないでください。
- 刈取部で手をはさまれ，ケガをするおそれがあります。

35728521001

⑤
危 険
- 刃部に手をかけないでください。
- 着脱作業時は手袋をしてください

⑥
注 意
- カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

⑩
警 告
- 排気ガスによる中毒のおそれがあるので換気の悪い所で使用しないでください。

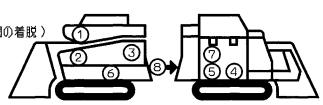
注 意
- やけどをするのでマフラーにふれないでください。

09603200023

⑪
危 険
■火気厳禁
■給油時エンジン停止
軽 油

⑬
注 意
■掃除をする時は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。
35728529000

脱こく部掃除口
①②こぎ室（受網の着脱）
③排塵室
④揚こくラセン
⑤2番ラセン
⑥1番2番ラセン
⑦第2こぎ胴
⑧揺動流板
詳細



⑫
注 意 路上走行時は収納
刈取作業時は乗らないでください。

③

危 険

● カッター部点検の際は，各クラッチを切り，エンジンを停止し，各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。

35518658000

⑭

警 告

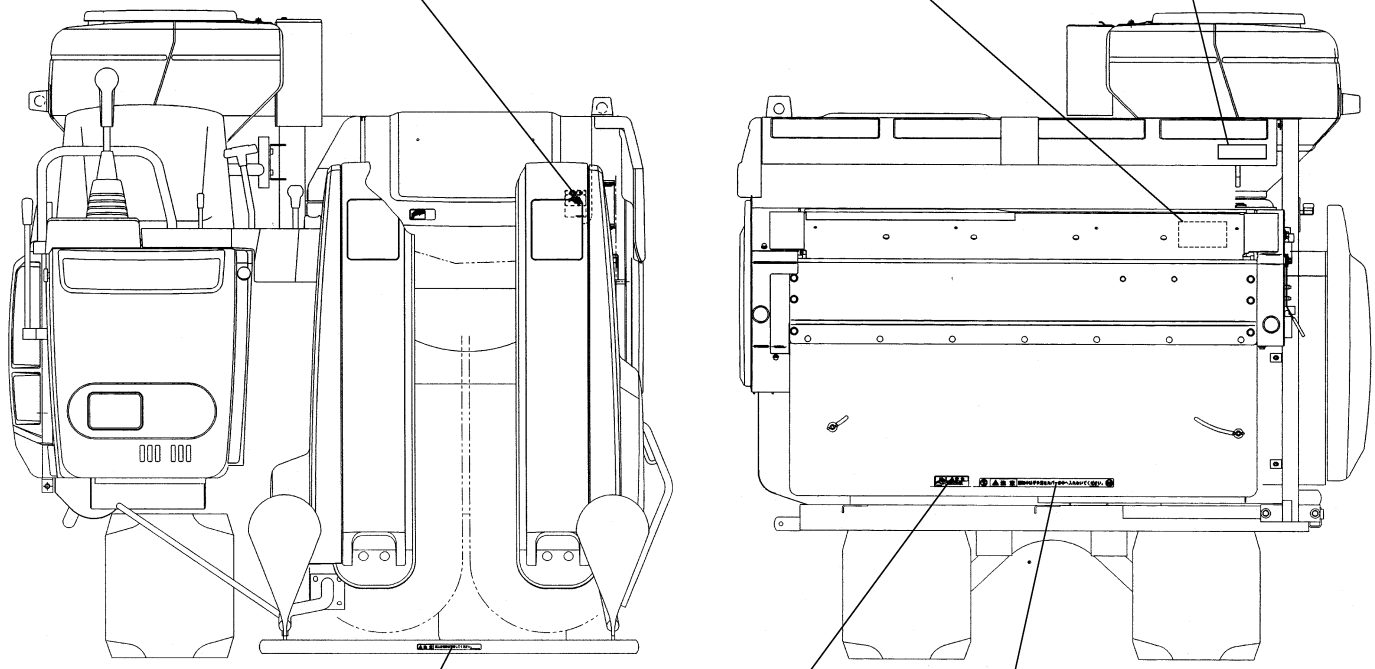
●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。

㉕

注 意

1．カッタをオープンした時は、カッタを固定させるためロッドで確実にロックしてください。
2．カッタの刃に触れると手、指を切る恐れがあるので、刃に触れないでください。

35728592000



㉓

警 告

●回転中はファンに手・足及び身体を近づけないでください。

09603200041

⑯

注 意 路上走行時は装着してください。

⑰

注 意 回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。

⑳

⚠ 警 告

■路上走行する時は
- ナローガイド、補助もみ受台を折りたたんでください.
- 作業機、刈取クラッチレバー、方向自動スイッチを『切』、刈取スライドを『右セット』にしてください.
- 必要以上の急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください.
- 凹凸道，下り坂ではスピードを落してください.
- 公道を走る時は，作業機など突起物となるものは装着しないでください.

切 作業機クラッチ 入

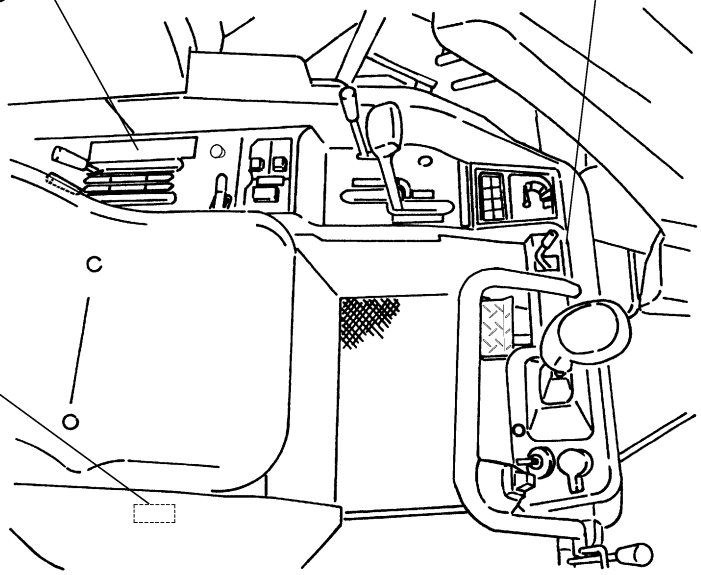
切 刈 取 クラッチ 入

㉖

⚠ 警 告

●中立《N》位置でも動く場合がありますので、
機械から離れる時は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ
エンジンを停止してください。

09603200052



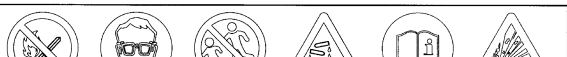
⑱



⚠ 警 告

●エンジンが熱い時は
キャップを開けないでください。

㉘

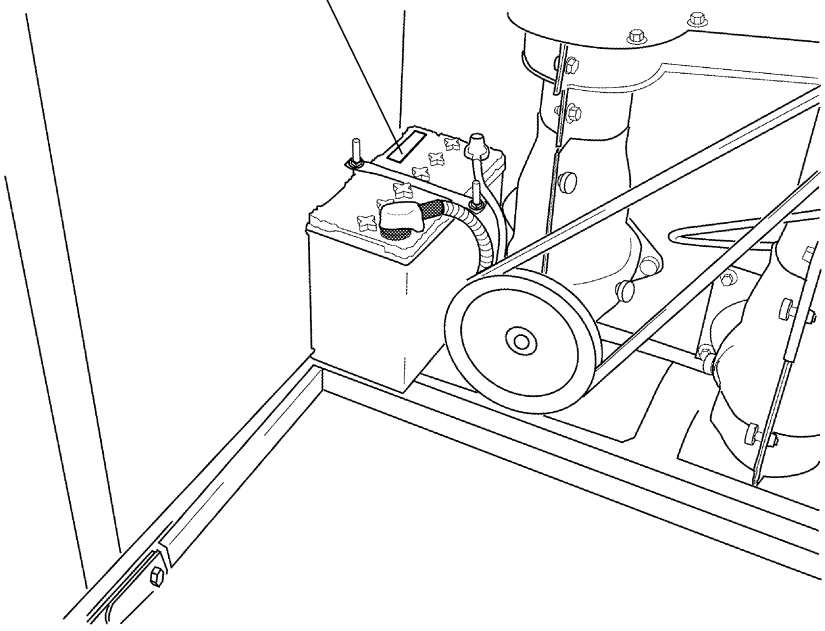


火気厳禁 メガネ着用 こども禁止 硫酸注意 説明書熟読 爆発注意

⚠ 危険

●水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
・工具等でショートやスパークをさせない・充電は風通しのよい所で行う・ブースターケーブルの使用は取扱説明書に従う
●バッテリー液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり
液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける
●爆発の恐れあり、液面はＬＯＷＥＲ以下で使用しない
●液漏れの恐れあり、ＵＰＰＥＲ以上に補水しない

09603000017



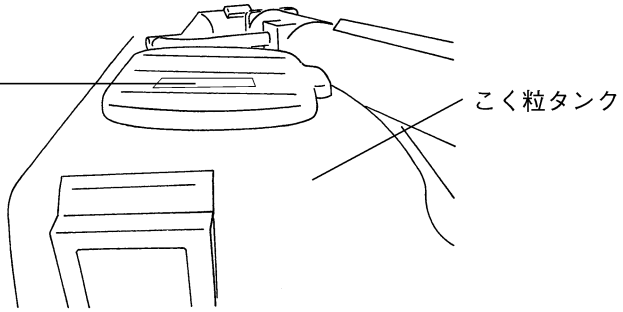
［グレンタンク仕様］

②

⚠注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015



㉑

⚠注 意

●走行、あぜ越え、自動車への積込み、積降ろしの時は、グレンタンクを空にし、排出オーガ受は「下セット」にし、排出オーガを固定用フックで固定してください。
●排出オーガを上げた状態での刈取作業、走行はしないでください。
●傾斜地でエンジンを停止する時は排出オーガを収納してください。
●排出オーガの操作は、周囲を確認し、作動範囲内に幼児を近づけないで行なってください。
●袋取り作業は、排出範囲で行ってください。
●排出範囲外では、排出オーガを水平状態より下げないでください。

こく粒排出 切 入

排出範囲 排出範囲外

上げ 左旋回 右旋回 下げ

取扱いのポイント
●作業時は、排出オーガ受を「上セット」にしてください。

排出オーガ受セット位置
排出オーガ受
第1走行及び格納時（下セット）
作業時（上セット）

35298531000

㉗

⚠注 意

●巻込まれてケガをするおそれがあります。
折りたたみ時、開口部に手を近づけないでください。

取扱のポイント 折りたたむ時は、排出オーガ内のこく粒をすべて排出してください。

35538556200

㉒

⚠注 意

●排出オーガは手押し厳禁
●排出オーガの旋回は周囲を確認
●排出中は手を排出口に近づけない

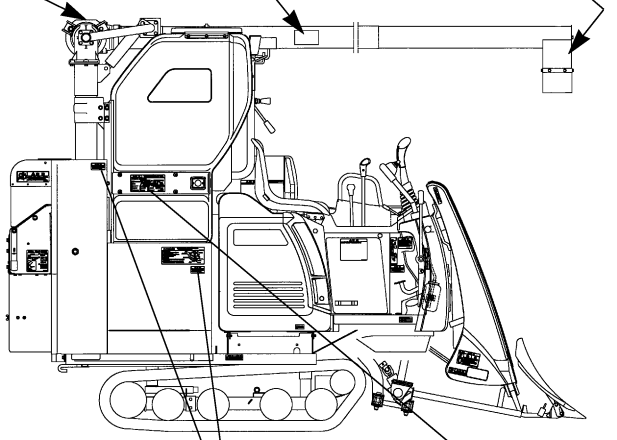
35448538300

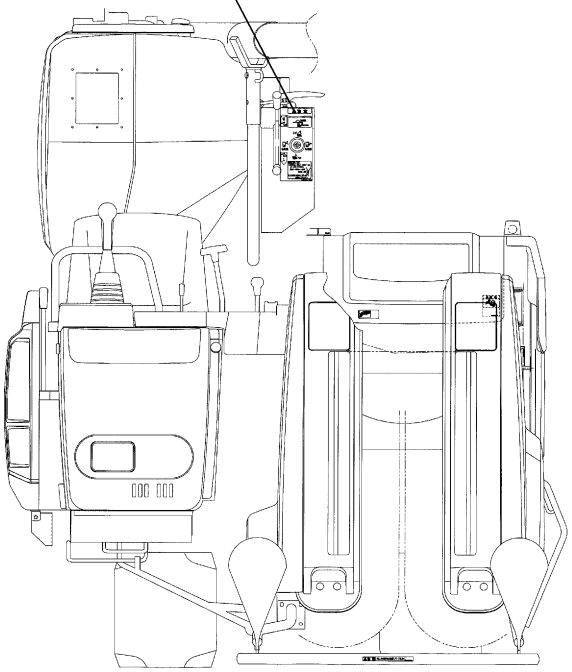
②

⚠注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

左側面





⑥

⚠注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

㉔

⚠注 意

■掃除をする時は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。

35728529100

グレンタンク・脱こく部掃除口

①②こぎ室（受網の着脱）
③排塵室
④揚こくラセン
⑤2番ラセン
⑥1番2番ラセン
⑦第2こぎ胴
⑧掻動流板
Ⓐタンク下部
Ⓑ縦ラセンフタ
Ⓒ上部ラセンフタ

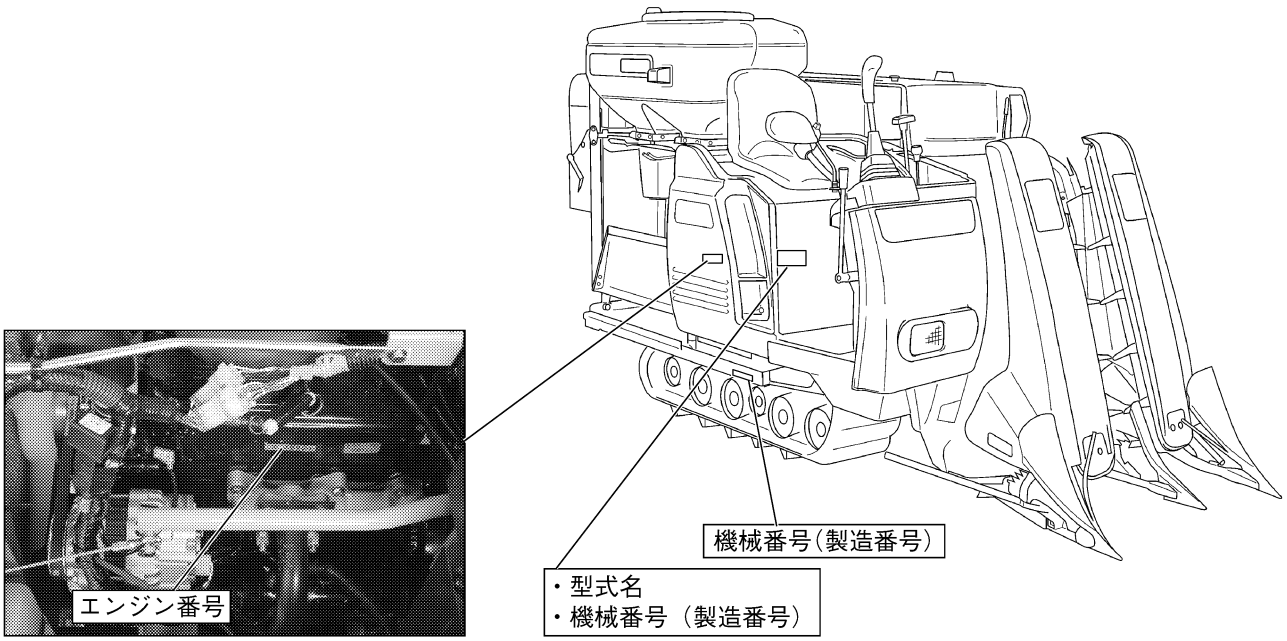
詳細

No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
①	チュウイラベル・シュウノウ	0960 3100 024	共通１ケ
②	チュウイラベル・カイヘイ	0960 3100 015	ホッパ仕様4ヶ，グレンタンク仕様5ヶ
③	キケンラベル・カッタ	3551 8658 000	共通３ケ
④	ケイコクラベル・チェン	0960 3200 042	共通１ケ
⑤	キケンラベル・カリハ	0960 3000 019	共通２ケ
⑥	チュウイラベル・カバー	0960 3100 017	共通５ケ
⑦	トリアツカイマーク	3555 8607 100	共通１ケ
⑧	ケイコクラベル・コンバイン	0960 3200 024	共通１ケ
⑨	ケイコクラベル	3556 8525 0011	共通１ケ
⑩	ケイコクラベル・ハイガス	0960 3200 023	共通１ケ
⑪	キケンラベル・ケイユ	0960 3000 015	共通１ケ
⑫	チュウイラベル	3544 8528 100	ホッパ仕様１ケ
⑬	トリアツカイマーク	3572 8529 000	ホッパ仕様１ケ
⑭	ケイコクラベル・コギドウ	0960 3200 034	共通１ケ
⑮	ケイコクラベル	3572 8521 001	共通１ケ
⑯	チュウイラベル・バンパC	0960 3100 023	共通１ケ
⑰	チュウイラベル・カッタカバー	0960 3100 020	共通１ケ
⑱	ケイコクラベル・ラジエータ	0960 3200 013	共通１ケ
⑲	トリアツカイマーク	3572 8536 401	共通１ケ
⑳	トリアツカイマーク	3556 8543 000	共通１ケ
㉑	トリアツカイマーク	3529 8531 000	グレンタンク仕様１ケ
㉒	チュウイラベル	3544 8538 300	グレンタンク仕様１ケ
㉓	ケイコクラベルファン	0960 3200 041	共通１ケ
㉔	トリアツカイマーク	3572 8529 100	グレンタンク仕様１ケ
㉕	チュウイラベル	3572 8592 000	共通１ケ
㉖	ケイコクラベル	0960 3200 052	共通１ケ
㉗	チュウイラベル	3553 8556 200	グレンタンク仕様１ヶ
㉘	キケンラベル・バッテリ	0960 3000 017	共通１ヶ

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・機械は**稲・麦の収穫作業**以外に使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告

◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2．仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は次のようになっています。
仕様の異なる型式の場合はそのつど［○○**仕様**］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式名をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。

・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを次の表でお確かめください。

型式名	装備 / 区分	自動化 扱深自動	自動化 方向自動	エンジン自動停止	HST	マルチステアリング	選別メカ自動	可動輪	刈取スライド	コンポアップ	負荷モニタ	刈高セットプレート	受網ワンタッチ着脱	ジャストディレクタ	集中注油	ディスクカッタ 16枚刃	ディスクカッタ 31枚刃	3軸式デスクカッタ	クローラ ハイラグ幅300mm	クローラ ハイラグ幅350mm	クローラ ハシゴ幅350mm	クローラ ハシゴ幅400mm	収穀部 ホッパ2袋＋2口	収穀部 330Lグレンタンク	折りたたみオーガ
VMS15	KC	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○		
	KCB	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○				○		
	KCD	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○				○		
	AKC	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○		
	AKCB	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○				○		
	AKCD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○				○		
	WKC	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○		○		
	WAKC	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○		○		
	YKC	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○	○		
	YAKC	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○	○		
VMS15G	GKC	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○				○	○
	GKCB	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○				○	○
	GKCD	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○				○	○
	GAKC	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○				○	○
	GAKCB	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○				○	○
	GAKCD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○				○	○
	GYKC	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○		○	○
	GYAKC	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○		○	○

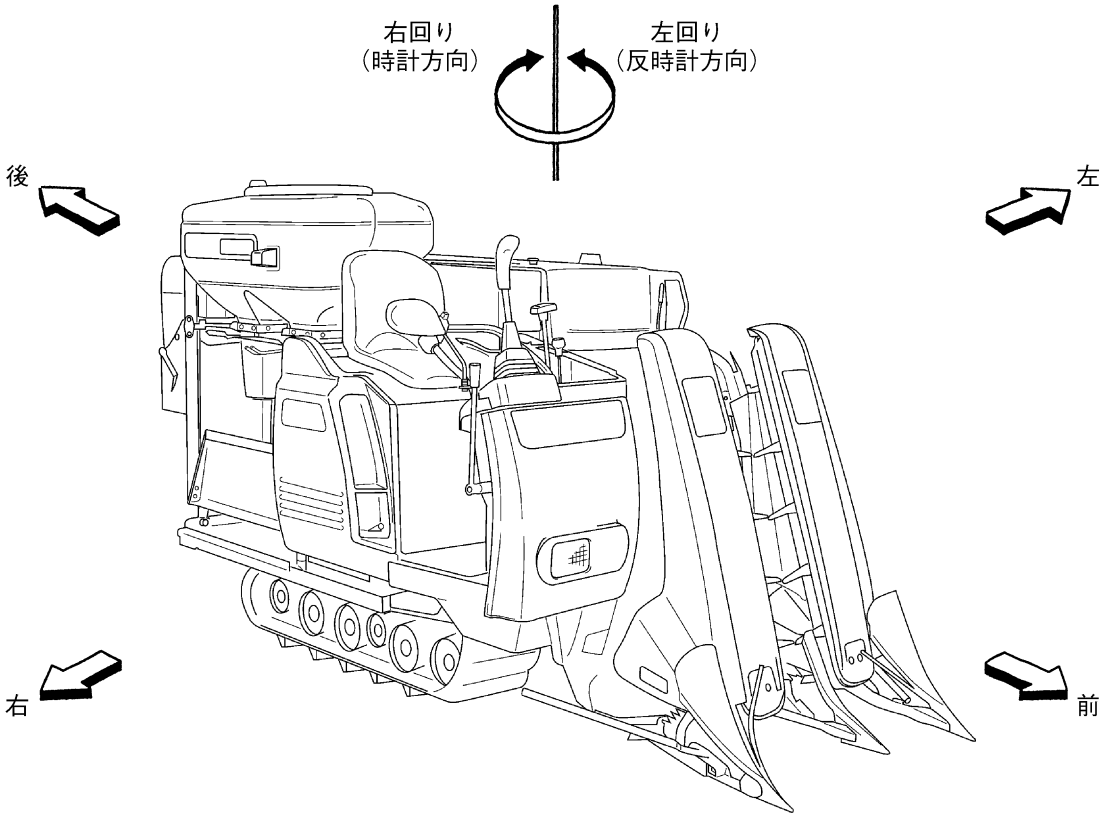
（型式記号説明）

Ａ：方向自動　Ｃ：16枚刃カッタ付　ＣＢ：31枚刃カッタ付　ＣＤ：3軸式デスクカッタ

Ｗ：幅広クローラ　Ｙ：超幅広クローラ　Ｇ：グレンタンク・折りたたみオーガ付　Ｋ：こぎ深さ

3．用語について

❶ この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のとおりです。



❷ 形式別表示

この取扱説明書はホッパ仕様機を基本に説明してあります。ホッパ仕様機と取扱いかたが異なる場合は，そのつど［**グレンタンク仕様**］等で記載して追加説明しています。

型式名	本文表示
VMS15	［ホッパ仕様］
VMS15G	［グレンタンク仕様］

❸ マークの説明

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと故障の原因になることがあります。

4．小型特殊自動車について

このコンバインは，「**小型特殊自動車**」に該当し，道路運送車両法に適合していますので公道走行ができます。

1．小型特殊自動車の届出

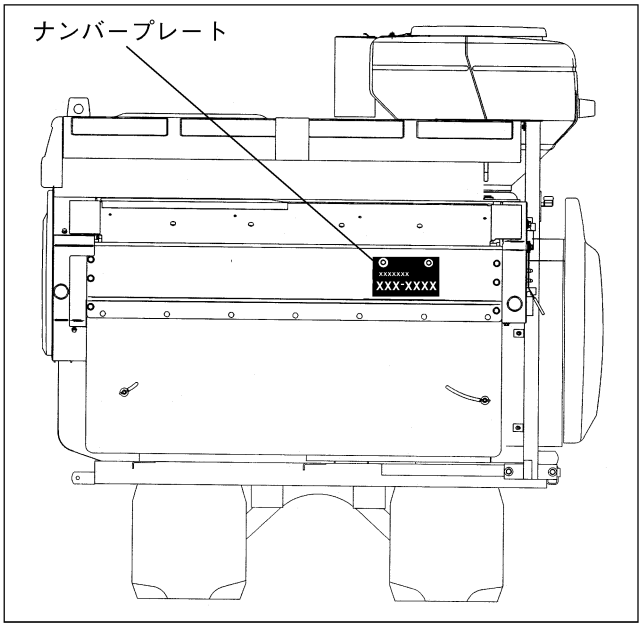
❶　小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（「**お買いあげ先**」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

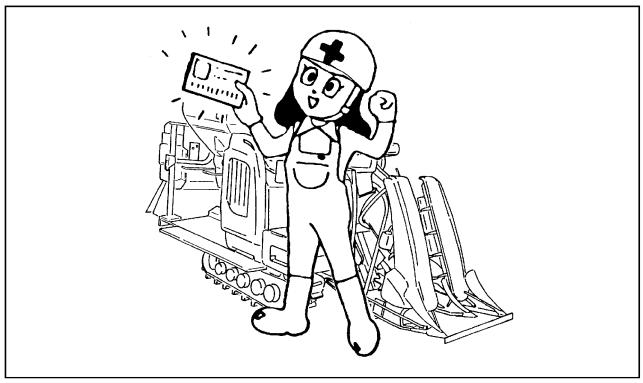
ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2．公道走行するために

❶　運転免許

公道を走行するときは，「**小型特殊自動車**」の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷　「**小型特殊自動車**」の運転免許で運転できる自動車の基準。

車体の大きさ	全　長	4.70m以下
	全　幅	1.70m以下
	全　高	2.00m以下
最高速度		15km／時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

❸　指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

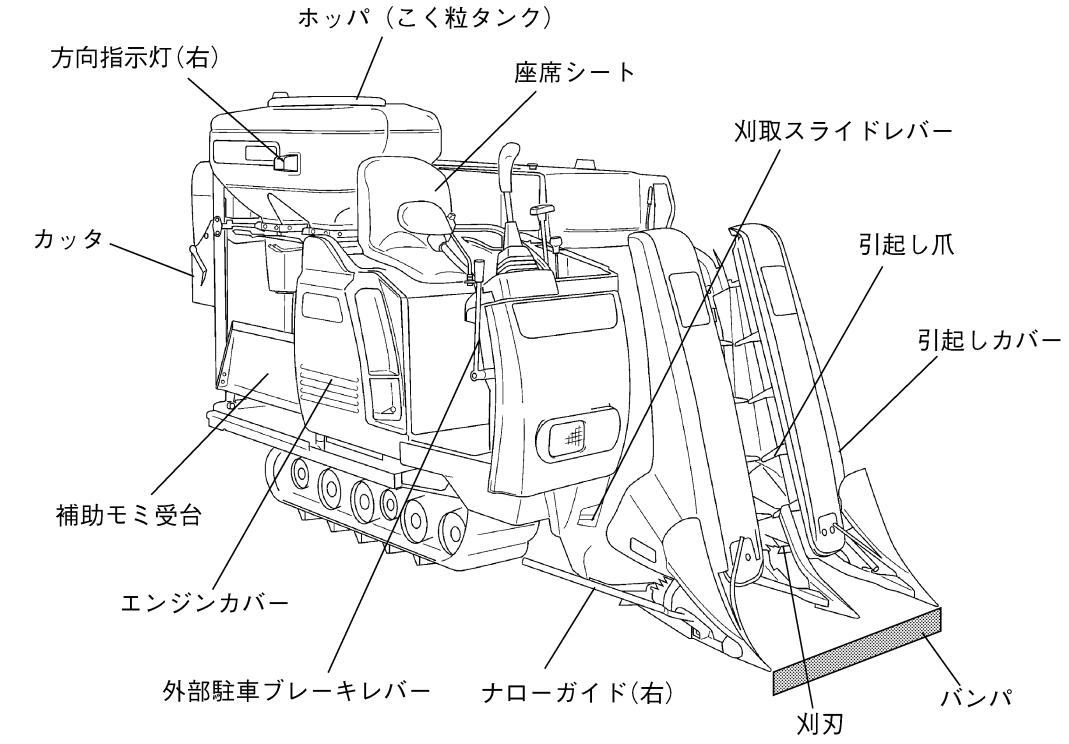
❹　任意保険のお勧め

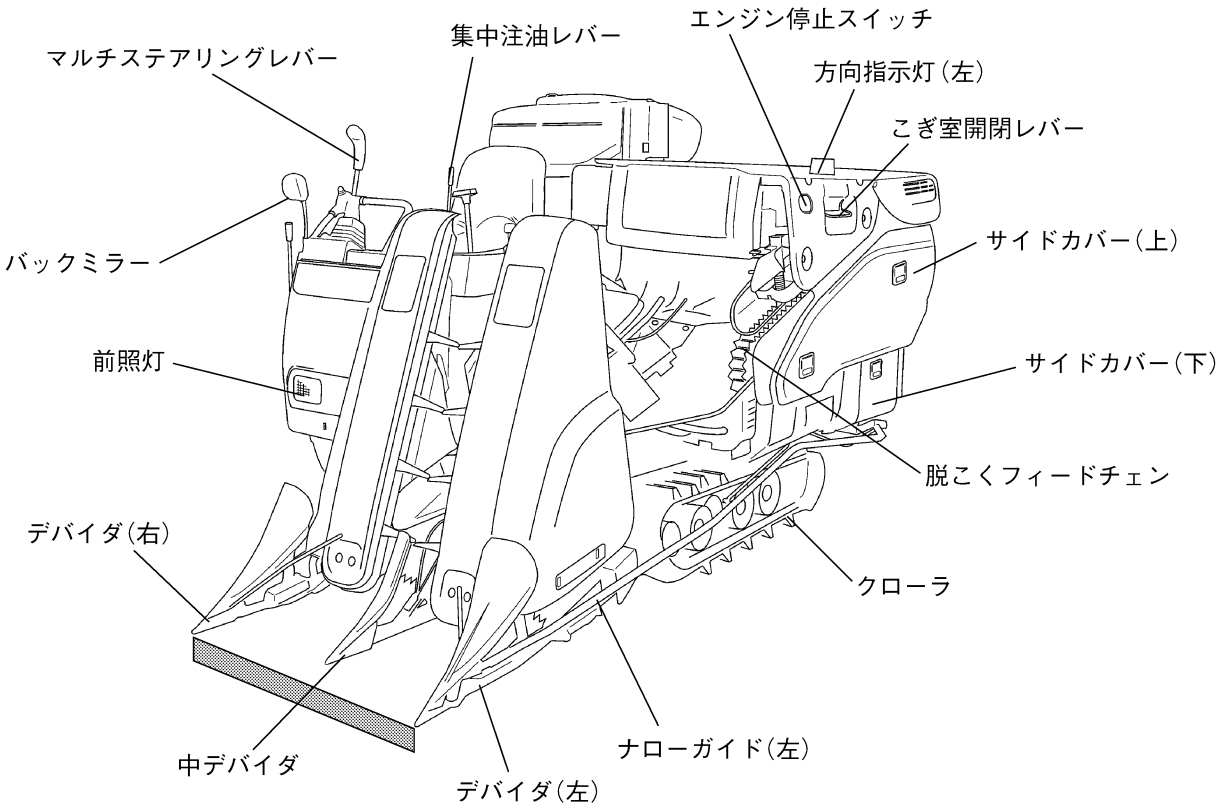
万一の交通事故にそなえ，任意保険に加入されるようお勧めします。

各部のはたらき

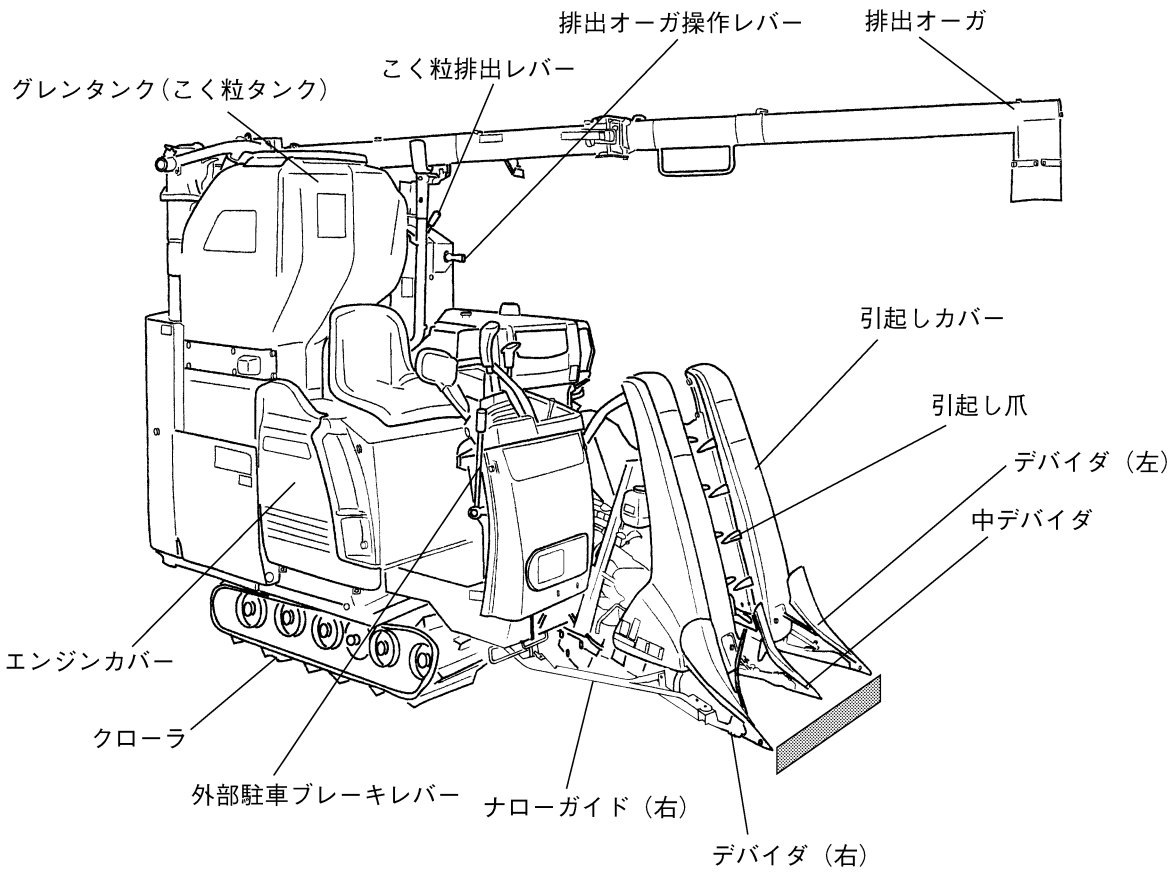
1．各部の名称

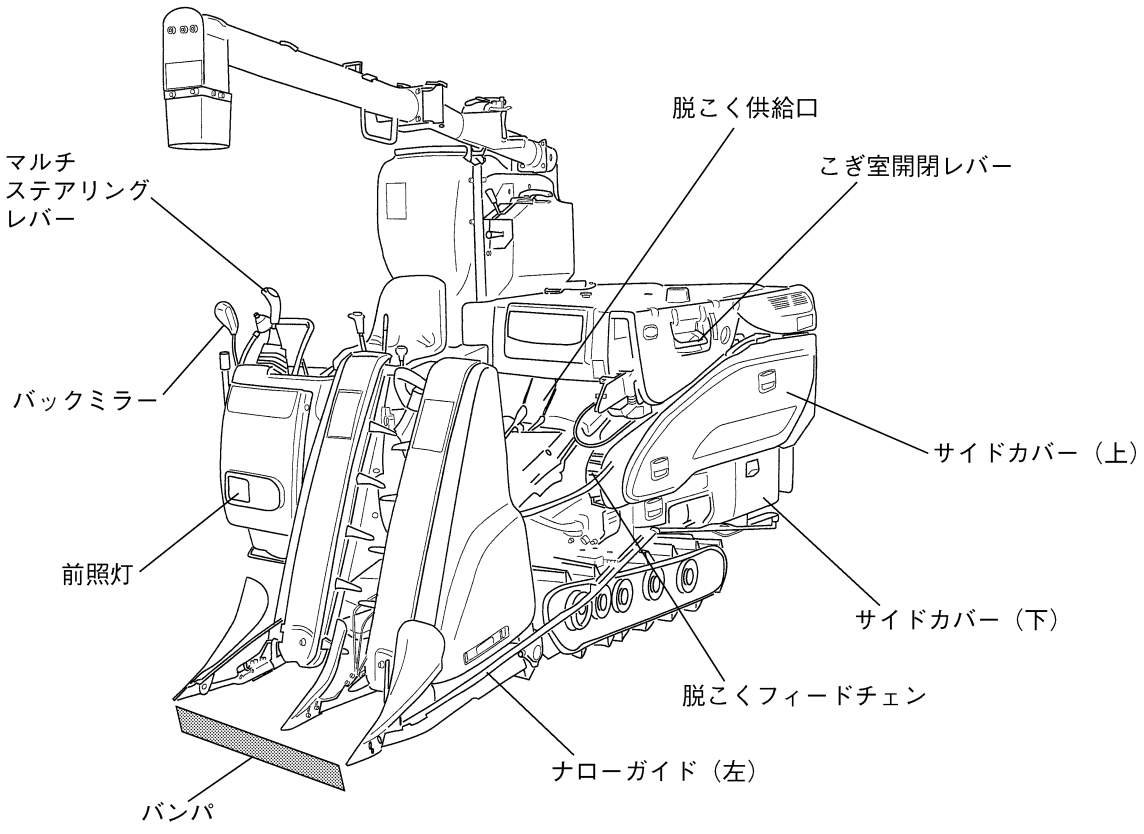
1．ホッパ仕様





2．グレンタンク仕様

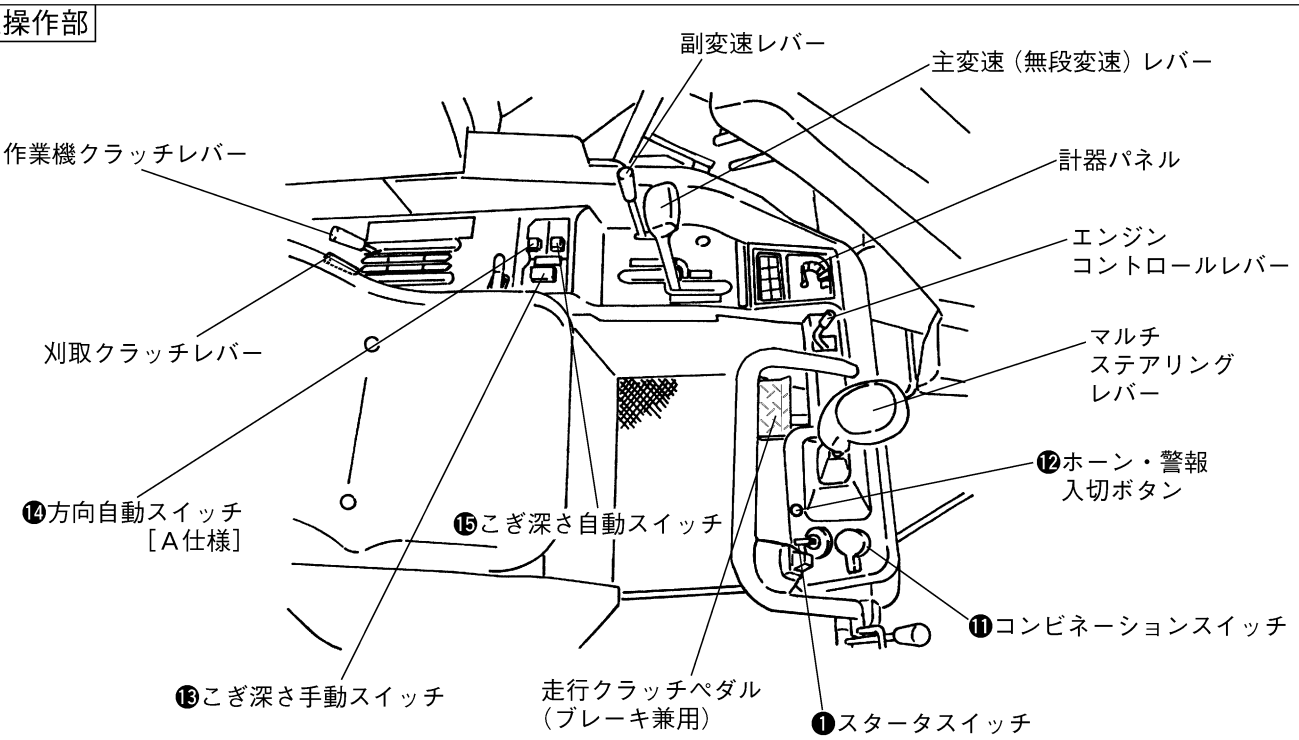

排出オーガ操作レバー
排出オーガ
こく粒排出レバー
グレンタンク（こく粒タンク）
引起しカバー
引起し爪
デバイダ（左）
中デバイダ
エンジンカバー
クローラ
外部駐車ブレーキレバー
ナローガイド（右）
デバイダ（右）


脱こく供給口
マルチ
ステアリング
レバー
こぎ室開閉レバー
バックミラー
サイドカバー（上）
前照灯
サイドカバー（下）
脱こくフィードチェン
ナローガイド（左）
バンパ

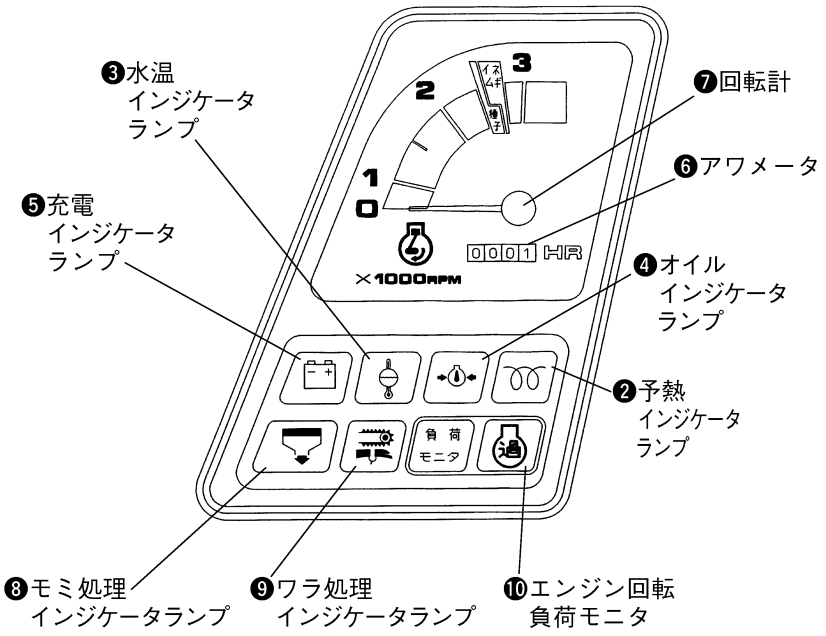
2．運転装置の取扱い

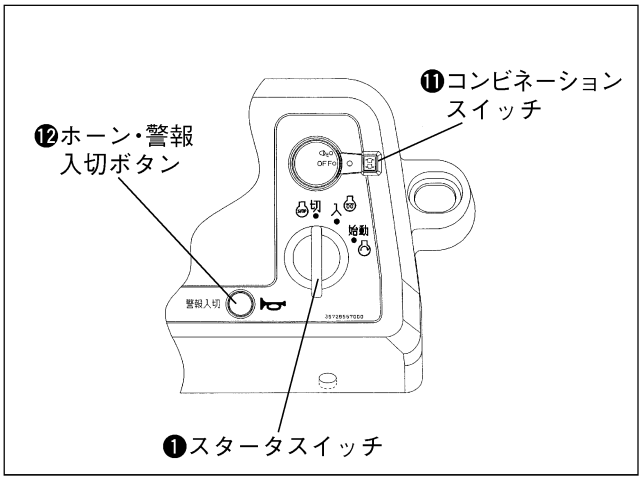
1．スイッチ・計器関係

運転操作部

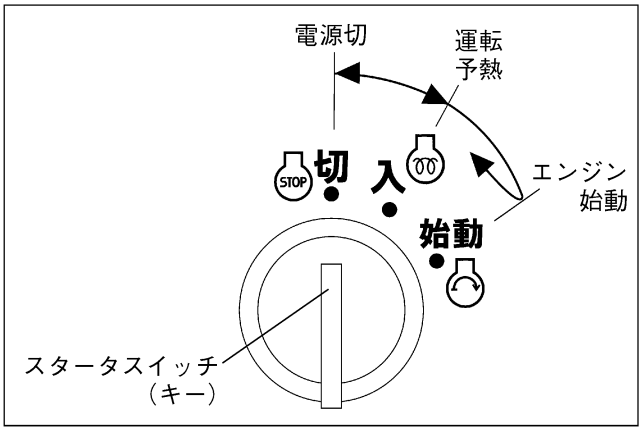


計器パネル詳細





❶ スタータスイッチ（キー）



《 切》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを《 切》にするとエンジンが停止します。

《 入》（運転・予熱）……電源入（運転中）

スタータスイッチを《 入》にするとメータ内の予熱インジケータランプが点灯し，エンジンを予熱します。

約 3 秒後に消灯して予熱が完了します。

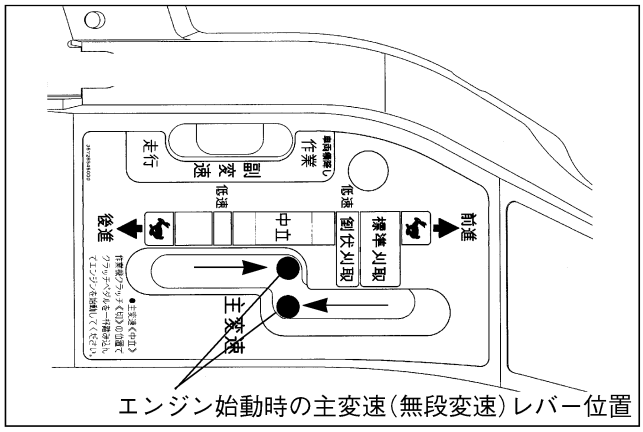
《 始動》……エンジン始動

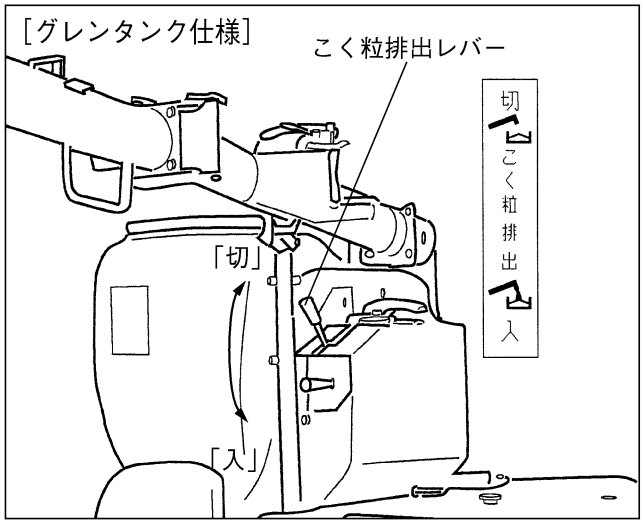
スタータスイッチを《 始動》位置に回すとエンジンが始動します。

手を放せば自動的に《 入》位置に戻ります。

取扱いのポイント

- 作業機クラッチレバー（〔グレンタンク仕様〕は更にこく粒排出レバー）を《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンの始動はできません。（走行クラッチペダルを踏込むと主変速（無段変速）レバーは《中立》になります。）





❷ 予熱インジケータランプ



スタータスイッチを《 入》位置にすると，点灯してエンジンの予熱の状態を示します。約３秒後に消灯し予熱が完了します。

❸ 水温インジケータランプ



エンジンの冷却水温度が異常に上昇(**オーバーヒート**）すると，「**点灯**」し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- **運転中に水温インジケータランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，警報ブザーが鳴り止むまでエンジンのみ「低速運転」してください。**
- **冷却水温度が下がり，ランプが消灯し警報ブザーが鳴り止んだら，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバーおよび金網，ラジエータフィン等のラジエータ吸気部・エンジンファンベルトの張り，および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。**
  （[手入れのしかた] の項を参照してください。）

❹ オイルインジケータランプ



エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「**点灯**」します。

正常なときはスタータスイッチを《 入》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **運転中に点灯したときは，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。**
  （[エンジンオイルの点検，交換] の項参照）
  オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

❺ 充電インジケータランプ



エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，スタータスイッチを《 入》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

❻ アワメータ 0001HR

エンジン稼働時間の積算時間を表示します。

取扱いのポイント

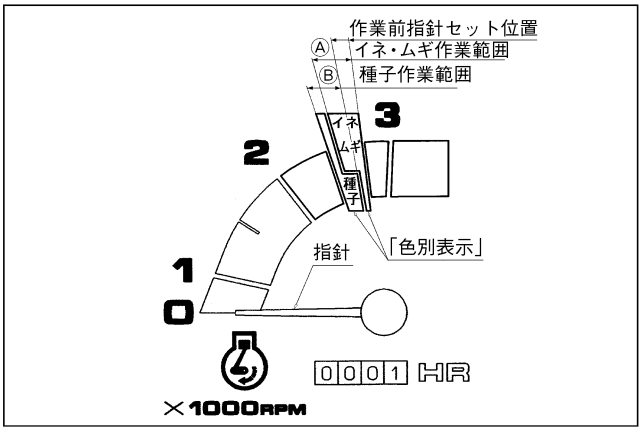
- **定期点検整備はアワメータ表示時間を基準に行なってください。**

❼ 回転計

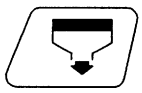
エンジンの１分間の回転数を表示します。

回転数は，イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦），種子等，刈取る作物によって異なります。

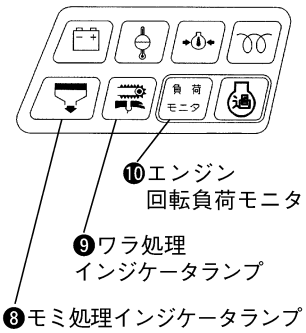
・回転数の調整はエンジンを始動し，回転計を見ながらエンジンコントロールレバーで調整します。
・作業中は回転計の針が常時「**色別表示**」の範囲内に位置するようにして使用します。
・イネ・ムギ（大麦，小麦，ビール麦，裸麦）の場合……Ⓐの範囲
・種子の場合……Ⓑの範囲



❽ モミ処理インジケータランプ



刈取り作業中，こく粒タンク内にこく粒が充満した状態を警報するランプで，満杯時に赤点灯と警報ブザーの断続音で知らせます。



取扱いのポイント

- **警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止し，こく粒タンク内のこく粒を排出してください。**
- **警報ブザーはパネルのホーン・警報入切ボタンを押すと鳴りやみます。**
- **警報ブザーが鳴った後もそのまま作業を続けるとエンジンが停止します。**
- **ホッパ仕様は，ホッパ内のモミ袋に排出してから，エンジンを始動してください。**
- **グレン仕様は，作業機クラッチレバーを《切》位置にして走行クラッチペダルを踏込みエンジンを始動したのち，モミ排出場所まで移動し，グレンタンク内のモミを排出してください。**

❾ ワラ処理インジケータランプ



排ワラチェン部及びフィードチェンに詰まりが発生すると，インジケータランプが点灯し，警報ブザーが鳴り，エンジンが停止します。

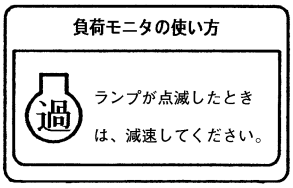
取扱いのポイント

- **エンジンが停止したらスタータスイッチを《STOP切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **作業機クラッチレバー（〔グレンタンク仕様〕は更にこく粒排出レバー）を《切》位置にして走行クラッチペダルを踏込むとエンジンの再始動ができます。**

❿ エンジン回転負荷モニタ



エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がるとモニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅したら，主変速（無段変速）レバーで走行速度を下げ，エンジンの負荷を軽くします。



取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷モニタは，刈取り作業中のみ警報作動するようにしていますので，以下の条件では警報は作動しません。**
  - **・こぎ深さメインセンサが「切」のとき**
  - **・刈取クラッチレバーが「切」のとき**
  - **・作業機クラッチレバーが「切」のとき**
  - **・走行クラッチペダルを踏んでいるとき**

⓫ コンビネーションスイッチ

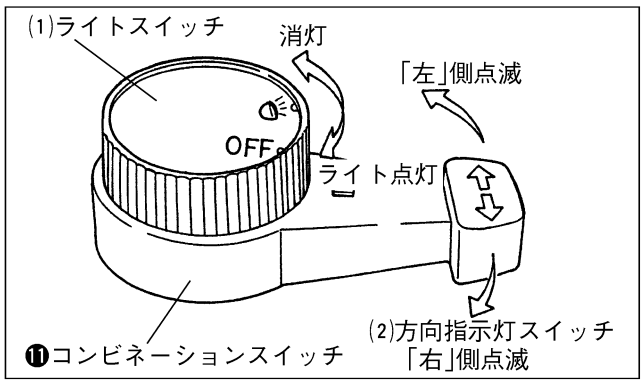
(1) ライトスイッチ

《ＯＦＦ》……消灯

《 ≡D 》……計器パネルランプの点灯及び，前照灯が点灯します。

(2) 方向指示灯スイッチ

スイッチを前後へ操作すると左側又は右側の方向指示灯が点滅します。



⑫　ホーン・警報入切ボタン



(1)　ホーン機能

スタータスイッチを《 入》（《入》）の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

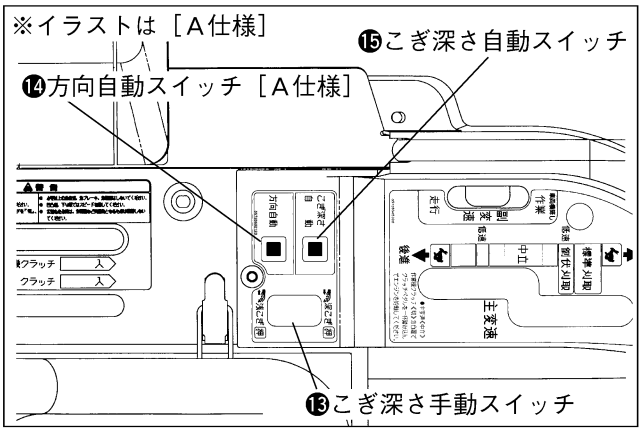
(2)　警報入切機能

モミ処理インジケータランプの点灯（タンク充満），および警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴りやみます。

取扱いのポイント

●つぎの場合は，警報入切ボタンを押しても鳴りやみません。下記の方法で警報を解除してください。

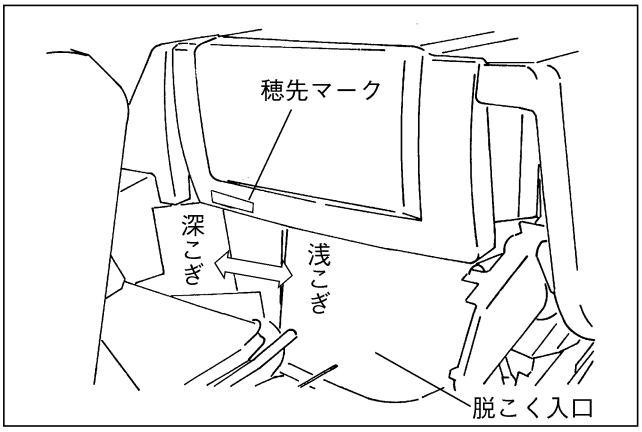
警報機能	解除方法
・水温インジケータランプ点灯（オーバーヒート）	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」する
・ワラ処理インジケータランプ点灯 （排ワラ詰まり） （フィードチェン詰まり）	エンジンを停止し作業機クラッチレバーを《切》位置にして詰まりを取除く
・エンジン回転負荷モニタ（ランプ）点滅	走行速度を下げる

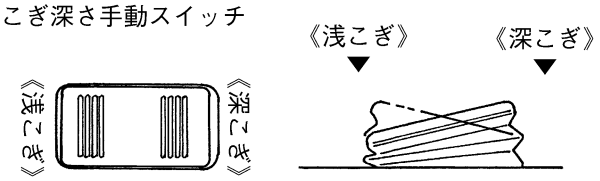


⑬　こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに合わせて，脱こく部へ供給される作物の穂の位置を調整するスイッチです。

脱こく入口の「**穂先マーク**」位置に作物の穂先がくるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。





《深》（深こぎ）……こぎ深さが深い位置に移動し，スイッチから手を離すと任意の位置に固定されます。

《浅》（浅こぎ）……こぎ深さが浅い位置に移動し，スイッチから手を離すと任意の位置に固定されます。

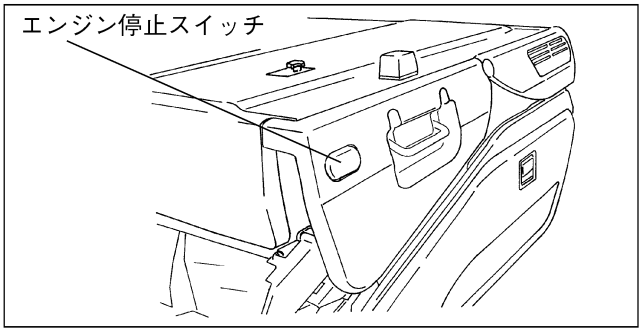
⑭　方向自動スイッチ（［自動制御について］の項参照）

［A仕様］だけに設定されます。

⑮　こぎ深さ自動スイッチ（［自動制御について］の項参照）

⑯　エンジン停止スイッチ

手こぎ作業時等の万一のトラブル時にこのスイッチを押すと，エンジンが停止します。

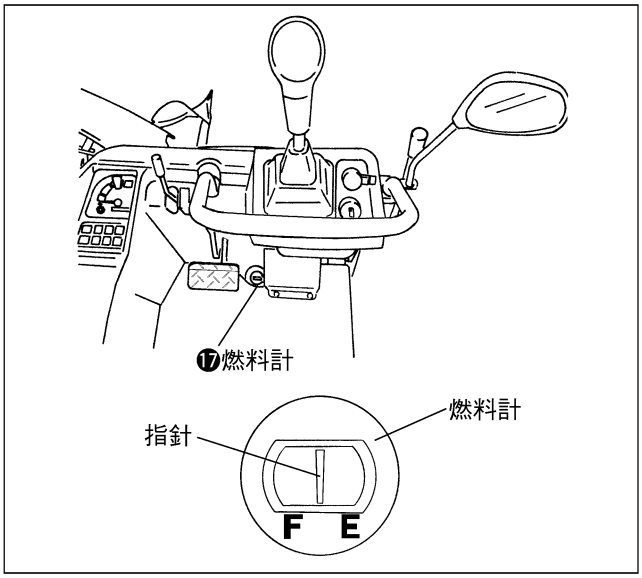


取扱いのポイント

- **エンジン停止スイッチでエンジンを停止した時は，スタータスイッチを《 STOP 切》にしてください。そのまま放置するとバッテリあがりの原因になります。**
- **エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。**

⑰　燃料計

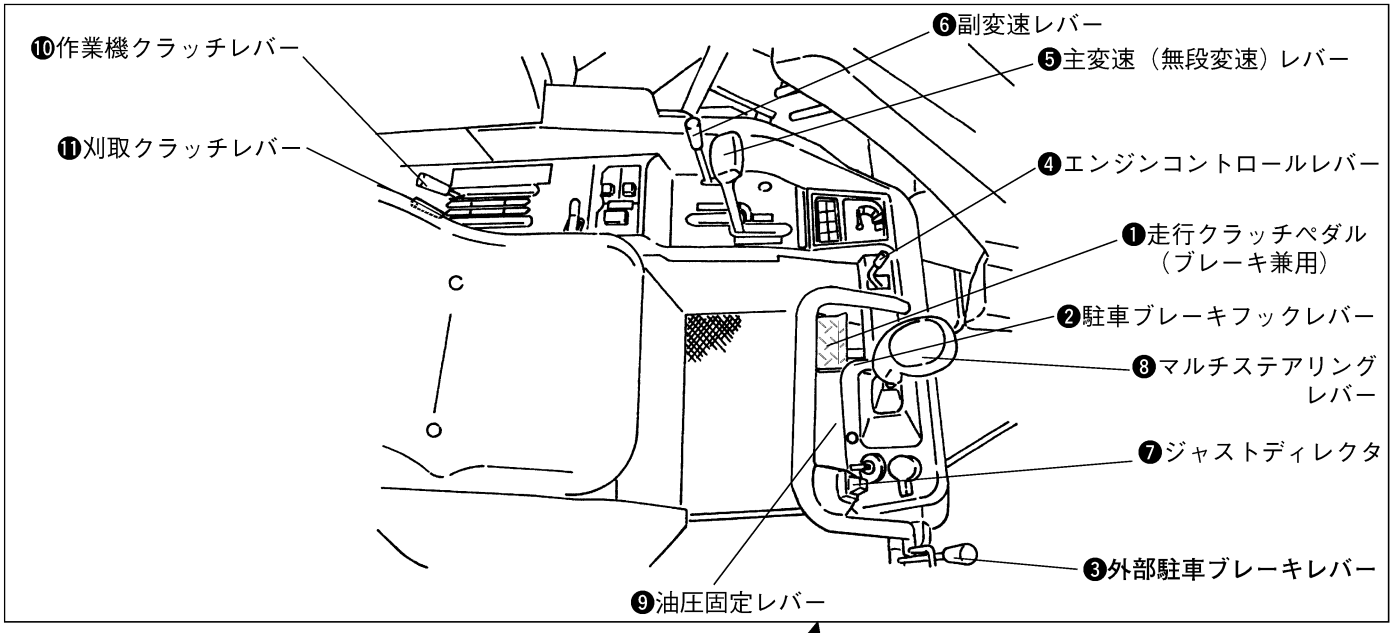
燃料の残量を指針の位置で示します。《F》が満量（13L）を示し，指針が《E》に近づくにつれて燃料が減っていくことを表示します。

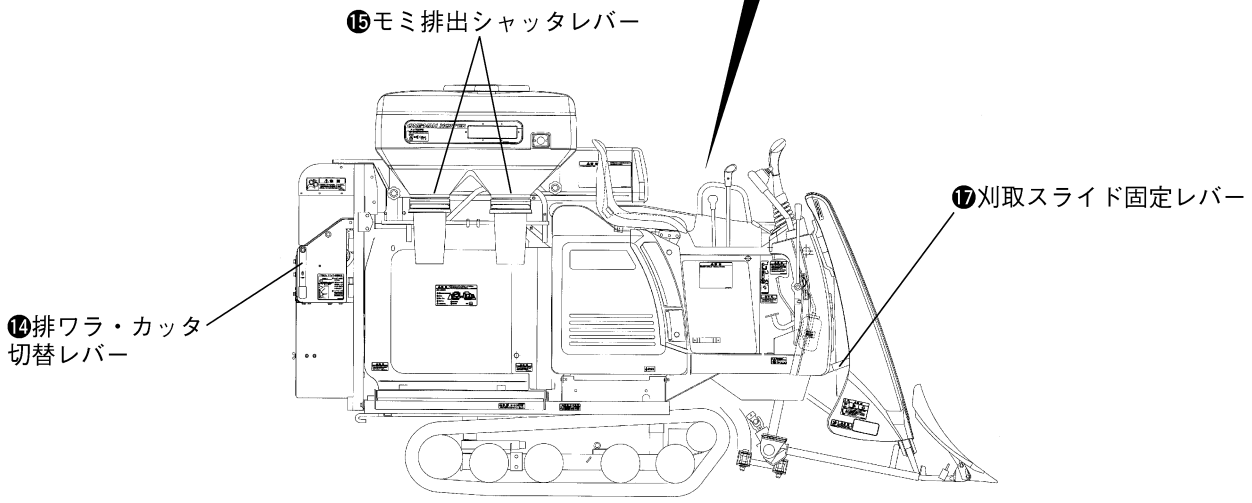


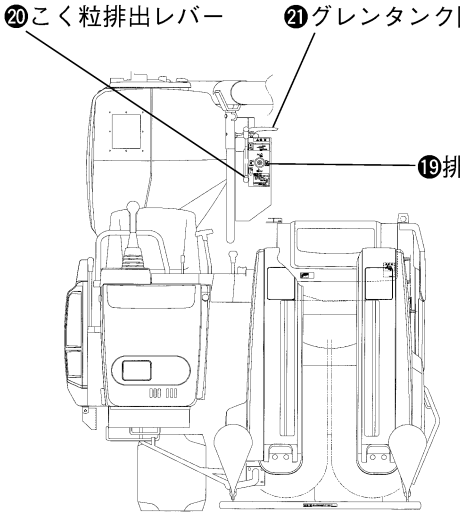
取扱いのポイント

- **指針が《E》近くになったら早めに燃料を補給してください。**

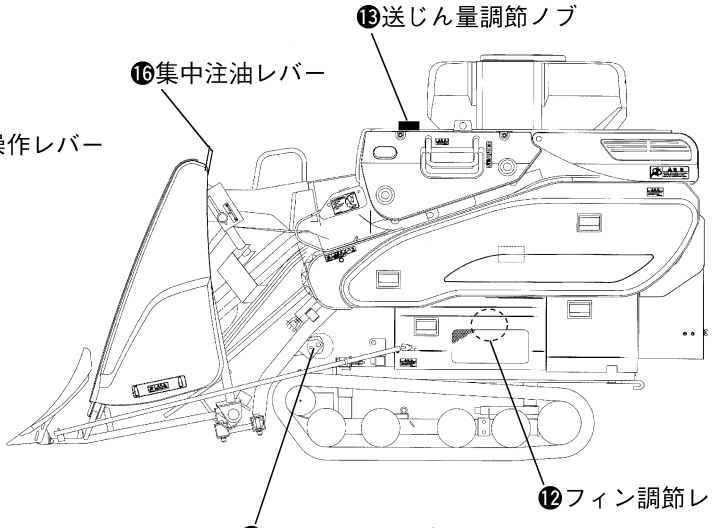
2．ペダル・レバー関係







［グレンタンク仕様］

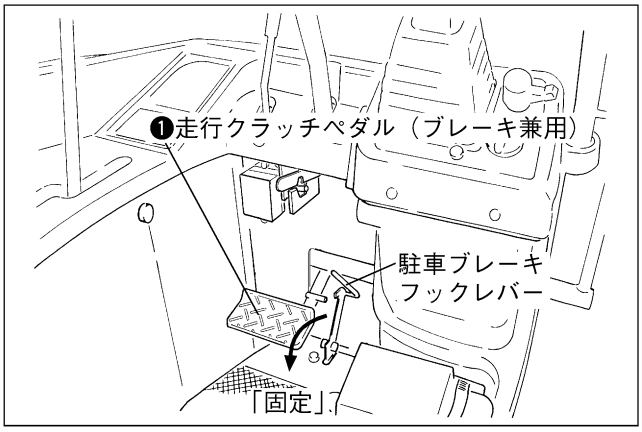


❶ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろし等アユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。

◆走行クラッチペダルに足を乗せたまま旋回操作をしないでください。
ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。



機械の始動，停止（ブレーキ），副変速レバーの操作，駐車ブレーキに使用します。

⑴ **エンジンの始動に使用します。**

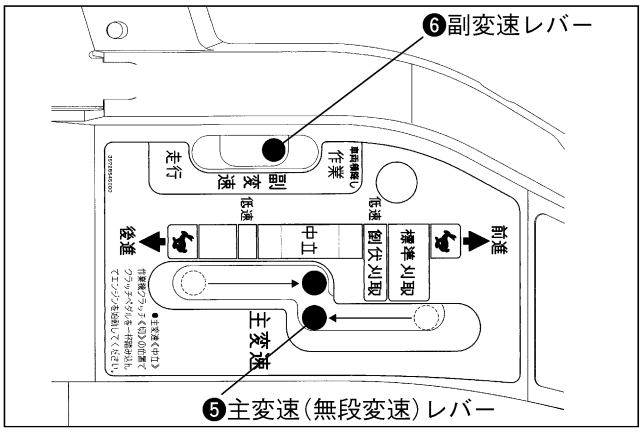
・エンジンを始動する時は走行クラッチペダルをいっぱいに踏込みます。

取扱いのポイント

- **作業機クラッチレバー（[グレンタンク仕様]は更にこく粒排出レバー）を《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンの始動はできません。**

⑵ **機械の停止（ブレーキ）に使用します。**

・走行クラッチペダルをいっぱいに踏込むと，主変速（無段変速）レバーが《**中立**》に戻りトランスミッションへの動力が断たれ，ブレーキがかかる構造になっています。



⑶ **機械の副変速レバーの操作に使用します。**

・副変速レバーを操作する時は走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。

⑷ **駐車ブレーキとして使用します。**

・走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで駐車ブレーキフックレバーを「**固定**」方向に倒すと「**駐車ブレーキ**」がかかります。

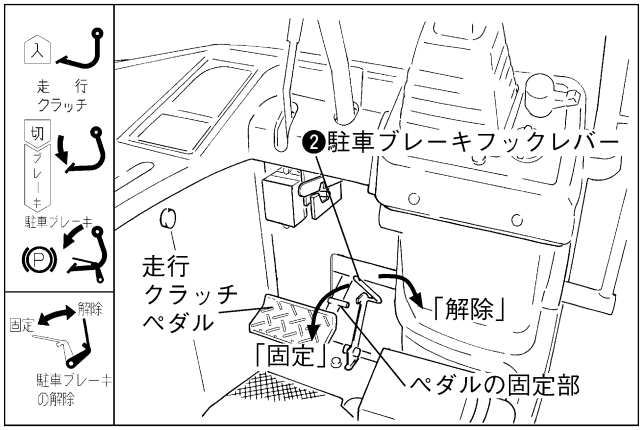
取扱いのポイント

- **主変速（無段変速）レバーは走行クラッチペダルを踏まなくても操作できます。**
- **走行クラッチペダルを半クラッチ状態で使用するとカウンタ駆動ベルトが焼損する恐れがあります。**
- **作業中，走行クラッチペダルを踏むと走行と同時に刈取部も停止します。**
- **［ホッパ仕様］は，外部駐車ブレーキレバーを《入》位置にすると，走行クラッチペダルが《駐車ブレーキ》位置に動き，主変速（無段変速）レバーも《中立》位置に移動します。**
- **［グレンタンク仕様］は外部駐車ブレーキレバーを《入》位置にすると，主変速（無段変速）レバーが《中立》位置に移動しますが，走行クラッチペダルは動きません。**

❷ 駐車ブレーキフックレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「歯止め」をしてください。



走行クラッチペダルをいっぱい踏込んだ状態で駐車ブレーキフックレバーを「**固定**」方向に倒すとフックがペダルの固定部にかかり，駐車ブレーキがかかります。

駐車ブレーキを「**解除**」する時は，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んだ状態で駐車ブレーキフックレバーを「**解除**」方向におこします。

駐車ブレーキがかかった状態では主変速（無段変速）レバーは動きません。

取扱いのポイント

- **走行クラッチペダルに駐車ブレーキフックレバーをかけた状態で外部駐車ブレーキレバーを操作してもブレーキがかかった状態を「解除」することはできません。この状態を解除するには，外部駐車ブレーキレバーを《切》位置にし，走行クラッチペダルを踏込み駐車ブレーキフックレバーを「解除」の方向におこしてください。**
- **駐車ブレーキフックレバーの「解除」は確実に前方に倒してください。（途中位置に有ると，振動等で落下し，走行クラッチペダルが作用しなくなることがあります。）**
- **駐車ブレーキがかかった状態で無理に主変速（無段変速）レバーを動かそうとすると機械が破損することがあります。**

❸ 外部駐車ブレーキレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

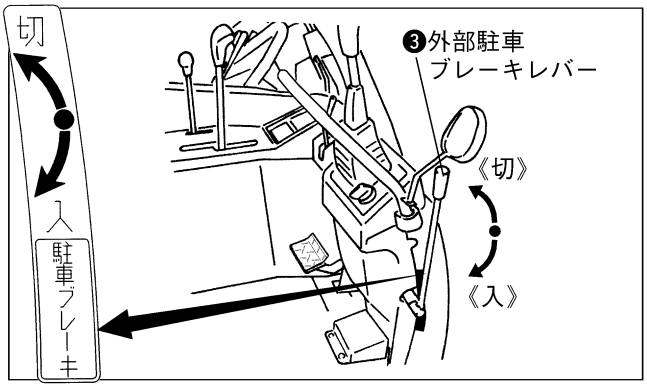
◆坂道など傾斜のある所では駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「歯止め」をしてください。

◆外部駐車ブレーキレバーは，自動車への積込み，積降ろし等アユミの上では操作しないでください。

外部より駐車ブレーキをかける時に使用します。

・外部駐車ブレーキレバーを前方（《**入**》方向）に倒すと駐車ブレーキがかかります。

・外部駐車ブレーキレバーは主変速（無段変速）レバーと連動していますので，運転席から降りて，機械の停止操作を行う時にも使用します。



取扱いのポイント

- **機械を駐車する時は走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで駐車ブレーキフックレバーを「固定」方向に倒してください。**
  外部駐車ブレーキレバーは，外部より駐車ブレーキをかける時に使用してください。
- **外部駐車ブレーキレバーを《入》方向に倒すと主変速（無段変速）レバーが《中立》位置に戻りますので，再発進する時は外部駐車ブレーキレバーを《切》にしてから，主変速（無段変速）レバーを操作してください。**

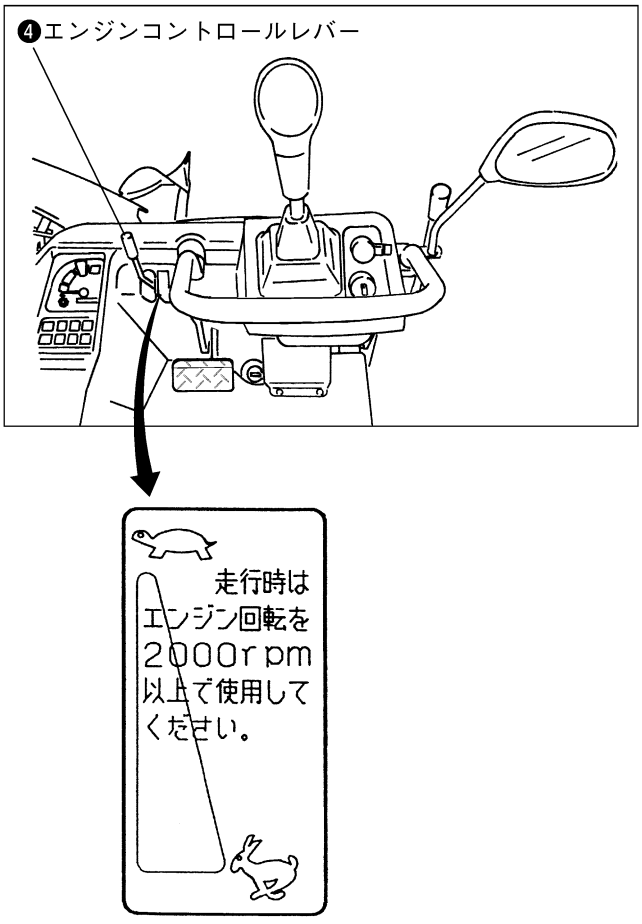
❹ エンジンコントロールレバー

エンジンを増速・減速するレバーです。

・「**始動**」の時は……エンジンコントロールレバーを手前に引き，《🐇》（**高速**）の位置にしてエンジンを始動します。

・「**作業**」の時は……適正回転数になるよう回転計の指針を合わせます。

・「**停止**」の時は……《🐢》（**低速**）の位置にしてエンジンを停止します。



取扱いのポイント

●走行時及び，マルチステアリングレバーを操作する時は，エンジン回転「2000rpm以上」で使用してください。それ以外で使用すると正常に作動しないことがあります。

❺ 主変速（無段変速）レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆機械から離れる時は，中立（N）でも動く場合があるので，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

◆走行中，主変速レバーを急激に増減速操作しないでください。

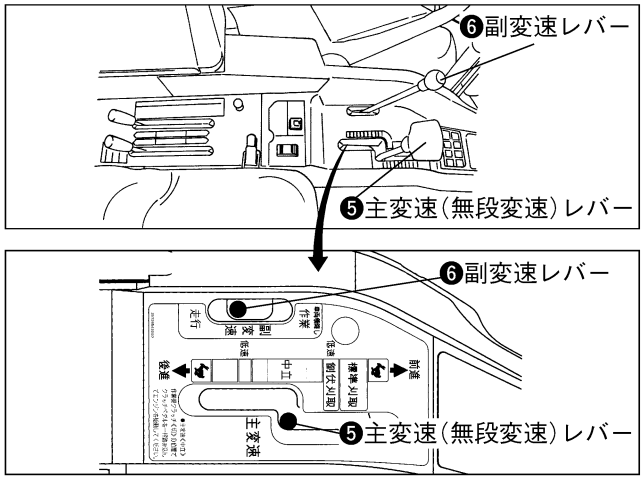
◆前後進の切替えは機械が一旦停止してから行なってください。

◆自動車等への積込み・積降ろしの時は，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。《**前進**》・《**後進**》いずれにも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

・走行クラッチペダルを踏むと，主変速（無段変速）レバーは《**中立**》位置に戻ります。

・エンジンを始動する時は，作業機クラッチレバー（〔グレンタンク仕様〕は更にこく粒排出レバー）を《**切**》位置にして走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで始動します。



取扱いのポイント

●外部駐車ブレーキレバーが《入》位置の状態，および走行クラッチペダルを踏込んでいる状態では，主変速（無段変速）レバーを動かさないでください。無理に動かそうとすると機械が破損することがあります。

❻ 副変速レバー

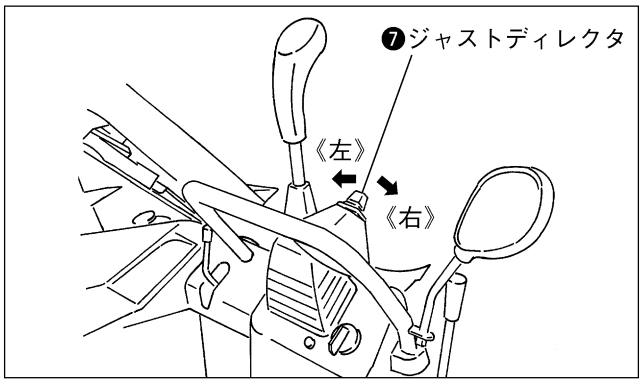
《**走行**》,《**作業**》の切替えを行います。

切替え操作は主変速（無段変速）レバーを《**中立**》の位置にし，機械が停止してから行います。

「**作業別適性速度表**」

作業内容	副変速	主変速(無段変速)
積込み,あぜ越え(前進)	作業	前進《低速》以下
倒伏刈取り		倒伏刈取
標準刈取り	作業	標準刈取
集中注油	作業	停　止
路上,ほ場走行(前進)	作業，走行	任　意
路上,ほ場走行(後進)	作業，走行	任　意
積降ろし,あぜ越え(後進)	作業	後進《低速》以下
刈取りのときの後進	作業	任　意

❼ ジャストディレクタ



ジャストディレクタを《**右**》に押すと右方向に，《**左**》に押すと左方向に機械の進行方向を修正します。

・刈始めの条合わせや，刈取り中の微調整に使用します。

・自動車等への積込み・積降ろし，アゼ越え，路上走行等刈取り以外の作業では使用しません。

⚠警告 傷害事故防止のために

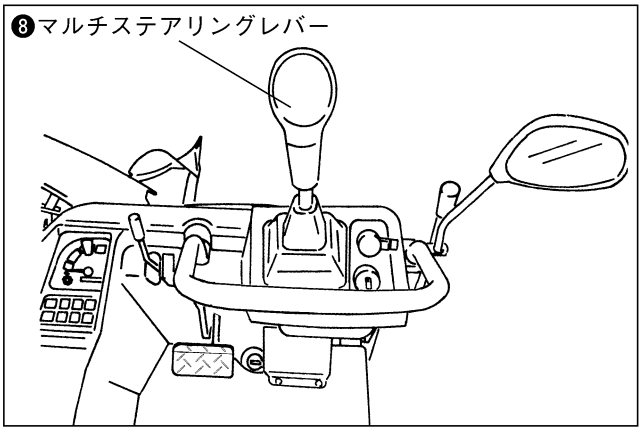
◆旋回操作（方向修正）時に走行クラッチペダルに足を乗せないでください。
ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。

❽ マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

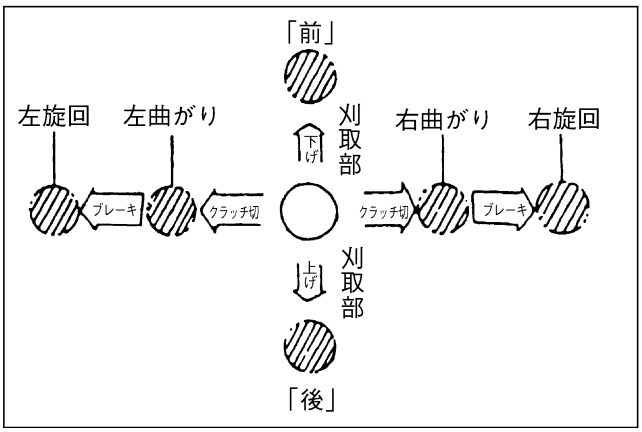
◆旋回する時は主変速（無段変速）レバーで速度を落として行なってください。また，急旋回はしないでください。

◆自動車等への積込み・積降ろしの時は，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・１本のレバー操作により，左右操作で「**旋回**」，前後操作で刈取部の「**上げ**」「**下げ**」ができます。

・左右方向に浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。



取扱いのポイント

● マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

❾ 油圧固定レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

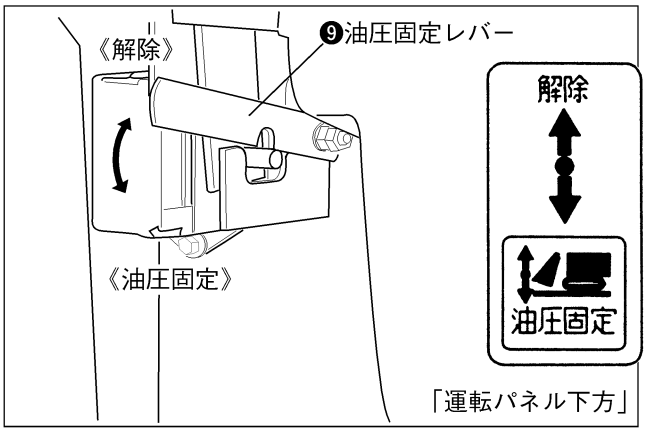
◆刈取部を上げて，その下で整備等する時は，エンジンを停止し，油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にしてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚等をおいて作業してください。

◆油圧固定レバーを操作する時は，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

刈取部の「**上げ**」・「**下げ**」を固定します。

・油圧固定レバーを《**油圧固定**》位置にするとマルチステアリングレバーの前後操作が固定され，刈取部は「**上昇・下降**」できません。

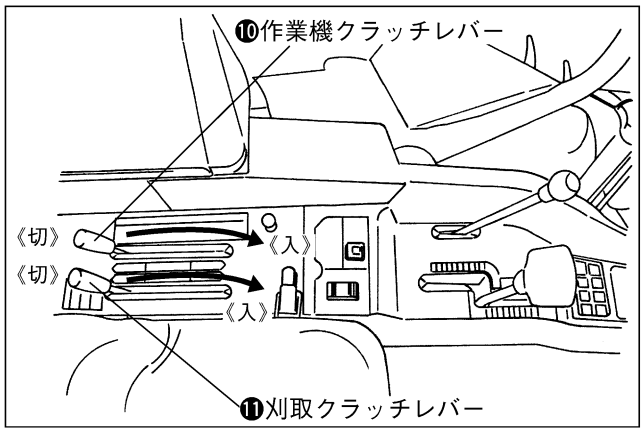
・通常の作業時は油圧固定レバーを《**解除**》にします。



❿ 作業機クラッチレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業機クラッチレバーまたは刈取クラッチレバーを《入》に操作する時は，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。



・**作業機クラッチレバー**は脱こく部の運転・停止を操作するクラッチレバーです。

⓫ 刈取クラッチレバー

・**刈取クラッチレバー**は刈取部の運転・停止を操作するクラッチレバーです。

・刈取クラッチレバーを《**入**》にすると，作業機クラッチレバーも連動して《**入**》となります。また，作業機クラッチレバーを《**切**》ると，刈取クラッチレバーも連動して《**切**》となります。

取扱いのポイント

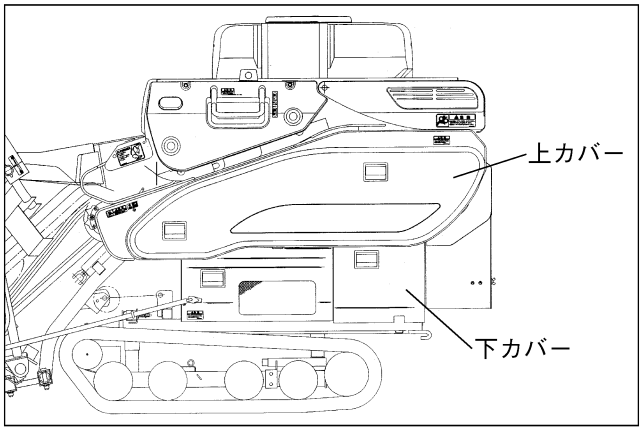
- **刈取り作業を行う時は，作業機クラッチレバーは，回転計のそれぞれの「色別表示」以下では《入》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**
- **刈取・脱こく運転中，走行クラッチペダルを踏むと，走行は停止し，同時に刈取部も停止します。（脱こく部は止まりません）**
- **作業機クラッチレバー及び刈取クラッチレバー（〔グレンタンク仕様〕はこく粒排出レバー）が《入》位置にある時はエンジンは始動できません。**

●エンジンを始動する時は，作業機クラッチレバー（〔グレンタンク仕様〕は更にこく粒排出レバー）を《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでください。

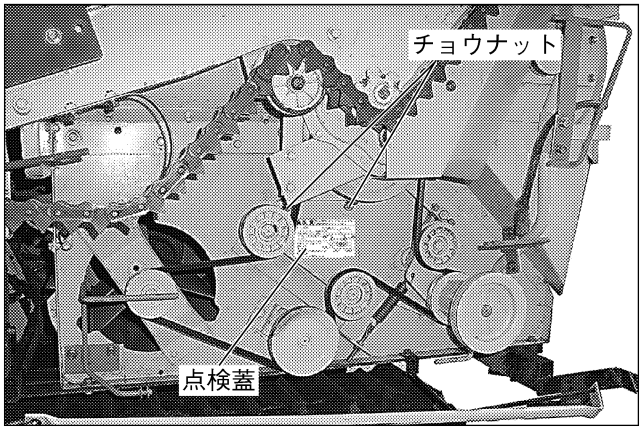
⑫　フィン（選別量）調節レバー

作物や刈取りの条件により，モミに枝梗の付着や稈切れ混入が多い場合や収穫量が少ない場合に調節するレバーです。

(1)　上カバー，下カバーを外します。



(2)　チョウナットを外し，点検蓋を外します。



取扱いのポイント

●レバーを操作する時は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転してからエンジンを停止し，行なってください。

●シーズン途中や格納前にも作動をスムーズにするために，時々同じ方法でレバーを操作してください。

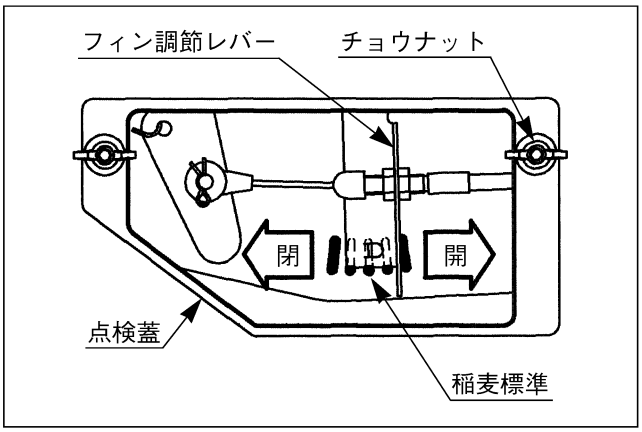
(3)　作物の条件により下記を参考にしてフィン調節レバーで調節します。

「閉」方向調節

・選別が悪い時。　　・小枝梗が多い時。

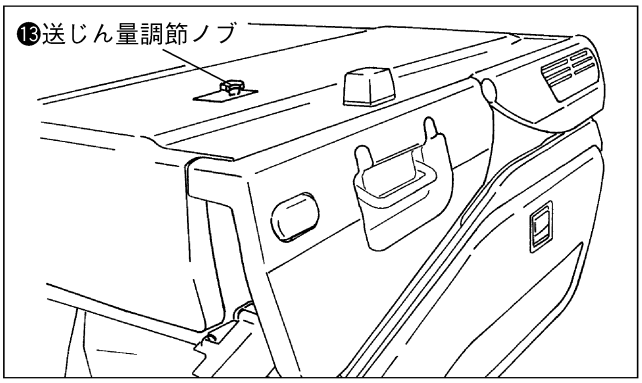
「開」方向調節

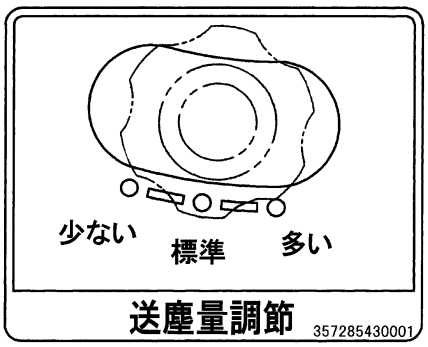
・ロスが多い時。　　・脱ぷが多い時。



⑬　送じん調節ノブ

こぎ室内のワラクズの流れを調節するノブです。

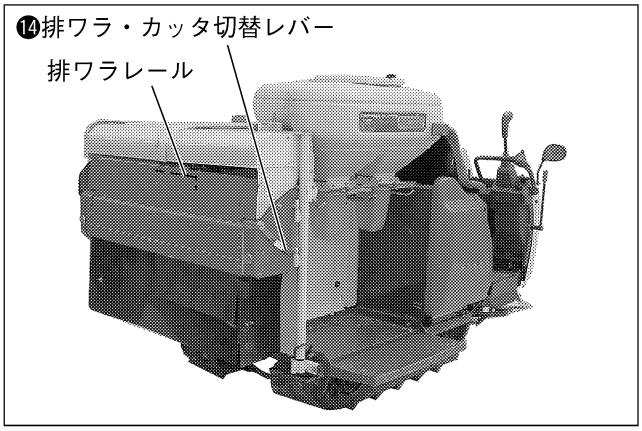


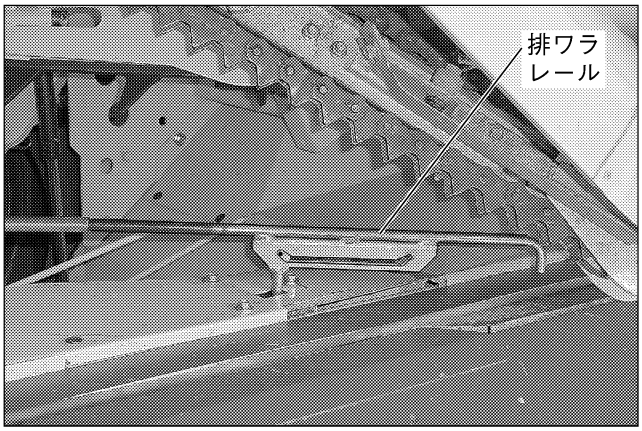


作業状態	送塵量調節ノブ位置
こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合	《多　い》
通常の刈取りの場合	《標　準》
枝梗の付着が多い場合	《少ない》

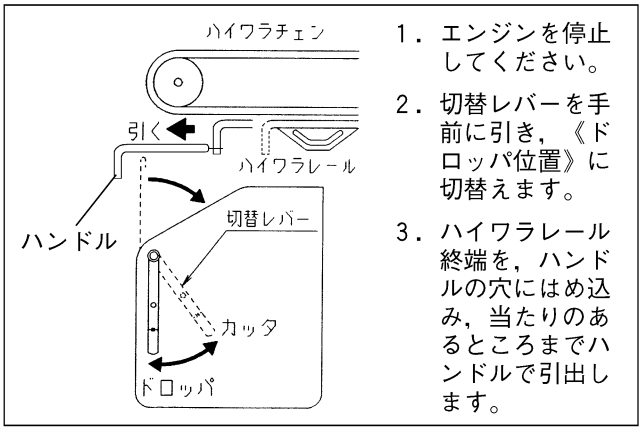
⑭　排ワラ・カッタ切替レバー

排ワラ作業またはカッタ作業の切替えをするレバーです。レバーの切替と同時に排ワラレール位置も切替えてください。





・ドロッパ，排ワラ作業のしかた



1．エンジンを停止してください。
2．切替レバーを手前に引き，《ドロッパ位置》に切替えます。
3．ハイワラレール終端を，ハンドルの穴にはめ込み，当たりのあるところまでハンドルで引出します。

⑮　モミ排出シャッタレバー［ホッパ仕様］

⚠注意

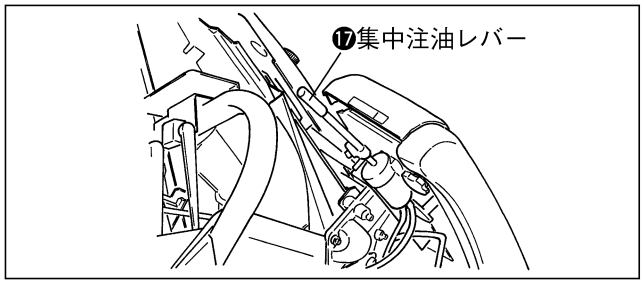
◆樋口の中に手を入れないでください。

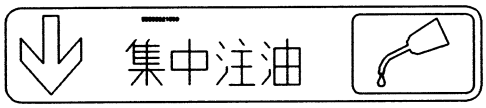
・モミ袋を交換する時，モミ排出シャッタレバーを押込んで閉じて行います。
シャッタを開く時はモミ排出シャッタレバーを引き出します。



⑯　集中注油レバー

刈取部に集中注油するレバーです。



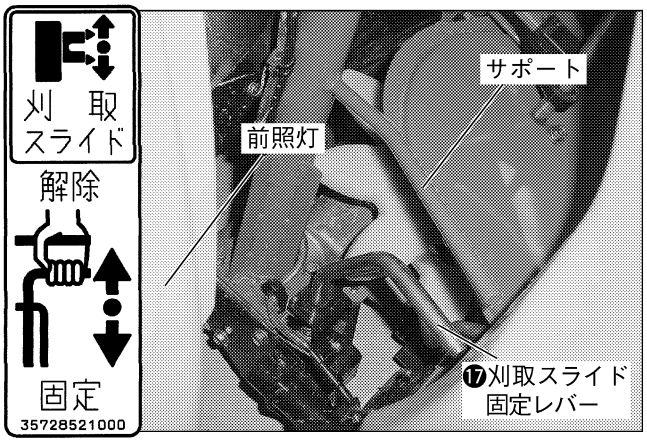


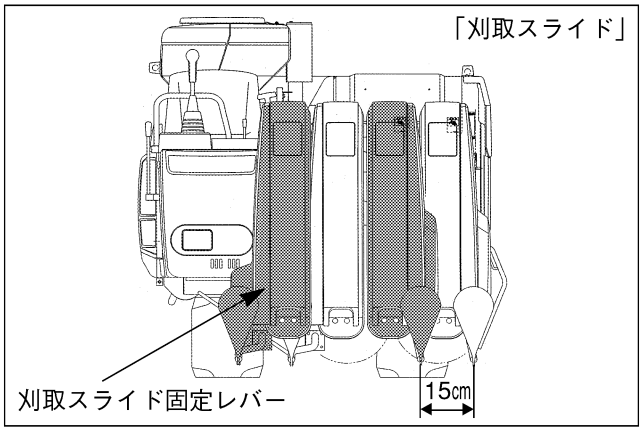
⑰　刈取スライド固定レバー

> ⚠警告　傷害事故防止のために
>
> ◆刈取部を動かす（スライドさせる）時には，刈取部を上げエンジンを停止し，油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にしてください。

刈取スライド固定レバーとサポートを片手で同時に握って，ロック（固定）を《**解除**》することにより刈取部を手動で横移動させるレバーです。

移動させた後は刈取スライド固定レバーで刈取部が《**固定**》（ロック）されていることを確認します。





取扱いのポイント

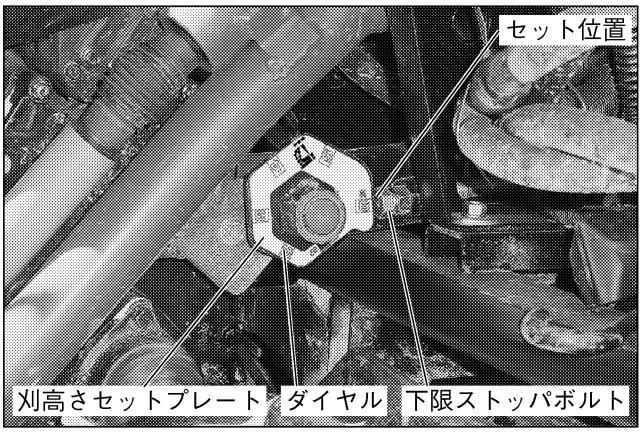
- 刈取スライドは右端又は左端で固定して使用します。
- 刈取スライドを作動させる時は，刈取部をデバイダ先端で10～15㎝上げて行なってください。
- 刈取スライドを作動させる前にこぎ深さ手動スイッチの《浅こぎ》側を押してこぎ深さを最も浅い位置にすると容易に動かすことができます。

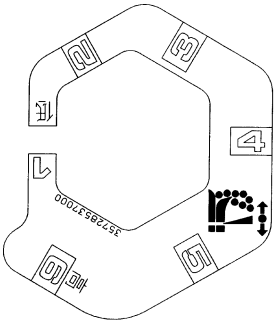
⑱　刈高さセットプレート

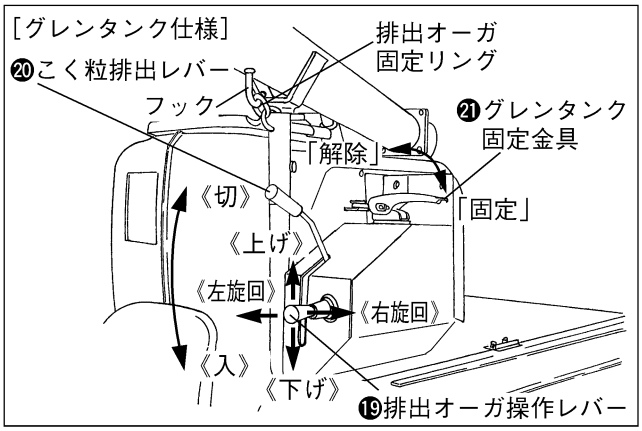
> ⚠警告　傷害事故防止のために
>
> ◆刈高さセットプレートを調整する時は，刈取部を上げた後，油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にしてください。
>
> ◆作業機クラッチレバー,刈取クラッチレバーが《入》位置の状態では調整しないでください。

刈高さセットプレートは刈取部の最低刈高さを調整します。操作方法は，刈取部を上げてダイヤルを手で回動して調整します。

・ダイヤルを回動させると，刈高さを調整できます。







⑲　排出オーガ操作レバー［グレンタンク仕様］

⚠警告　傷害事故防止のために

◆排出オーガを旋回するときは，排出オーガ固定リングをフックから外して排出オーガを《上げ》てから周囲の障害物と衝突しないように行なってください。

◆排出オーガを上げたままでの移動および刈取り作業はしないでください。上げたままで走行すると，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。

排出オーガを《**上げ**》，《**下げ**》および《**左旋回**》，《**右旋回**》させるレバーです。

⑳　こく粒排出レバー［グレンタンク仕様］

グレンタンク内のこく粒を排出するレバーです。

取扱いのポイント

- こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「色別表示のイネ・ムギの上限（緑色）」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。
- 排出オーガを動かす時はフックから排出オーガ固定リングを外してください。
- 排出オーガは水平より下げた状態で旋回しないでください。

㉑　グレンタンク固定金具［グレンタンク仕様］

⚠警告　傷害事故防止のために

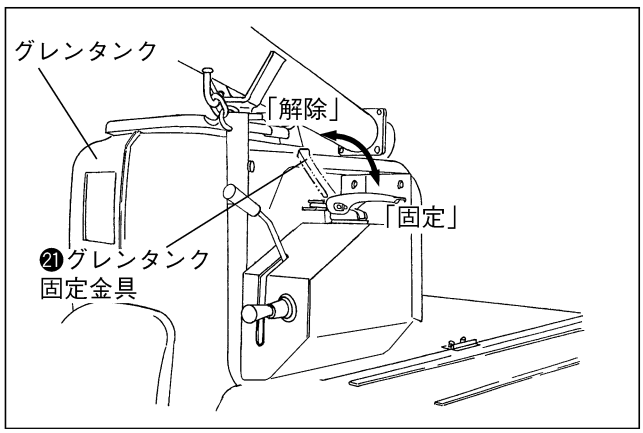
◆グレンタンク固定金具を「解除」する時は，平坦な場所で各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態でグレンタンク固定金具を「解除」するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

◆エンジンを始動する前に，グレンタンクが固定金具で固定されている事を確認します。
グレンタンクが固定されていない状態でエンジンを始動するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

グレンタンク回動部を固定する金具です。

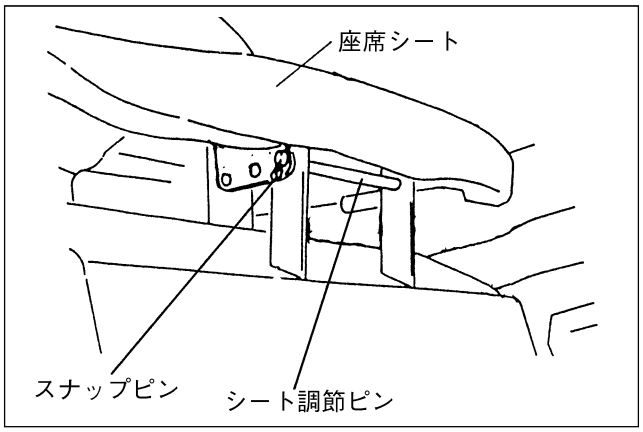
※グレンタンクの回動（オープン）は［**手入れのしかた**］の「**7．グレンタンクの回動のしかた**」参照。



㉒ シート

シートの前後位置がシート調節ピンで3段階に調節できます。

スナップピンを外し，シート調節ピンの位置を変えて，シートの前後位置を調節します。



3．電装関係

⚠警告　火災防止のために

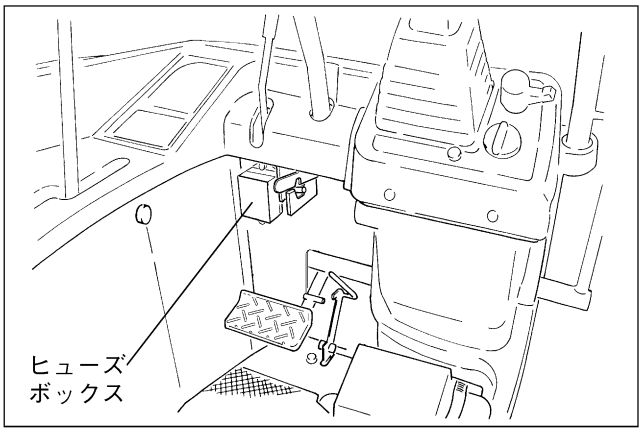
◆取付けてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金，銀紙などを使用すると配線の過熱焼損の原因になります。

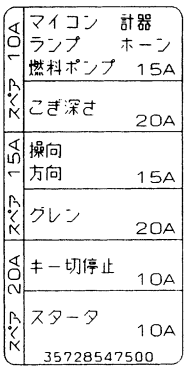
配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するためにヒューズ及びメインヒューズが設けてあります。

運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズ及びメインヒューズの状態をチェックします。

❶　ヒューズボックス

走行クラッチペダルの上部にヒューズボックスがあります。



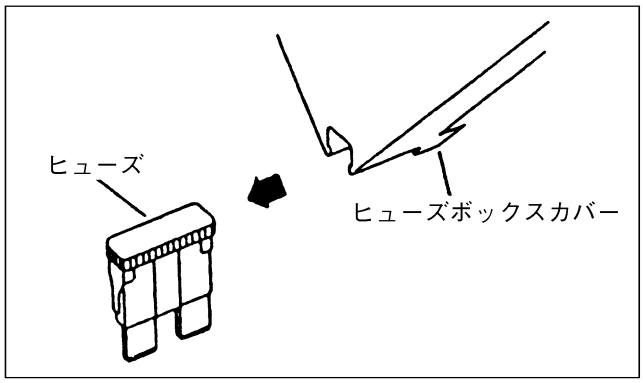


・ヒューズの交換

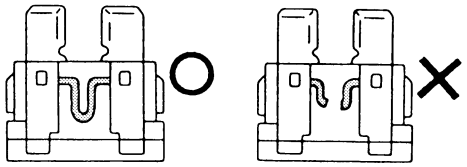
各ヒューズの該当する装置が作動しないときは次のように処置してください。

(1)　スタータスイッチを《 STOP 切》位置にします。

(2)　ヒューズボックスのカバーを使ってヒューズを引抜きます。



(3)　ヒューズが切れていれば，スペアのヒューズと交換してください。



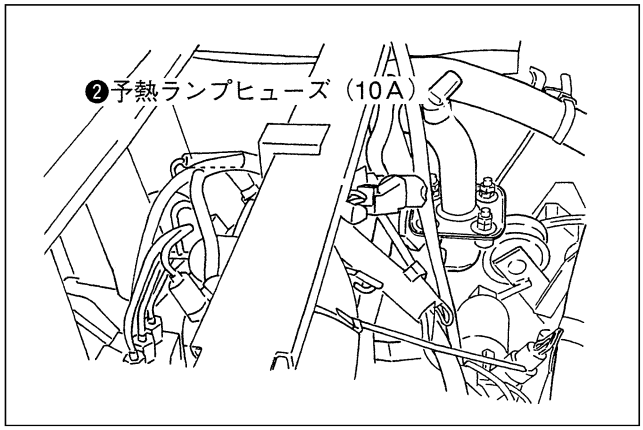
取扱いのポイント

- **交換してもヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

❷　予熱ランプヒューズ（10A）

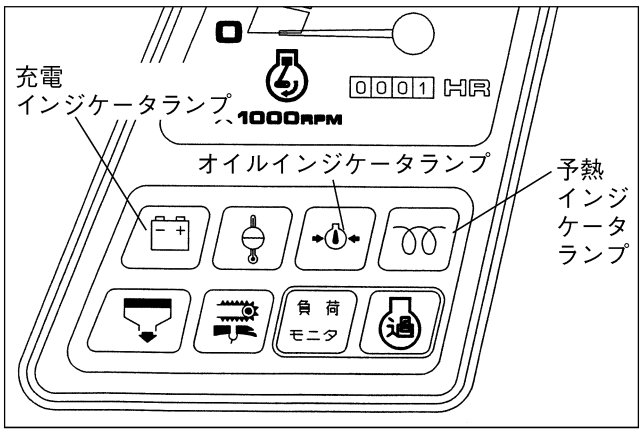
ヒューズボックスではなく，エンジンルーム内の電気配線に直接取付けてあります。

白いケースの中に10Aのヒューズが入っています。

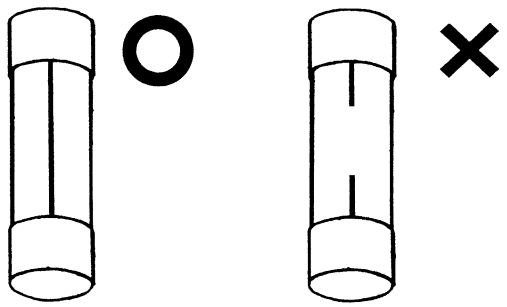


・予熱ランプヒューズ（10A）の交換

スタータスイッチを《 入》位置にしても予熱インジケータランプだけが点灯しない時は，このヒューズを交換します。



(1) スタータスイッチを《 切》位置にします。
(2) 白いケースを開きヒューズを引抜きます。
(3) ヒューズが切れていれば，10Aのヒューズと交換します。



取扱いのポイント

●交換しても予熱ランプヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

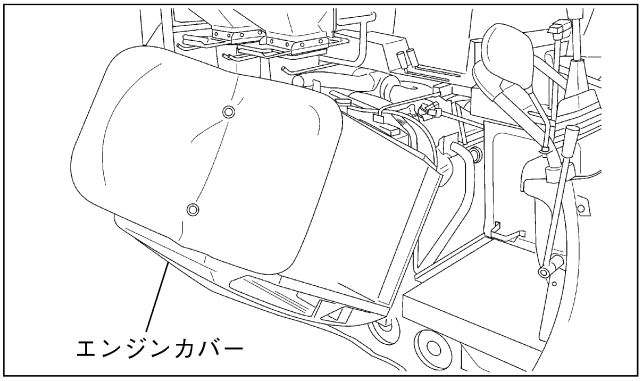
❸ メインヒューズ

⚠警告 ヤケド防止のために

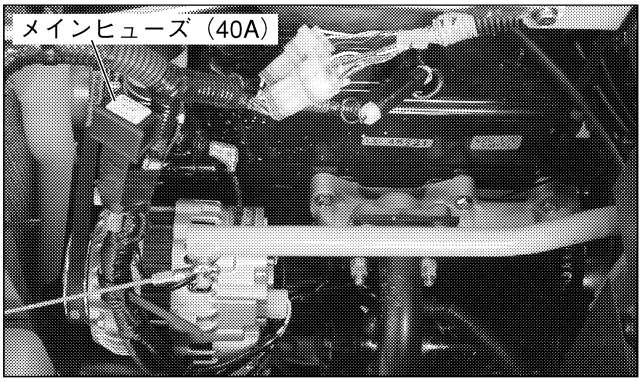
◆作業直後はエンジン部が高温になっています。メインヒューズの点検はエンジンが冷えてから行なってください。

エンジンルーム内の電気配線に直接取付けてあります。全ての電気装置の安全装置となっていて，メインヒューズが切れると全ての電気装置が作動しなくなります。

(1) エンジンカバーを開きます。（[**手入れのしかた**]の「**エンジンカバーの開閉のしかた**」参照）



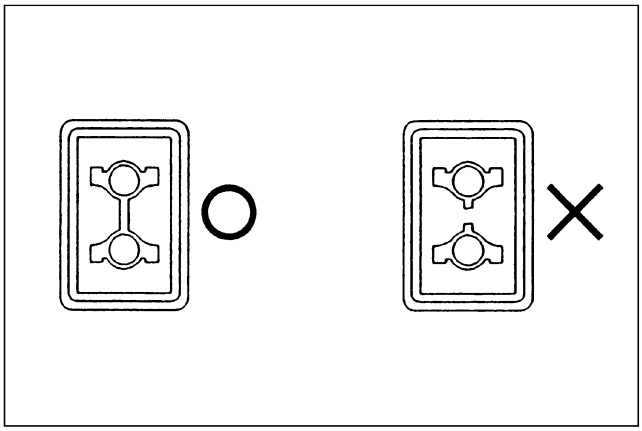
(2) エンジン前方部にメインヒューズがあります。



・メインヒューズの交換

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるメインヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをメインヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。



⑴ バッテリ（－）端子を外します。

⑵ メインヒューズが右図右側（×印）のようであればヒューズ切れです。指定のメインヒューズと交換します。

取扱いのポイント

●交換してもメインヒューズが切れるときは,「お買いあげ先」で点検を受けてください。

・ヒューズが溶断した場合，次の機能が作動不能となります。　　×：作動不能

ヒューズの種類 ＼ 影響の出る機能	こぎ深さ手動	こぎ深さ自動	マルチステアリングレバー	方向自動制御[A仕様]	ジャストディレクタ	エンジン停止スイッチ	計器類のモニタランプ	オーガ左右旋回	バックブザー・ホーン	排ワラエンジン停止	キー切エンジン停止	前照灯・方向指示器	燃料ポンプ	自動予熱	エンジン始動	充電
マイコン･計器･燃料ポンプ･ランプ・ホーン	×	×	×	×	×	×	×		×	×		×	×	×		
こぎ深さ	×	×														
操向・方向			×	×	×											
グレン								×								
キー切停止						×				×	×					
スタータ															×	
メインヒューズ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

取扱いのポイント

●ヒューズを取りかえても切れる場合は「お買いあげ先」で点検を受けてください。

運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために毎日の運転まえに「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時には機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止してから行なってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行なってください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの老化や，傷によるもれなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷やもれがあれば交換してください。

「運転まえの点検表」

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー フィルタ ラジエータフィン	・エンジンカバーの内側にゴミがたまっていませんか。 ・フィルタの目詰まりはありませんか。 ・ラジエータフィンの目詰まりはありませんか。	・ゴミを取除く。 ・フィルタを軽くたたくか水洗いして乾かす。 ・ラジエータフィンは，コンプレッサでエアを吹きつける。	80
マフラやエンジン回り，サイドカバー（上）（下）	・ワラクズがたまっていませんか。	・掃除をする。	—
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・損傷したものは交換。 ・汚れはきれいにする。 ・ボルトのゆるみは締める。	—
油もれ	・各給油個所部に油もれがありませんか。	・給油，排油，検油栓のゆるみを締める。 ・直らない時は点検を受ける。	72〜79
燃料ホース	・損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料もれがありませんか。	・ホースの交換。 ・継ぎ部をしっかり締める。	107
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理する。 ・電気配線回りのワラクズ等を取除く。	82

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを外して軽くたたくか，コンプレッサで内側からエアを吹きつける。又は交換する。	80
エンジンオイル (エンジンクランクケース)	・オイルがオイルレベルゲージの上限，下限の間にありますか。	・エンジンオイルを規定量位置まで補給する。	72
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。 （給水レベルの上限と下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに規定量位置まで補給する。	73〜74
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受ける。	—
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・燃料を補給する。 タンク容量：13L	71
脱こくフィードチェン	・スムーズに動きますか。	・注油する。	77
ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	8 24〜26
方向指示灯等の保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	8 24〜26
バックブザー（ホーン）	・主変速（無段変速）レバーを「**後進（R）**」位置にした時，バックブザー（ホーン）が鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	24〜26
インジケータランプ	・オイル，充電，予熱ランプは消灯しますか。（エンジン始動後）	・エンジンオイルを補給する。 ・異常個所を調べ，処置する。	9〜11，57 131〜132
回転計	・正常に作動しますか。 （エンジン始動で作業機クラッチ《入》）	・点検を受ける。	—
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作して正常に旋回，刈取部が上下しますか。	・点検を受ける。	17
走行クラッチペダル （カウンタ駆動ベルト）	・ゆっくり走行してペダルを操作した時に正常に作動しますか。	・異常個所を調べ，処置する。	112
チェン，ベルト，ワイヤ，クローラ	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整する。	112〜119

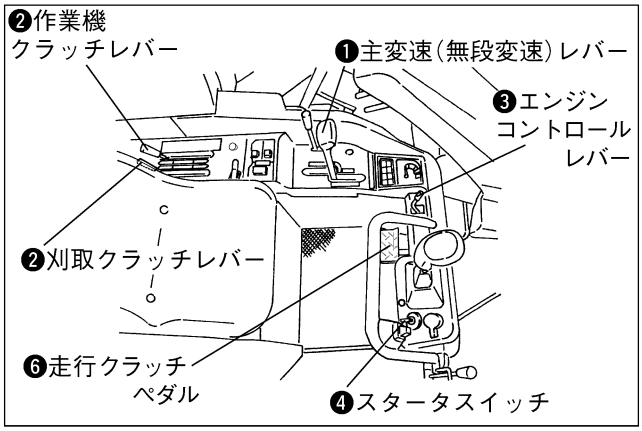
2．エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

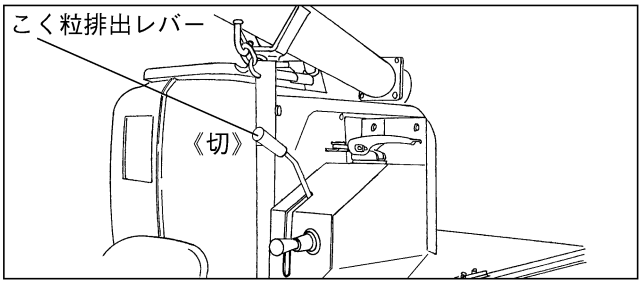
◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆始動は座席に座って行なってください。
◆点検整備などで取外したカバー類はすべて取付けてください。
◆主変速（無段変速）レバーが《中立》位置，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバー（［グレンタンク仕様］は更にこく粒排出レバー）が《切》位置であることを確認してください。
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆暖機運転は主変速（無段変速）レバーを《中立》位置にして，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《切》位置にして駐車ブレーキをかけて行なってください。運転者はエンジンをかけた状態では機械の周囲から離れないでください。
◆空運転する時はこぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。

1．エンジン始動のしかた

❶ 主変速（無段変速）レバーを《**中立**》位置にします。

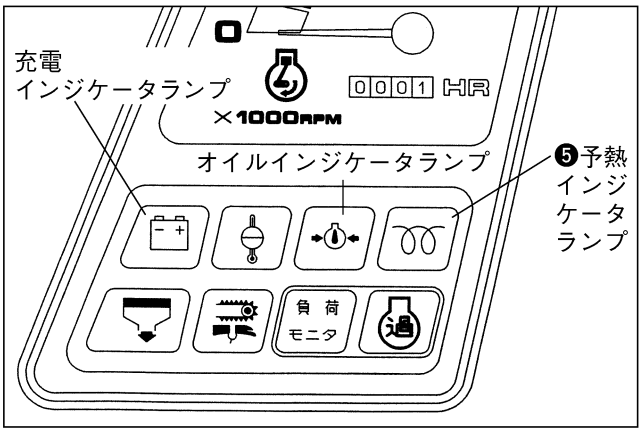


❷ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバー（［グレンタンク仕様］は更にこく粒排出レバー）が《**切**》位置にあることを確認します。



❸ エンジンコントロールレバーを《 》（**高速**）位置にセットします。

❹ スタータスイッチを《 **入**》位置にし，オイル，充電，予熱インジケータランプが点灯することを確認します。



❺ 「**予熱インジケータランプ**」が消えるまで待ちます。（約 3 秒）

❻ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込みスタータスイッチを《 **始動**》位置に回し，エンジンを始動します。

❼ 始動後駐車ブレーキをかけエンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

- **作業機クラッチレバー（［グレンタンク仕様］は更にこく粒排出レバー）を《切》位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**
- **エンジン始動後，「オイル」「充電」のインジケータランプが消灯することを確認してください。**
- **スタータスイッチは 5 秒以上の連続使用はしないでください。**
  セルモータは短時間に大きな電力を消費しますので 5 秒以上の連続使用はバッテリ故障の原因となります。

2．エンジン停止のしかた

❶　エンジンコントロールレバーを《 》（低速）にします。

❷　スタータスイッチを《 切》位置にするとエンジンが停止します。

3．走行・停車のしかた

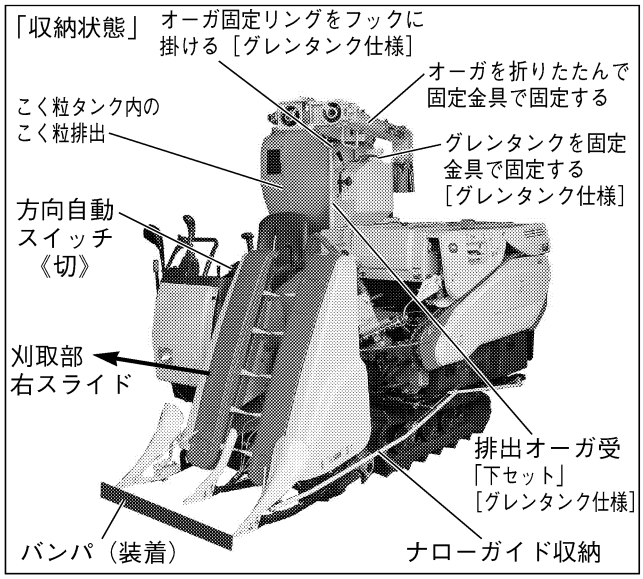
1．走行のしかた

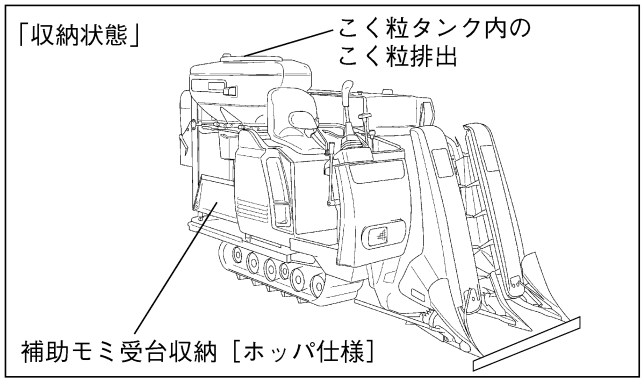
⚠警告　傷害事故防止のために

◆走行する前に機械を「収納状態」にしてください。
- こく粒タンク内のこく粒はすべて排出する。
- バンパを取付ける。
- ナローガイド，補助モミ受台［ホッパ仕様］を収納する。
- 排出オーガを「下セット」にし，折りたたんで固定金具で固定する。［グレンタンク仕様］
- オーガ固定リングをフックに掛ける。［グレンタンク仕様］
- グレンタンク固定金具でグレンタンクを固定する。［グレンタンク仕様］
- 方向自動スイッチを《切》（ランプ消灯）にする。［A仕様］
- カッタ以外のアタッチメントを取外す。
- 刈取スライドを右スライドにする。

◆運転者の他に子供等，人や物を機械にのせないでください。
◆公道走行は交通法規を守って運転してください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆発進，停止および旋回する時は周囲を確認し速度を落としてください。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
◆走行時に排出オーガ先端部を障害物等にあてないようにしてください。
◆自動車等への積込み・積降ろしアゼ越え，路上走行等ではジャストディレクタを使用しないで下さい。

❶　走行する時は機械を「**収納状態**」にして「**安全な速度**」で走行します。





❷　公道を走行する時は，カッタ以外の**アタッチメント（ノッタ等）を取外します**。

❸　作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**切**》にし，方向自動スイッチ［A仕様］を《**切**》にしてエンジンを始動します。

❹　エンジン回転を「**2000回転**」以上にセットします。

❺　マルチステアリングレバーで刈取部先端を「20㎝」程度上げ，油圧固定レバーを《**固定**》にして刈取部を固定します。

❻ 走行する条件に合わせて副変速レバーを《**作業**》又は《**走行**》に入れ主変速（無段変速）レバーをゆっくり操作し適正な走行速度にします。

❼ 発進する時や作業開始する時はホーンで合図をします。

❽ 路上走行で方向を変える時は，方向指示灯の点灯で合図をします。

❾ 発進するときや作業開始の合図は，ホーン・警報入切ボタンで行います。

取扱いのポイント

●排出オーガ受のセット［グレンタンク仕様］

⚠注意

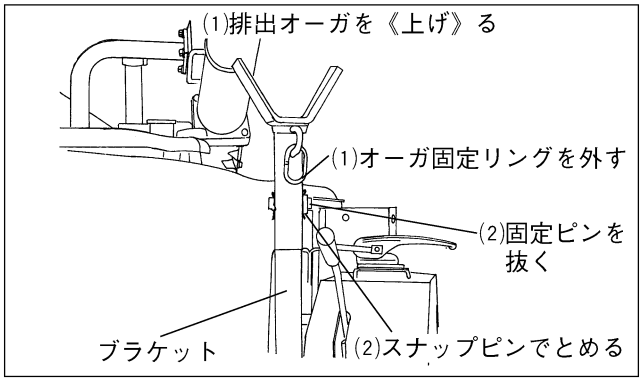
◆路上走行時は排出オーガ受を「下セット」にしてください。

工場出荷時に排出オーガ受は「**下セット**」で出荷されています。「**上セット**」になっている場合は「**下セット**」にしてください。

(1) オーガ固定リングをフックから外し排出オーガを《**上げ**》ます。

(2) 排出オーガ受をとめている固定ピンからスナップピンを抜き，固定ピンを排出オーガ受から抜きます。

「**上セット状態**」

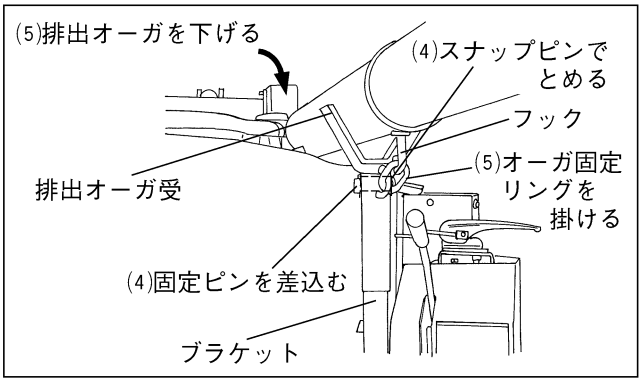


(3) 排出オーガ受「**下位置**」のセット穴と，ブラケットの穴を合わせます。

(4) ピンを差込んで，スナップピンでとめます。

(5) 排出オーガを《**下げ**》フックにオーガ固定リングを掛けます。

「**下セット状態**」



2．停車のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げて，各操作レバーを《切》，《中立》，副変速レバーを《作業》に入れてください。

◆燃えやすいものの近くには止めないでください。

◆機械から離れる時は平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し，スタータスイッチからキーを抜取ってください。

❶ 主変速（無段変速）レバーを《**中立**》にします。

❷ 駐車ブレーキをかけます。

❸ エンジン回転を「**2000回転**」**程度**にセットし，5分間程度運転を行います。

❹ エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）にして，エンジンを停止します。

❺ 副変速レバーを《**作業**》に入れます。

❻ 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。

取扱いのポイント

●駐車ブレーキは外部駐車ブレーキレバーを《入》にする場合と走行クラッチペダルに駐車ブレーキフックレバーをかける場合の二通りがあります。

●走行クラッチペダルは半クラッチでは使用しないでください。機械がずり落ちたり，カウンタ駆動ベルトが焼損する恐れがあります。

4．自動車への積込み･積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守り，慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

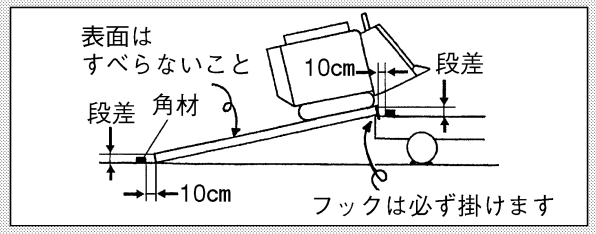
◆自動車は積載重量を超えない車で荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。
- 自動車は平坦で硬い場所に停止し，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を1速か後進（バック）に入れ，タイヤに歯止めをしてください。

◆アユミは機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの4倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用します。
- アユミを機械のクローラ間隔に合わせ自動車の荷台に平行にはずれないようにかけます。

◆機械は積込むまえにこく粒タンク内のこく粒をすべて排出してください。
- 機械は「収納状態」にします。

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行なってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。
- アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットします。

◆アユミと路面及び自動車の荷台との段差が6cm以上ある場合は段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。



◆自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

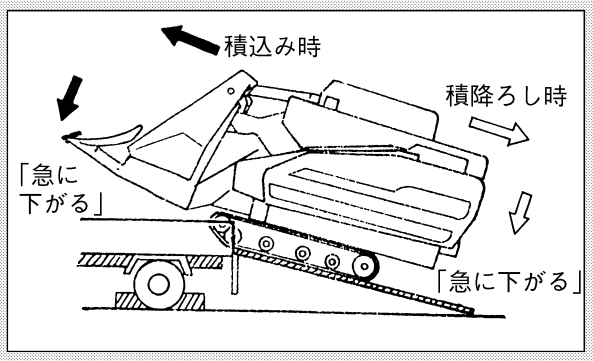
・主変速（無段変速）レバー
・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・走行クラッチペダル
・外部駐車ブレーキレバー
・ジャストディレクタ

} はアユミの上では操作しないこと。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，主変速レバー《低速》位置，副変速レバー《作業》位置で行なってください。

◆機械に乗らないでください。また，機械の直前・直後には立たないでください。

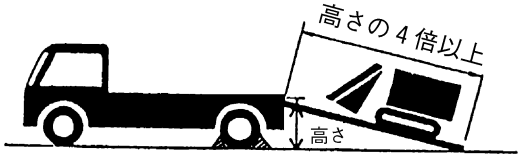
◆機械が自動車に乗る直前や降りる直後では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（降りて）から近づき，外部駐車ブレーキレバーを「入」れて，機械を停止させてください。



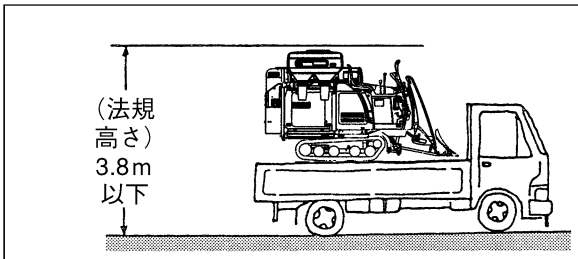
◆各カバーの固定が確実か確認してください。

◆積込みが終わったらコンバインのフレームの4隅のフックにロープ又はワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1．自動車・アユミについて



❶ 積載重量1500kg以上の自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。



・トラックに積んだ場合，「**車両制限令**」により地上からの高さが3.8m以下に規制されています。3.8mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。

❷　自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに「**歯止め**」をします。

❸　アユミは，機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。

アユミの基準

長さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	50㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が1500kg以上の重量に耐えるもの

❹　アユミは機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に「**段差**」のないようにかけ，「**横ずれ**」したり，「**はずれ**」たりしないようにセットします。

❺　機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドル等の操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

２．コンバインの取扱い

❶　刈取部を「**右スライド**」し，ナローガイド，補助モミ受台，排出オーガを収納します。（収納状態）

❷　エンジンを始動します。

❸　エンジンコントロールレバーでエンジン回転を「**2000回転**」程度にセットします。

❹　刈取部をいっぱい上げます。

❺　積込みは，主変速（無段変速）レバー《**前進**》《**低速**》以下，副変速レバー《**作業**》で行います。

❻　積降ろすときは，主変速（無段変速)レバー《**後進**》《**低速**》以下,副変速レバー《**作業**》で行います。

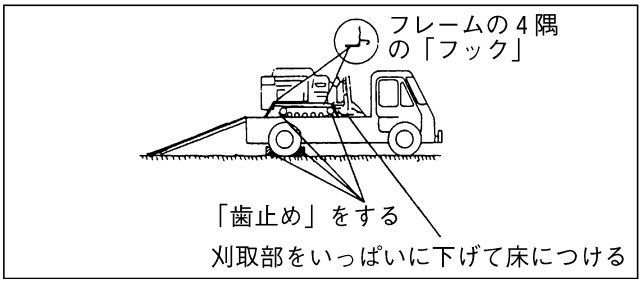
❼　積込み･積降ろしは,機械に乗らないで行います。

❽　積込み・積降ろしの途中では，進路変更はしないようにします。

❾　補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

❿　自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに「**歯止め**」をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４ケ所のフックにロープ又はワイヤをかけて固定します。

⓫　刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは，いっぱいに下げ（深こぎ側）ておきます。



取扱いのポイント

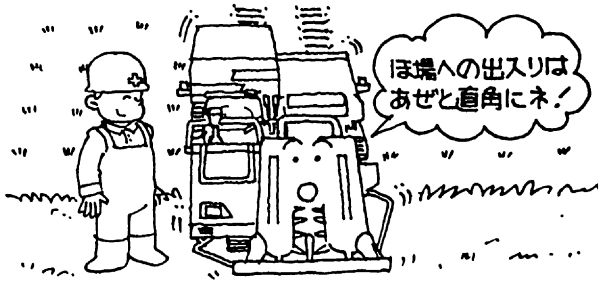
- **この機械は刈取部スライド装置を装備していますので，路上走行やトラック積込みの時に機械の幅を狭くするため，右スライドに固定してください。**

5．ほ場への出入り

⚠警告　傷害事故防止のために

◆10 cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行なってください。
◆ほ場への出入りをする前にこく粒タンク内のこく粒をすべて排出してください。
◆［A仕様］は方向自動スイッチを「切」（ランプ消灯）にしてください。
◆あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行なってください。

1．ほ場への出入りのしかた



❶　刈取部を上げ，エンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，副変速レバーを《**作業**》位置，主変速（無段変速）レバーを《**前進**》《**低速**》以下または《**後進**》《**低速**》以下にしてあぜに直角に走行します。

❷　アユミを使用する時は，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下するおそれがあります。つぎの条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

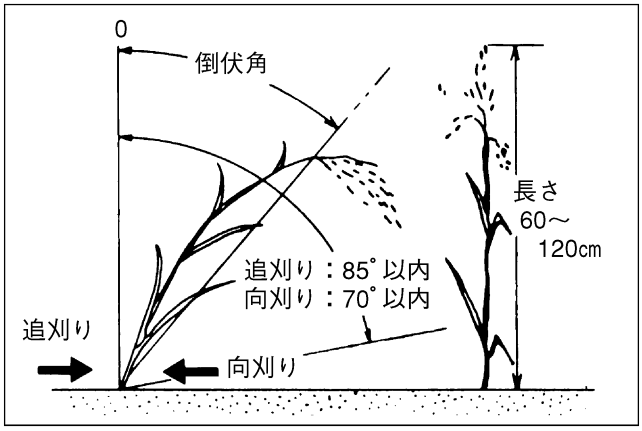
❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…60～120㎝まで刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り：85°以内まで刈取りできます。

向刈り：70°以内まで刈取りできます。



❷ 作物のぬれ

・ぬれた作物（雨あがり・朝露）の刈取りはつぎのようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・詰まりやすい

・乾燥処理時間の増加

❸ 病害虫におかされた作物

病害虫におかされた作物の刈取りはつぎのようなことがありますので，刈取り作業の速度をおそくするか，またはできるだけその部分は**「手刈り」**をしておきます。

・こく稈が折れやすい

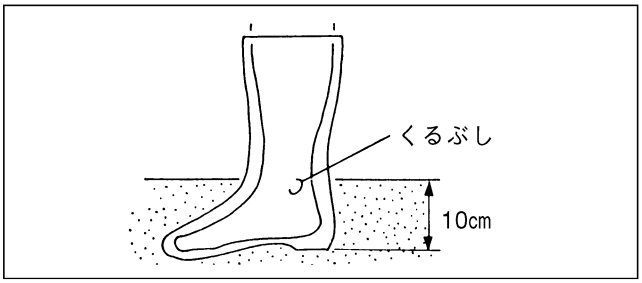
・刈取り・搬送部の詰まり

・脱こく部の詰まり

2．ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が**「くるぶし」**（10㎝）までは作業ができます。

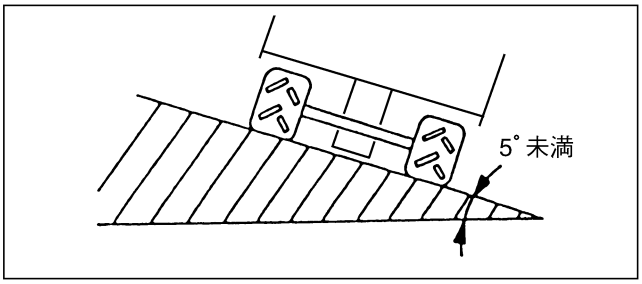


取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。

❷ 機械の傾斜

機械の傾斜角度5°以上では作業できません。



取扱いのポイント

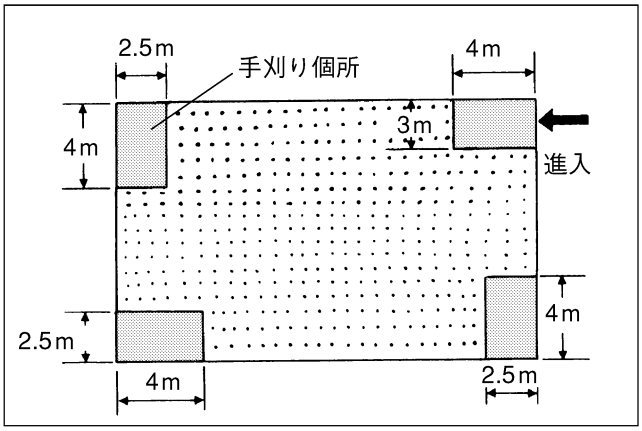
●適応範囲をこえての作業はできません。行わないでください。

●ほ場内に雑草が多いと刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

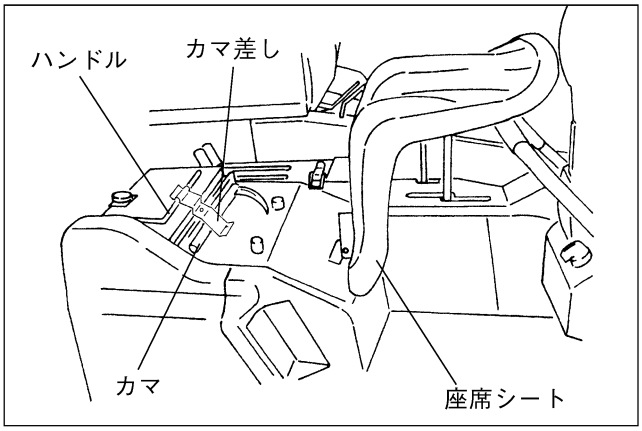
3．ほ場の準備

❶ 手刈り

・機械をほ場に入れるまえに，あらかじめ四隅を「旋回できる程度」手刈りします。



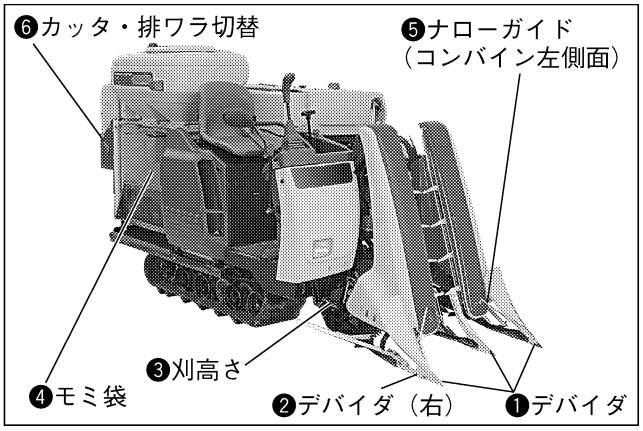
・ハンドル，カマ差しは，座席シート下方にあります。
カマは図のようにセットし，刃部に身体が触れないようにします。



取扱いのポイント

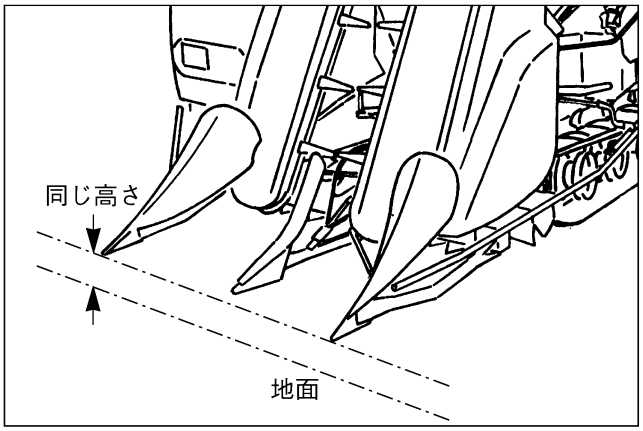
●ほ場の周囲がコンクリートあぜ，又は高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。

4．機械の準備



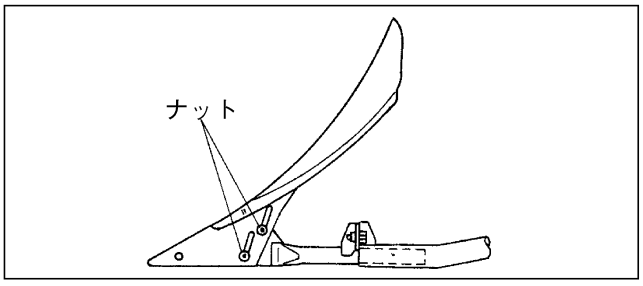
❶ デバイダの調整

(1) デバイダ先端の高さを3本とも同じにします。



(2) 刈取部を下げた時，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合やデバイダ先端が地面より離れている場合はデバイダの取付け位置を調整します。

・取付ナットをゆるめ，長穴部で調整し確実に締付けます。



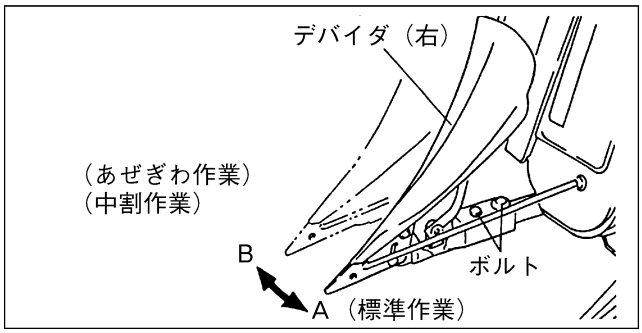
取扱いのポイント

●デバイダは全て同じ高さになるようにセットしてください。

❷ デバイダ（右）の調整

・デバイダ（右）は「**A位置が標準**」です。

・中割作業やあぜぎわ作業をするときは，２本のボルトを緩めてＢの位置にいっぱい広げ締付けて固定します。

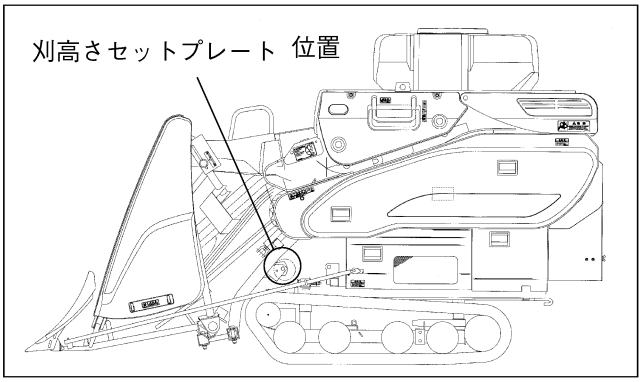


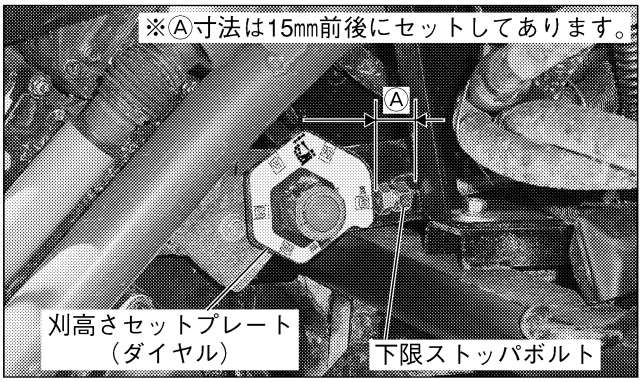
❸ 刈高さの調整

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈高さセットプレートを調整する時は，刈取部を上げた後，油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にしエンジンを停止してください。

◆作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーが《入》位置の状態では，作業しないでください。





「**刈高さセットプレート**」を装備しており，刈高さを６段階に調節できます。

「**刈高さセットプレートの調節のしかた**」

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「**5～10㎝**」になるように刈高さセットプレートで調整します。

1，刈取部を上げます。

2，油圧固定レバーを《**油圧固定**》にします。

3，ダイヤルを手で回します。（ダイヤルを回すと刈高さを調整できます。）

4，油圧固定レバーを《**解除**》にします。

5，刈取部を下げて，刈高さを確認します。

・倒伏および短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

取扱いのポイント

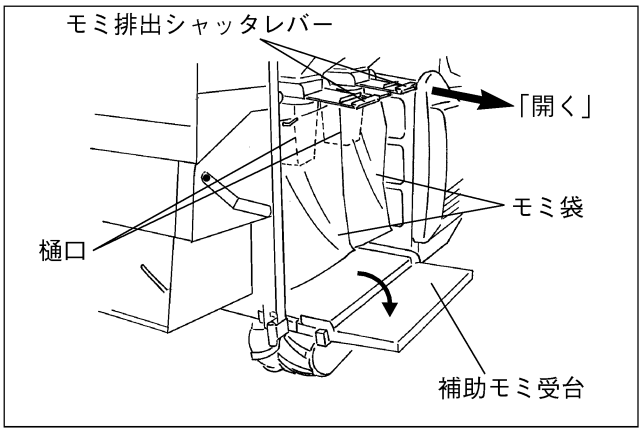
● **クローラが沈下するほ場では，デバイダ先端が突っ込まないように刈取り作業をしてください。**

❹ モミ袋の取付け［ホッパ仕様］

⑴ 補助モミ受台を作業位置に開きます。

⑵ モミ袋のファスナを開き，１組のハンガに**10枚程度**のモミ袋をかけます。

⑶ １番外側のモミ袋は樋口に差込みモミ排出シャッタレバーを開いておきます。

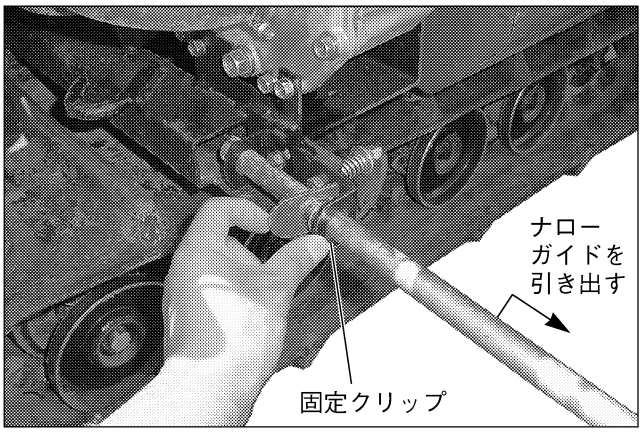


取扱いのポイント

- **回り刈りや中割り刈りを行う場合は補助モミ受台を収納してください。収納せずに作業を行うと作物やあぜにひっかかる恐れがあります。**

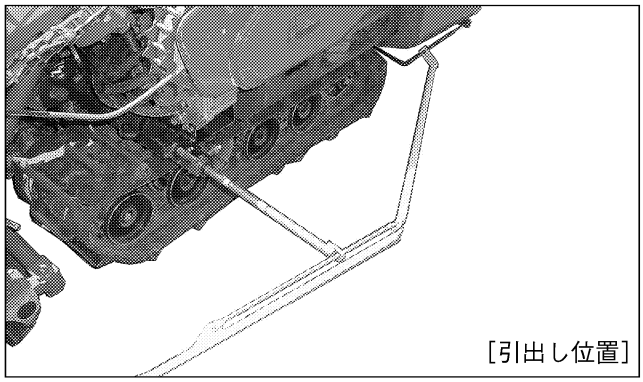
❺ ナローガイドの調節

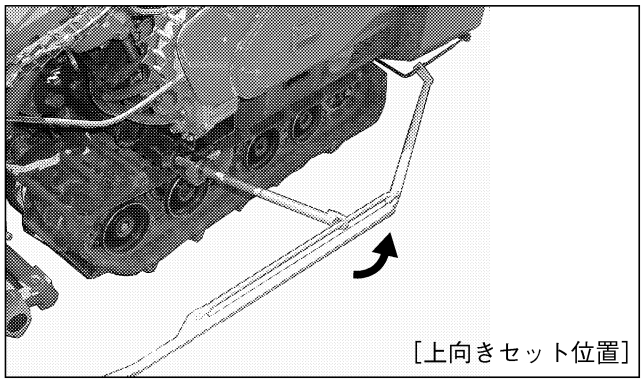
ナローガイド（左）の固定クリップを指で強くつまんで，ナローガイドの固定を外し，ナローガイドを引出し，作業状態にします。



取扱いのポイント

- **長稈材等で未刈稈が倒れ込み，脱こく入口部の搬送に支障がある場合は，「上向きセット」にして作業を行います。**
- **ナローガイドを引出した状態で上に引き上げます。こうする事で，ナローガイドは上向きになったまま固定されています。（上向セット）**


［引出し位置］


［上向きセット位置］

❻ カッタ・排ワラ切替えの調節

・作業に合わせてカッタ・排ワラの切替え調節を行います。（59～61ページ参照）

❼ 排出オーガの延長

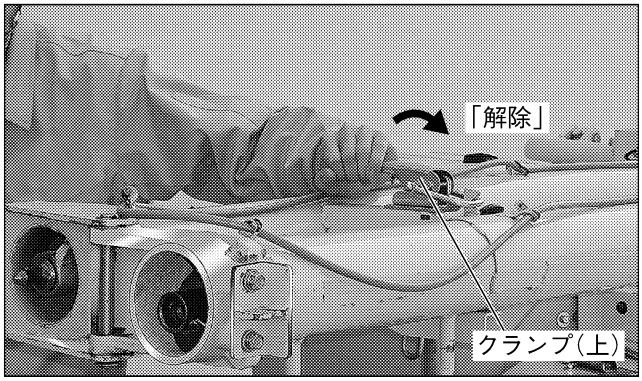
⚠注意 傷害事故防止のために

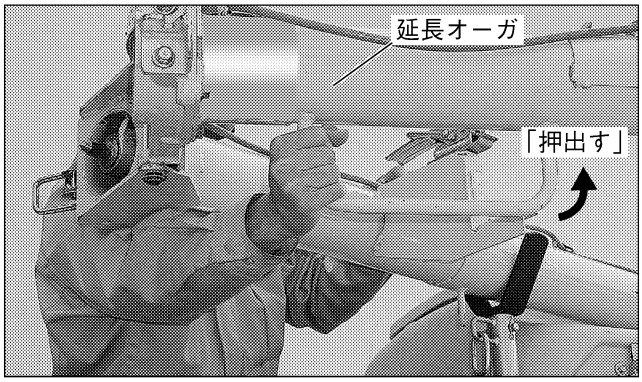
◆排出オーガの延長操作をする時は，平坦な場所に駐車しエンジンを停止して，排出オーガが固定されていることを確認してください。

◆排出オーガを延長する時，オーガの内側に手を入れないでください。

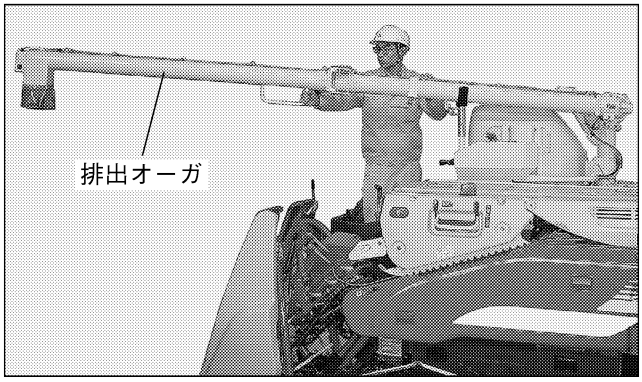
⑴ 延長のしかた

① クランプ（上）を「**解除**」し，延長オーガを押出します。

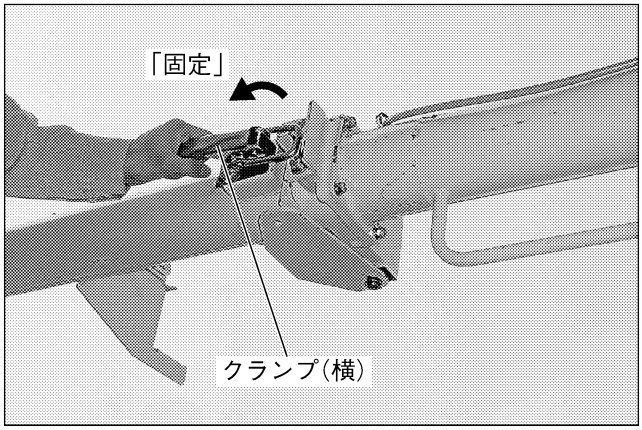




② 排出オーガが真直になるまで押出します。



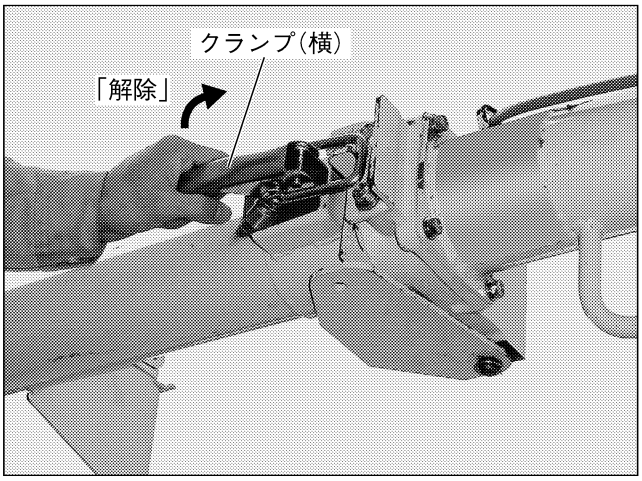
③ クランプ（横）で「**固定**」します。

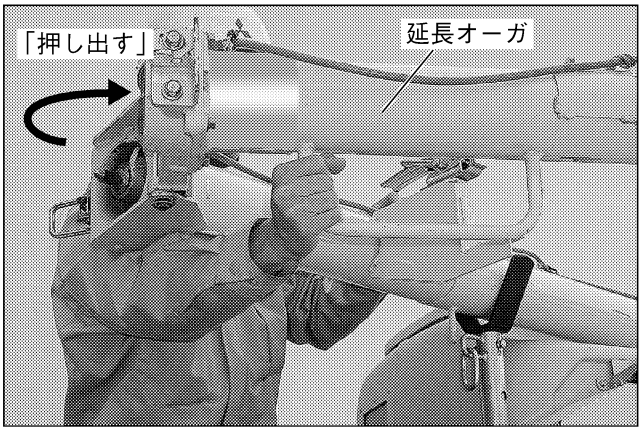


⑵ 折りたたみかた

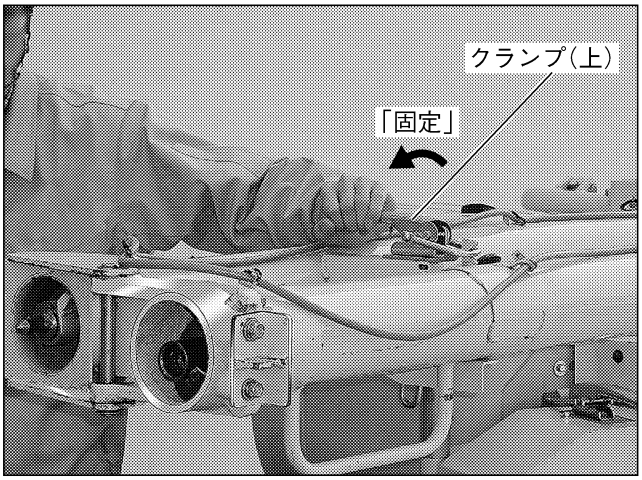
・排出オーガを最上位まで上昇させて低回転で排出クラッチを《**入**》にし，残留こく粒を下降させた後，排出オーガを収納して排出オーガ固定リングで固定して，「**延長と逆順**」で行います。

① クランプ（横）を「**解除**」し，延長オーガを機械外側に押出します。





② 延長オーガを180°回動させ，クランプ(上)で「**固定**」します。



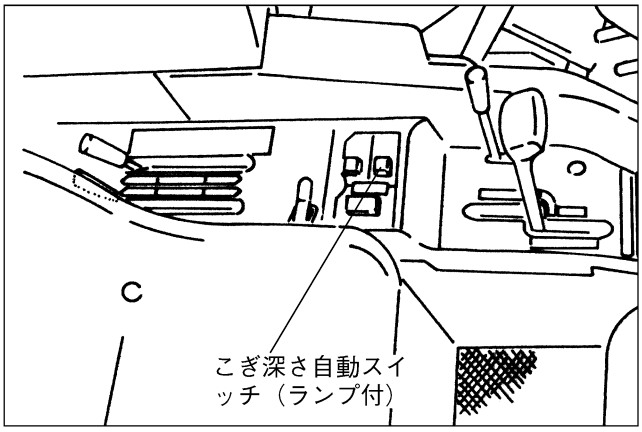
2．刈取り作業のしかた

1．刈取り操作の手順

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

❶ エンジンを始動します。こぎ深さ自動スイッチが点灯していることを確認します。点灯していない場合はこぎ深さ自動スイッチを押します。

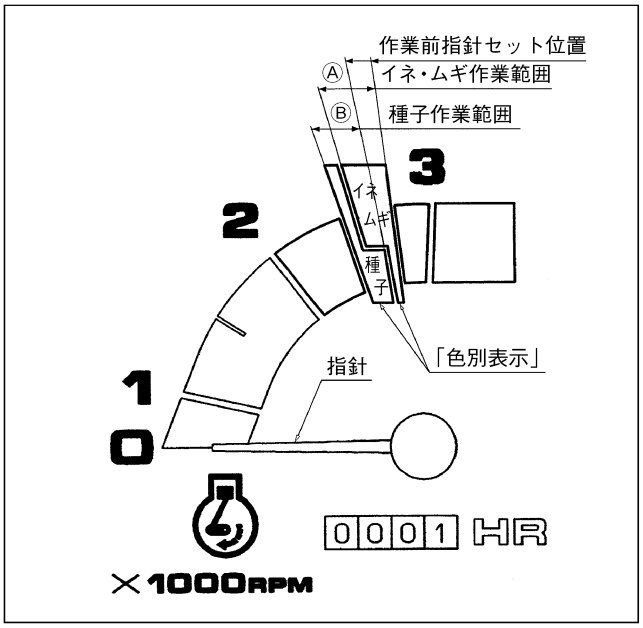


❷ エンジン回転が「**作業前指針セット位置**」になるようにエンジンコントロールレバーで調整します。

❸ **回転数のセット**

回転数は，イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦），種子等，刈取る作物によって異なります。

・回転数の調整はエンジンを始動し作業機クラッチを《**入**》にして，回転計を見ながらエンジンコントロールレバーで調整します。
・作業中は回転計の針が常時「**色別表示**」の範囲内に位置するようにして使用します。
・イネ・ムギ（大麦，小麦，ビール麦，裸麦）の場合……Ⓐの範囲
・種子の場合……Ⓑの範囲



取扱いのポイント

- **「色別表示」の範囲内に常時指針があるように作業速度を選んでください。**
- **エンジン低速回転で，刈取クラッチレバーを《入》れないでください。詰まりの原因となります。**

❹ 刈取クラッチレバーを《**入**》位置にします。（作業機クラッチレバーも同時に《**入**》ります。）

❺ 最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ主変速（無段変速）レバーで適正な速度を選びます。

「作業別適正速度表」

作業内容	副変速	主変速(無段変速)
積込み,あぜ越え(前進)	作業	前進《低速》以下
倒伏刈取り		倒伏刈取
標準刈取り	作業	標準刈取
集中注油	作業	停　止
路上,ほ場走行(前進)	作業，走行	任　意
路上,ほ場走行(後進)	作業，走行	任　意
積降ろし,あぜ越え(後進)	作業	後進《低速》以下
刈取りのときの後進	作業	任　意

作業中は，回転計の指針が，**「色別表示の範囲内」**に位置するように，主変速（無段変速）レバーで適正な速度に調整します。

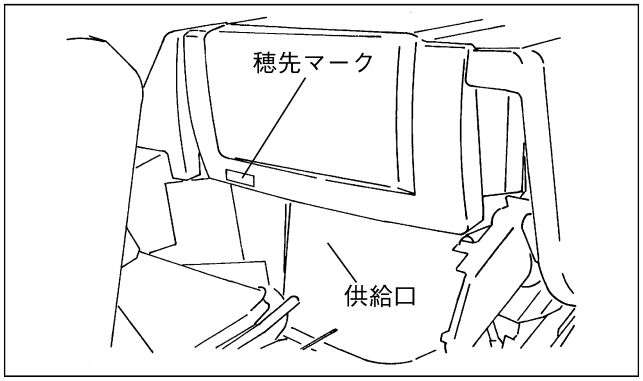
刈取り作業中，エンジン回転が下がると，エンジン回転負荷モニタ（ランプ）の点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速（無段変速）レバーで走行速度を下げ，エンジンの負荷を軽くして作業を行います。

取扱いのポイント

- **負荷モニタの警報ブザーはホーン・警報入切ボタンを押しても鳴りやみません。**
  走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くするとブザーは鳴りやみます。

❻ こぎ深さ調整

作物が脱こく入口に搬送され始めたら穂先が**「穂先マーク」**の位置になるようこぎ深さ手動スイッチで調整します。

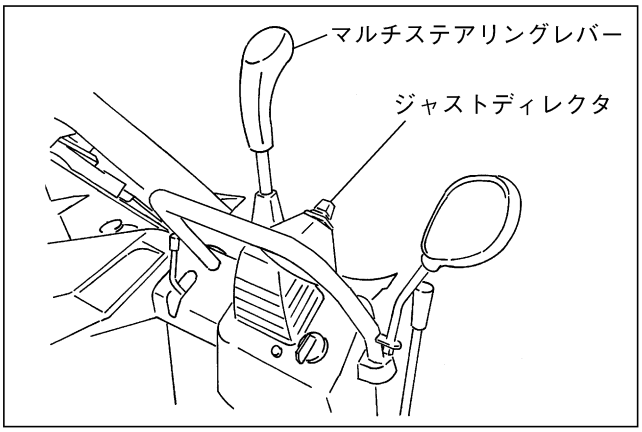


取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動制御は,「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項を参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。**

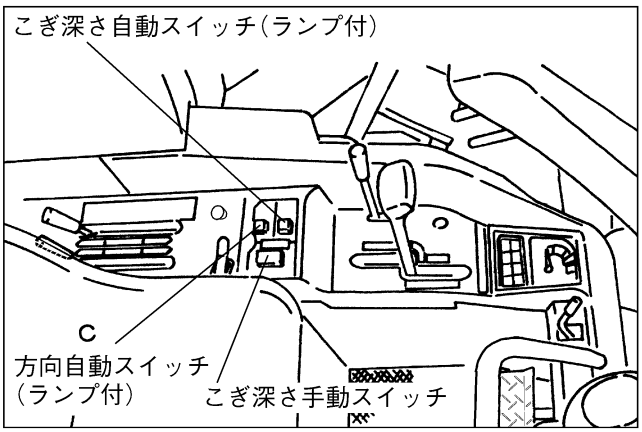
❼ 方向修正

刈取り作業中の方向修正はマルチステアリングレバー又はジャストディレクタでこきざみに操作します。



取扱いのポイント

- **方向自動制御を使用する場合は,「方向自動制御の取扱い」の項を参照します。**
- **ジャストディレクタで方向修正を行うとスムースに行えます。**



2．刈取部スライドの使い方

この装置は刈取部を左右に15㎝スライド（横移動）でき，刈取部を右側に移動することにより「**中割り刈り**」や「**左回り刈り（あぜぎわ）**」ができます。

また，機械の幅が狭くなるため路上走行やトラックの積込みにも便利です。

⚠警告 傷害事故防止のために

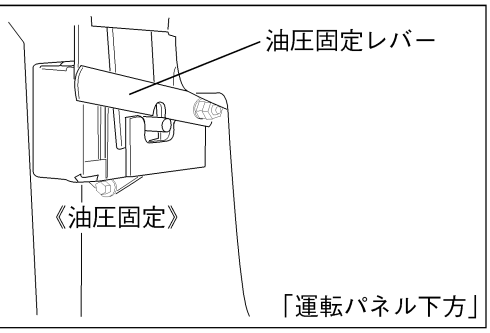
◆刈取部をスライドさせる時は，平たんな場所で行なってください。

◆刈取部をスライドさせた時は刈取スライド固定レバーで確実に《固定》してください。

「刈取部スライド（横移動）のしかた」

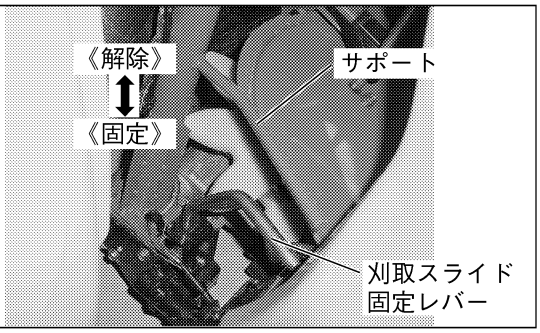
❶ 駐車ブレーキをかけます。

❷ エンジンを始動し，刈取部をデバイダの先端で10～15㎝程度上げて，油圧固定レバーを《**油圧固定**》にしてエンジンを停止します。



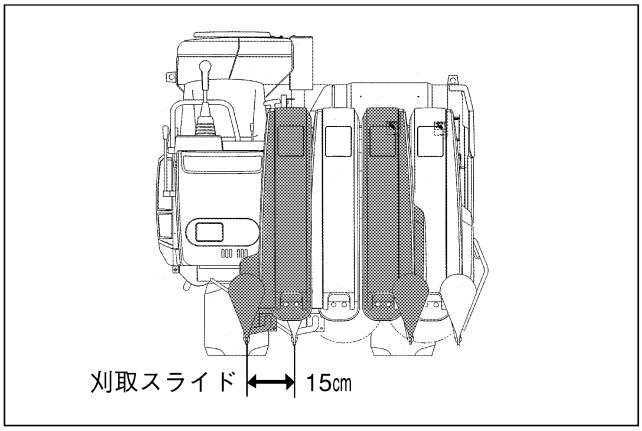
❸ 刈取スライド固定レバーとサポートを片手で同時に握ります。刈取スライド固定レバーが《**解除**》方向に動き刈取スライドの《**固定**》が外れます。

２つのレバーを握ったまま刈取部を左端又は右端に手動でスライドさせます。



❹ 刈取部が右端又は左端に移動したら刈取スライド固定レバーを離します。

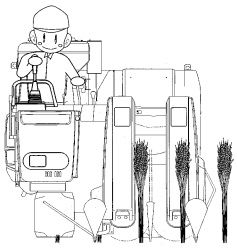
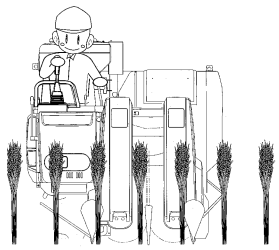
❺ 刈取スライド固定レバーが《**固定**》方向に動き，刈取スライドは自動的に固定されます。



取扱いのポイント

- **刈取スライドを作動させる前にこぎ深さ手動スイッチの《浅こぎ》側を押してこぎ深さを最も浅い位置にすると容易に動かすことができます。**
- **刈取スライド固定レバーが《解除》しにくい時は，刈取部を少し揺らしてください。**
- **刈取部が端に移動し，刈取スライド固定レバーが《固定》位置まで下がったことを確認してください。**

「作業のしかた」

スライド位置	適用作業
左スライド（通常）	・通常の左回り刈り ・麦うね ・点検整備時
右スライド	・中割り刈り ・左回り刈り（あぜぎわ） ・路上走行 ・トラック運搬

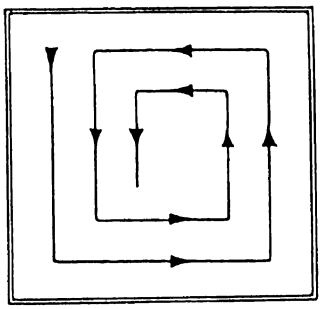
3．ほ場の刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

・このコンバインでの刈取りは,「**左回り刈り**」が基本です。

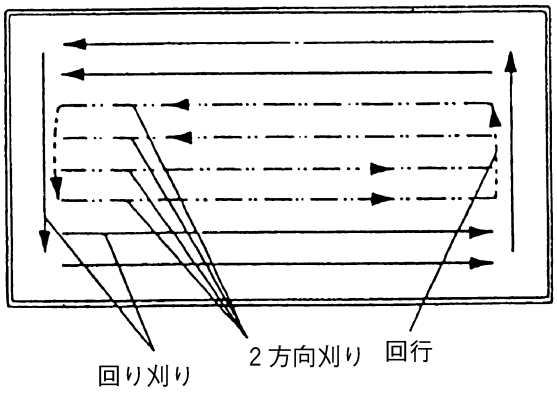
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

(1) 正方形に近いほ場



(2) 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

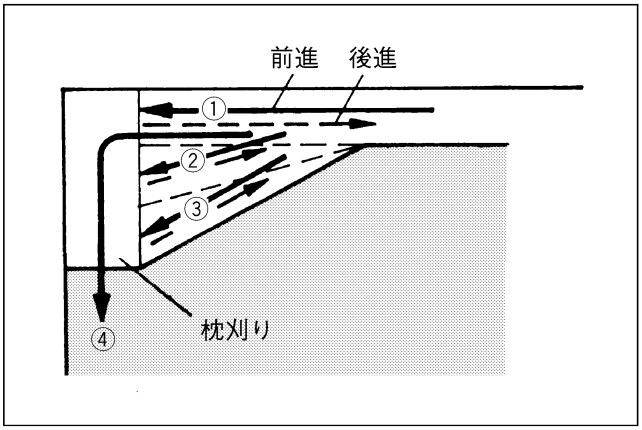


(3) あぜぎわ刈り

あぜの草等により，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

(4) コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは下図のようにします。

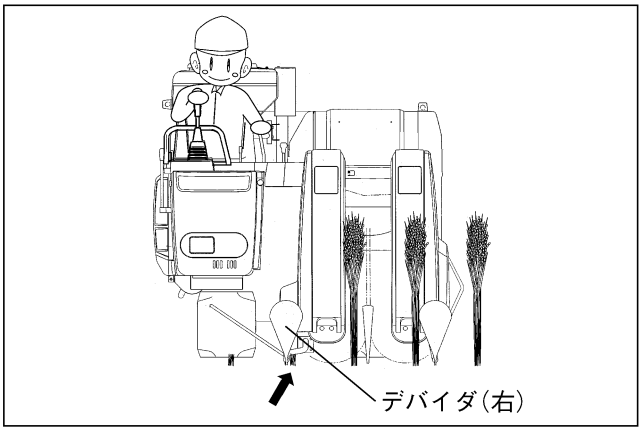


取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**

(5) 条合わせ刈り

・デバイダ（右）を基準に刈株の**外側**に合わせ，「**左回り**」で刈残しのないように刈取りします。

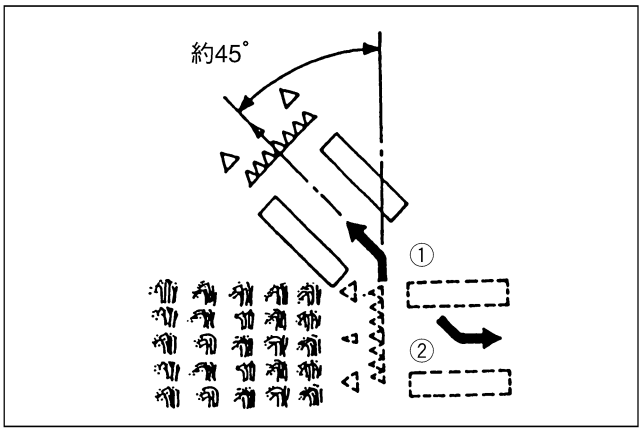


⑹ 旋回のしかた（左回り刈り）

・刈り終わったら刈取部を15㎝程度上げます。
（デバイダでワラを引っ掛けない高さ）

1，作業機クラッチレバーを《**切**》にしないで，エンジン回転はそのまま，連続作業の状態で旋回し，（湿田では大きく回ります。）左に「**約45°**」向きを変えて停止します。

2，後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械がまっすぐになるように「**条合わせ**」をします。

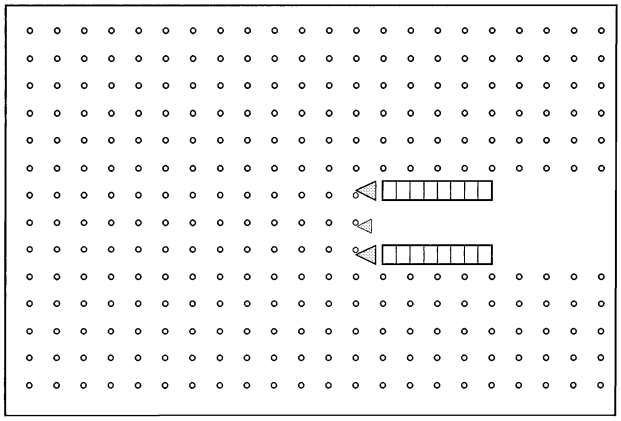


取扱いのポイント

●**旋回のときには，エンジン回転を下げたり作業機クラッチレバーを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

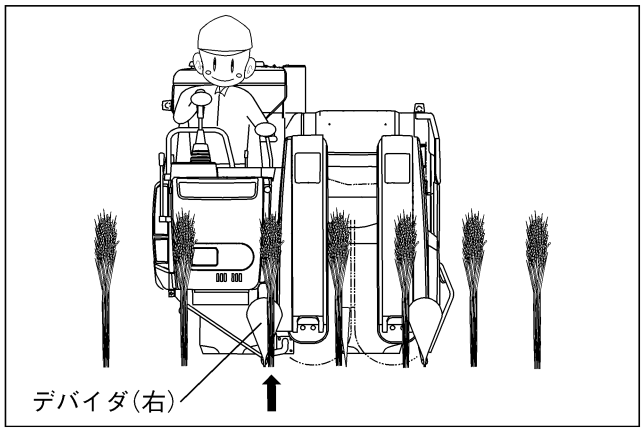
❷ 中割り刈り

広いほ場を能率良く刈取り作業を行う場合は「**中割り刈り**」をして分けて刈取ります。



⑴ 刈取部を「**右スライド**」させて固定します。
・補助モミ受台を折たたみます。

⑵ デバイダ（右）を刈取る株元の右側に合わせて刈取ります。



取扱いのポイント

●**倒伏した作物の，中割り刈りはさけてください。**

❸ あぜぎわ刈り

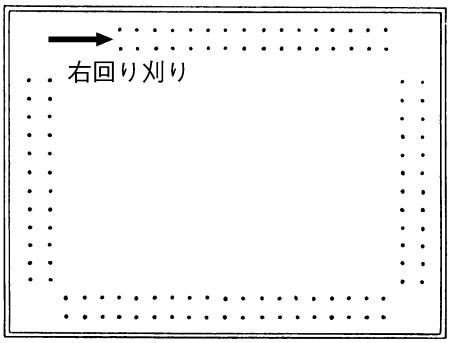
まわりのあぜが高く左回り刈りできない時，右回りであぜぎわを刈取ります。

(1) 刈取部を「**右スライド**」させ，あぜぎわの2条を残して「**中割刈り**」します。

(2) 中央部は「**左回り**」刈りします。

(3) 残した2条を最後に「**右回り**」で刈取ります。

(4) あぜぎわを「**右回り刈り**」するときは「**ナローガイド左**」を収納し「**デバイダ左**」をあぜに突っ込まないようにします。

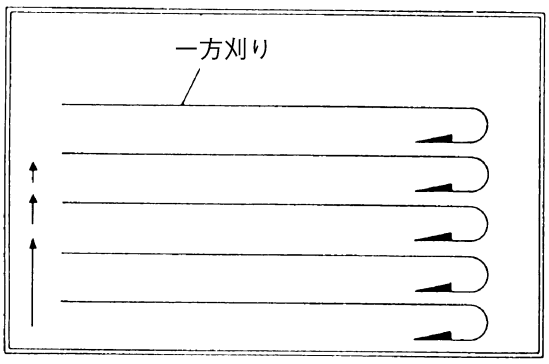


取扱いのポイント

- **あぜがコンクリートの場合はあぜでクローラを傷めることがありますので，左回り刈りで外側2条を残して刈取り，最後に右回りで外側2条を刈取ります。**
- **あぜぎわ刈りの時は補助モミ受台を折たたんでください。**

❹ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて「**一方刈り**」を行います。



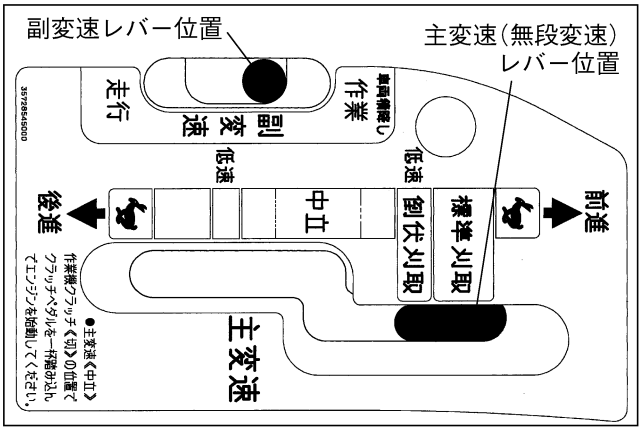
(1) 刈取り方向

・倒伏した作物の刈取りは下の図表および次ページの図表を参考にして行います。

1.「**刈取り速度**」は，副変速レバーを《**作業**》，主変速（無段変速）レバーを《**倒伏刈取**》以上の位置で刈取ります。

取扱いのポイント

- **倒伏刈取り以下では搬送乱れが発生しますので，刈取り作業はしないでください。**



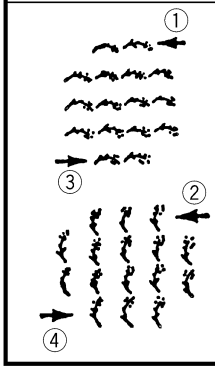
2.「**②右倒伏刈り**」が困難なときは，「**④左倒伏刈り・③追刈り**」となるように「**一方刈り**」をします。

「**方向自動を使用しないとき**」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
① ② ③ ④	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

○刈取り可能　△走行速度を落として刈取り可能
×刈取り不可能

「方向自動で刈取りするとき」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	①向い刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	×	○	○
	④左倒伏刈り	×	○	○

○刈取り可能
×刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

(2) **スーパーデバイダ（別売り）**

スーパーデバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき,（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき）倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

取扱いのポイント

- **倒伏した作物を刈取るときは，引起し爪が最もさがった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。**
- **デバイダ先端が土に突っ込まないようにしてください。**
  土に突っ込むと株の引きぬきが発生し，詰まりの原因となります。
- **クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まり等の原因になることがあります。**

❺ 刈取り途中での停止

(1) モミ袋の交換など刈取り途中で機械を停止する場合は，主変速（無段変速）レバーを《**中立**》位置にし，刈取クラッチレバーを《**切**》にします。

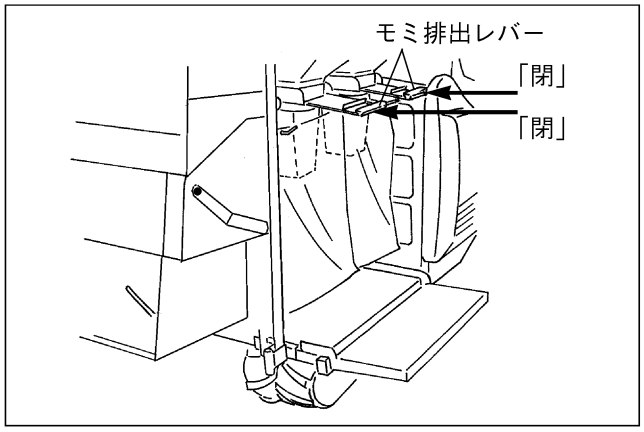
(2) 刈取り作業を再スタートする時は機械を50cm程度後方に移動させ，回転を整えてから刈取り作業します。

4．モミ袋の交換のしかた［ホッパ仕様］

❶ ２つのモミ袋とホッパが満タンになると，モミ処理インジケータランプが点灯し，警報ブザーが「**断続音**」で知らせます。

(1) 直ちに作業を中止し（停車し，作業機クラッチレバーを《**切**》にする），ホーン・警報入切ボタンを「**押**」します。

(2) モミ排出レバー（シャッタ）を「**閉**」じてモミ袋を交換し，ホッパ内のモミを全てモミ袋に排出します。



取扱いのポイント

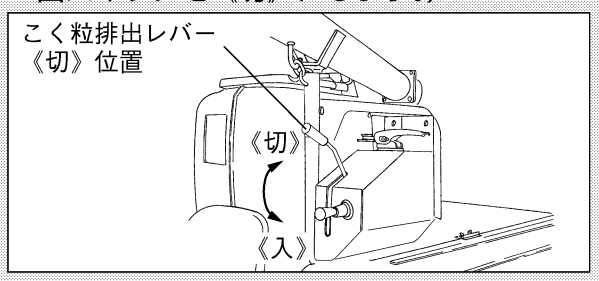
- **警報ブザーが鳴った後もそのまま作業を続けますと，エンジンが停止します。**
  モミをモミ袋に排出し，作業機クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでエンジンの始動を行なってください。

5．こく粒の排出操作方法

［グレンタンク仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲を確認して行なってください。
◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをする時はグレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは，外部駐車ブレーキレバーを《入》にして行なってください。こく粒の排出作業中に走行クラッチペダルを踏込まないでください。
◆排出オーガ先端部にたまったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを《切》位置にしエンジンを停止してください。(こく粒排出スイッチを《切》にします。)



◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングをフックに掛けて固定してから行なってください。
◆グレンタンク内にこく粒がある場合は傾斜地での移動はしないでください。

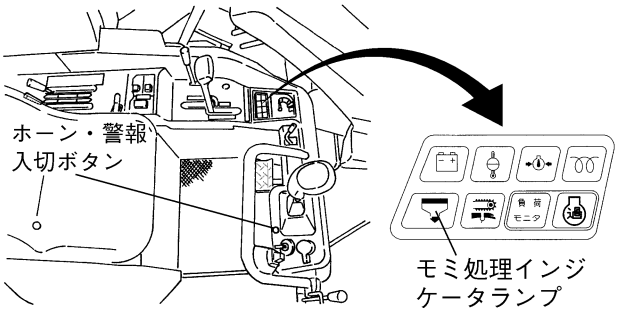
⚠注意

◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。

❶ グレンタンクのモミ警報

(1) グレンタンクにこく粒が充満すると，モミ処理インジケータランプが点灯し警報ブザーの「**断続音**」で警報します。

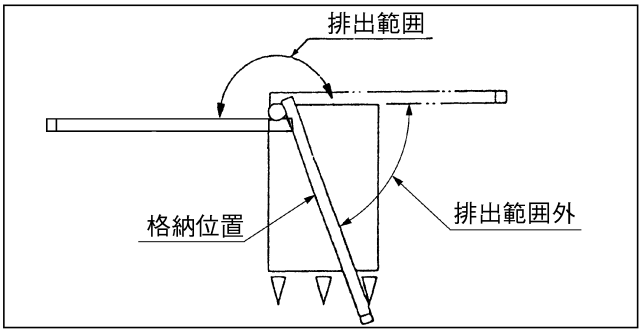
(2) 警報ブザーが鳴ったら直ちに刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。
警報ブザーはホーン・警報入切ボタンを押すと止まります。



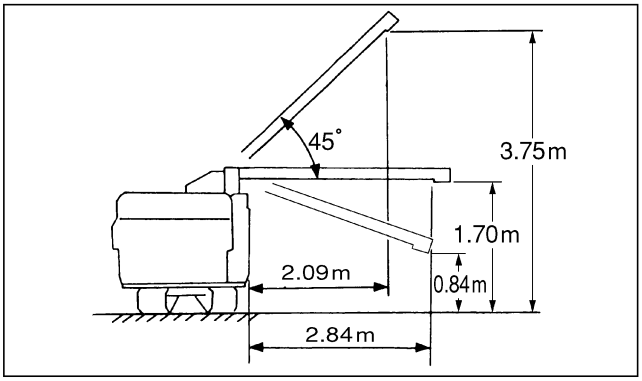
取扱いのポイント

- 警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けるとエンジンが停止します。作業機クラッチレバーを《切》位置にして走行クラッチペダルをいっぱい踏込むとエンジンを再始動する事ができます。
- こく粒を排出せずにエンジンを再始動し，作業機クラッチレバーを《入》位置にすると再びエンジンが停止します。
- 排出オーガは水平より下げた状態で旋回しないでください。

❷ こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速（無段変速）レバーを《**中立・始動**》位置にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。

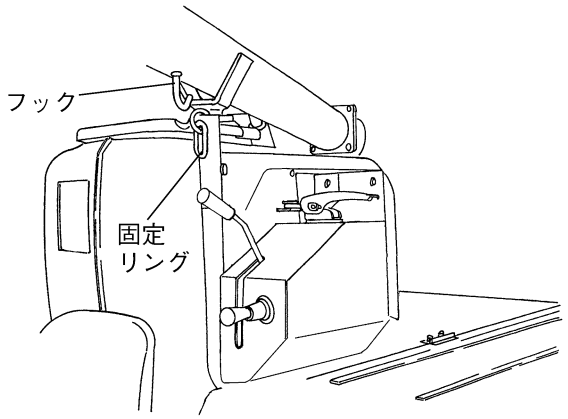


「排出オーガ高さと距離」



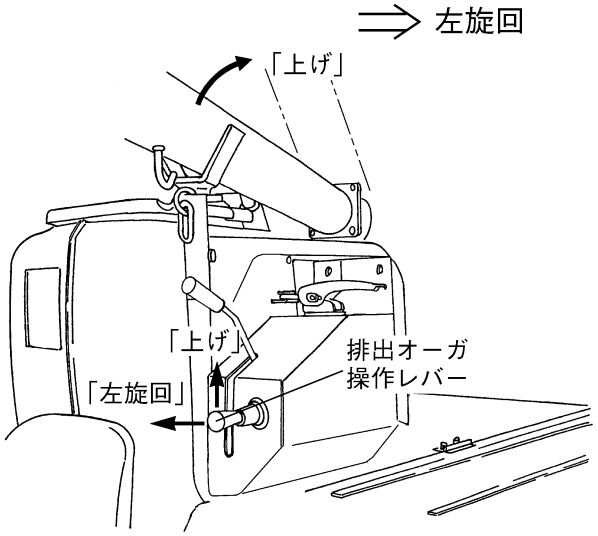
❸ こく粒排出操作手順

① 排出オーガの固定リングをはずす。



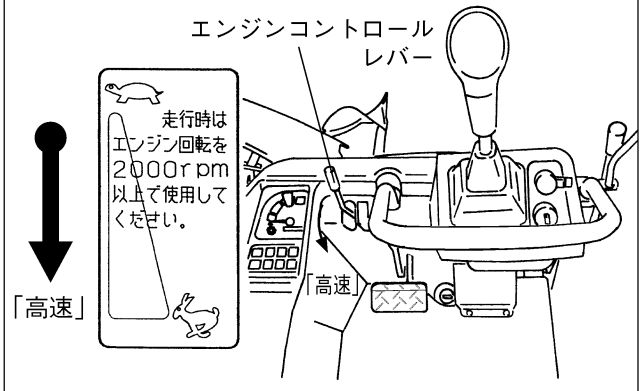
⇩

② 排出オーガ操作レバー…上げ➡左旋回

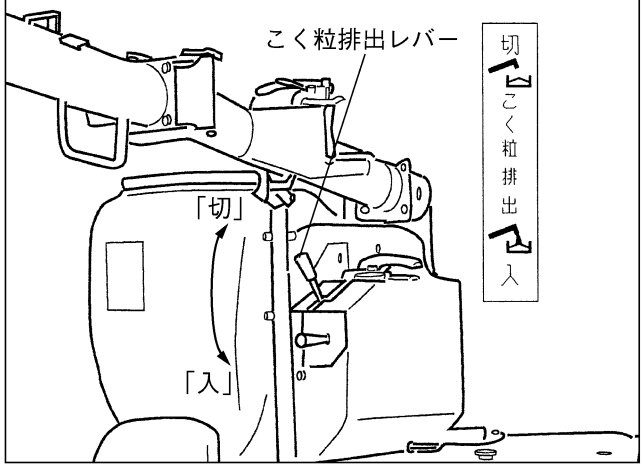


⇩

③ エンジンコントロールレバーを「高速」セット



④ こく粒排出レバー「入」➡こく粒排出

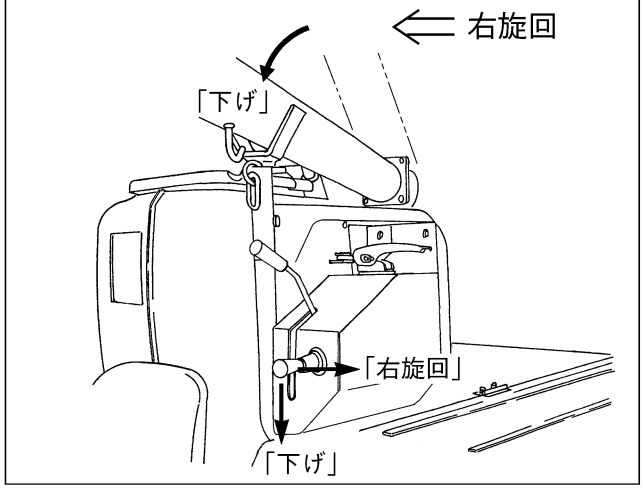


⇩

⑤ こく粒排出終了……こく粒排出レバー「切」

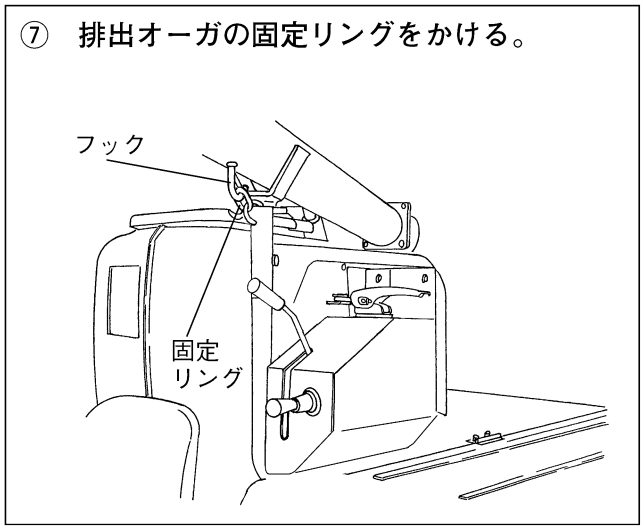
⇩

⑥ 排出オーガ格納……排出オーガ右旋回➡下げ➡格納



⇩

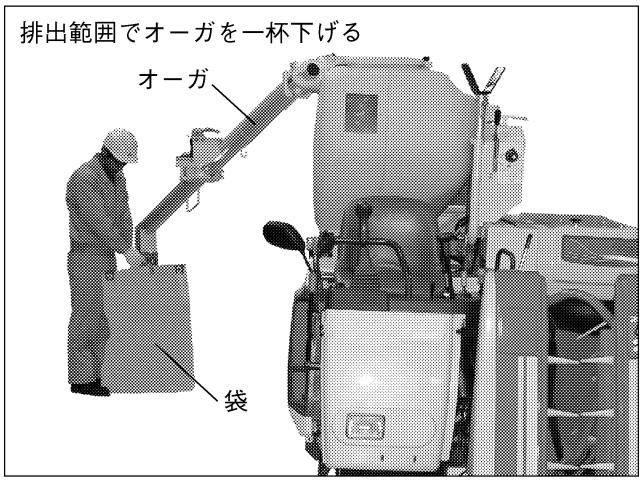
⑦ 排出オーガの固定リングをかける。



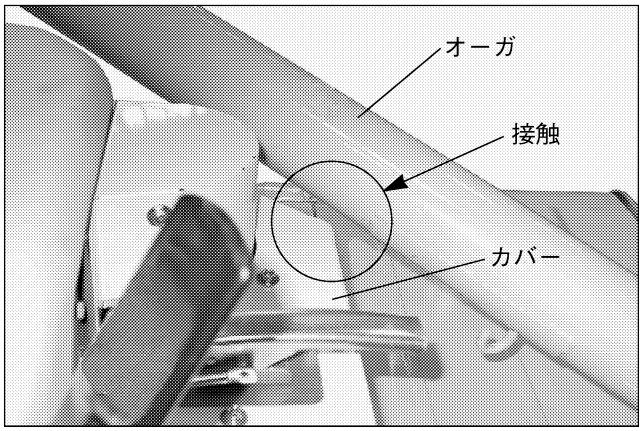
取扱いのポイント

- こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒でふさがないようにして，排出位置を変えながら行なってください。
- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で排出オーガを少しずつ回動させて行なってください。
- 機械が傾いた状態ではオーガの旋回がおそくなったり，旋回できなくなったり（サーキットブレーカ作動）しますので，旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- 排出オーガ旋回は排出オーガを一杯上げてから行なってください。

❹ 袋取り作業



マーク記載の排出範囲外でオーガを水平より下げるとオーガが本体のカバーに接触し，破損の原因となります。



6．グレンタンク補助樋口の取扱い

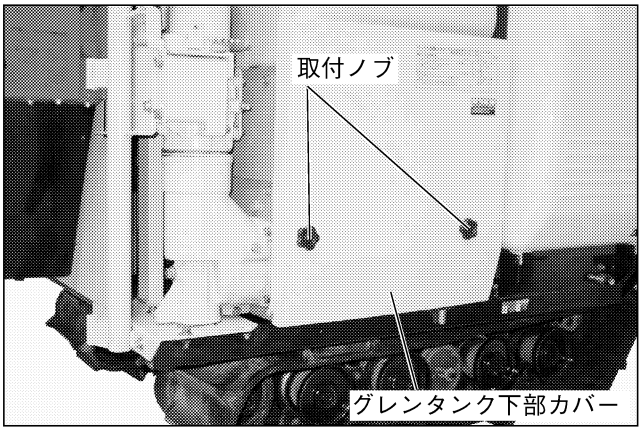
故障等によりグレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すとその内側にあります。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆補助樋口からこく粒を取出すときはエンジンを停止してください。

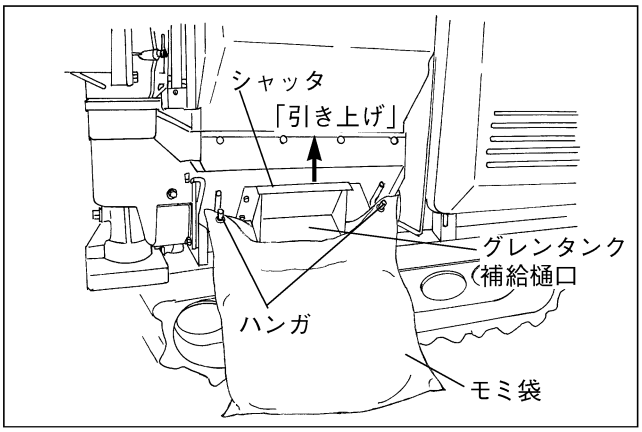
◆カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので，取付けて使用してください。

❶ グレンタンク下部カバーの取付ノブをゆるめて外しカバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

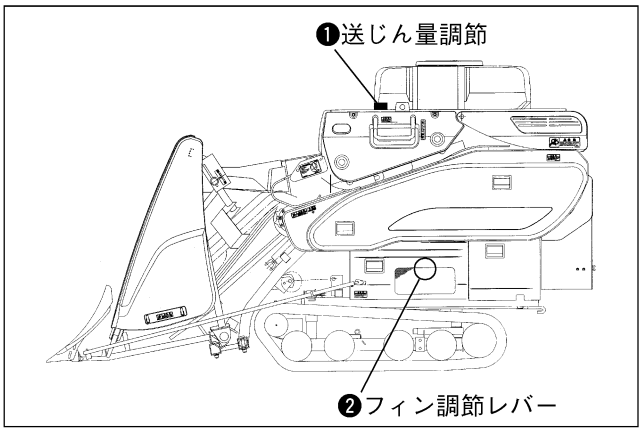
❸ シャッタを引上げタンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを締め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

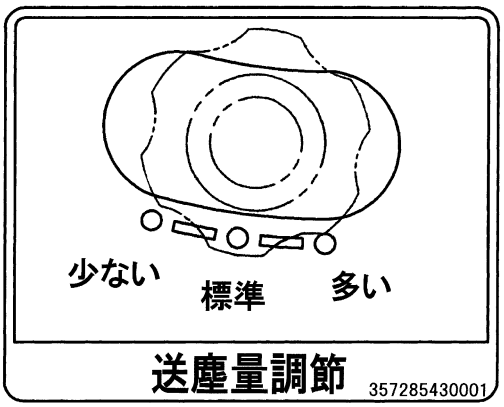
7．作業に適した調整のしかた

通常は各調節レバーは「標準」位置で作業を行いますが，刈取る作物やほ場の条件に合わせて，調整します。



❶ 送じん量の調節

モミに枝梗の付着が多い時やこぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合は送じん量調節ノブで調節します。



作業状態	送塵量調節ノブ位置
こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合	《多　い》
通常の刈取りの場合	《標　準》
枝梗の付着が多い場合	《少ない》

❷ フィン調節レバーの切替え

⚠注意

◆フィン調節時は，各クラッチを切り，エンジンを停止し，各部の作動が停止してから行なってください。

モミに枝梗の付着や稈切れ混入が多い時や収穫量が少ない時はフィン調節レバーで調節します。

●フィン調節方法

1．チョウナットを外し，点検蓋を外します。

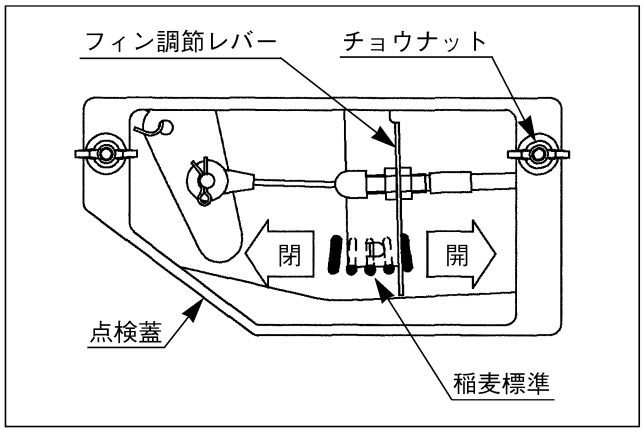
2．作物の条件により下記を参考にしてフィン調節レバーで調節します。

「閉」方向調節

・選別が悪い時。　・小枝梗が多い時。

「開」方向調節

・機外飛散が多い時。　・脱ぷが多い時。



8．トルクリミッタの取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

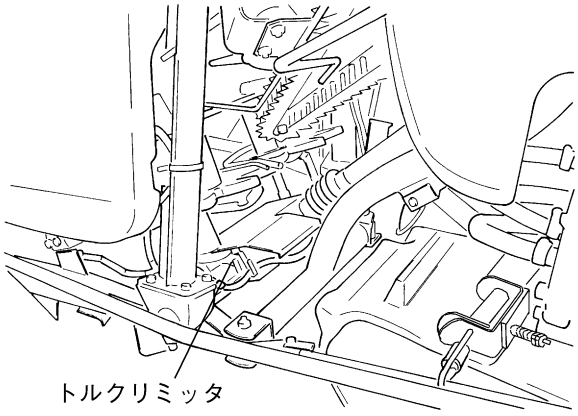
◆詰まり等の異常が発生した時に詰まったワラクズ等を取除く場合や搬送部の点検をする場合には，平坦な場所でエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆刈取部を上げて掃除・点検をする場合は刈取部が下がらないように油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にして，さらに刈取部の下に「固定脚」等をかませて作業してください。

⚠注意

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生した時，機械の破損を未然に防ぐため，刈取部に「**トルクリミッタ**」が設けてあります。



❶　トルクリミッタの作動

設置個所	トルクリミッタの作動
スターホイル（左）下部（スターホイルギヤケース内）	・株元搬送で搬送詰まりおよび異常負荷が発生した時

❷　トルクリミッタの処置

(1)　作業中，刈取部及び脱こく部への搬送がスムーズに行われず，異常（詰まり等）が発生した時は，「**トルクリミッタ**」が作動して搬送が停止します。

(2)　ただちに作業を中止し，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《**切**》位置にし，エンジンを停止します。

(3)　エンジンを始動し，刈取部を上げ油圧固定レバーを《**油圧固定**》位置にして，さらに刈取部の下に「**固定脚**」をかませ，詰まり個所を掃除し，刈取搬送部を点検します。

(4)　主変速（無段変速）レバーを《**中立**》，副変速レバーを《**作業**》にし，エンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）にし，作業機，刈取クラッチレバーを《**入**》にし，搬送部が正常に回転することを確認してから作業を開始します。

9．手こぎ作業

⚠警告　傷害事故防止のために

◆手こぎ作業は機械を停止し駐車ブレーキをかけて行なってください。

●機械を走行しながらの手こぎ作業はしないでください。

●刈取クラッチレバーを《切》にし刈取部の作動停止を確認してから行なってください。

●機械をワラクズの近くに止めないでください。（火災防止）

◆作業機クラッチレバーは周囲の人に合図してから《入》にしてください。

◆手こぎ作業をするときは手袋を使用しないでください。

◆手こぎ作業は，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。

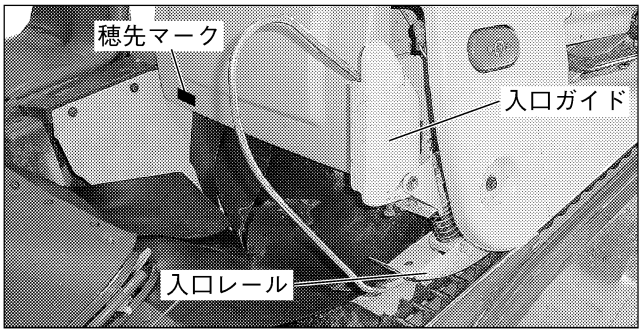
◆カッタの切ワラがたまったら作業を中断し機械を移動するか，作業機クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止して切ワラを取除いてください。

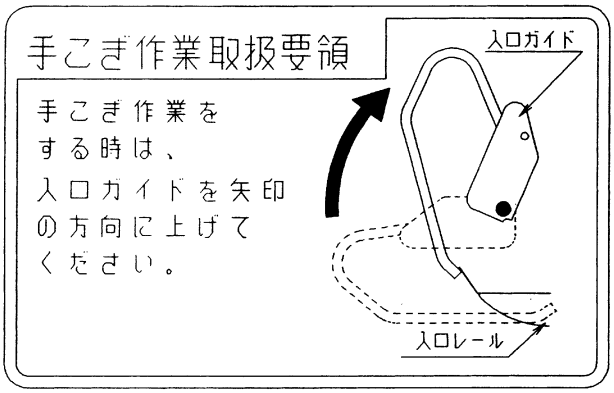
❶ 主変速（無段変速）レバーを《**中立**》にし，走行を停止し，駐車レバーをかけます。

❷ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**切**》にします。

❸ 刈取部をいっぱいに「**下げ**」て，こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチ操作で「**深こぎ**」側に下げます。

❹ 入口ガイドを持ち上げます。





❺ 作業機クラッチレバーを《**入**》れ，エンジン回転を「**色別表示の上限**」にセットします。

❻ 作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。

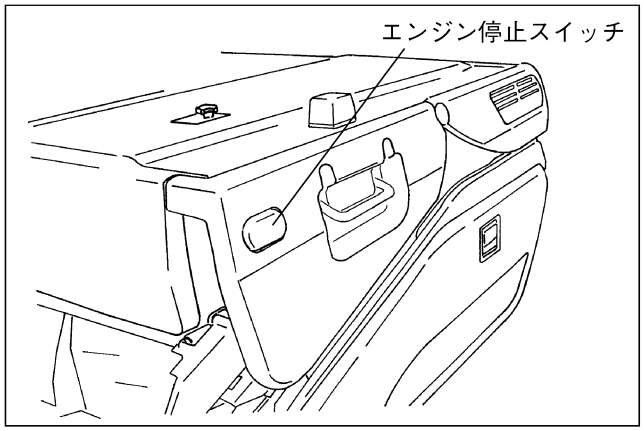
❼ 手こぎ作業が終わったら，作業機クラッチレバーを《**切**》にして入口ガイドを元の位置に戻し，こぎ深さ搬送体を手動スイッチで適正位置に調整します。

取扱いのポイント

- **バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。**

10．エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと，エンジンが停止します。手こぎ作業中等に万一トラブルが発生したときはこのエンジン停止スイッチを押してエンジンを停止します。



取扱いのポイント

- **エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《 STOP 切》にしてください。そのまま放置するとバッテリあがりの原因になります。**
- **エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。**

11．エンジン自動停止の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まり等の異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《(STOP)切》位置にして作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《切》位置にしてから，平坦な場所で詰まりを取除いてください。

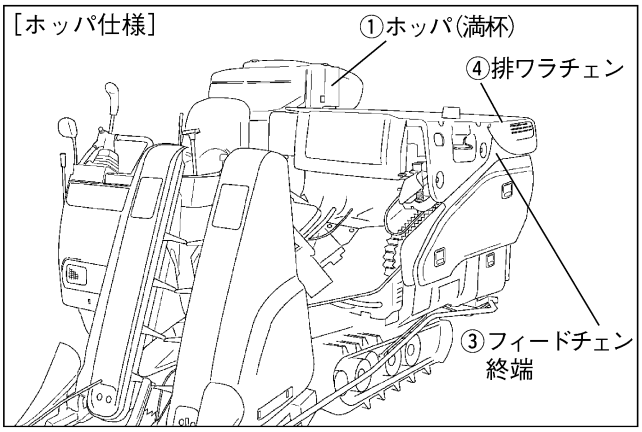
◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業はこぎ胴部を持ち上げ,「カチッ」という音を確認して（こぎ胴部は自動ロックされます）ゆっくり手を離してから行なってください。

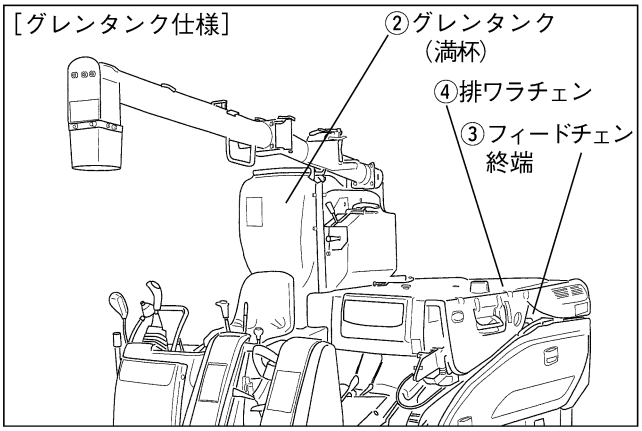
◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業はカッタをオープンしてストッパをかけてから行なってください。

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に全てのカバーを取付けて，こぎ胴部を閉めて機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生したとき，機械の破損や変形を未然に防ぐためつぎの個所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理インジケータランプまたはモミ処理インジケータランプが点灯してエンジンが自動停止します。

① ホッパ（満杯）
② グレンタンク（満杯）
③ フィードチェン終端（詰まり）
④ 排ワラチェン（詰まり）





❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《(STOP)切》位置にして，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《切》にしてから詰まりを取除きます。

❷ 詰まりを取除き，主変速レバーを《中立・始動》（前進側）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏み込んでエンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐢》（低速）にし，作業機クラッチレバーおよび刈取りクラッチレバーを《入》位置にして，主変速レバーを《前進・低速》に操作し正常に回ることを確認してから作業を開始します。

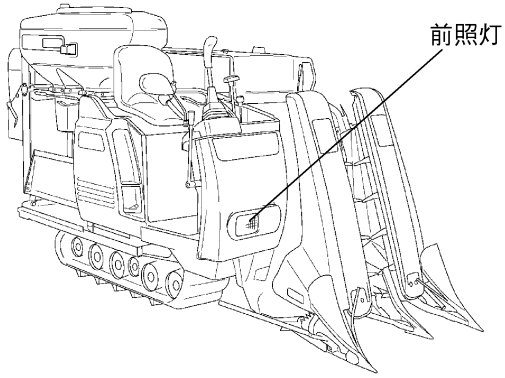
取扱いのポイント

- こぎ胴部を閉じるときは，脱こくフィードチェン，排ワラチェン部のワラを取除いてから閉じてください。

12．夜間作業

⚠警告

◆夜間作業を行うときは前照灯、作業灯を点灯してください。
◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。
◆路上走行するときは作業灯を消灯してください。



❶ 作業灯の取付

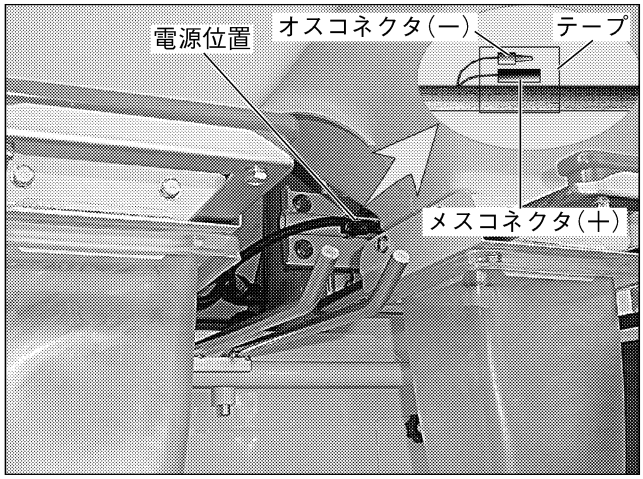
・「**お買いあげ先**」にご相談して下記の位置に取付けて使用します。
・電球の容量は12V20W以下のものを使用します。

❷ 手こぎ用作業灯（OP）



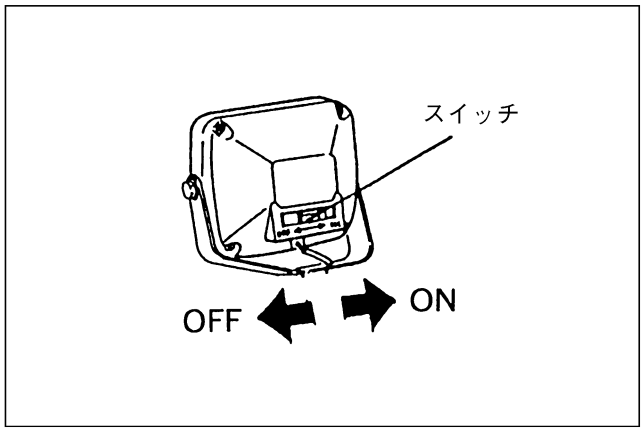
(1) **電源位置**

ホッパ下部にあります。

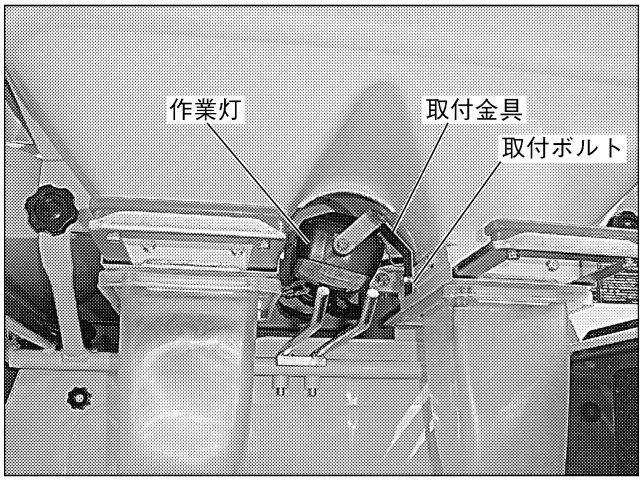


(2) **作業灯の点灯**

・スタータスイッチを《 **入**》にし、コンビネーションスイッチ及び、各作業灯のスイッチを《**ON**》にして前照灯と作業灯を点灯します。

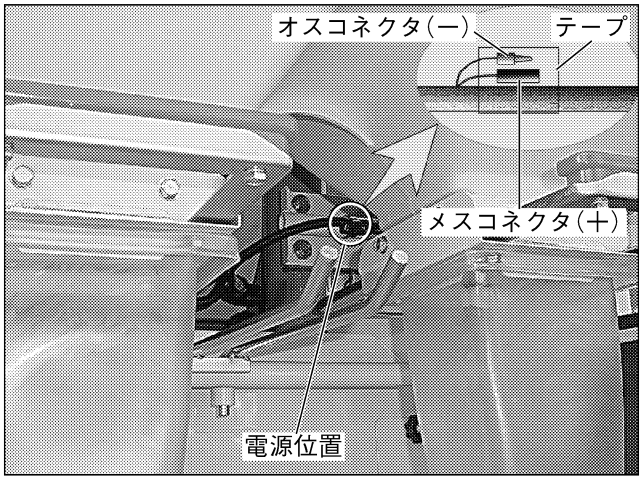


❸ ホッパ用作業灯［ホッパ仕様］(OP)



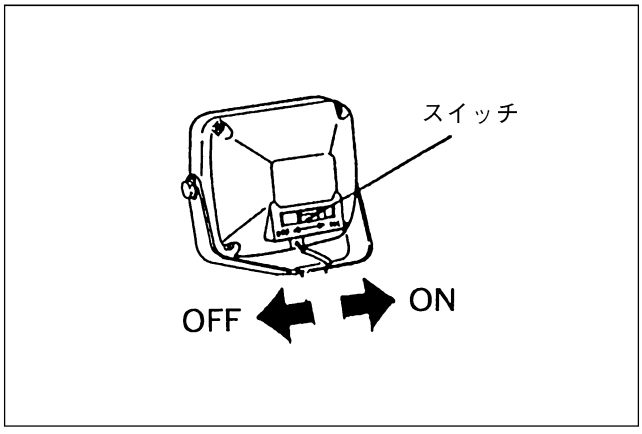
(1) 電源位置

ホッパ下部にあります。

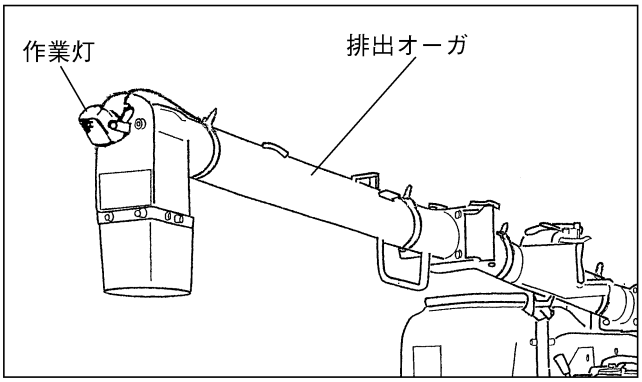


(2) 作業灯の点灯

・スタータスイッチを《 入》にし、コンビネーションスイッチ及び、各作業灯のスイッチを《ON》にして前照灯と作業灯を点灯します。

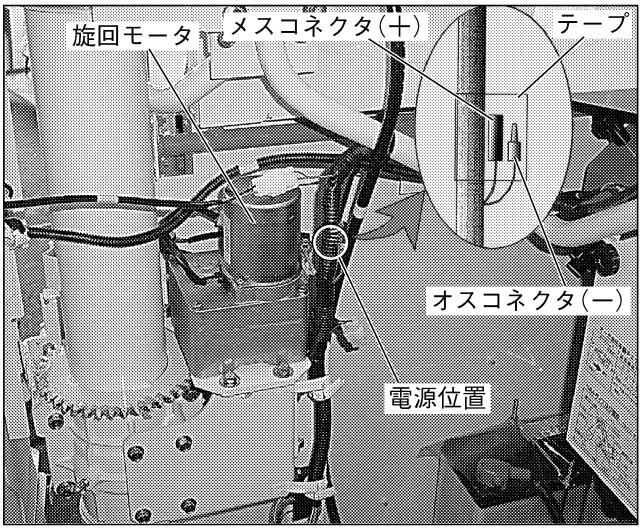


❹ 排出オーガ作業灯［グレンタンク仕様］(OP)



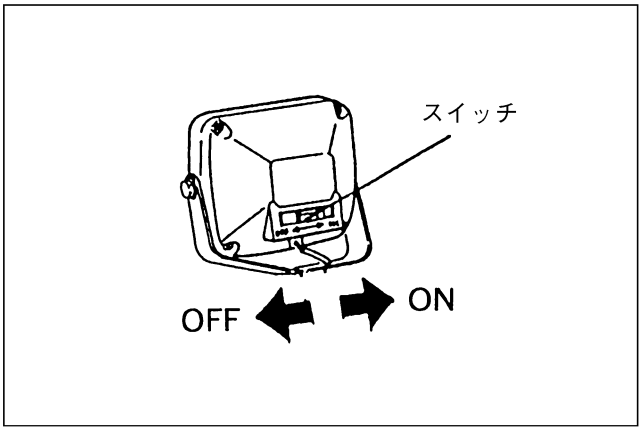
(1) 電源取出し位置

グレンタンクをオープンすると旋回モータ付近に電源があります。



(2) 作業灯の点灯

・スタータスイッチを《 入》にし、コンビネーションスイッチ及び、各作業灯のスイッチを《ON》にして前照灯と作業灯を点灯します。



取扱いのポイント

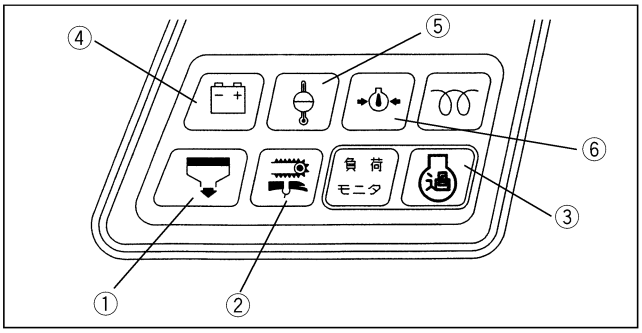
- 電源から作業灯までの配線については，「お買いあげ先」にご相談ください。
- 12Ｖ20W以上の電球を使用すると，ヒューズが切れることがあります。
- 電源のオスコネクタとメスコネクタを互いに接続しないでください。ショートを起こし，ヒューズが切れます。

※（OP）＝オプションのことです。

13．警報装置について

つぎの個所に異常が発生した場合は，インジケータランプの点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常個所を確認して，つぎの処置を行います。



No.	名称	現象	警告の方法 インジケータランプ	警告の方法 ブザー	警告の方法 エンジン	解除方法	点検と処置	参照ページ
①	モミ処理	満杯	点灯	断続音の断続	－	警報切入ボタン「**押す**」または作業機クラッチレバー《**切**》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	**10** **46～47**
				断続音の連続	ランプ点灯後40秒で停止			
②	ワラ処理	脱こくフィードチェン詰まり	点灯	連続	停止	作業機クラッチレバー《**切**》	脱フィードチェンにワラが詰まっていますので取り除きます。	**10～11**
		排ワラ詰まり					排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	
③	負荷モニタ	エンジン回転が下がる	点滅	断続	－	走行速度を下げる	・走行速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。	**10～11**
④	充電	充電不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《STOP **切**》	・スタータスイッチ《 **入**》で点灯し，エンジンを始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルト等を点検します。	**9** **114**
⑤	水温	オーバーヒート	点灯	連続	－	水温が下がるまでエンジンを「**低速運転**」	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。 ・エンジンを停止し，防じんフィルタ，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	**9** **73～74** **114**
⑥	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《STOP **切**》	・スタータスイッチ《 **入**》で点灯し，エンジン始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	**9** **72**

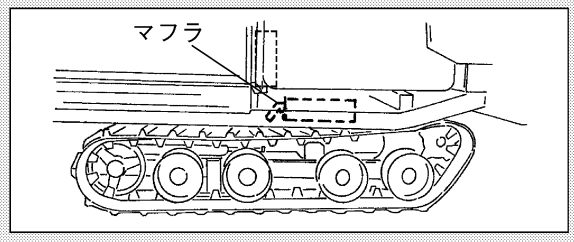
14．刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告　火災防止のために

◆機械をワラクズのたまった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。

◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。



❶　平坦な場所で主変速（無段変速）レバーを《**中立**》の位置にします。

❷　刈取クラッチレバーおよび作業機クラッチレバーを《**切**》の位置にします。

❸　駐車ブレーキをかけます。

❹　エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**作業**》に入れて停止します。

❺　**作業後の手入れ**

・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油をします。

取扱いのポイント

- **作業機クラッチレバーは，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで空運転してから《切》にします。**
- **水洗いするときは，エンジンまわり，電気配線部，運転パネル部その他電装品および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。**

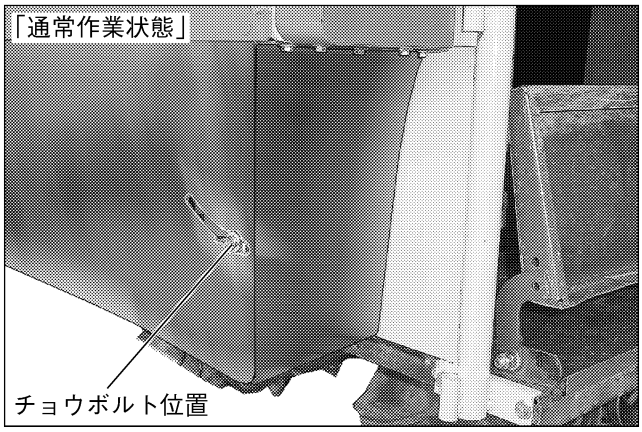
3．ワラ処理部の取扱い

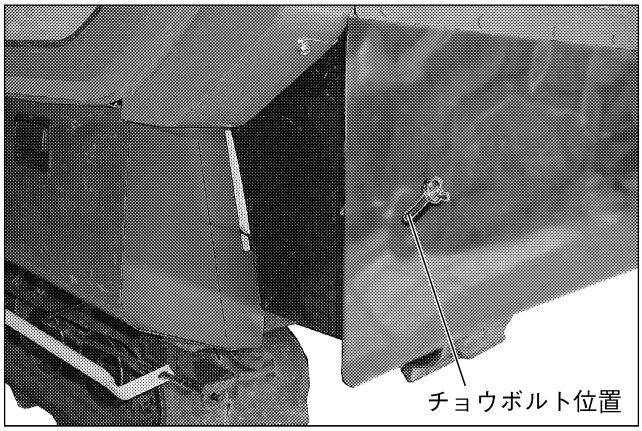
⚠警告　傷害事故防止のために

◆回転部にワラ等の巻付きが発生し，または異物が混入した時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，カッタをオープンして，ワラ等を取除いてください。
◆巻付き等を取除くときは，カマ等を使用し，手ではカッタ刃にふれないでください。
◆排ワラ・カッタの切替えはエンジンを停止して行なってください。

1．カッタ作業

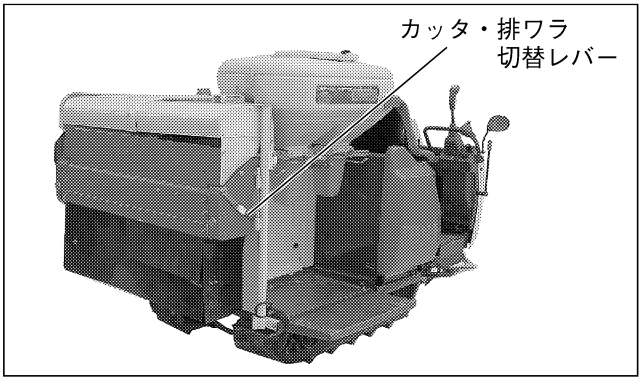
❶　下部カバー（右）（左）を「**通常作業状態**」にセットします。
※工場出荷時は下部カバーが「**通常作業状態**」にセットしてあります。

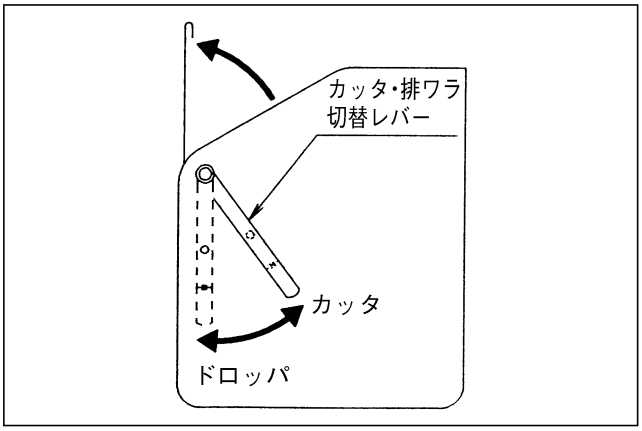




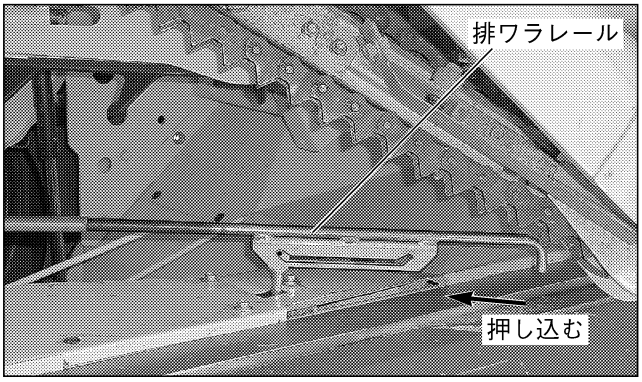
・各々のチョウボルトをゆるめて，カバーを開き（閉じ）チョウボルトを締めます。

❷　カッタ・排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にします。





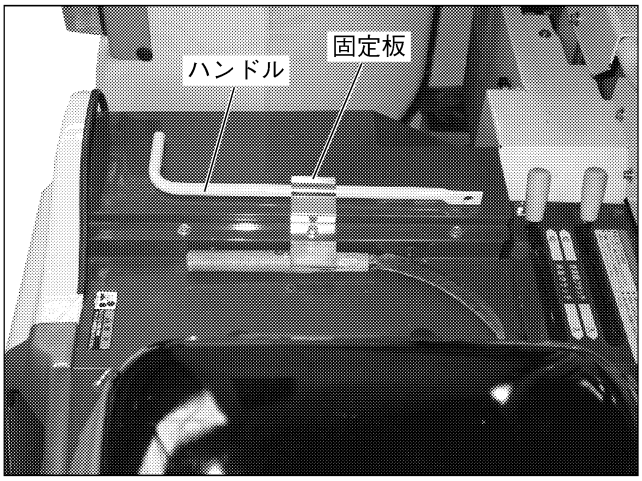
❸　排ワラレールをいっぱいに押し込みます。



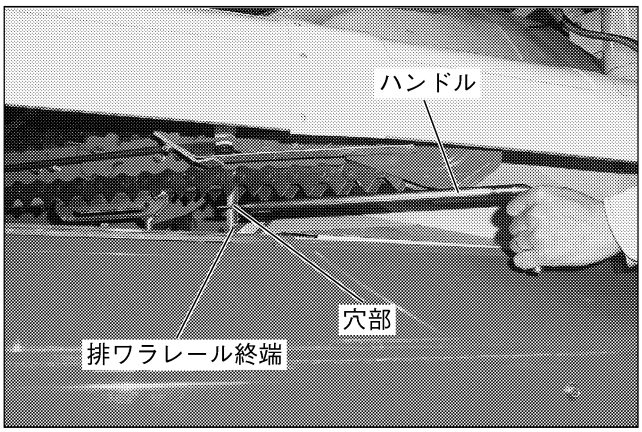
❹ 排ワラレールの押込み方法（引出し方法）

・コンポアップをオープンしないで排ワラレールを押込む（または引出す）には，座席シート下に収納してあるハンドルを使用します。
・ハンドルは付属品の中にありますので，写真の位置にセットしてください。

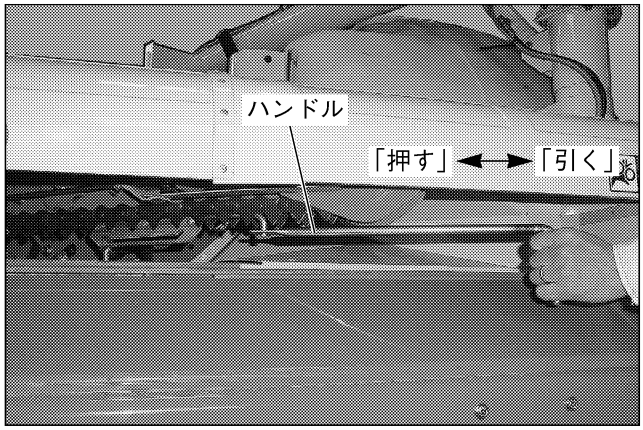
(1) 座席シートを前方に倒します。
(2) 座席シート下のハンドルを固定板から外します。



(3) 排ワラレール終端にハンドルの穴部をはめ込みます。



(4) ハンドルを手で押す（引く）ことで排ワラレールを操作します。



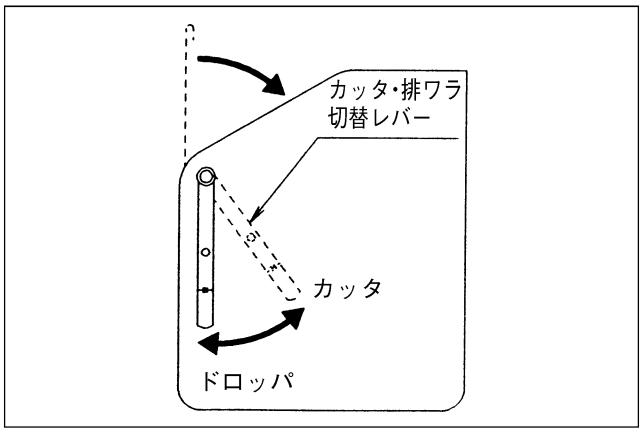
取扱いのポイント

- 排ワラ・カッタ切替レバー操作は搬送通路のワラを完全に排出してから行います。
- 脱こく作業中の切替え操作はしないでください。詰まりの原因となります。
- 脱こく部コンポアップ中は，カッタ・排ワラ切替レバーの操作が出来ません。無理に操作すると故障，破損の原因となります。
- コンポアップを閉じる前に排ワラレールをいっぱいに押し込んでください。

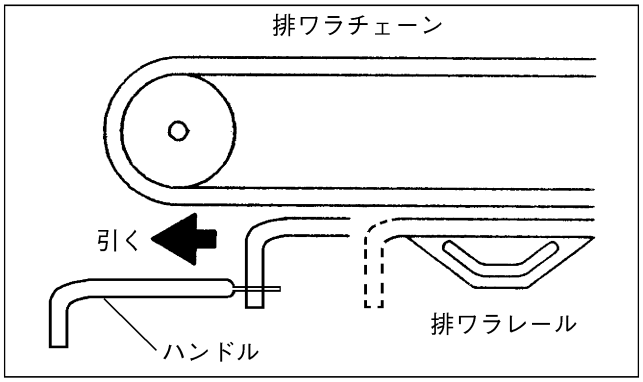
2．排ワラ，ドロッパ作業

排ワラ作業には，①脱こくされたワラをそのまま排出する作業，②集稈（ドロッパ）作業，③結束（ノッタ）作業があります。

❶ 排ワラ・カッタ切替レバーを《**ドロッパ**》位置にします。



❷ 排ワラレール終端を当たりのあるところまでハンドルで引き出します。

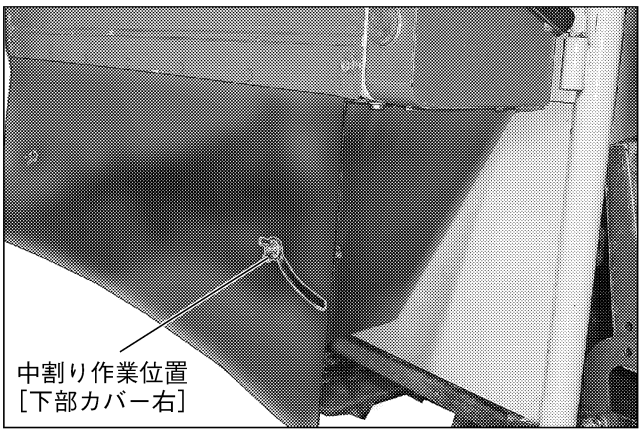


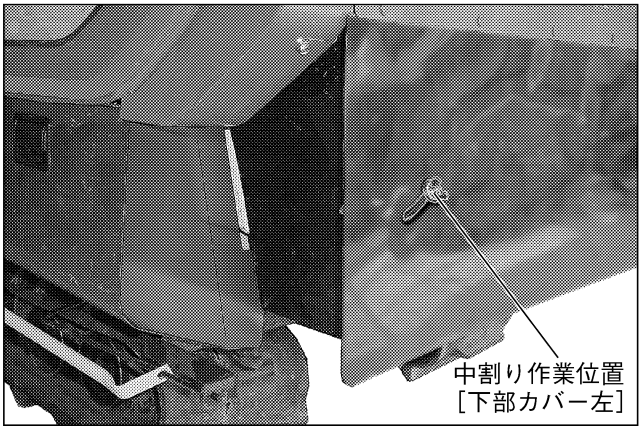
取扱いのポイント

- **排ワラ・カッタ切替レバー操作は搬送通路のワラを完全に排出してから行います。**
- **脱こく作業中の切替え操作はしないでください。詰まりの原因となります。**
- **脱こく部コンポアップ中は，排ワラ・カッタ切替レバーの操作ができません。無理に操作すると故障，破損の原因となります。**
- **排ワラレールを引き出してからコンポアップを閉じると，排ワラチェンが排ワラレールを乗り越える場合がありますので，コンポアップを閉じてから排ワラレールを引き出してください。**

3．中割り作業

下部カバー（右），（左）を中割り作業位置にして行ってください。



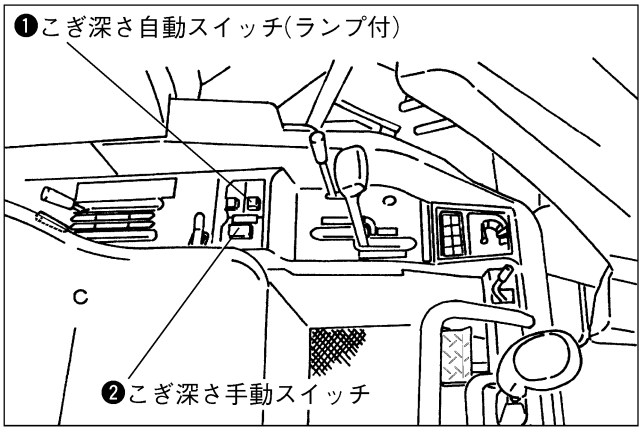


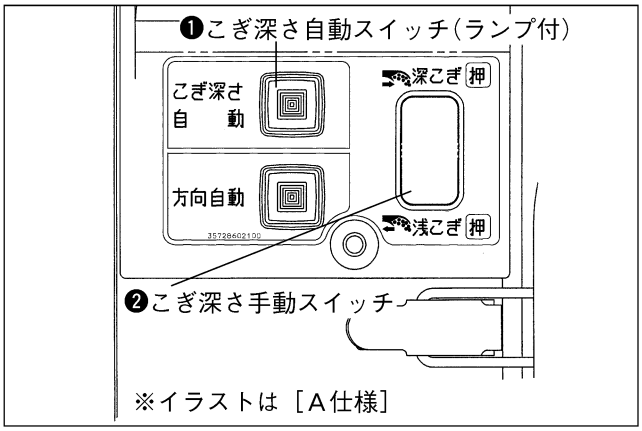
自動装置について

1．こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に手動スイッチで手動操作すると手動が優先となります。

1．運転装置





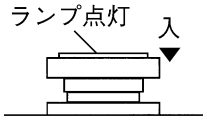
こぎ深さ調整は，**「自動制御」**と**「手動」**の二通りの操作が可能です。

- **自動制御中は手動スイッチによる調整の必要はありません。**

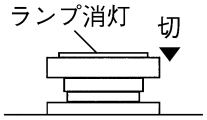
ただし，倒伏角45°以上の倒伏材および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動する時は，自動制御を解除（**「切」**）してこぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

❶　こぎ深さ自動スイッチ

・**「入」**……スタータスイッチを**「入」**にするとランプが点灯し，こぎ深さ自動スイッチが**「入」**の状態であることを表示します。

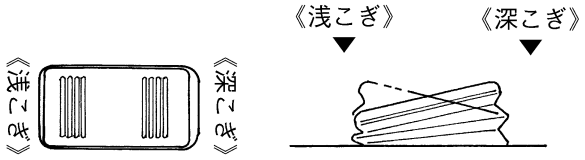


・**「切」**……**「入」**の状態から再び押すとランプが消え，こぎ深さ自動制御は作動しません。



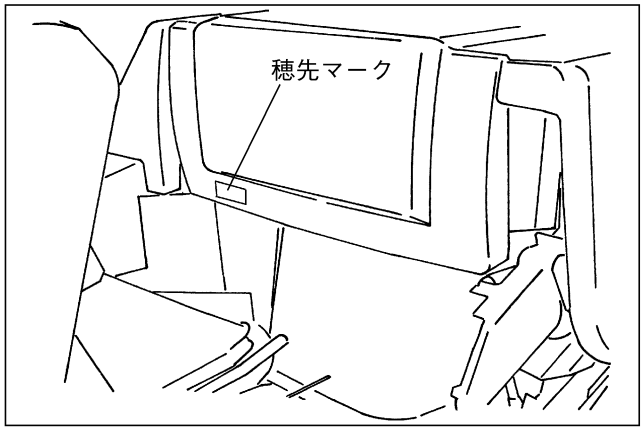
❷　こぎ深さ手動スイッチ

脱こく供給口の**「穂先マーク」**位置に作物の穂先がくるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。

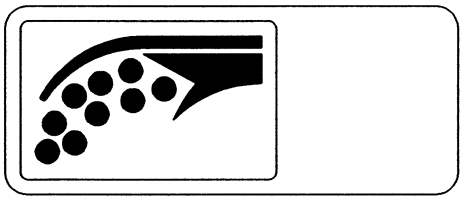


《深こぎ》……**《深こぎ》**側を押すと作物の穂先が深い位置に移動します。

《浅こぎ》……**《浅こぎ》**側を押すと作物の穂先が浅い位置に移動します。



穂先マーク



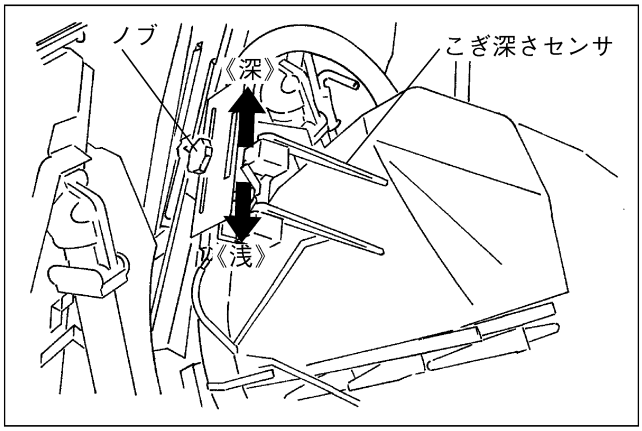
2．こぎ深さセンサの調整

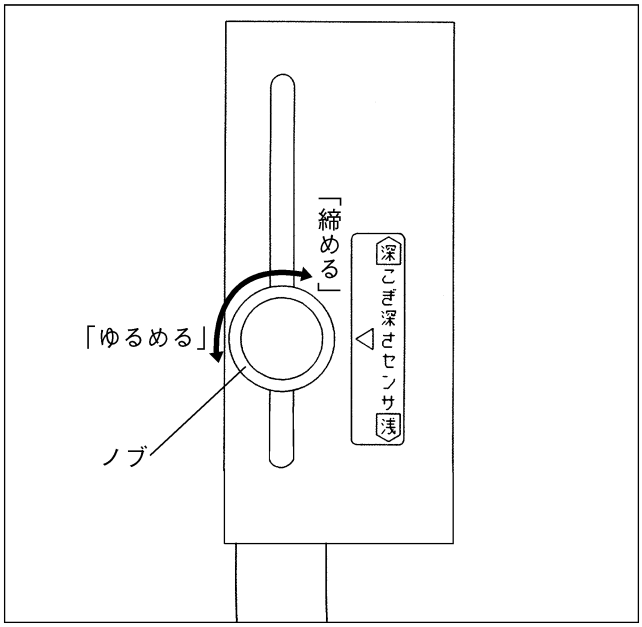
こぎ深さセンサは工場からの出荷のときは「**標準**」(合わせマークの中央）の位置に調整してあります。

・つぎのようなときは，ノブをゆるめセット位置を調整します。

こぎ深さを「**深く**」したいときは，センサケースを矢印の《**深**》方向へ移動します。こぎ深さを「**浅く**」したいときは《**浅**》方向へ移動します。

・調整後はノブを確実に締めます。





3．こぎ深さ自動制御が使えない条件

・つぎの状態ではこぎ深さ自動スイッチを「**切**」（ランプ消灯)にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。

○倒伏角45°以上の倒伏作物

○くされ状態の作物

○雑草が多いとき

○作物の長さが極端に変動するとき

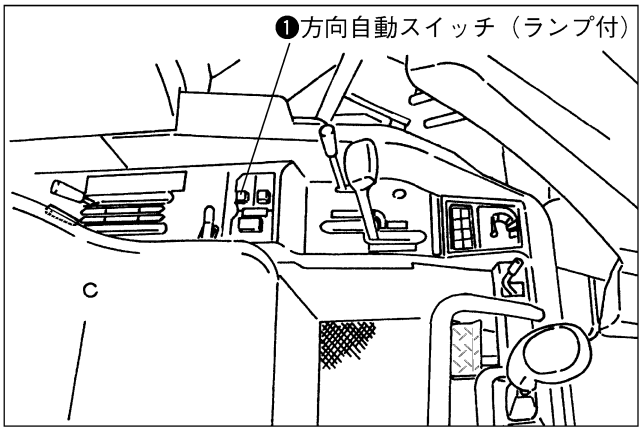
2. 方向自動制御 [A仕様]

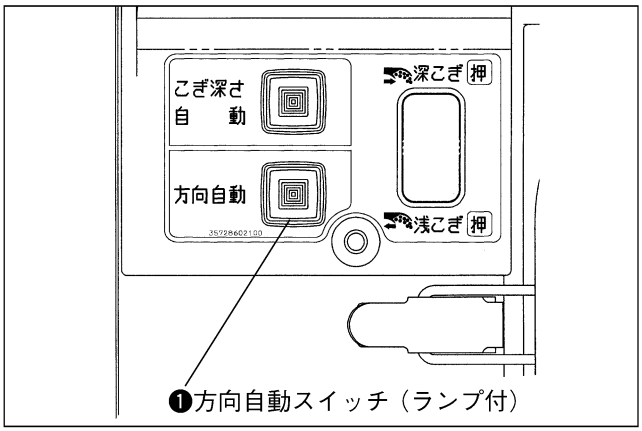
方向自動は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動走行します。またマルチステアリングレバーを操作すると自動制御は「**解除**」され，手動操作優先となります。

⚠注意

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしする時は方向自動スイッチを「切」にしてください。

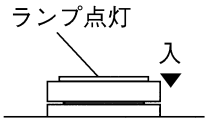
1．運転装置



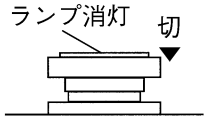


❶　方向自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，方向自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，方向自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

●方向自動スイッチ内ランプが点灯しても方向自動が作動しない時は，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

2．作業のしかた

❶　スイッチの操作・条合わせのしかた

⑴　方向自動スイッチを「**入**」（ランプ点灯）にします。

⑵　機械が条列に真っ直ぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

❷　刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも，マルチステアリングレバー，ジャストディレクタを手動操作すると，「**手動優先**」で進路をかえることができます。

❸　旋回時の操作

旋回するときは，マルチステアリングレバーで手動操作します。

この時に方向自動スイッチを「**切**」にする必要はありません。

取扱いのポイント

- **条刈りは「刈取条（２条）の中央」を基準にして自動走行するため，条合わせは機械が条列に真っ直ぐになるようにしてください。斜めになった時は条外れすることがあります。**

3．方向自動制御の使えない条件

つぎの条件では方向自動スイッチを「**切**」にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

- 斜め刈り，横刈り，中割り
- あぜぎわ刈り
- 雑草が多いとき
- バラまきほ場
- 湿田
- 条間および株間が極度に乱れているとき
- 稈量が少ないとき
- 欠株，孫株が多いとき
- 植付条間が28㎝未満の場合
- 植付条間が33㎝を超える場合
- 倒伏材は［**作業のしかた**］の「**３．ほ場の刈取手順**」を参照

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除する時は平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。
◆エンジンオイル等の油脂類および不凍液を交換して廃却する時は，廃却設備のある所で廃却処理してください。
◆部品（バッテリ等）または機械を廃却する時は，「お買いあげ先」にご相談ください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。
「定期点検整備表」（点検・補給・掃除・調整○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）												備考	参照ページ
			シーズン前	運転前	25	50	100	150	250 (200)	350 (300)	450 (400)	500 (550)	600 (650)	格納時		
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●		●	●	●	●	● (550)	● (650)			72
	エンジンオイルフィルタ	交換				●		●		● (300)	●		●			73
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○										●		73～74
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○	○					●			●				80
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換	○						●			●				81
	ラジエータ，金網	点検・掃除	○	○		○								○		80
	エンジンファンベルト	点検・調整・交換	○						●				●			114
	燃料ホース	点検・交換	○	●（２年ごと）										○	燃料もれ点検	82
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○											○		83～85
	電気配線（配線・接続部のゆるみ，損傷）	点検・修理	○	○											損傷の場合交換	83
	計器，スイッチ類	点検	○	○												7～12
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○			●				●						75
	油圧ホース	点検・交換	○												油もれ点検	75
	外部駐車ブレーキレバー	点検・調整	○													108
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○			●				●						75
	走行駆動ベルト	点検・調整・交換	○			○						●				112
	カウンタ駆動ベルト	点検・調整・交換	○			○			●			●				112
	作業機クラッチレバー	点検・調整	○		○											109
	刈取クラッチレバー	点検・調整	○		○											109
	クローラ	点検・調整	○	○												119
	ローラ，アイドラ，転輪	点検・調整・補給	○		○	（グリスアップは50ａ(アール)作業毎，及び格納時に行います。）									湿田作業直後にグリスアップ	76

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）												備考	参照ページ
			シーズン前	運転前	25	50	100	150	250 (200)	350	450 (400)	500	600	格納時		
刈取部	スターホイルギヤケースオイル	点検・補給	○													76
	かき込みベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○			117
	穂先チェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○	○				●	○		●			105，117
	刈刃	点検・調整・交換	○	○		○			●(200)		●(400)		●	○		105
	集中注油タンク	点検・補給	○	○											エンジンオイル	76，79
	刈取ベルト	点検・調整・交換	○	○	○				●			●				109，125，133
脱こく部	脱こく入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●				109，125，133
	こぎ胴駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●				110，115，133
	脱こく２番駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●				114，133
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●				115，133
	排ワラ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●				116，133
	脱こくフィードチェン	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			118
	排ワラチェン	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			118
	排ワラベルト（突起付）	点検・調整・交換	○	○		○			●			●				117
	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○											○		90～92
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○			○						●				107
	ワラ切カマ	点検・交換	○						●			●				106
	脱こく受網	点検・掃除・交換	○									●		○		88
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○											○		92
	２番ラセンタッチ部	点検・掃除	○											○		90
カッタ部	カッタ刃	点検・交換	○	●（100時間ごと）												96～104
	カッタ駆動ベルト	点検・調整・交換	○		○				●			●				116，133
グレンタンク部	こく粒排出レバー	点検・調整	○													111
	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○													77
	グレンタンク	点検・掃除	○											○		94～95
	グレンタンク駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●				112～113，133
	グレン入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●				111，133
	縦ラセン筒上部，下部	点検・掃除	○											○		94～95
	タテラセンパイプ	点検・補給	○											○		78

2. 給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は,「**運転まえの点検**」及び「**定期点検整備表**」に従って行います。
・オイルの点検・交換は機械を平坦な場所に駐車して行います。
・交換したオイルを廃却する時は，油脂類廃却設備のある所で処理します。

取扱いのポイント

- **各給油個所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **下表の容量は工場出荷時の数値です。**
  交換時は残油量がありますので，レベルゲージ又は検油栓により容量を確認してください。但し検油栓のない個所は全量交換してください。
- **使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。**

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時は，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から摺動音が発生する時はエンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。
◆交換したオイルを，廃却する時は，廃却設備のある所で廃却処理してください。
◆エンジンカバーを開いて点検等を行なった後は,エンジンカバーを閉じて固定金具(クランプ）で固定してください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

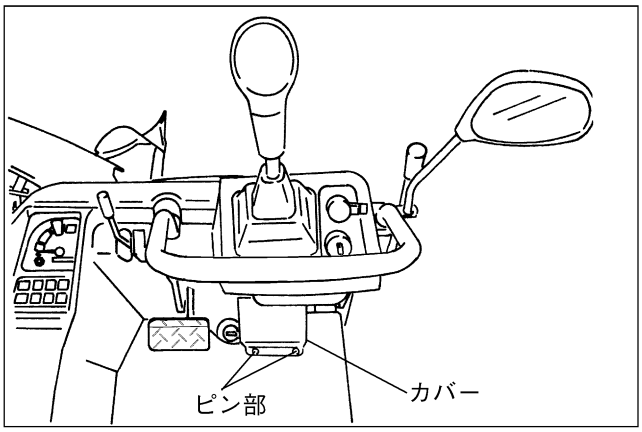
「給油・注油・給水表」

No.	個所	種類	種類		容量(L)		備考
			API サービス分類	SAE 粘度番号	ホッパ仕様	グレンタンク仕様	
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	−	−	13.0		JIS 2 号(−7.5℃まで) JIS 3 号(−20℃まで)
②	エンジンクランクケース	＊ディーゼル車用エンジンオイル	CD級以上	10W−30	3.5		
③	ラジエータ(補助タンク0.5L含む)	冷却水(不凍液40〜45%含む)	−	−	3.9		北海道は不凍液割合45〜50%
④	トランスミッションケース	＊ギヤオイル	GL−4以上	80W	2.8		
⑤	油圧オイルタンク	＊油圧作動油	GL−4以上	10W−30	4.0	4.5	エンジン始動後 ([ホッパ仕様] [グレンタンク仕様])
⑥	スターホイルギヤケース	ギヤオイル	GL−4以上	140	0.25		
⑦	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL−4以上	140	−	0.45	[グレンタンク仕様]
⑧	集中注油タンク	＊エンジンオイル			0.7		

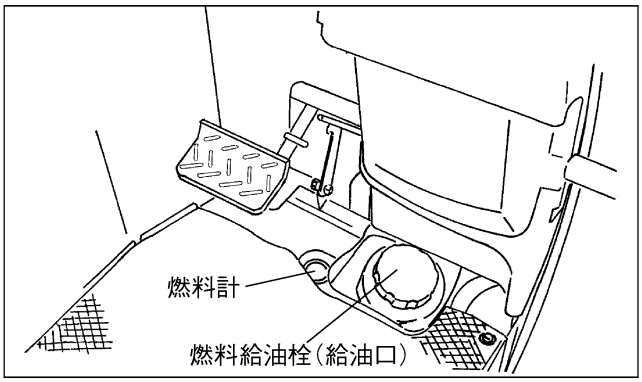
＊はマルチストーオイル使用可

1．燃料の補給

❶ 運転席足元のカバーを外します。
（カバーはピン部をステップの穴にはめ込んで固定してあります。）



❷ 燃料給油栓を外して，燃料計で確認しながら給油口から補給します。



・燃料……ディーゼル軽油
JIS 2 号（－7.5℃まで）
JIS 3 号（－20℃まで）

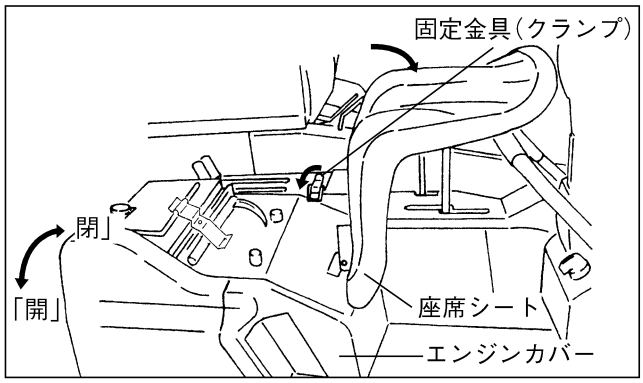
・タンク容量……13.0 L

取扱いのポイント

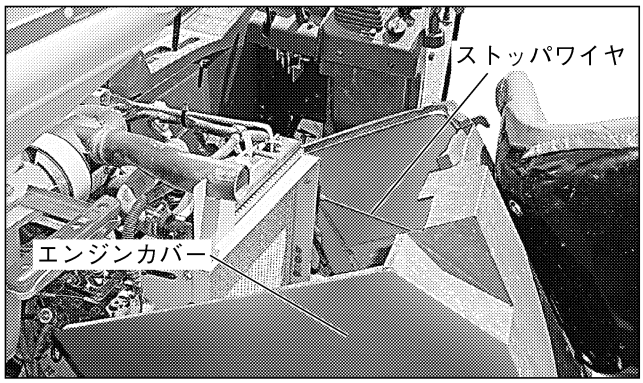
- **燃料はフィルタを通してゴミや水が混入しないように給油してください。**
- **運転途中での燃料切れ，燃料フィルタの掃除や交換時は燃料のエア抜きを行なってください。****（82ページ参照）**
- **燃料補給後は給油栓を確実にしめて，カバーを取付けてください。**

2．エンジンカバーの開閉のしかた

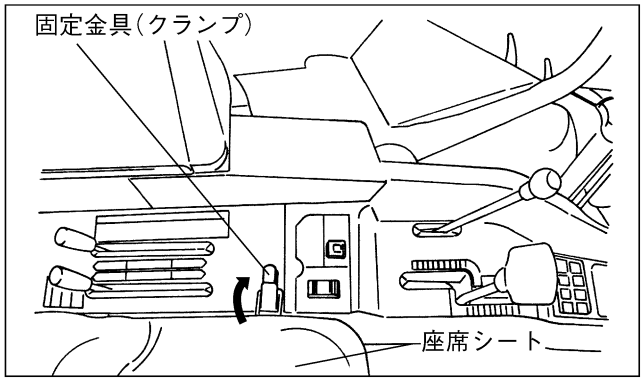
❶ エンジンカバーを開きます。
(1) 座席シートを前方へ倒します。
(2) 固定金具（クランプ）を矢印方向へおこし，エンジンカバーの固定を解除します。
(3) エンジンカバー端部を両手で持って，ゆっくり**「開」**方向に回動させます。



(4) エンジンカバーが一定の位置まで開くと，ストッパワイヤによりそれ以上開かなくなります。



❷ エンジンカバーを閉じます。
(1) エンジンカバー端部を両手で持って**「閉」**方向に持ち上げます。
(2) エンジンカバーを片手で押さえながら固定金具（クランプ）をロック（固定）します。



(3) 座席シートを使用位置へもどします。

3．エンジンオイルの点検・交換

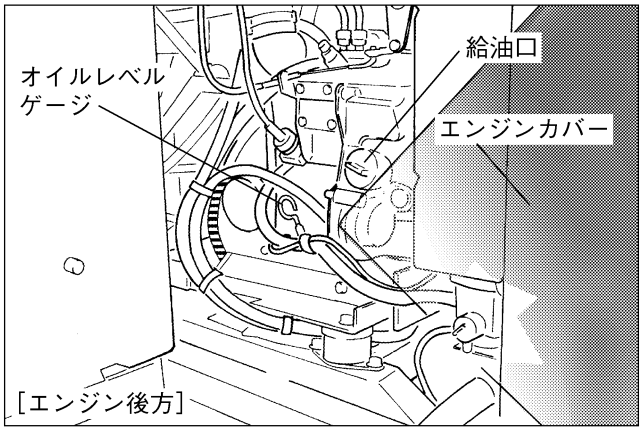
❶ エンジンオイルの点検

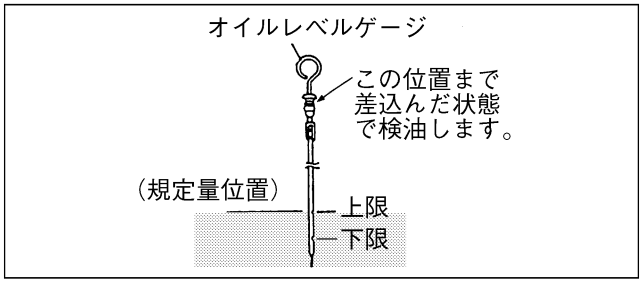
(1) グレンタンク仕様はグレンタンクを回動（オープン）します。

(2) エンジンカバーを開きます。



(3) オイルレベルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度一杯差込んでから抜き，ゲージの上限と下限の間にオイルがある事を確認します。不足している時は，給油栓よりオイルレベルゲージの刻み線上限（規定量位置）まで給油します。さらに，油もれのないことも調べます。



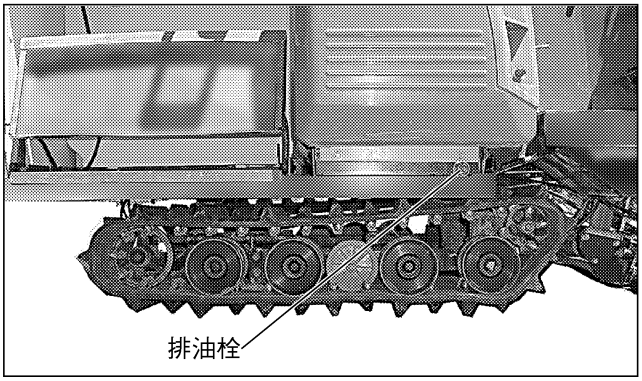


取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。**
- **給油口からワラクズ等が入らないよう事前に周囲を掃除してください。**
- **排油栓，給油栓，オイルレベルゲージは確実に固定されていることを確認してください。**
  又，エンジンカバーに固定金具（クランプ）をかけ，確実に閉じてください。

❷ エンジンオイルの交換

(1) エンジンの給油栓を外し，排油栓を取外し，オイルを抜きます。



(2) オイルを抜き終わったら排油栓を取付け，新しい「**ディーゼルエンジン用エンジンオイル**」を給油口よりオイルレベルゲージの刻み線上限（規定量位置）まで給油します。

- **ディーゼルエンジン用エンジンオイル**
  API・CD級以上，SAE・10W−30
- **オイル量……3.5 L**

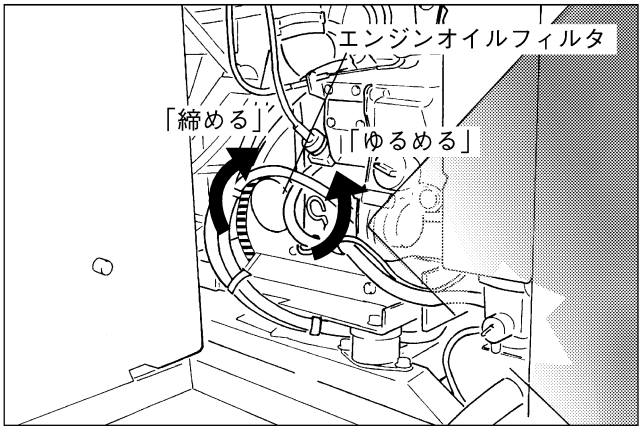
(3) 給油栓を取付けエンジンカバーを閉じてからエンジンを始動しオイルインジケータランプが消えるまで低速回転で運転します。

取扱いのポイント

- **エンジンオイルの交換時期は定期点検整備表に従ってください。**
- **オイルフィルタが装備してありますので定期点検整備表に従い交換してください。**

4．エンジンオイルフィルタの交換

❶　エンジンカバーを開きます。



❷　エンジンオイルフィルタを「**ゆるめる**」方向に回して外します。

❸　新しいフィルタと交換し「**締める**」方向に回して固定します。

取扱いのポイント

- **オイルフィルタは「カートリッジタイプ」を使用していますので，購入のうえ交換します。**
- **オイルフィルタの交換は取外すための専用工具が必要です。「お買いあげ先」へお申しつけください。**
- **オイルフィルタを交換した時は，エンジンオイルフィルタの容量分オイル量が多く入るので，オイルレベルゲージでオイル量を確認し，不足の時は規定量位置まで補給します。**

5．ラジエータ冷却水の点検・交換

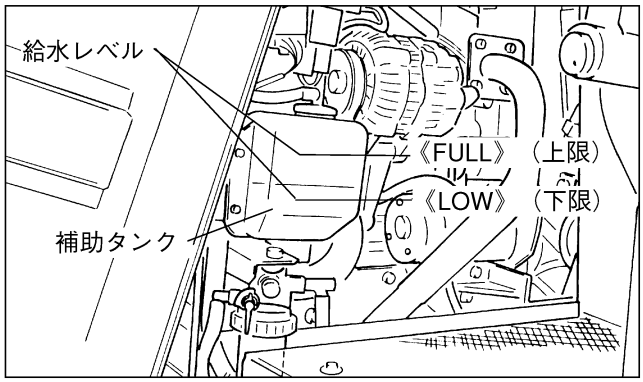
⚠警告　ヤケド防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検はエンジンカバーを開けて行います。

❶　**始業前の点検**

・エンジンが冷えている時，補助タンク内の冷却水が「**給水レベルの上限と下限の中間**」にあるか点検します。



❷　**補助タンクの水を切らした時**

・ラジエータキャップを外して冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。

・補助タンクの「**給水レベルの上限と下限の中間**」位置まで給水します。

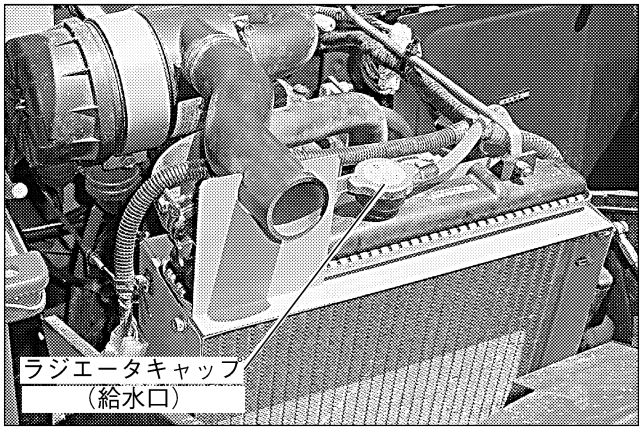
・**冷却水……清水（水道水）**

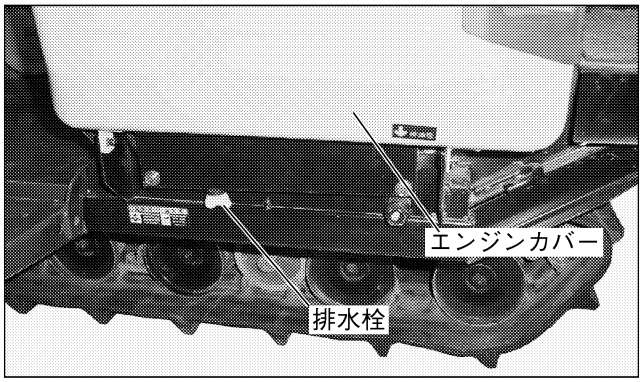
取扱いのポイント

- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**
- **補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足している時は補給してください。**
- **補助タンクには「給水レベルの上限」以上入れないでください。運転中冷却水があふれ出ます。**

❸ ラジエータ冷却水の交換

(1) ラジエータキャップを外し，ラジエータ下部の排水栓を外し排水口から排水します。





(2) ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

(3) 排水が終わったら排水栓を取付けます。

(4) **不凍液の注入**

工場出荷の時は不凍液が注入され「**外気温度－25℃**」の凍結を防止する濃度になっていますが，１年以上経過すると効力が低下しますので，１年ごとに冷却水を抜き「**不凍液濃度基準**」を参考に入替えます。

「不凍液濃度基準」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

・不凍液は「ロングライフクーラント」（PT）を使用しますので「お買いあげ先」で交換してください。。

(5) ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を給水したのちラジエータキャップを閉めます。

(6) 補助タンクの給水レベルの上限と下限の中間位置まで給水します。

・エンジン冷却水系統内部の腐食を防止するため，冷却水に市販の防錆剤を添加して使用されるようおすすめします。

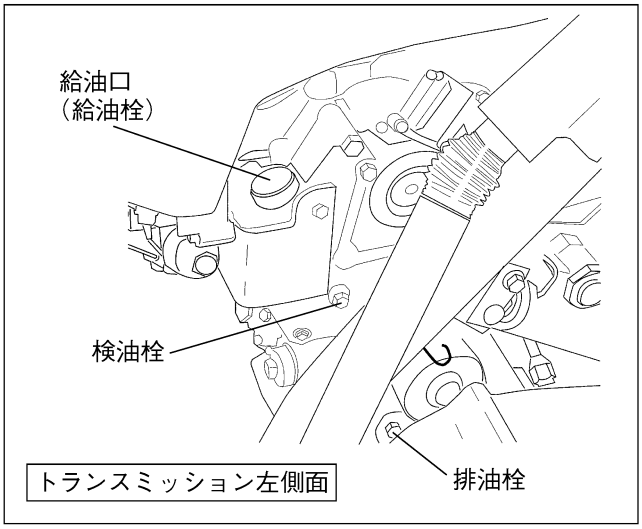
冷却水量……3.9Ｌ（補助タンク0.5Ｌ含む）

取扱いのポイント

- **冷却水を交換した時は，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。**
- **不凍液を入替え直後に長期保管される時は，冷却水の循環が確認できるまで「低速で空運転」を行なってください。**

6. トランスミッションケースのオイル点検･交換

・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。



❶　点検

・ミッションケース左側の検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足している時は給油栓を外して給油口より補給します。

❷　交換

・ミッションケース下部の排油栓を外し，オイルを抜取ります。

・給油する時は，給油口より検油栓まで給油します。

・ギヤオイル……API・GL－４級以上，SAE・80W

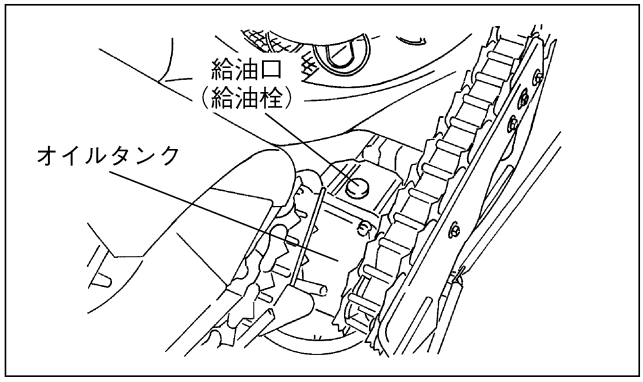
・オイル量……2.8Ｌ

取扱いのポイント

- **点検，交換後に排油栓，給油栓，検油栓が確実に取付けてあるか確認してください。**
- **刈取部を右端で固定し，こぎ深さを最も浅い位置にすると刈取部左側から点検，交換が容易に行えます。**

7. 油圧作動油の点検・交換

・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。



❶　点検

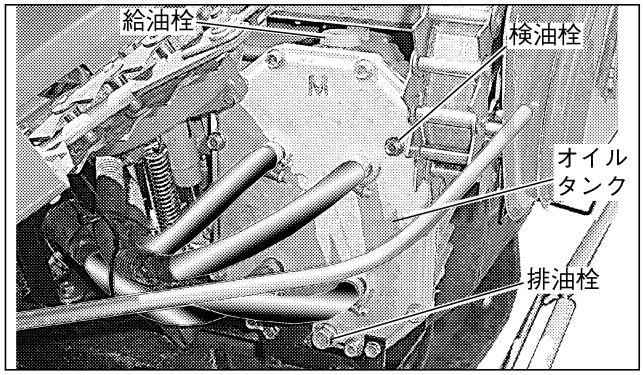
・脱こく入口の下側の油圧オイルタンク前側の検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足している時は給油栓を外し給油口より補給します。

❷　交換

・オイルタンク下部の排油栓を外してクローラにオイルがかからないようにオイルを抜取ります。

・給油栓を外し給油口より新しいオイルを検油栓まで入れます。



・エンジンを始動し，低速回転で10分程度運転しエンジンを停止して，再度オイルを検油栓まで補給します。

・油圧作動油……API・GL－４，SAE・10W－30

・オイル量……4.0Ｌ［ホッパ仕様］

4.5Ｌ［グレンタンク仕様］

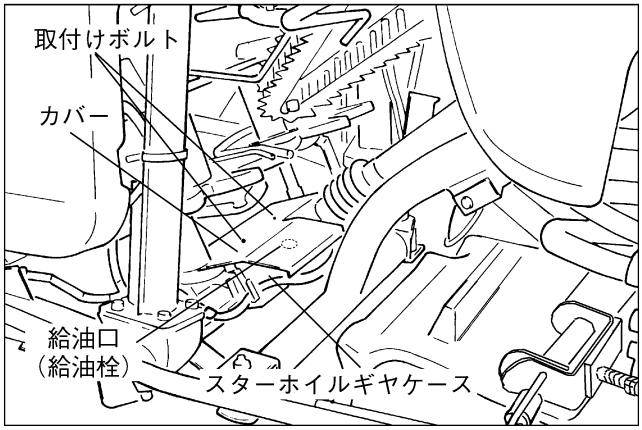
（10分運転後の補充分を含む）

取扱いのポイント

- **点検，交換後に排油栓，給油栓，検油栓が確実**

8．スターホイルギヤケース

・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。



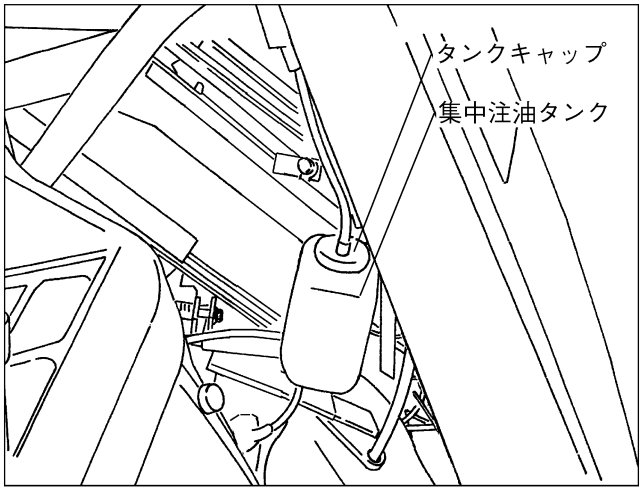
・刈取部左側のスターホイル下部にあるカバーを外しスターホイルギヤケースの給油栓を外して給油口より給油します。

・**ギヤオイル……API・GL－4級以上，SAE・140**

・**オイル量……0.25 L**

給油後に給油栓を取付けて，カバーを取付けます。

9．集中注油タンク

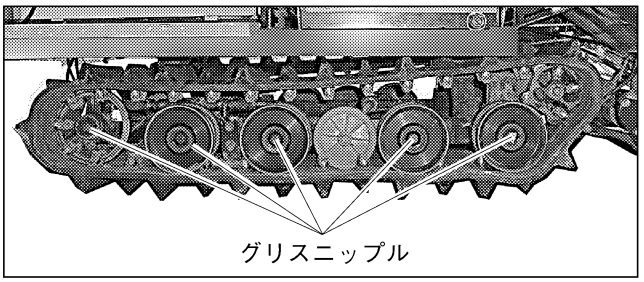


・刈取部サイドカバー（右）を外し，タンクに給油します。

・**エンジンオイル**を使用します。

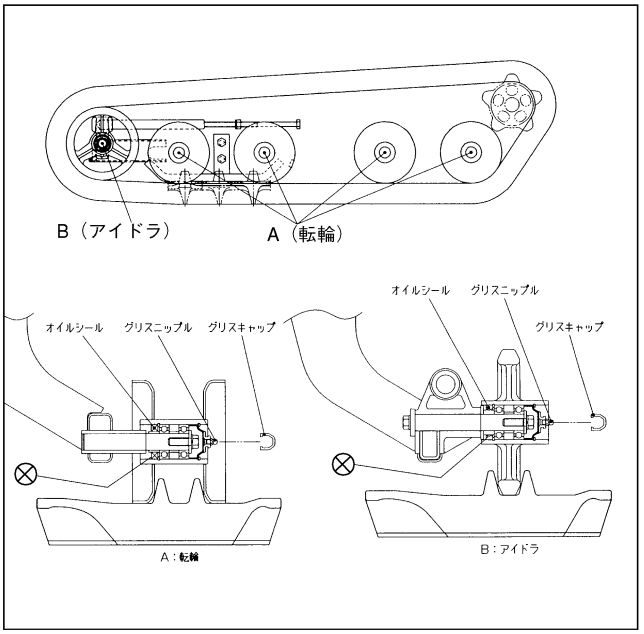
・**オイル量……0.7 L**

10．ローラ,アイドラのグリスアップ



・各部のグリスアップは50 a（アール）作業毎，湿田作業直後及び格納時に行います。

・グリスアップ個所は，下図のA（転輪）8ヶ所とB（アイドラ）2ヶ所です。



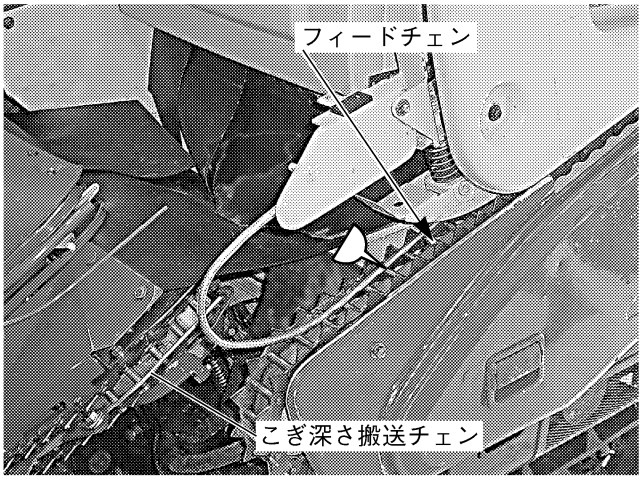
・グリスアップ個所のグリスキャップを取外し，グリスニップルからリチウムグリスをポンプでオイルシール部（⊗部）よりわき出るまで封入してください。グリスアップが終わりましたらグリスキャップを取付けてください。

11．こぎ深さ搬送チェン・脱こくフィードチェンの注油

始業前および20ａ（アール）刈取毎に「**油さし**」で行います。

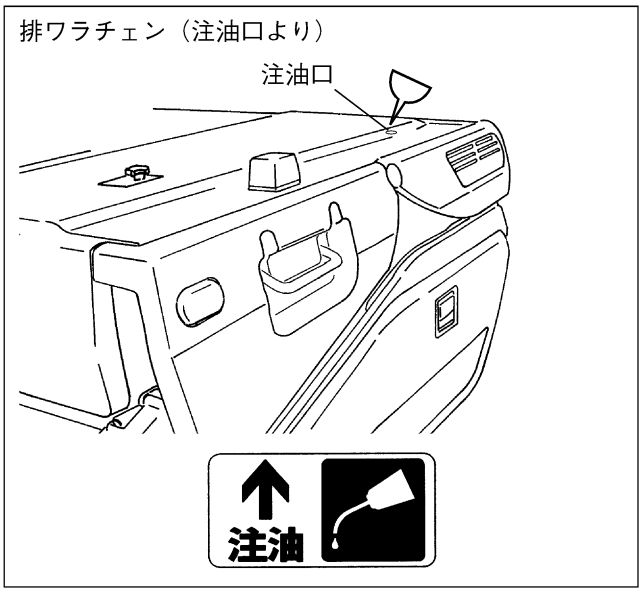
❶　こぎ深さ搬送チェン・脱こくフィードチェンに注油します。

❷　エンジンを始動し，作業機クラッチ，刈取クラッチを《**入**》にして，フィードチェン全体にオイルを行き渡らせます。



12．排ワラチェンの注油

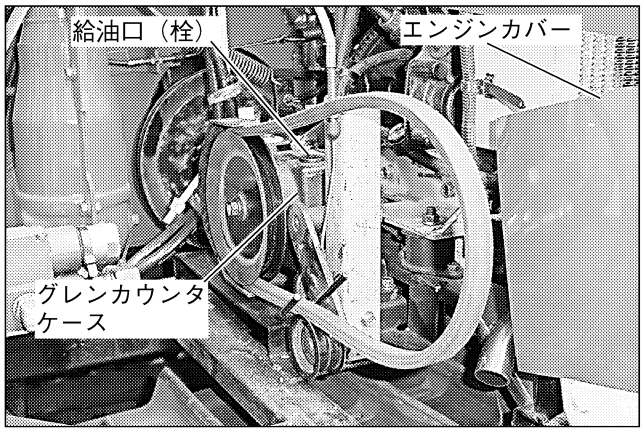
始業前および20アール刈取毎に「**油さし**」で注油口へ注油します。



13．グレン入力ギヤケース［グレンタンク仕様］

・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。

グレンタンクを回動（オープン）しエンジンカバーをオープンします。

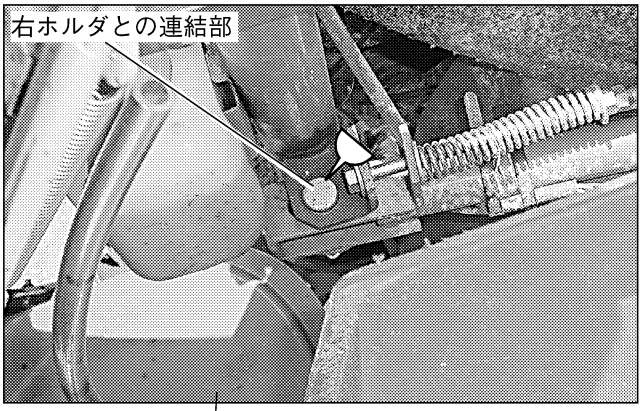


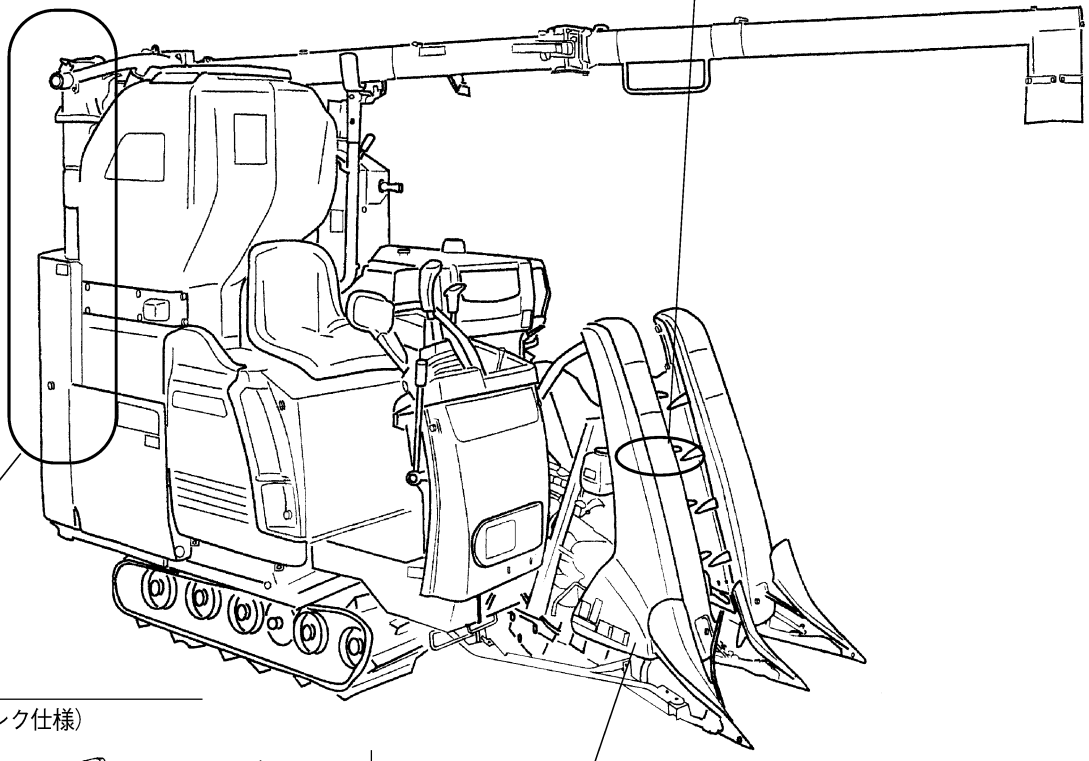
・給油口から油量を点検し，交換は全量交換します。

・ギヤオイル…API・GL－４級以上，
SAE・140

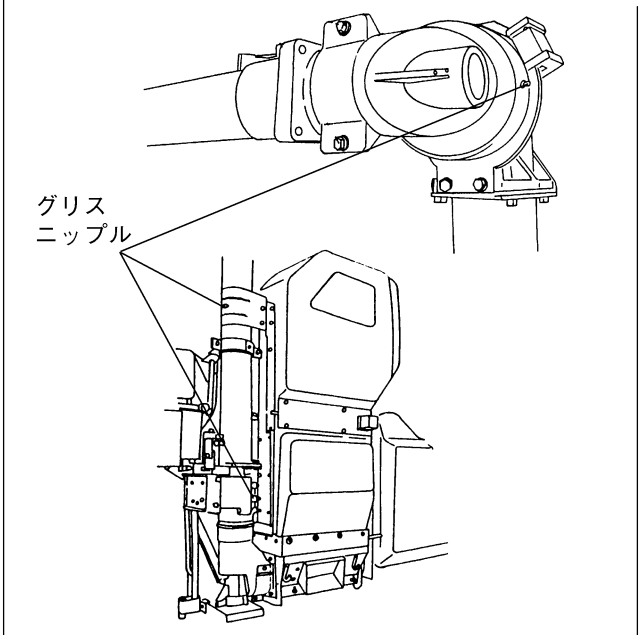
・オイル量……0.45Ｌ

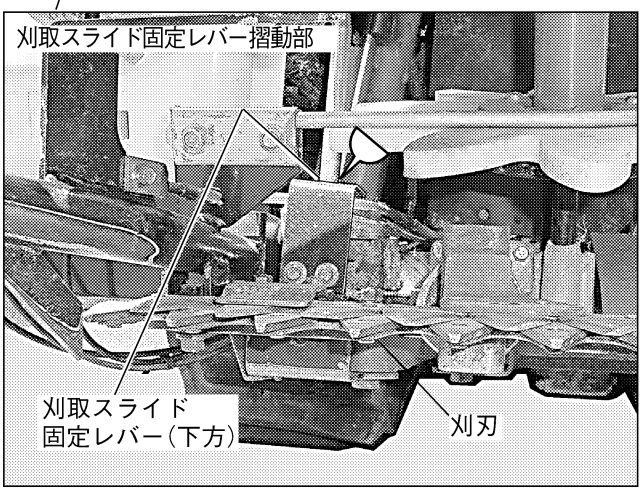
14．その他の注油個所





排出オーガ部（グレンタンク仕様）





15．集中注油の使いかた

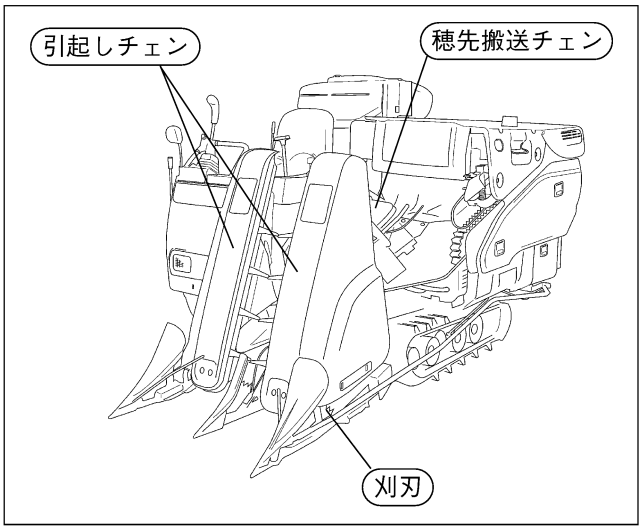
⚠警告 傷害事故防止のために

◆集中注油装置で注油する時は平坦な場所で，主変速（無段変速）レバーを《中立》位置にしてください。

◆集中注油装置で注油する時は周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

始業前および20アール刈取毎に実施します。

集中注油は注油レバーを操作するだけで，刈取部の刈刃，引起しチェン，穂先搬送チェン部の計４個所の注油ノズルからオイルが吐出し，注油ができます。

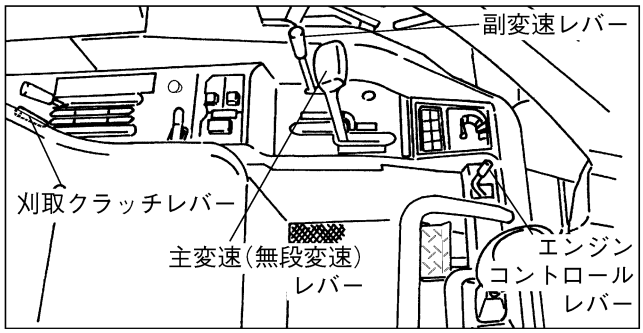




「注油操作手順」

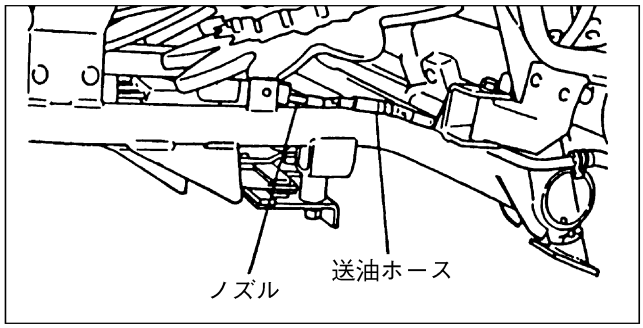
(1) エンジンを始動し，刈取部を約20㎝上げます。

(2) 副変速レバーは《**作業**》にし，刈取クラッチレバーを《**入**》にし，エンジンコントロールレバーを《🐢》（低速）にして刈取部を運転します。



(3) 注油レバーを「**数回押して**」注油します。

(4) 注油後，さらに刈取部を３分間程度運転し，注油がゆきとどいたことを確認します。



取扱いのポイント

- 注油中にオイルが流れて落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルはふき取ってください。
- ノズルが詰まると，注油の妨げとなりますので点検・掃除をしてください。（刈刃用ノズル）ノズルが詰まった場合は針などで詰まりを除去してください。
- 湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除する時に，ノズル・ノズル取付プレート・送油ホースをカマ等で損傷しないようにしてください。
- 送油ホースの継ぎ部等からオイルもれがないか，点検確認してください。
- 駐車ブレーキを《入》にしたり，走行クラッチペダルを踏込んだ状態にすると，刈取クラッチレバーを《入》にしても刈取部は作動しません。

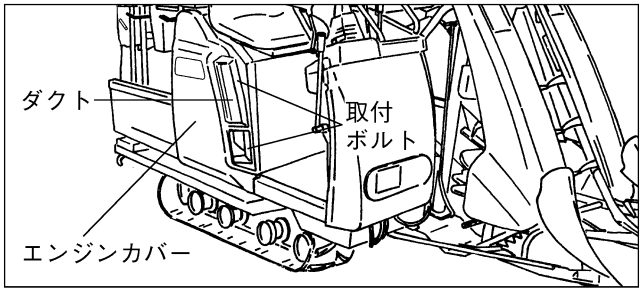
3．各部の点検と掃除のしかた

1．ラジエータ吸気部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

◆掃除はエンジンを停止して行なってください。
◆高温部が冷えてから作業をしてください。

エンジンカバーおよび金網，ラジエータフィンにゴミ等が目詰まりすると冷却風の通りが悪くなり，エンジンが「**オーバーヒート**」する原因となります。

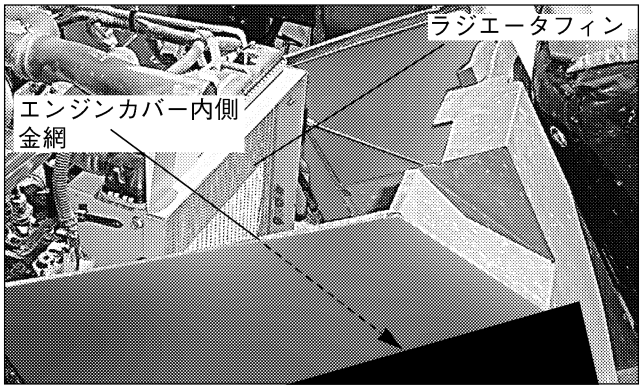


❶　エンジンカバーからダクトを外し，掃除します。（取付ボルト２ケ）

❷　エンジンカバーを開き内側を掃除します。

❸　エンジンカバー内側の，金網のゴミを，やわらかいブラシなどで掃き落とすか，コンプレッサでエアを吹きつけてゴミを取除きます。

ラジエータフィン部に「**ゴミ詰まり**」を生じた時は，電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押し当てないでください。強く押し当てるとフィンが変形する恐れがあります。



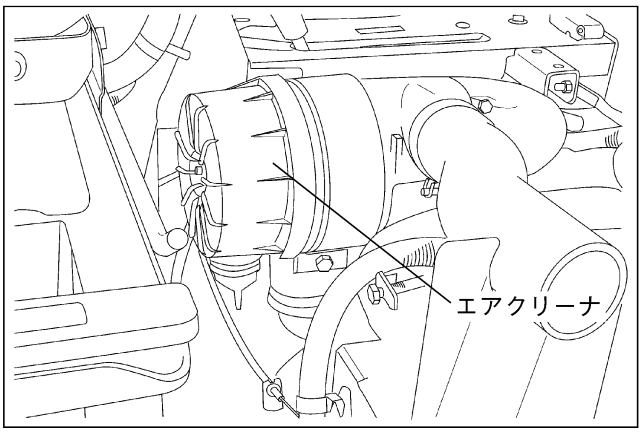
❹　エンジンカバーを閉じます。

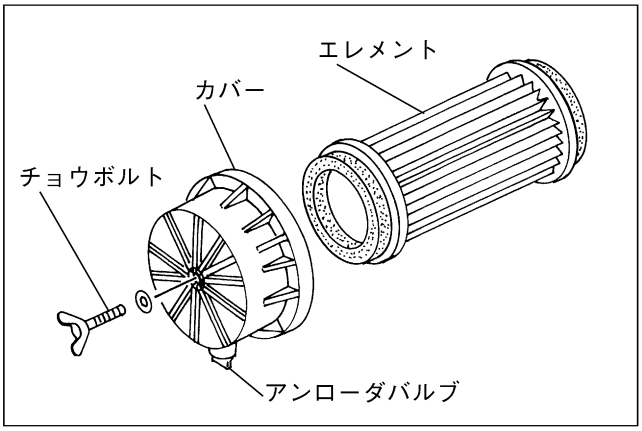
2．エアクリーナの掃除

エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

❶　エンジン後部カバーを外し，エアクリーナカバーのチョウボルトを外し，エレメントを取出します。

❷　エレメントは軽くたたくか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。





❸　取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。

取扱いのポイント

- **コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「７kgf/㎠以下」で行なってください。**

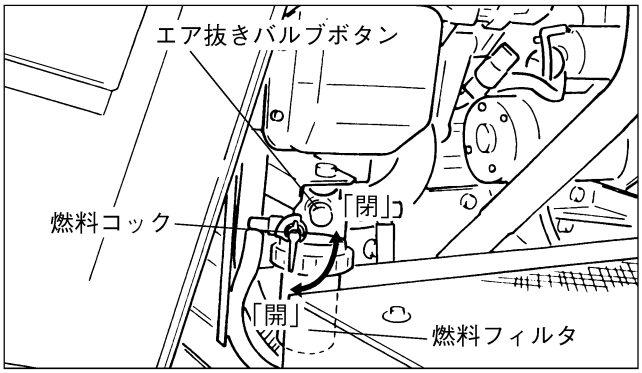
3．燃料フィルタの掃除・交換

⚠危険 火災防止のために

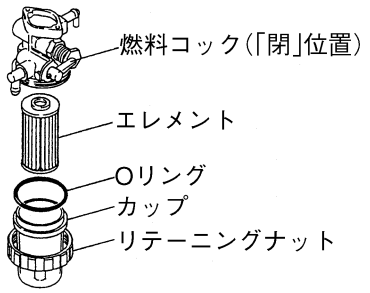
◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料がもれている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタは燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

掃除はシーズン前に行い，交換は250時間毎にエレメントとOリングを「**お買いあげ先**」で交換します。



燃料フィルタ
分解図



❶ エンジンカバーを開きます。

❷ 燃料コックを「**閉**」の位置にしてリテーニングナットを外します。

❸ フィルタカップを外し，きれいな軽油で洗浄します。

❹ エレメントを取外し，洗浄または交換します。

❺ Oリングに注意しながらエレメントとカップを取付け，リテーニングナットを締付けます。

❻ 燃料コックを「**開**」の位置にして，エア抜き要領に従ってエア抜きを行います。(**82ページ参照**)

❼ エンジンカバーを閉じます。

取扱いのポイント

- **燃料の中に，水やゴミ等が混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，燃料は燃料タンク給油口のフィルタを通して給油してください。**
- **燃料は雨水等がかからない場所に保管してください。**

4．燃料のエア抜きのしかた

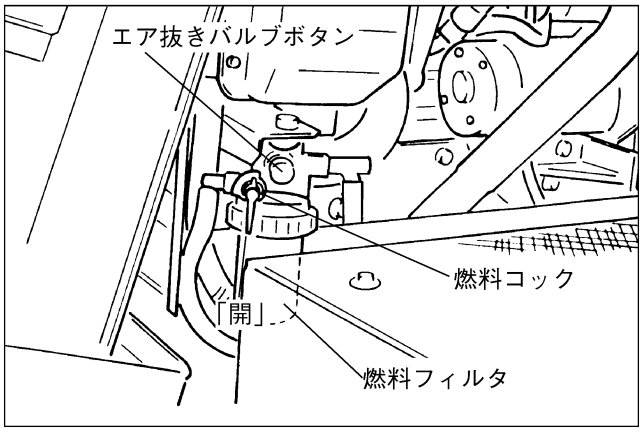
運転途中での燃料切れや，燃料フィルタの掃除や交換時はつぎの手順でエア抜きを行います。

❶ 燃料タンク給油口のフィルタを通して燃料を給油します。

・**燃料はディーゼル軽油**

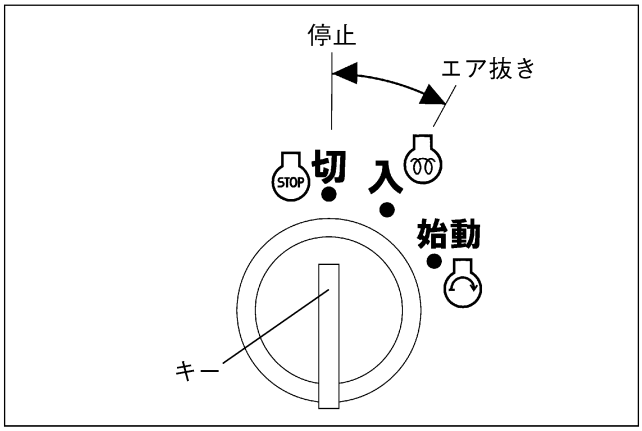
JIS 2 号（−7.5℃まで）

JIS 3 号（−20℃まで）



❷ 燃料フィルタの燃料コックを「**開**」位置にします。

❸ スタータスイッチを《 **入**》位置にします。（この時エンジンは始動しません。）



❹ 燃料フィルタのエア抜きバルブボタンを「**約30〜40秒間**」押し続けます。

❺ エンジンコントロールレバーを《 》（**高速**）位置にして，スタータスイッチを《 **始動**》にしてエンジンを始動します。

・始動しない場合は，もう一度❹項からの操作を行います。

5．電気配線の点検と掃除

⚠警告 ヤケドや火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《 切》位置にし，バッテリ⊖コードをバッテリ⊖端子（アース側）から外してください。

◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので交換してください。

◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ **電気配線の点検**

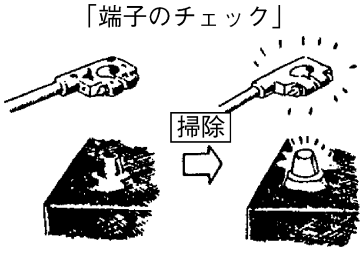
配線の端子部の「**緩み**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると電気部品の性能を損なうだけでなく「**ショート（短絡）**」等することがあります。

傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ **電気配線の掃除**

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部にたまっている「**ワラやゴミ**」などは「**火災**」の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐食**」することがあります。バッテリ端子が腐食すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐食をサンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。



6．バッテリの点検と充電

バッテリの残存容量と液量を確認します。

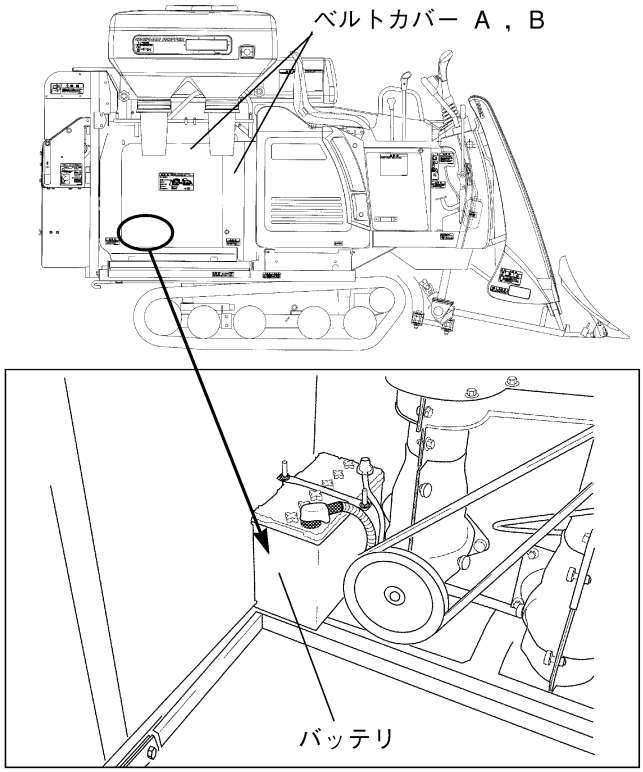
指定バッテリ…46B24R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

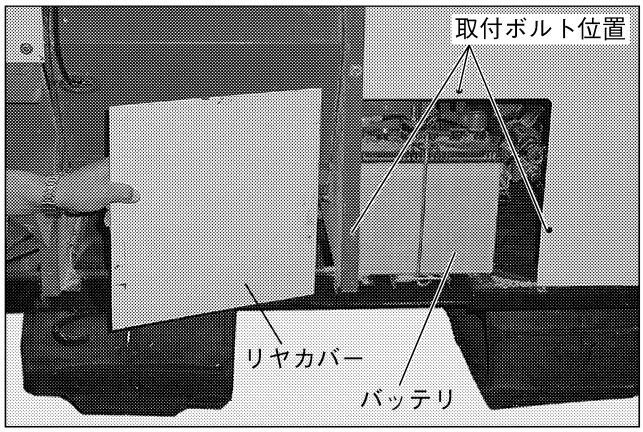
◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」する時は，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。
◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク」による電気火花で負傷をすることがあります。
◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。
◆バッテリを取外すときはバッテリ⊖コードを先にバッテリの⊖端子（アース側）から外し，次にバッテリ⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ⊕コードを先にバッテリ⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。
◆バッテリを充電する時は，液口栓をすべて取外してください。
◆バッテリは，充電する時引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。
◆⊖端子を取付けたままで充電すると発電器や電気配線を焼損することがあります。
◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をしてください。
◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。ヤケドをすることがあります。
◆充電の時「バッテリ液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入った時は，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
◆衣服についた時は水洗いし，弱アルカリ性石けんで硫酸分を洗い流してください。
◆バッテリの液量が側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になったままの使用，または充電するとバッテリの破裂（爆発）の原因になることがあります。

❶ バッテリの位置

［ホッパ仕様］はベルトカバーA，Bを外すと見えます。



［グレンタンク仕様］はグレンタンクを回動すると［ホッパ仕様］と同位置にあります。グレンタンクを回動しないでバッテリを点検，交換するには，カッタをオープンし，固定してリヤカバーを外します。



作業後はカバーを取付けてください。

取扱いのポイント

●カッタがオープンできない状態で作業する時は，厚手の手袋を着用し，カッタの刃に触れないように注意しながら作業してください。

❷ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと上下左右に動き，振動で電解槽やフタ等が摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

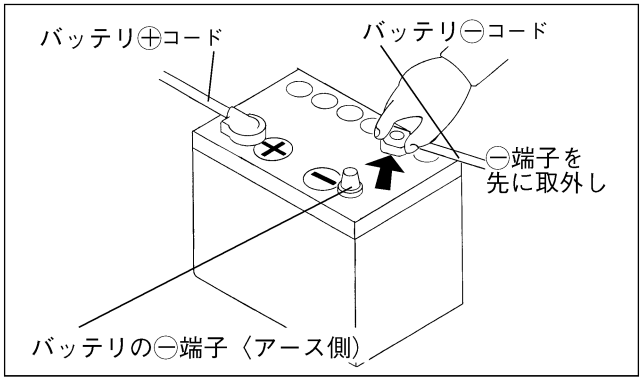
取付金具でしっかり固定します。

取付金具等が腐食していれば修理または取替えます。

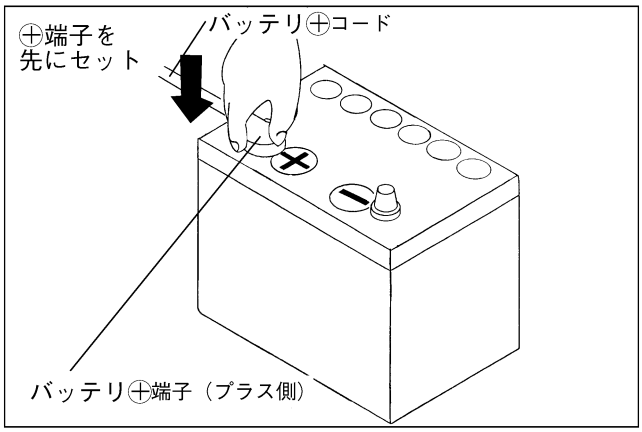
❸ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」する時は，エンジンを停止し，スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

(2) バッテリコードを端子から取外す時は「**⊖端子（アース側）**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子に**セットする時は**「**⊕端子（プラス側）**」を先に取付けます。



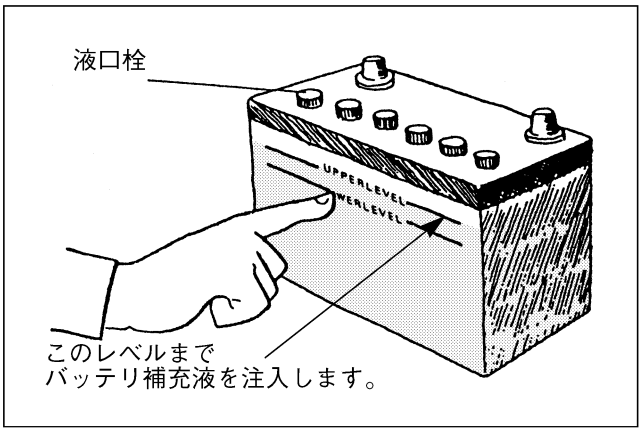
❹ 残存容量の確認

バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と，「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。「**お買いあげ先**」にて点検を受けてください。

❺ バッテリ液量の確認

バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

減っていれば，バッテリ補充液を「**UPPER LEVEL**」（上限）まで注水補給します。



❻ バッテリの充電（コンバインにバッテリを搭載した状態）

(1) **ブースタケーブルの使いかた**

バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動するため，ブースタケーブルを使用します。このときは次の手順を守って行います。

(2) **ブースタケーブルの接続のしかた**

①［**ホッパ仕様**］はベルトカバーA，Bを外し，［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを回動します。

②放電バッテリ⊕端子のキャップを外しブースタケーブル（赤）のクリップを接続します。

③ブースタケーブル（赤）のクリップを正常車のバッテリ⊕端子に接続します。

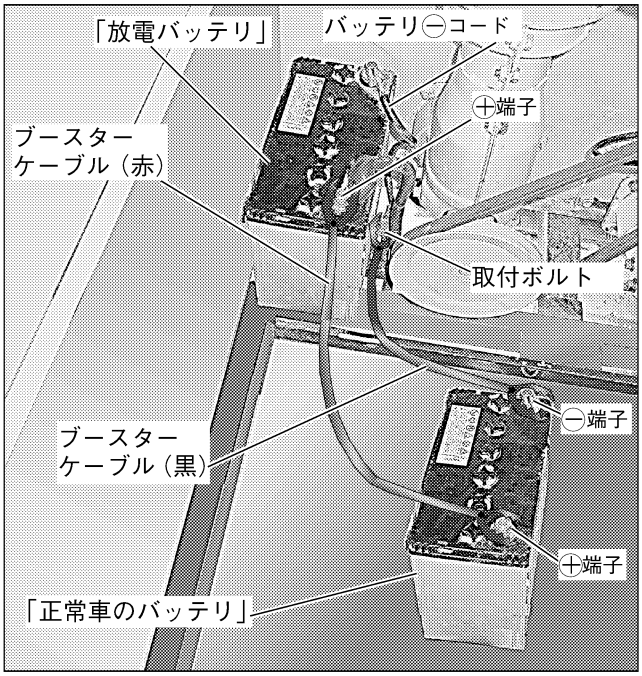
④ブースタケーブル（黒）のクリップを正常車のバッテリ⊖端子に接続します。

⑤ブースタケーブル（黒）のクリップを放電バッテリ⊖コードの取付ボルトに接続します。

放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくい時は正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

⑶ **ブースタケーブルの取外しかた**

1．接続の手順と逆の手順（⑤→④→③→②→①）で行います。



取扱いのポイント

- **指示と異なるボルトにクリップを接続しないでください。**

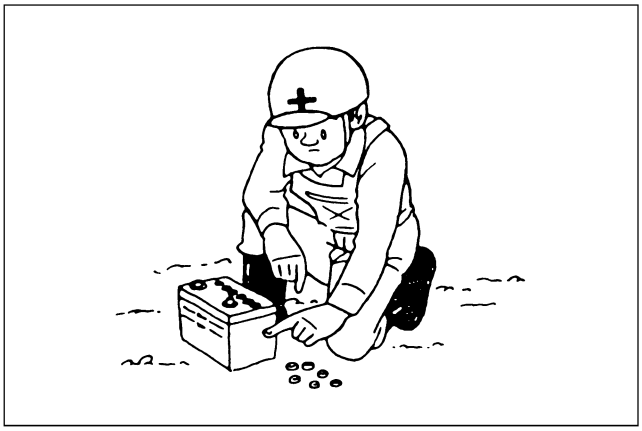
❼ **バッテリの充電（コンバインからバッテリを外した状態）**

⑴ 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

⑵ 機械からバッテリを取外します。

⑶ 「**液口栓**」をすべて取外します。

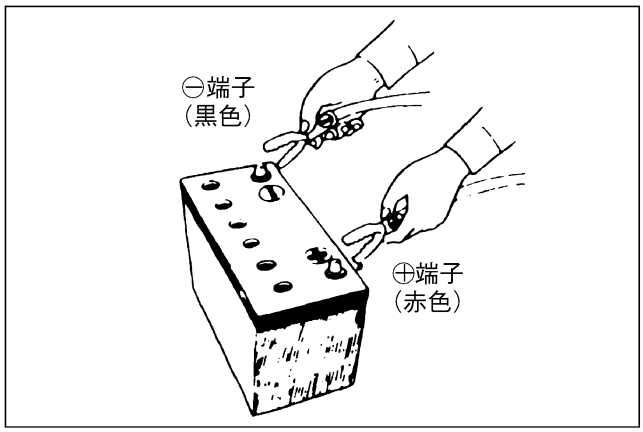
⑷ 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が「**45℃**」を超えないようにします。



⑸ 「**水素ガス**」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をします。

⑹ 「**火気**」を近づけたり「**スパーク**」による電気火花が発生しないようにします。

⑺ 充電器のクリップを着脱する時は，充電器のスイッチを「**切**」にし，㊉端子（赤色）・㊀端子（黒色）を正しく取付けます。



⑻ 充電の時「**バッテリ液**」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにします。

取扱いのポイント

- **各端子は「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けの時，バッテリ端子部は布などで油等をふき取ってください。取付け後バッテリ端子部には，腐食防止のためグリスを塗布してください。**
- **バッテリ㊉端子のゴムブーツは，取付けてください。**
- **厳寒時は，機械を格納する時にバッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは新品と取替えてください。汚れていれば清水で洗浄してください。洗浄後は水分を拭きとってください。**
- **化学繊維製布による拭きとりは，静電気が発生する恐れがありますのでさけてください。**

7．グレンタンクの回動のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆グレンタンクを回動する時は，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

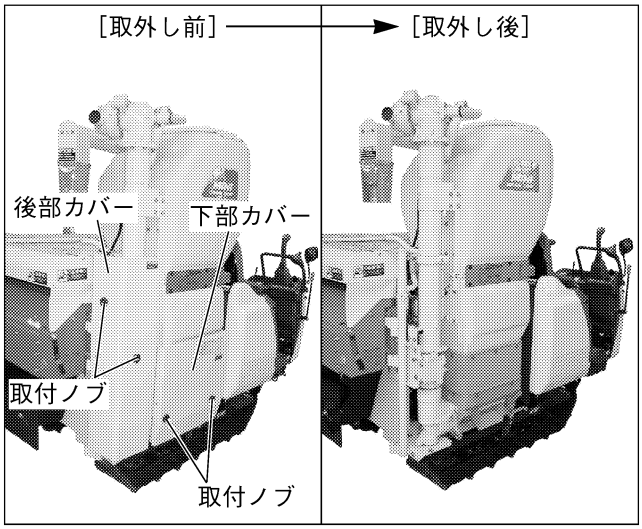
◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態で回動させると故障の原因となります。

◆グレンタンクを収納したら，グレンタンク固定金具，固定ピンでタンクを固定してください。

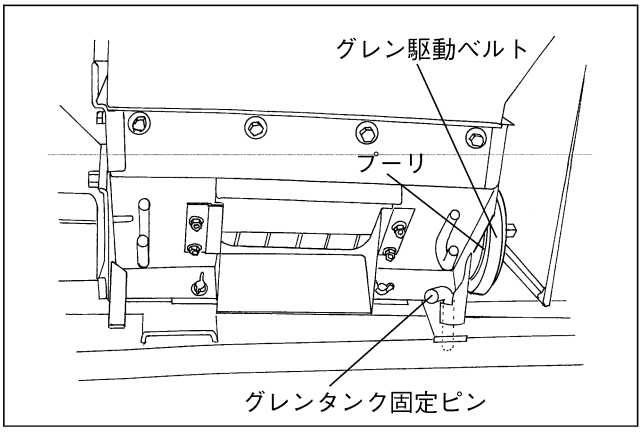
◆作業後カバーを取付けてください。

エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をする時はグレンタンクを回動して行います。

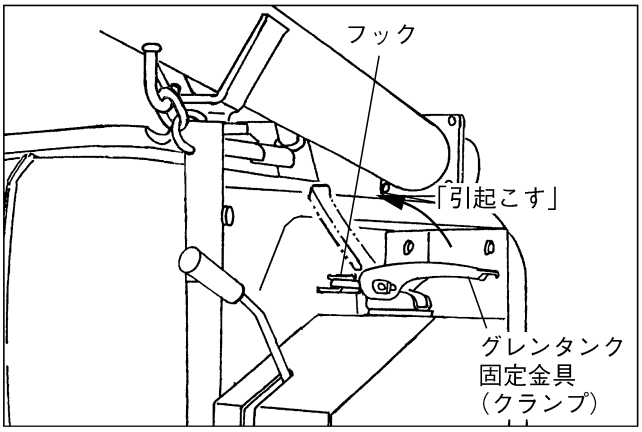
❶ グレンタンク下部カバー，後部カバーの取付ノブをゆるめて外し，カバーを取外します。



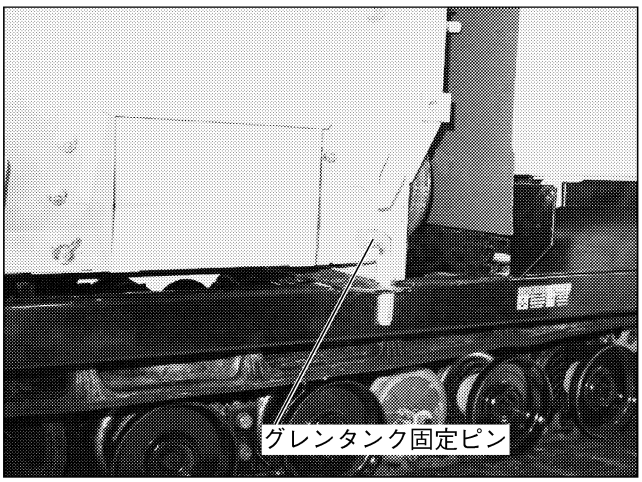
❷ グレン駆動ベルトをプーリより外します。



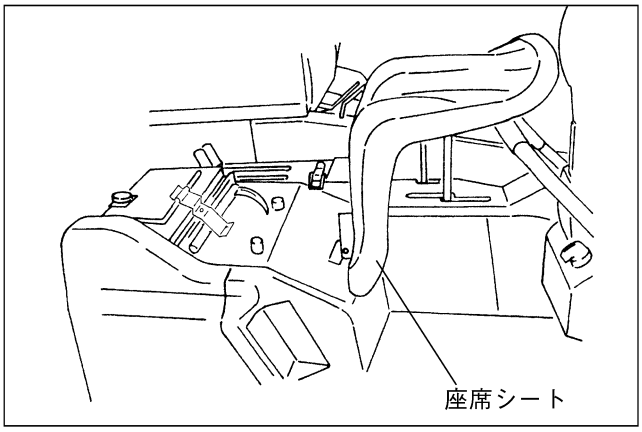
❸ グレンタンク固定金具（クランプ）を引き起こし，フックから金具を外します。



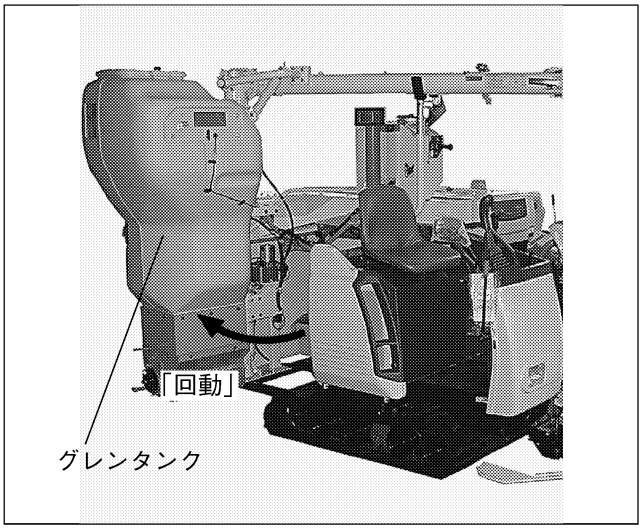
❹ グレンタンク固定ピンを抜きます。



❺　座席シートを前方へ倒します。



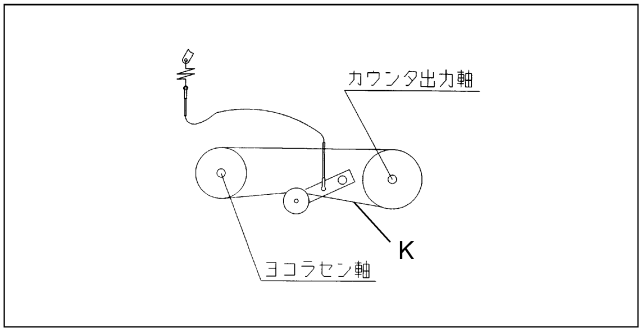
❻　グレンタンクを回動します。



❼　タンク収納は❶～❻と逆の手順で行います。

取扱いのポイント

● タンク収納後はベルトの掛け方が間違っていないか，再度確認してください。



8．脱こく内部の掃除

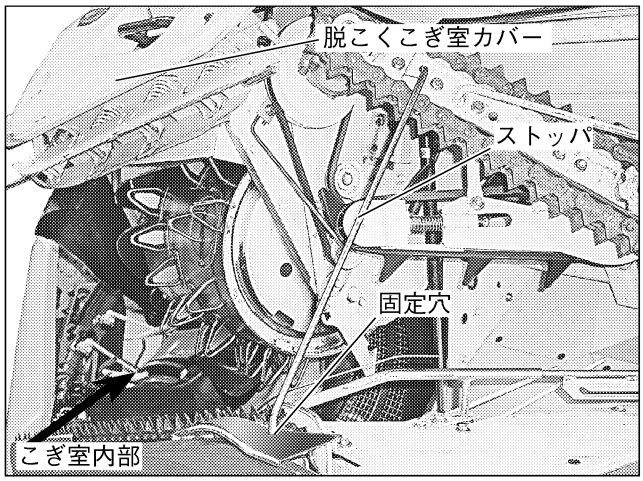
異品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆各カバー，フタを開き，脱こく内部を掃除する時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆２人以上で作業する場合，回転部を動かすときは互いに声をかけあい，確認してから行なってください。
◆脱こくこぎ室カバーを開いた時は，ストッパをかけてください。
◆カッタをオープン状態で点検作業する場合は固定（ロック）にして作業を行なってください。
◆作業後カバーを取付けてください。

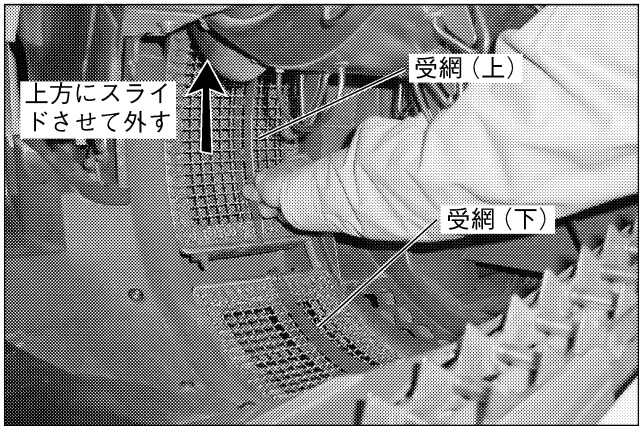
❶　こぎ室内部，脱こく受網の掃除

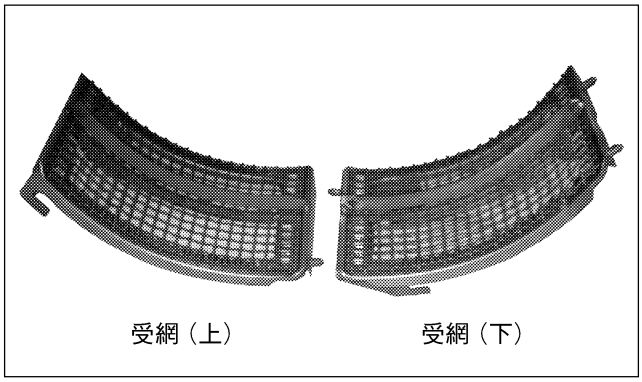
⑴　脱こくこぎ室カバーを開いてストッパで固定します。



⑵　こぎ室内部にたまった穂切れ・ワラクズ等を掃除します。

(3) 受網を上方へスライドさせ，引出します。
受網を取外して，受網にささったワラクズを掃除します。





(4) 受網の取付けは取外しと逆順に装着し，固定します。

(5) 脱こくこぎ室カバーを降ろし，固定します。

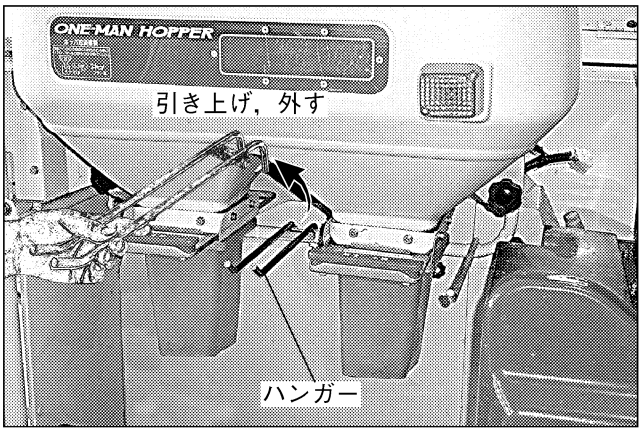
取扱いのポイント

- **受網が装着できないときは脱こく本体側に付着しているワラクズを取除いてください。(受網先端部にたまっているクズは脱こく入口部より取除きます。)**
- **シーズンオフの長期格納時には受網は取外して掃除をしてください。**
  （格納中の錆付こう着防止のため）

❷ ハンガーの取り外し［**ホッパ仕様**］

(1) 第２こぎ室，揚こくラセンの掃除，ベルトの点検，調整時には，ハンガーを取り外して行います。

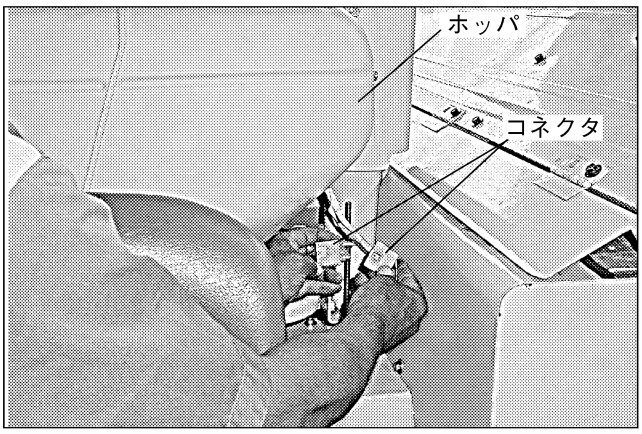
(2) ハンガーを上方に引き上げ，外します。



❸ ホッパの取り外し［**ホッパ仕様**］

(1) 第２こぎ室，揚こくラセンの掃除，ベルトの点検，調整時には，ホッパ取り外して行います。また，ホッパ内部を掃除する時も外して行うと容易です。

(2) ホッパとコンバイン本体を接続している電気配線のコネクタ部を外します。



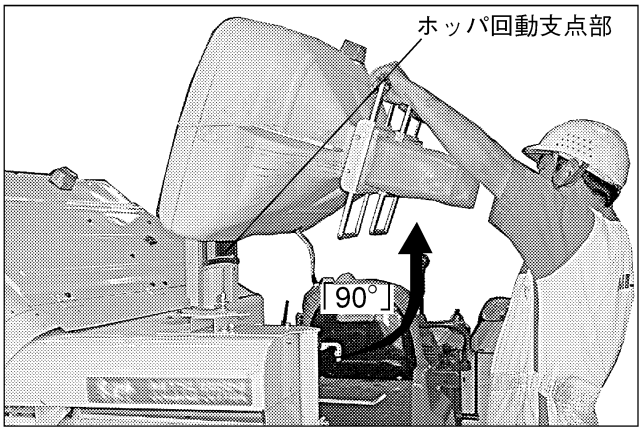
取扱いのポイント

- **ホッパ内のこく粒を全て排出してから，ホッパを取り外してください。ホッパ内にこく粒が入ったままだと機械を破損する事があります。**

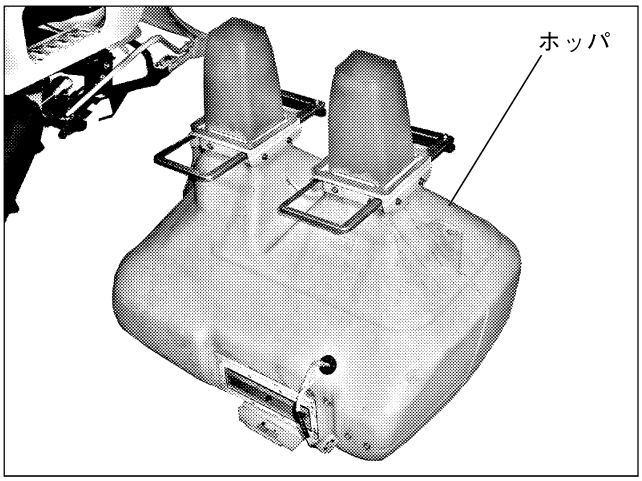
(3) 固定ノブを緩めて，外します。



(4) ホッパ下部を両手で支えて，矢印の方向に「90°」回動させながら持ち上げます。この状態でホッパを少し押し出すと，回動支点部から外れます。



(5) ホッパを作業の妨げにならない所に静置します。



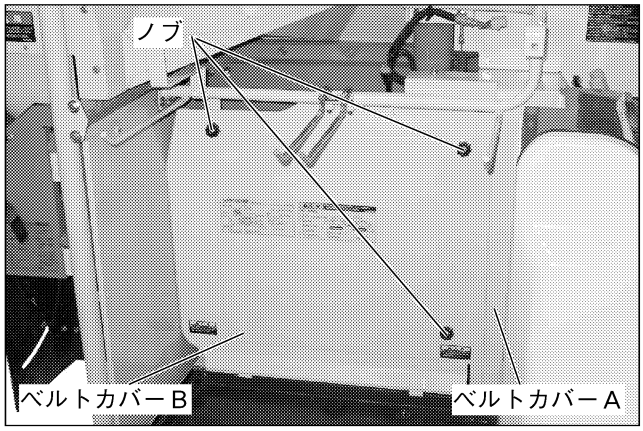
❹ ベルトカバーA，Bの取り外し

(1) 第2こぎ室，揚こくラセンの掃除，ベルトの点検，調整時には，ベルトカバーA，Bを取り外して行います。

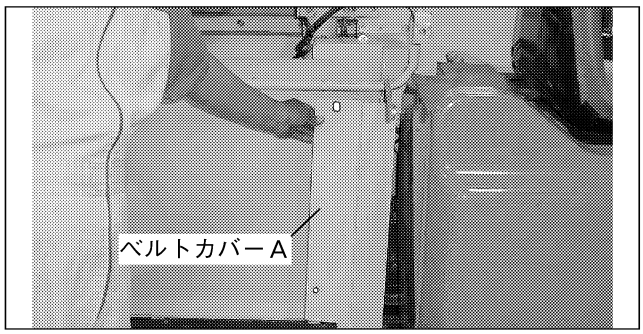
(2) **「グレンタンク仕様」**は，グレンタンクを回動（オープン）します。**(86〜87ページ参照)「ホッパ仕様」**はホッパとハンガを外します。**(88〜89ページ参照)**

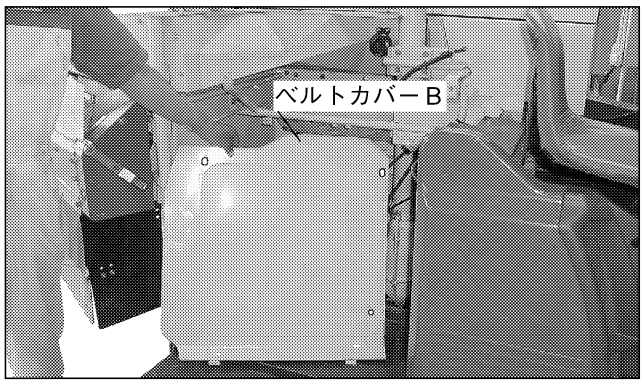
(3) カバーはノブをゆるめて外します。（3ケ）

「ホッパ仕様」

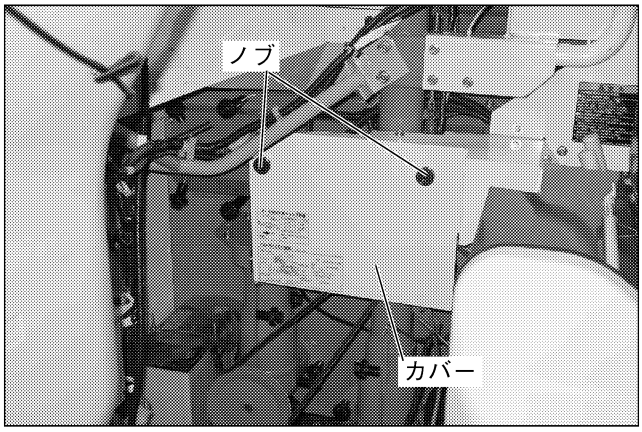


(4) **「ホッパ仕様」**はベルトカバーA，ベルトカバーBの順に外します。固定ノブを緩めて，外します。





「グレンタンク仕様」

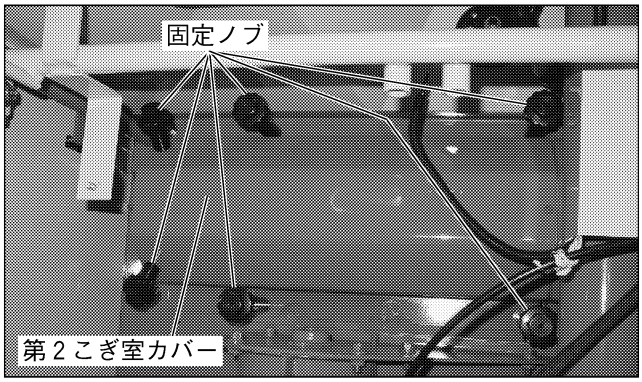


❺ 第２こぎ室，受網の掃除

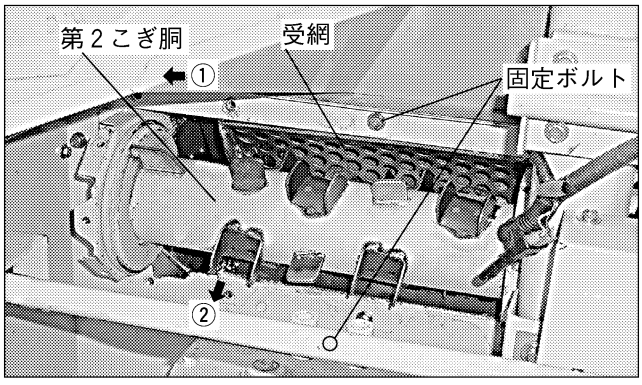
⑴ 「**グレンタンク仕様**」は，グレンタンクを回動（オープン）します。(**86～87ページ参照**)「**ホッパ仕様**」はホッパとハンガを外します。(**88～89ページ参照**)

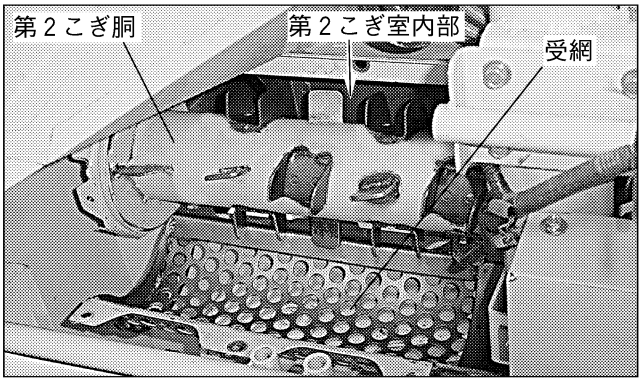
⑵ ベルトカバーＡ，Ｂを取り外します。

⑶ 固定ノブを取り外し，第２こぎ室カバーを取り外します。（６ケ）



⑷ 受網の固定ボルトを外し，受網を矢印①方向にズラします。次に矢印②方向に第２こぎ胴を回転させながら同じように受網も下側にスライドさせて外します。





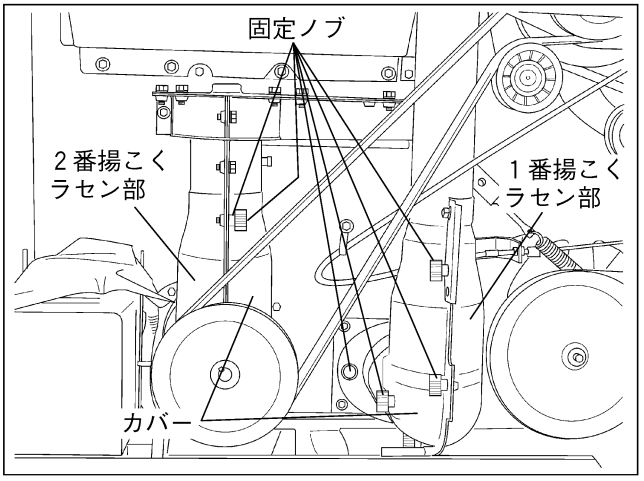
⑸ 第２こぎ室内部と受網に付着したワラクズや残粒を取り除きます。

❻ １番揚こくラセン部，２番揚こくラセン部の掃除

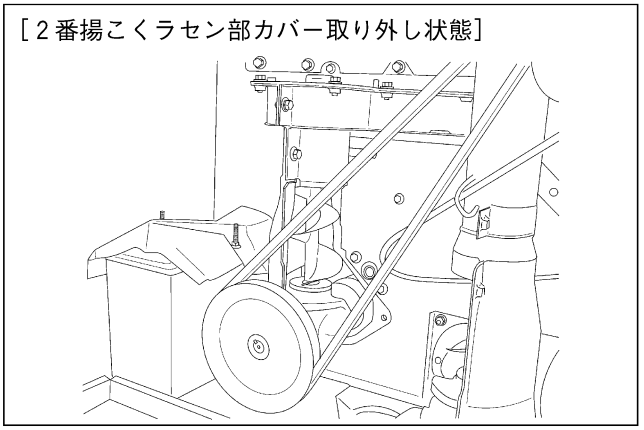
⑴ 「**グレンタンク仕様**」は，グレンタンクを回動（オープン）します。(**86～87ページ参照**)「**ホッパ仕様**」はホッパとハンガを外します。(**88～89ページ参照**)

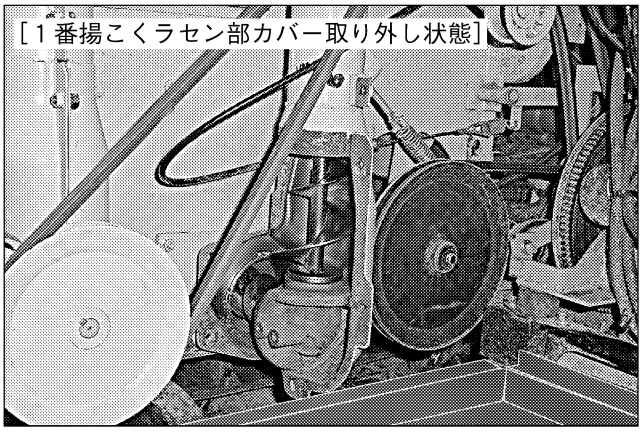
⑵ ベルトカバーＡ，Ｂを取り外します。

⑶ 固定ノブ（11ケ）を取り外し，１番揚こくラセン部，２番揚こくラセン部各々のカバーを取り外します。



［２番揚こくラセン部カバー取り外し状態］



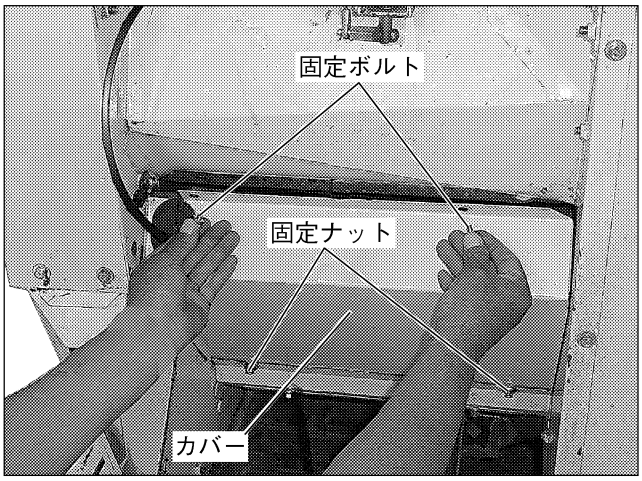


(4)　１番揚こくラセン部，２番揚こくラセン部内部に付着したワラクズや残粒を取り除きます。

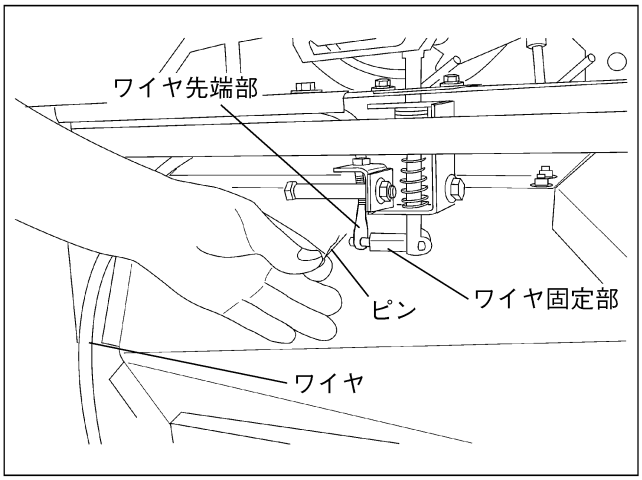
❼　揺動流板の取外し

(1)　カッタをオープンします。**(96〜97ページ参照)**

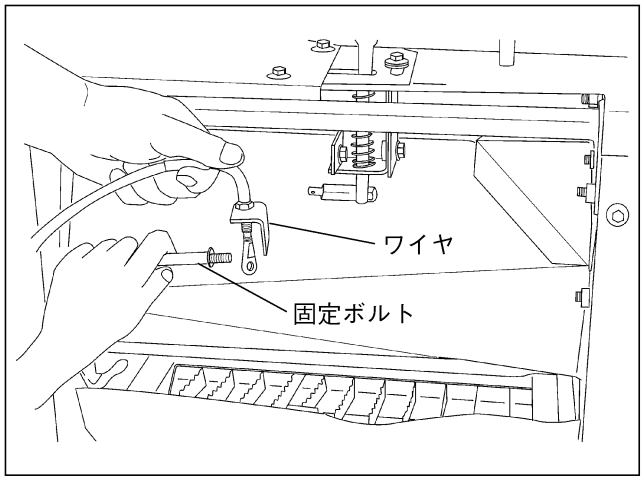
(2)　固定ボルト，ナットを取り外し，カバーを外します。



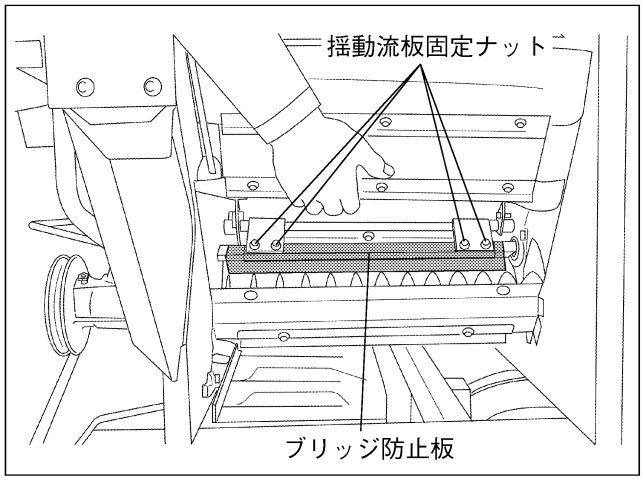
(3)　ワイヤ固定部よりピンを抜き取り，ワイヤ先端部を取り外します。



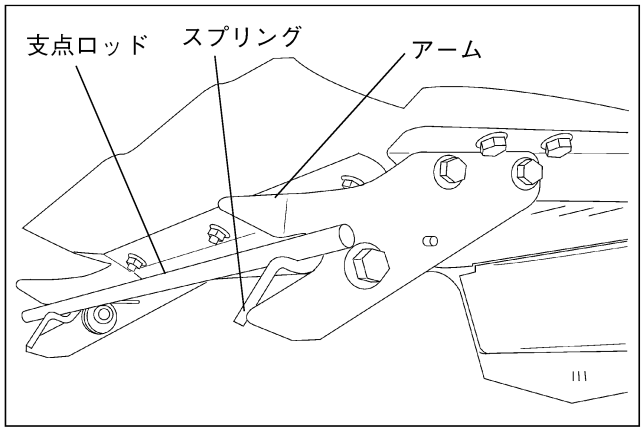
(4)　固定ボルトを外し，ワイヤを取り外します。



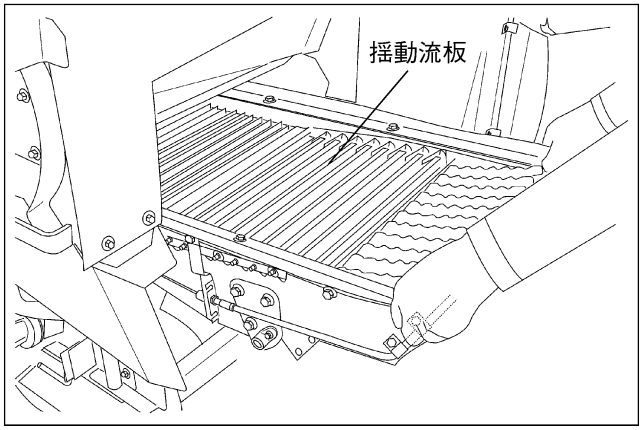
(5)　揺動流板固定ナットを外し，ブリッジ防止板を外します。



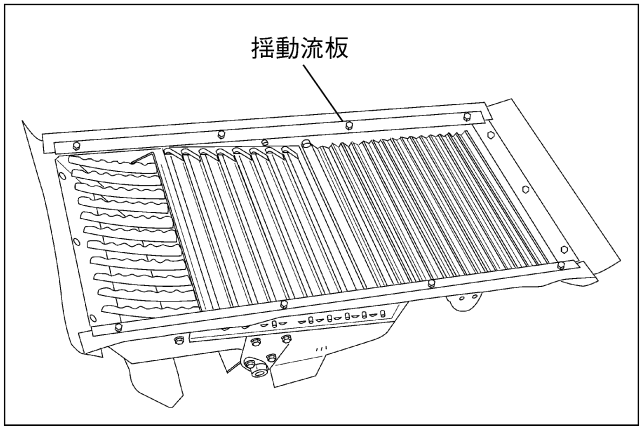
(6)　支点ロッドにスプリングがかみ込んでいますので，揺動流板後部を手で持って後方に引き，外してください。



(7) 揺動流板後部を手で持って，ゆっくりと抜き出します。



(8) 落とさないように注意しながら，揺動流板を作業の妨げにならない場所に静置します。

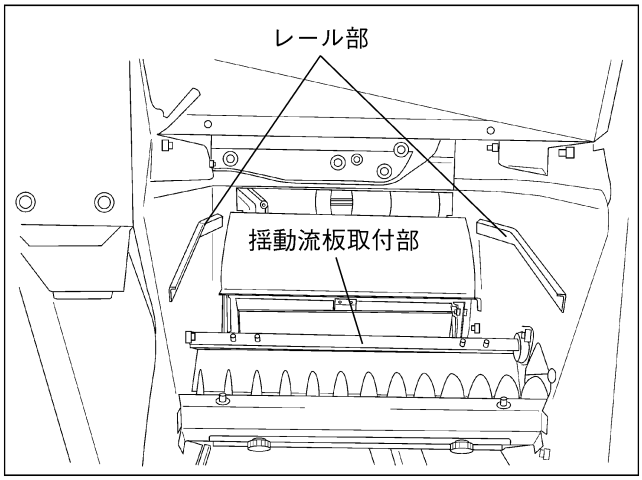


(9) 揺動流板に付着したワラクズや残粒を取り除きます。

❽ 揺動部の掃除

(1) 揺動流板を取り外します。

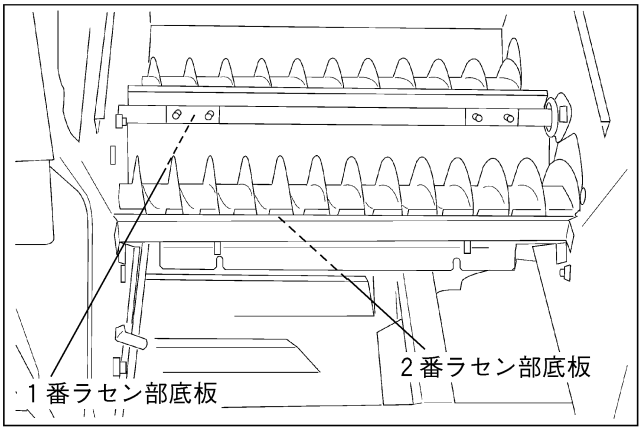
(2) レール部，揺動流板取付部に付着したワラクズや残粒を取り除きます。



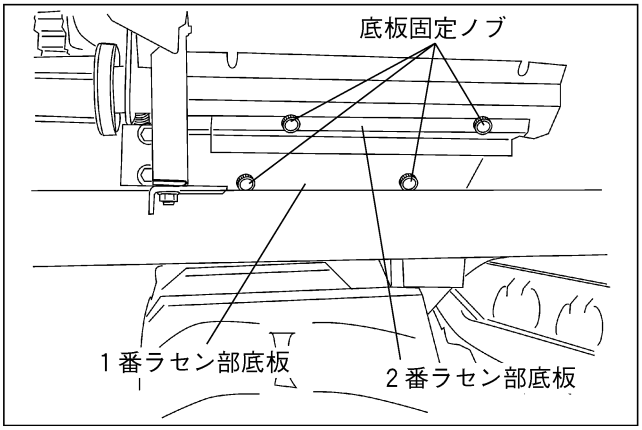
❾ 脱こく底板の掃除

(1) 揺動流板を取り外します。

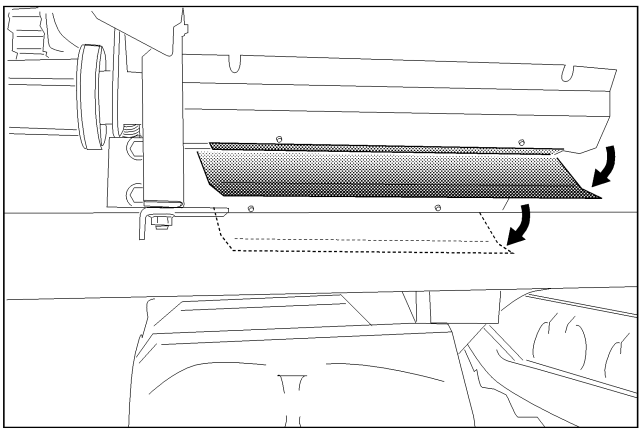
(2) １番ラセン部，２番ラセン部の底にワラクズや残粒がたまっています。



(3) 底板固定ノブを外します。



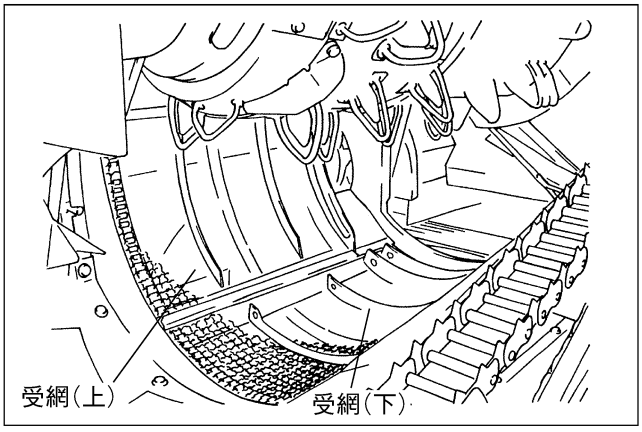
(4) 底板を開いて中のワラクズや残粒を排出します。



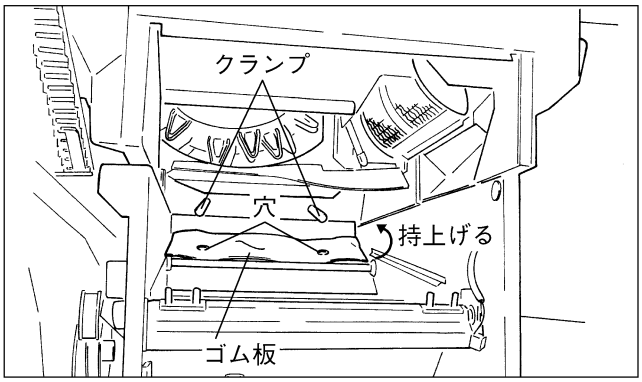
(5) 掃除が終わったら，底板を閉じてノブで固定します。

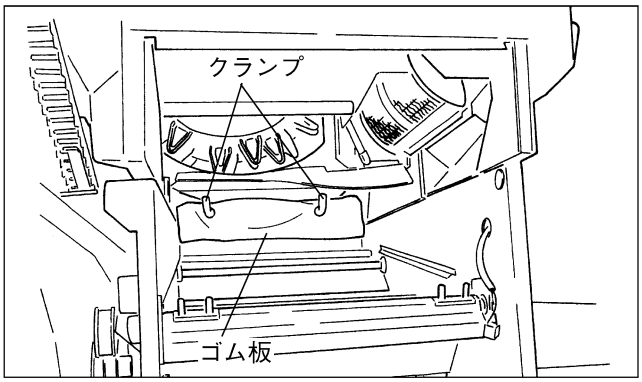
⑩ 揺動流板の取付けかた（２人作業）

(1) 脱こく部を開いた状態にし，受網（上),(下）の順で外します。



(2) 揺動流板前方のゴム板を持上げてゴム板の穴にクランプを通して固定します。(揺動流板でゴム板を噛込む事を防ぐため)



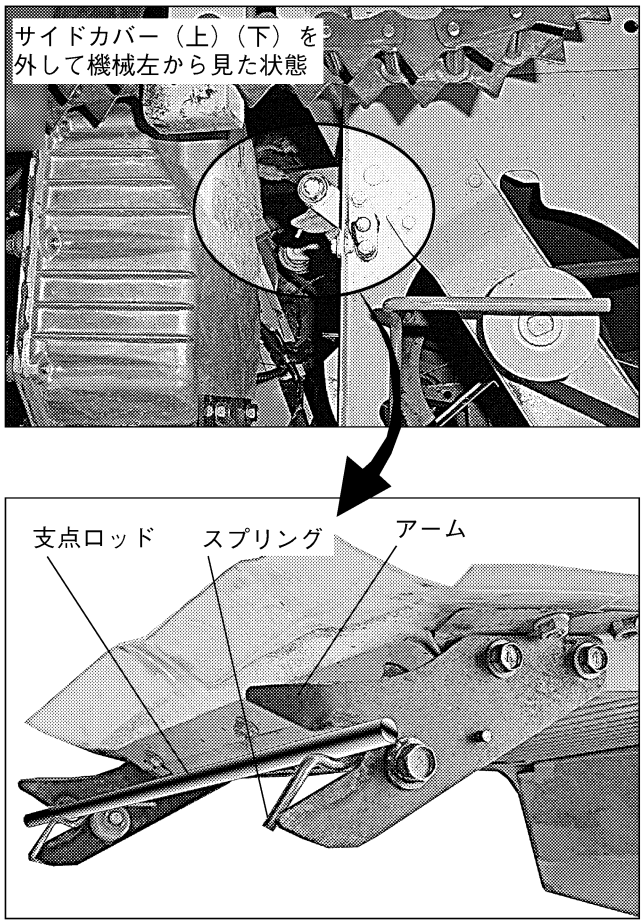


(3) 取外しと逆の手順で取付けます。

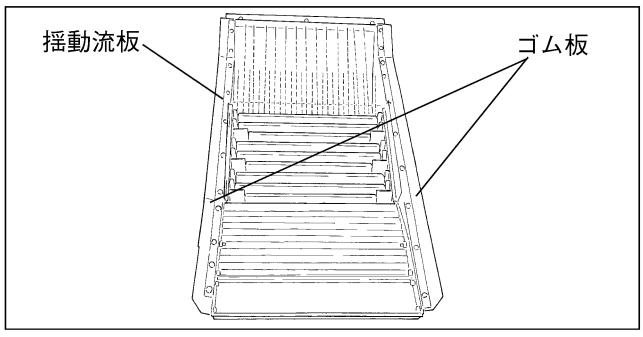
(4) 揺動流板先端のスプリングが，支点ロッドにかみ込んだ事を確認します。

取扱いのポイント

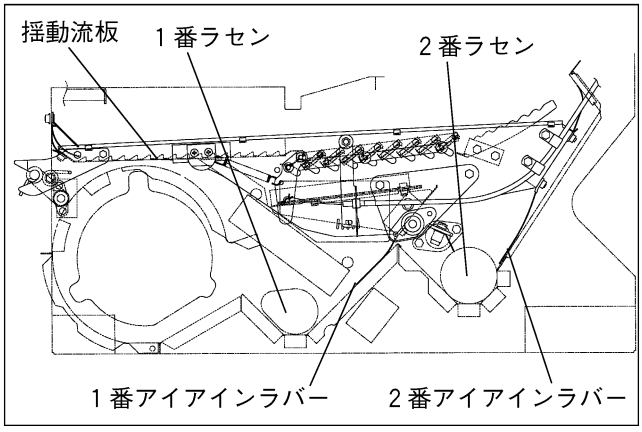
- **揺動流板を押し込んだとき，揺動流板先端のアームとスプリングが，支点ロッドを挟み込んでいるか確認してください。挟み込んでいない状態で機械を作動させると正常に機能しないばかりでなく，故障の原因になります。**



(5) 揺動流板両面のゴム板がかみこんで折曲がっていないことを確認します。

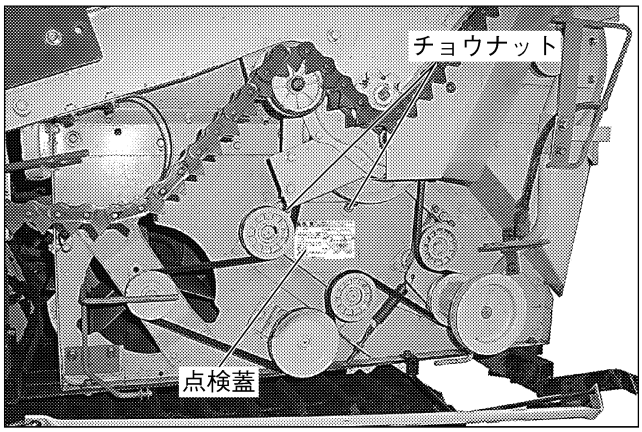


(6) 揺動下部の１番，２番ラセンアイアンラバーが折曲がらずにラセン部に入っている事を確認します。



取扱いのポイント

- **２番アイアンラバーは後方から確認します。１番アイアンラバーは点検蓋を外して確認してください。**



(7) (2)で固定したゴム板をクランプから外し揺動流板の上にのせます。

(8) 受網をセットします。

(9) 「**❼揺動流板の取外し**」の(5)→(4)→(3)→(2)→(1)の手順に作業すると，揺動流板を取付ける事ができます。

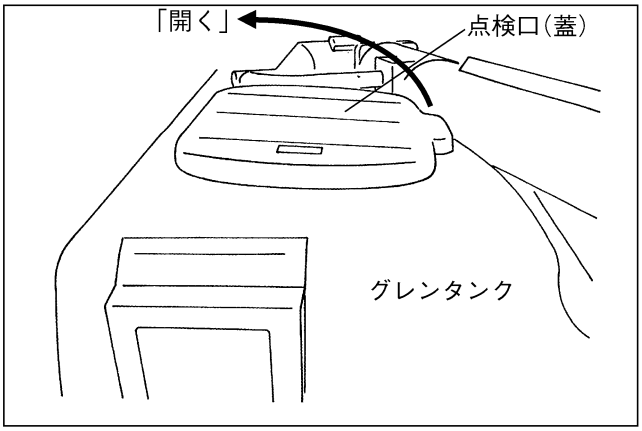
９．グレンタンク部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

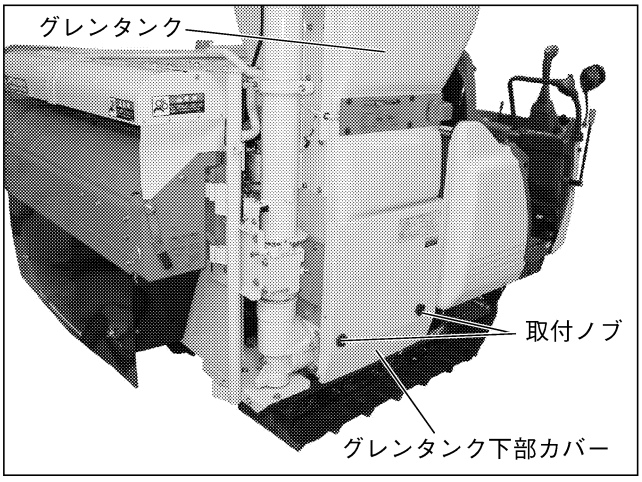
◆グレンタンクの掃除をする時は平坦な場所でエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ各部の動きが止まってから行なってください。

❶ グレンタンク内の掃除

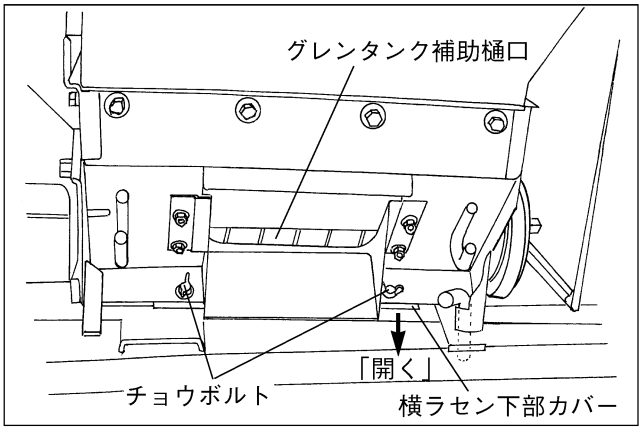
(1) グレンタンク上部の点検口を開き内部を確認し，必要によりホウキ等でホコリを払います。



(2) グレンタンク下部カバーの取付ノブ２ケをゆるめて外し，下部カバーを取外します。



(3) グレンタンク補助樋口下方2個所のチョウボルトをゆるめて外し，横ラセン下部カバーを開き内部を掃除します。

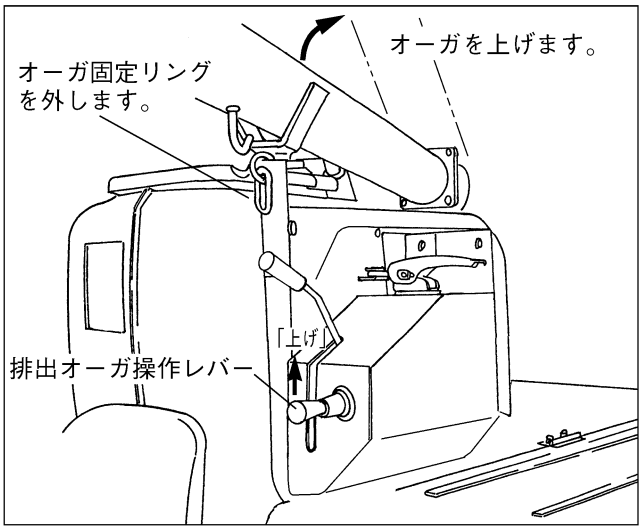


❷ 縦ラセン筒上部の掃除

(1) エンジンを始動します。

(2) オーガ固定リングを外します。

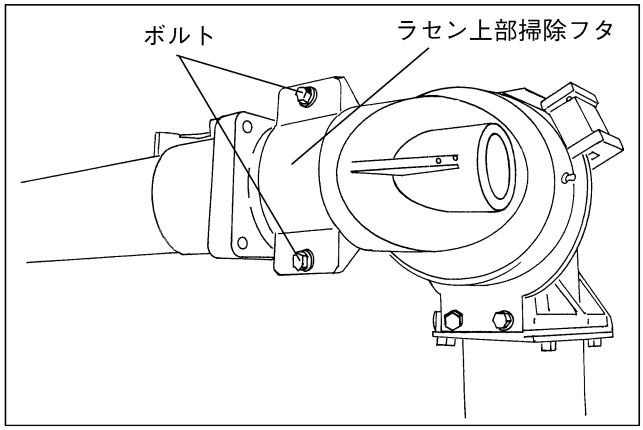
(3) 排出オーガ操作レバーでオーガを上げます。



(4) エンジンを停止します。

(5) ラセン上部掃除フタ（2ケ所）のボルトをゆるめてフタを開きます。

(6) 内部を掃除します。

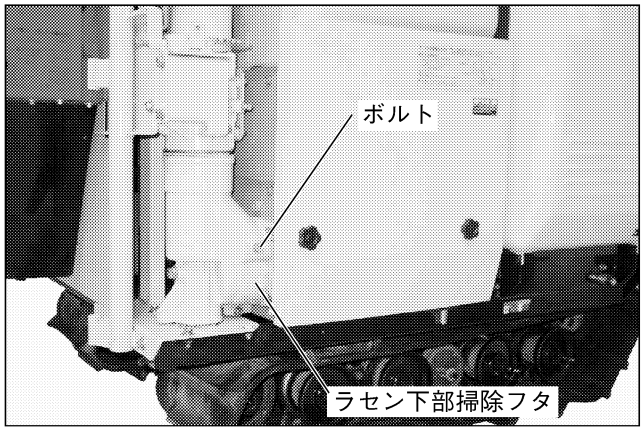


(7) 掃除を終わったらエンジンを始動し，排出オーガ操作レバーでオーガを収納します。

(8) オーガ固定リングを掛けます。

❸ 縦ラセン筒下部の掃除

(1) ボルトをゆるめ縦ラセン下部の掃除フタを開いて，掃除します。

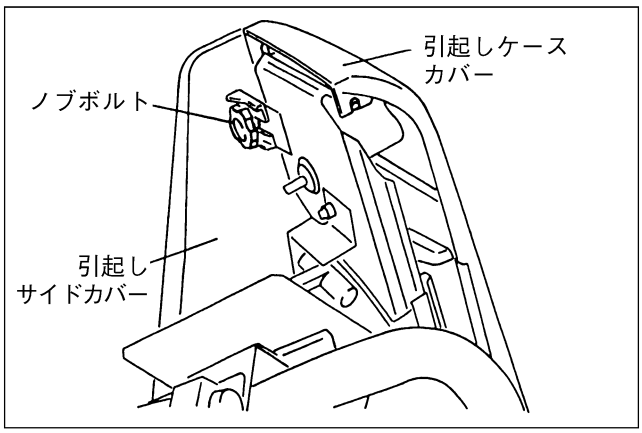


取扱いのポイント

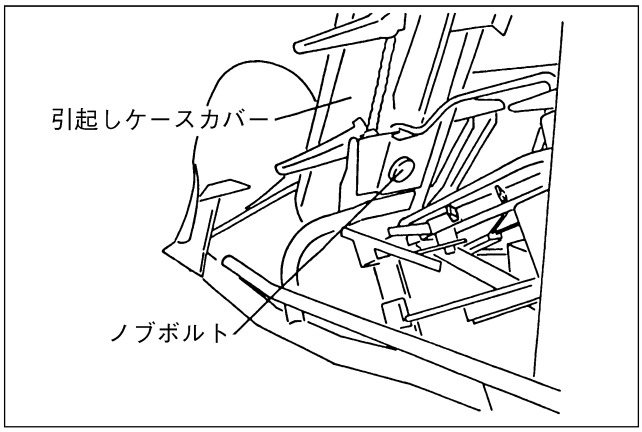
- **各掃除フタ（カバー）はモミかみ等によるスキマがないことを確認して，確実に締めてください。**

10．引起しケースカバーの外しかた

❶ 引起しケースの上方のノブボルトをゆるめて外し，引起しサイドカバーを上方に引き取外します。



❷ 引起しケースの下方のノブボルトを外し，引起しケースカバーを上方に引き取外します。



11．カッタオープンのしかた

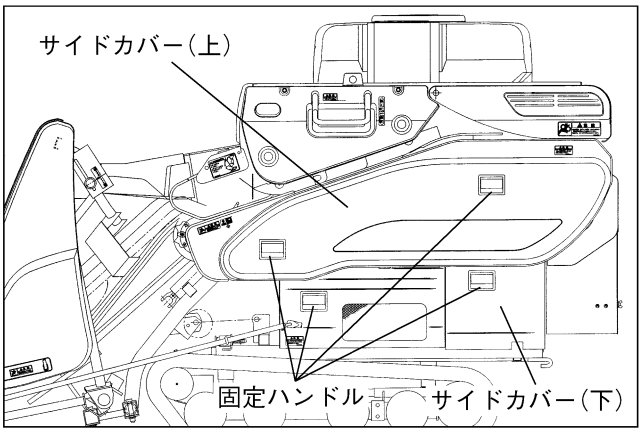
⚠警告 傷害事故防止のために

◆カッタをオープンするときは，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。

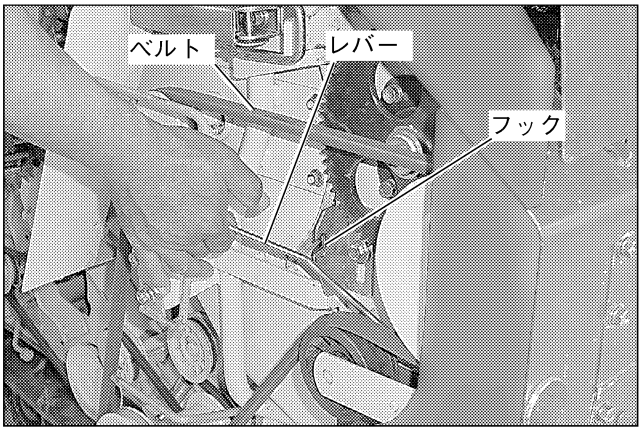
◆カッタをオープンして点検作業等をするときは,ストッパにスナップピンを差込みロック状態にしてください。
ストッパをロック状態にしないとカッタが回動して傷害事故を起こすことがあります。

◆カッタをオープンしたときはカッタ刃に触れないようにしてください。

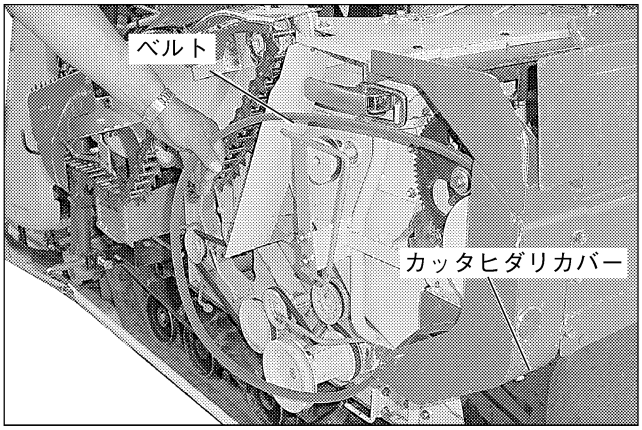
❶ サイドカバー（上）（下）を外します。



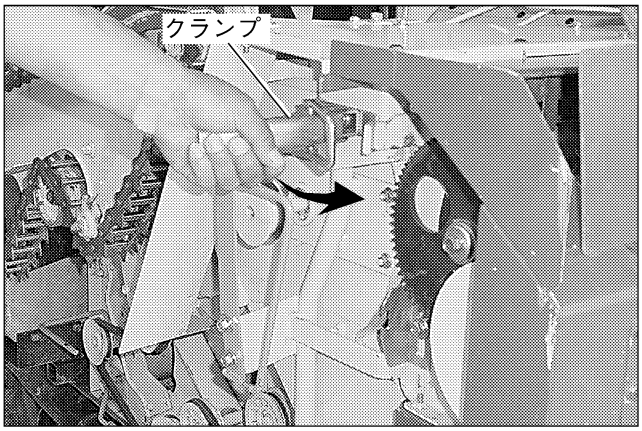
❷ レバーをフックより外してベルトの張りを解除します。

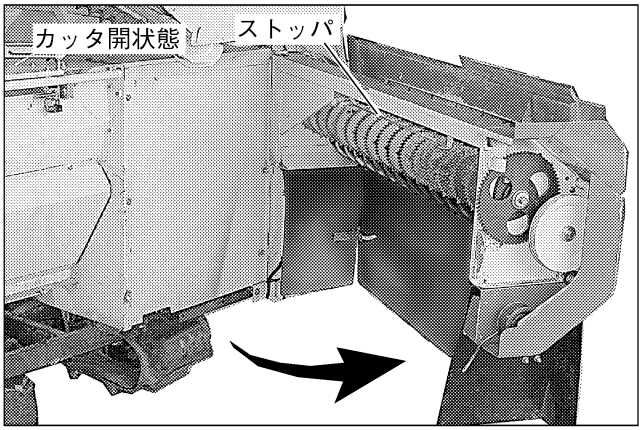


❸　ベルトを外し，レバーをフックに再び掛けます。

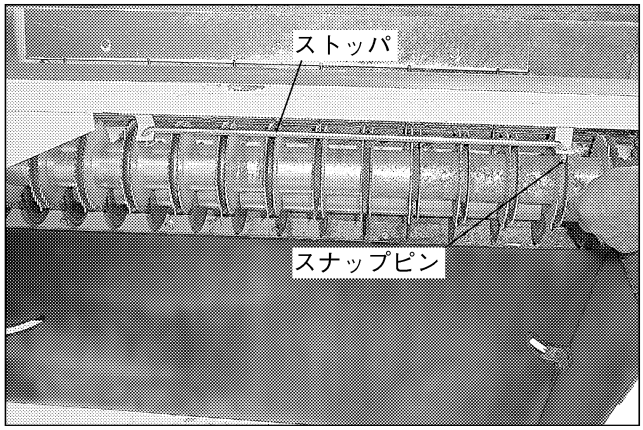


❹　クランプを解除し，カッタヒダリカバーを持ち上げる様にして，ゆっくり後方へカッタを回動します。

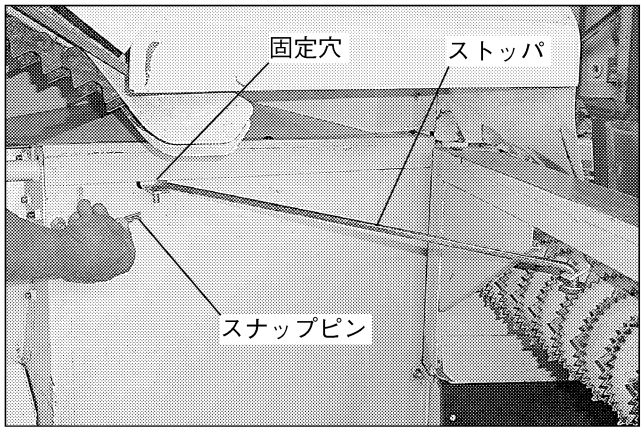




❺　ストッパ先端のスナップピンを抜き，ストッパを回動させ，コンバイン本体の固定穴に差し込みます。



❻　ストッパを固定穴に入れたら，スナップピンでロックします。



❼　カッタを閉じるときはカッタのオープンの逆の手順に行います。

・カッタを閉じたとき，駆動プーリよりベルトが外れていないか確認してください。

4．各部の点検と部品交換のしかた

・傷害事故防止のために各部の点検および部品交換は「**お買いあげ先**」で行なってください。

1．カッタ刃組品の取外しと分解

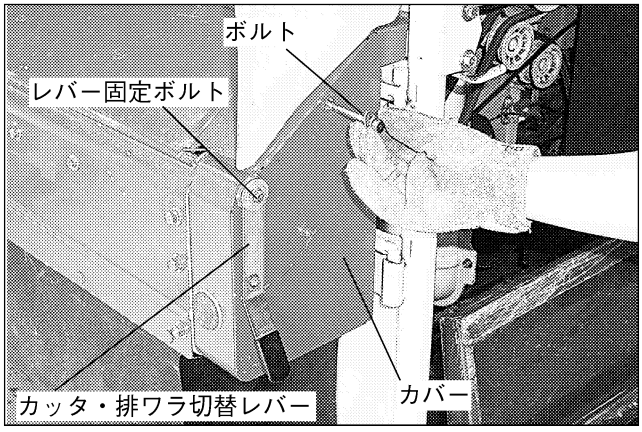
⚠警告 傷害事故防止のために

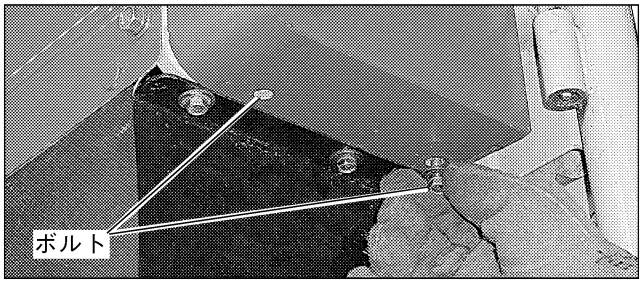
◆カッタをオープンしてカッタ刃組品の取外し，分解をする時はストッパにスナップピンを差込みロック状態にしてください。
◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用し２人作業で合図をし合って行なってください。
◆ノコ刃を交換する時は，刃に「あて布」を被せてください。
◆ノコ刃軸，カキコミ軸のナットをゆるめる時はメガネレンチ等ご確実に固定してください。

❶ カッタ刃組品の取外し

ノコ刃軸の交換のしかた

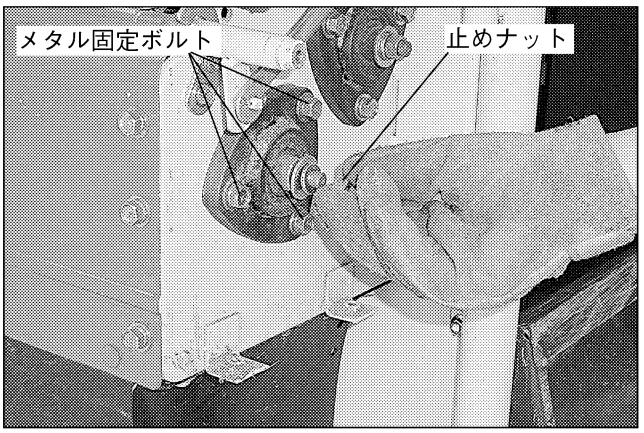
(1) カッタ排ワラ切替レバーを外し，カッタ右側のカバーを外します。

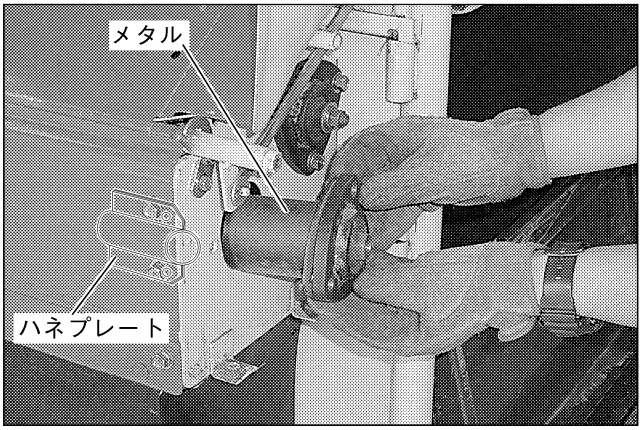




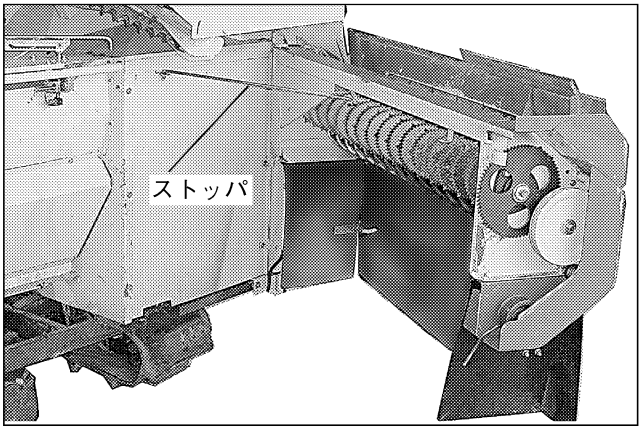
(2) ノコ刃軸の止めナットを外します。このときスプリングワッシャ，ワッシャも外します。

(3) メタル固定ボルトを外して，メタルを外します。

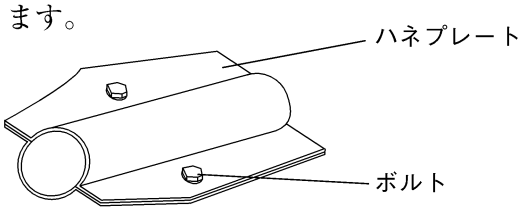




(4) カッターをオープンしてストッパで固定します。

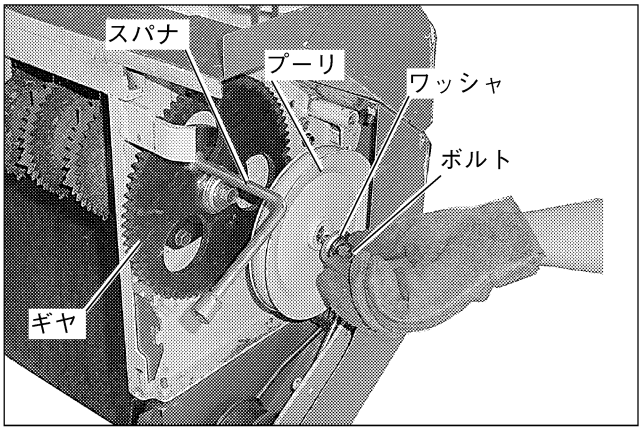


ここで，穂先側のハネプレートをボルト２本外して取ります。

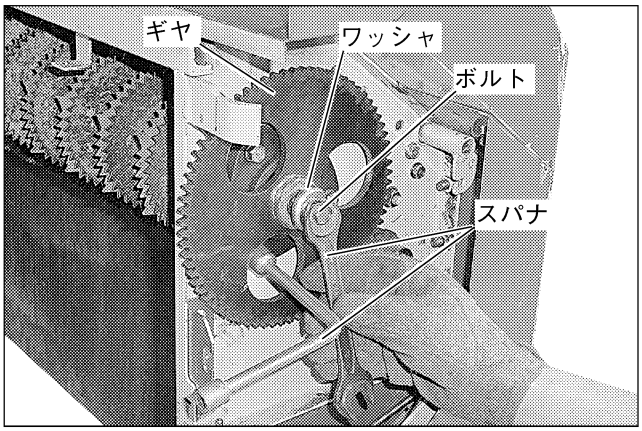


(5) ギヤが回らないようにスパナ等でギヤを固定します。

(6) プーリの取付ボルト，ワッシャを外し，プーリを外します。

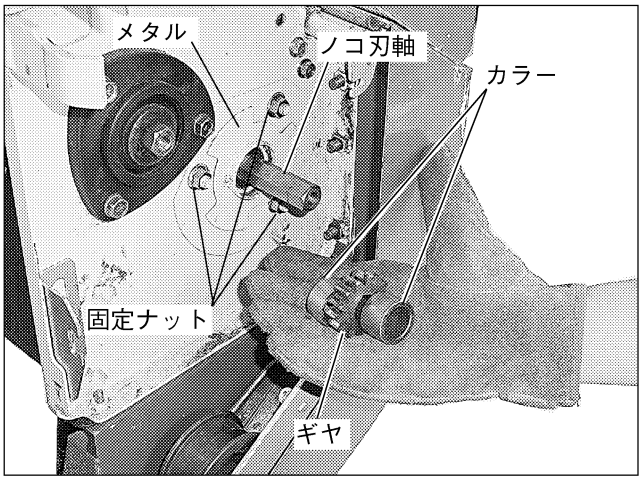


(7) ギヤの固定ボルト，ワッシャを外してギヤを外します。

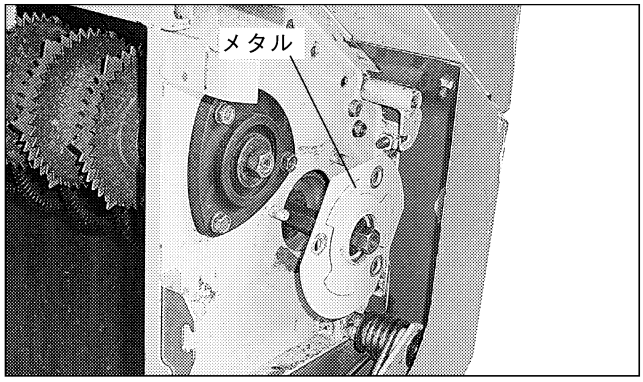


(8) ノコ刃軸のカラー，ギヤを抜き取ります。

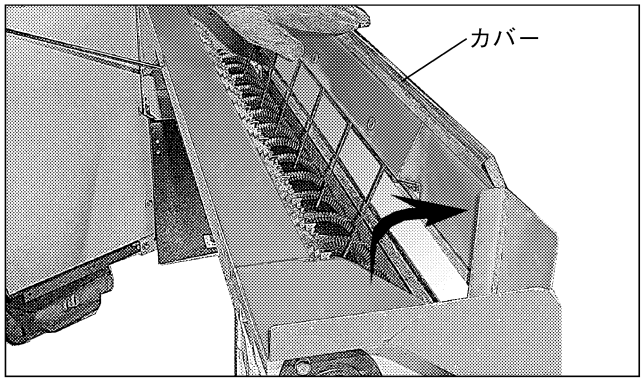
(9) メタルの固定ナットを外します。



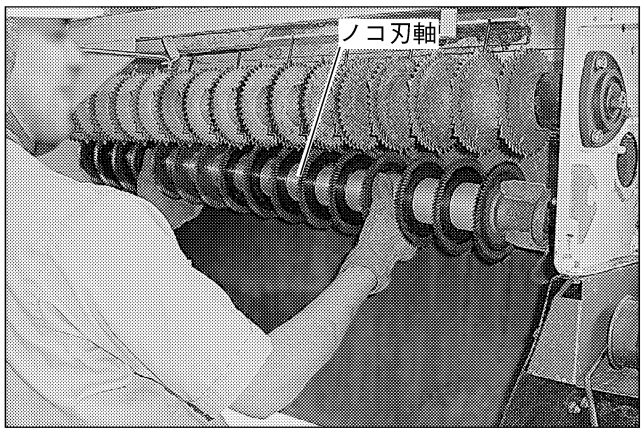
(10) ノコ刃軸組品を持ち上げる様にして，メタルを抜き出します。

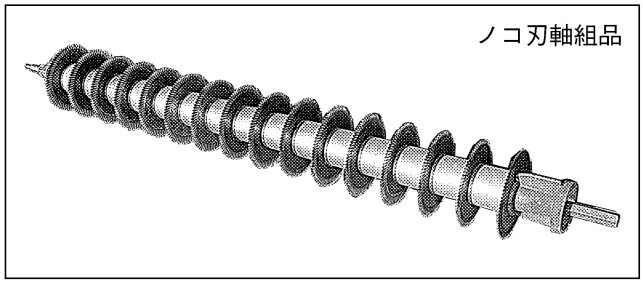


(11) カッタ上部のカバーをオープンします。



(12) ノコ刃軸を両手で支えながら，左にスライドさせると，ノコ刃軸右側がカッタ本体から外れます。



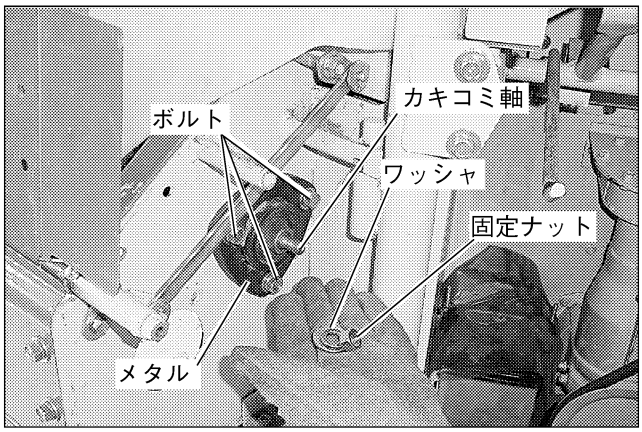


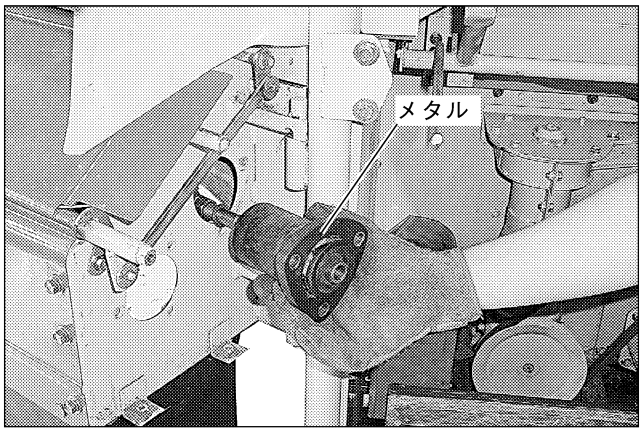
各メタル部には調整ライナが使用されている場合があります。組付時に必要ですので注意願います。

カキコミ軸の交換のしかた

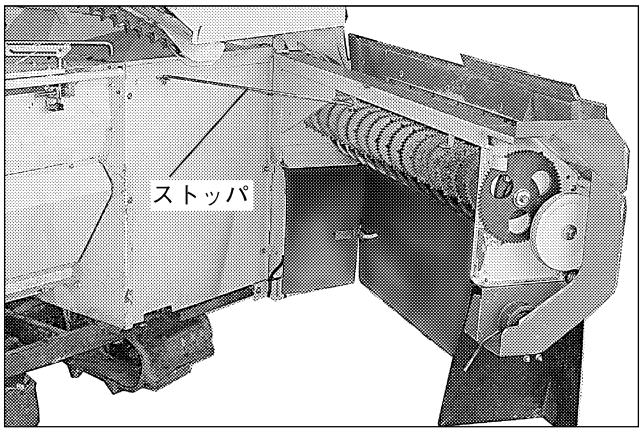
(1) ノコ刃軸組品を外します。カッタを閉じた状態で，カッタ右側面のカキコミ軸固定ナット，ワッシャを外します。

(2) メタルを取付けているボルトを外し，メタルを外します。

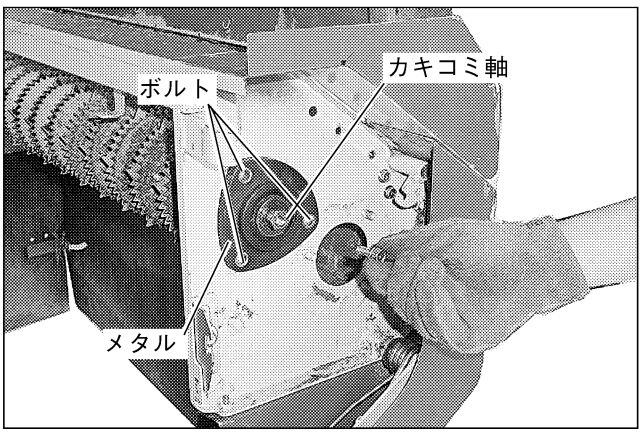


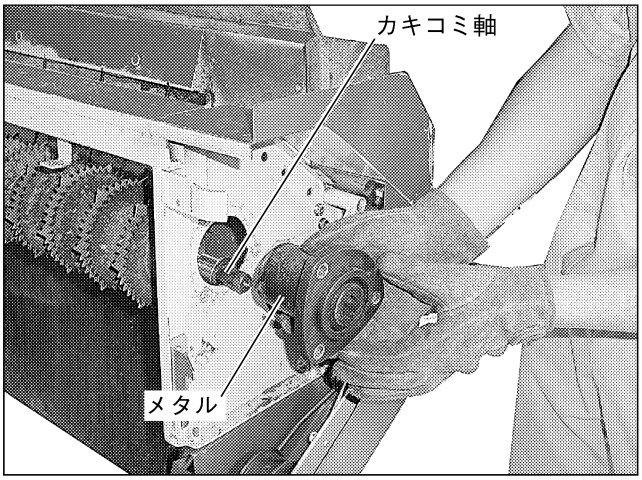


(3) カッターをオープンしてストッパで固定します。

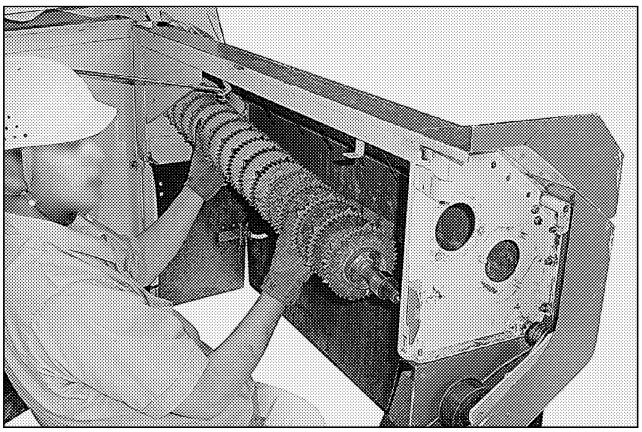


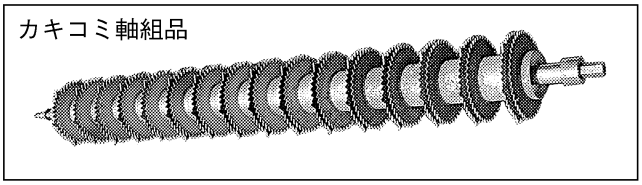
(4) メタルを取付けているボルトを外し，メタルを外します。





(5) カキコミ軸組品を両手で支えながら，左にスライドさせると，カキコミ軸右側がカッタ本体から外れます。





各メタル部には調整ライナが使用されている場合があります。組付時に必要ですので注意願います。

❷ 刃の交換のしかた

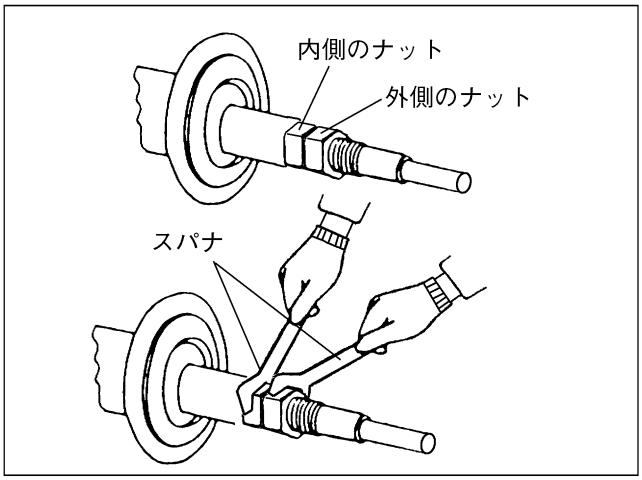
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刃の交換作業は２人作業で行なってください。

◆刃の交換の時は厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

⑴ 刃先を傷付けないよう板又は布・ダンボール等を下に敷いてください。

⑵ ノコ刃軸及びカキコミ軸を分解する場合は，スパナ２本を使用し，片方のスパナで内側のナットを固定し，もう一方のスパナで外側のナットをゆるめます。



⑶ 軸にそって部品を抜取ります。

⑷ ノコ刃，カキコミバンを新品に交換し，取付けてあった順に組付けます。(ノコ刃軸，カキコミ軸の組立て図参照)

取扱いのポイント

- **カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，カキコミバン・オサエバンとノコ刃の接触がないことを，確かめてください。刃がほぼ中央にあるのが最適です。**
- **ノコ刃，カキコミバンの取付けの時は刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。**

[組立時の注意](ノコ刃軸，カキコミ軸の組立て図参照)

⑴(28)シャフトA、(29)リング、(30)ハネ、(31)ノコハ、(32)パイプA、(33)パイプC、(35)スペーサ、(38)ナットの組立時には(28)シャフトAを地面に対して垂直に立てて組立て(31)ノコハが(28)シャフトAに対して垂直こなるようにします。

⑵(39)シャフトB、(40)リング、(41)スリーブ、(42)カラー、(43)ワッシャ、(44)オサエバン、(45)カキコミバン、(46)オサエバン、(47)パイプB、(48)パイプD、(49)オサエバン、(50)ワッシャ、(51)カラー、(52)ライナ、(53)ワッシャ、(54)ナットの組立時には、(39)シャフトBを地面に対して垂直に立てて組み立て、(46)オサエバンが(39)シャフトBに対して垂直になるようにします。

⑶(45)カキコミバンは(46)オサエバンと刃筋が揃うようにくみ(31)ノコハの向きに注意して組み付けてください。(A部拡大図を参照してください。)

⑷(32)パイプA、(33)パイプC、(47)パイプB、(48)パイプDの識別に注意し、挿入方向は図の通り組み込んでください。
(識別線付きの物がノコ刃側です。)

⑸(38)、(54)ナットの締め付けトルクは24．5～29．4N・m(250～300kgf・cm)
です。確実に締め付けてください。

⑹(38)、(54)ナットを締め付けた時、ノコ刃軸、カキコミ軸共に、図の(X)、(Y)寸法が898.5～901.5mmになるように(55)ライナで調整します。

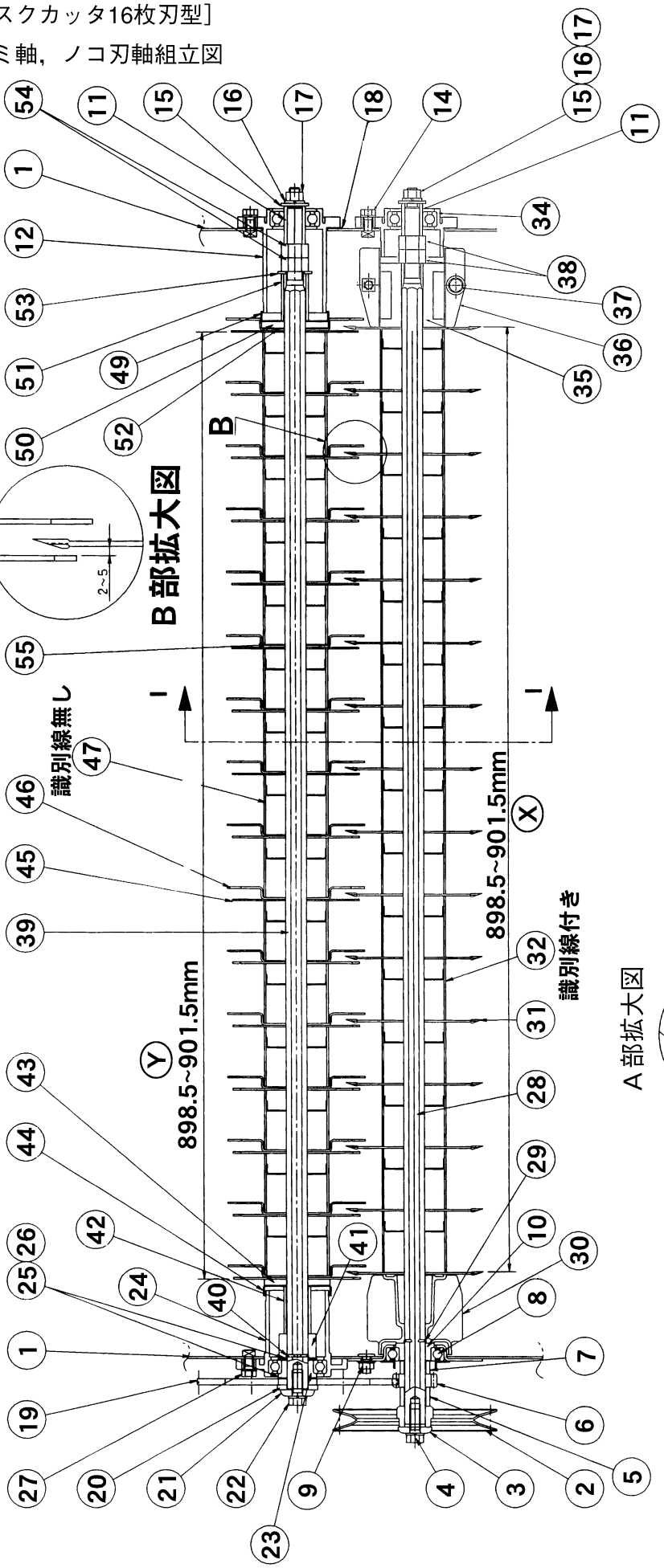
⑺(6)ギヤ14と(19)ギヤ74の歯面には、リチウムグリスを塗布し、バックラッシュが0.1～0.25(わずかに歯が動く程度)になるように(8)メタルA、(24)ホルダCを取付けます。

⑻左側のプーリ、ギヤ等を全て締め付けたとき、(31)ノコ刃と(45)カキコミバン、(46)オサエバンの隙間が2～5mm(ほぼ中央)となるよう(26)ライナを使用して調整してください。(B部拡大図を参照してください。)この時，分解時のライナ使用位置にライナを使用してください。

⑼(4)ボルト、(17)ナット、(22)ボルトの締め付けトルクは、39～44N・m(400～450kgf・cm)です。確実に締め付けてください。

● ［ディスクカッタ16枚刃型］

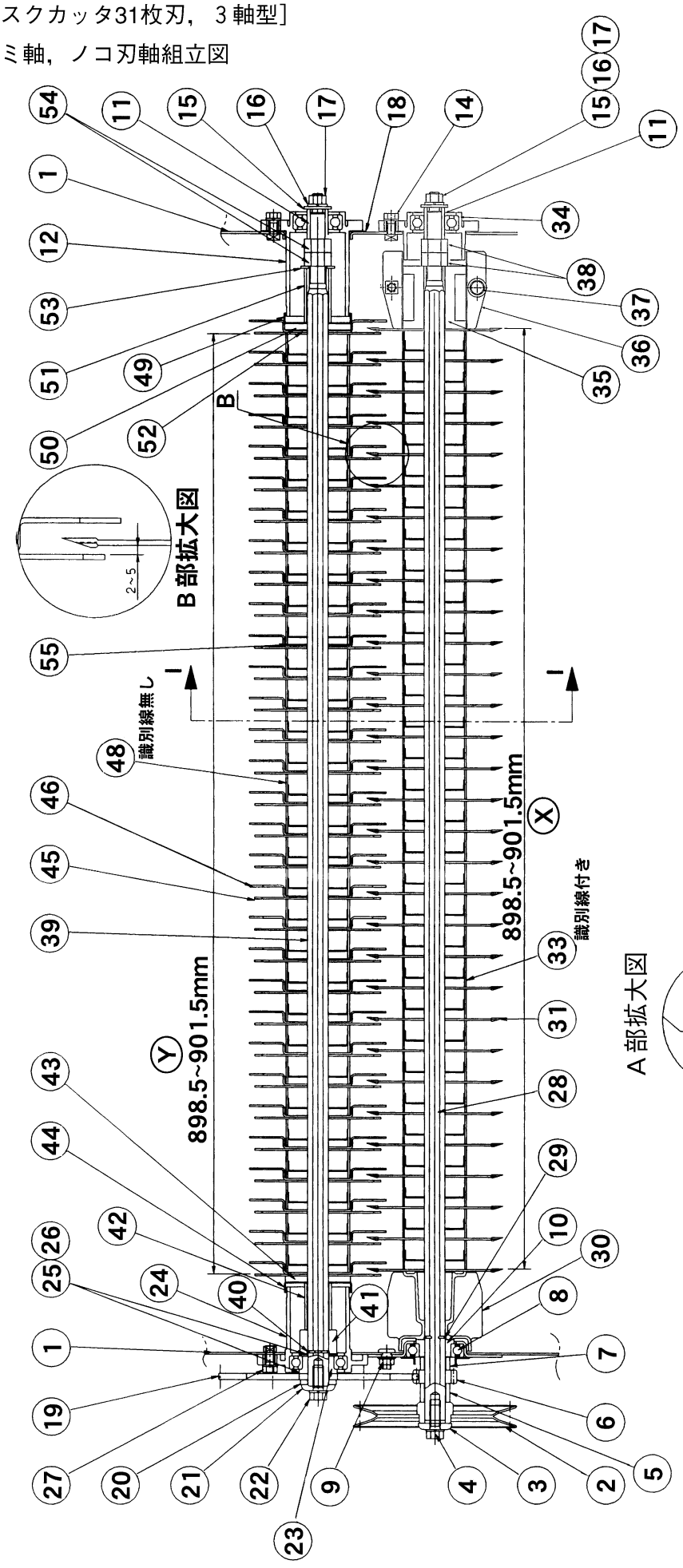
カキコミ軸，ノコ刃軸組立図



取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。
  順序を違えるとカキコミバン，オサエバンとノコ刃が合わなくなります。

● ［ディスクカッタ31枚刃，３軸型］
カキコミ軸，ノコ刃軸組立図



取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。
順序を違えるとカキコミバン，オサエバンとノコ刃が合わなくなります。

● ［カッタ部品一覧表］

組み立て図に記載されている部品番号と下表は
対応しています。

部品番号	部品名	個数			部品番号	部品名	個数		
		カッタ16	カッタ31	カッタ3軸			カッタ16	カッタ31	カッタ3軸
1	フレーム	1	1	1	30	ハネ	1	1	1
2	プーリ143	1	1	1	31	ノコハ	16	31	31
3	ワッシャ	1	1	1	32	パイプA	15		
4	ボルト	1	1	1	33	パイプC		30	30
5	カラー	1	1	1	34	ホルダD	1	1	1
6	ギヤ14	1	1	1	35	スペーサ	1	1	1
7	カラー	1	1	1	36	ハネプレート	2	2	2
8	メタルA	1	1	1	37	ボルト	2	2	2
9	Fナット	3	3	3	38	ナット	2	2	2
10	スリーブA	1	1	1	39	シャフトB	1	1	1
11	スリーブB	2	2	2	40	リング	1	1	1
12	ホルダB	1	1	1	41	スリーブ	1	1	1
13					42	カラー	1	1	1
14	ボルト	6	6	6	43	ワッシャ	1	1	1
15	ワッシャ	2	2	2	44	オサエバン	1	1	1
16	Sワッシャ	2	2	2	45	カキコミバン	16	31	31
17	ナット	2	2	2	46	オサエバン	16	31	31
18	ライナ	任意	任意	任意	47	パイプB	15		
19	ギヤ74	1	1	1	48	パイプD		30	30
20	ワッシャ	1	1	1	49	オサエバン	1	1	1
21	ワッシャ	1	1	1	50	ワッシャ	1	1	1
22	ボルト	1	1	1	51	カラー	1	1	1
23	スリーブA	1	1	1	52	ライナ	1	1	1
24	ホルダC	1	1	1	53	ワッシャ	1	1	1
25	ライナ	2	2	2	54	ナット	2	2	2
26	ライナ	任意	任意	任意	55	ライナ	任意	任意	任意
27	ボルト	3	3	3					
28	シャフトA	1	1	1					
29	リング	1	1	1					

2．爪の交換のしかた

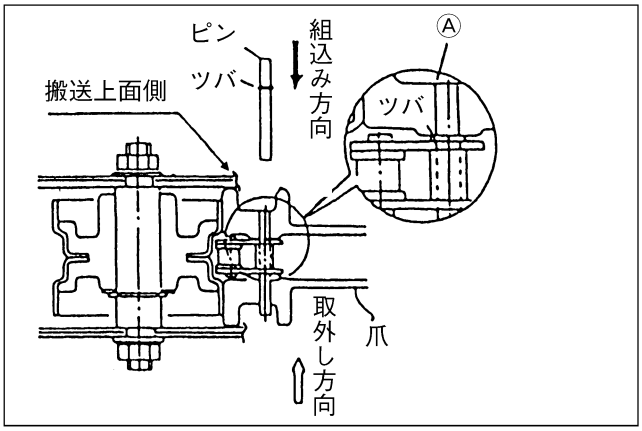
（引起し爪，穂先搬送爪）

❶ 爪の取外し

爪を取付けているピンを突き出ている側から，たたいて抜取り，爪を取外します。（ピンは強くたたかなくても抜けます。）

❷ 爪の組込み

ピンはツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。（図示Ⓐ部参照）



3．刈刃の交換のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

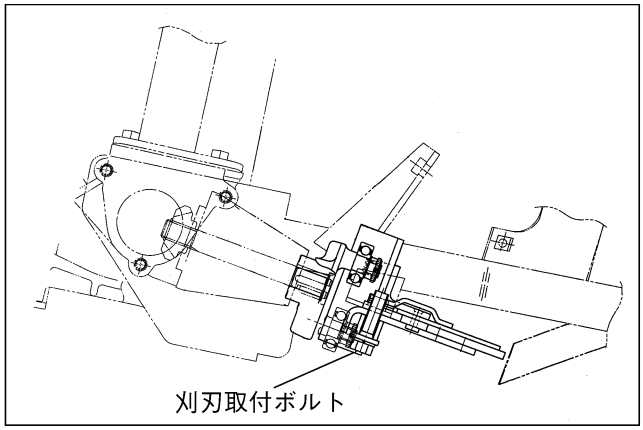
◆刈刃の着脱作業をするときは，手袋をして2人で刈刃の両端をもって行なってください。

◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いてけがをすることがあります。

◆刈刃を取外す時は，刈取部を上げ油圧固定ボルト又は油圧固定レバーを《固定》にし，刈取部の下に固定脚等をおいて作業してください。

❶ 刈刃の取外し

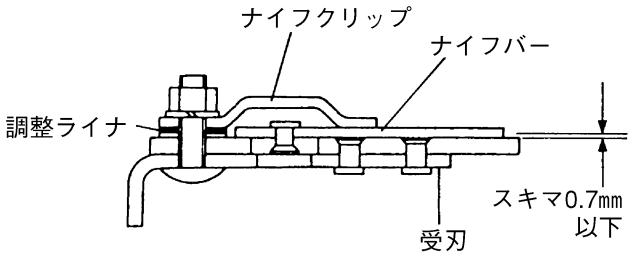
刈刃取付ボルト2個所を外します。



❷ 刈刃の調整

(1) 0.2㎜の調整ライナでスキマを0.7㎜以下に調整します。

(2) 上刃，下刃共スムーズに作動することを確認します。



❸ 刈刃の取付け

刈刃取付ボルト2個にて取付けます。

取扱いのポイント

- 1日の作業終了後には刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。
- 刈跡が揃わなくなったりした場合は刈刃に注油をし，上刃と下刃のスキマを調整してください。

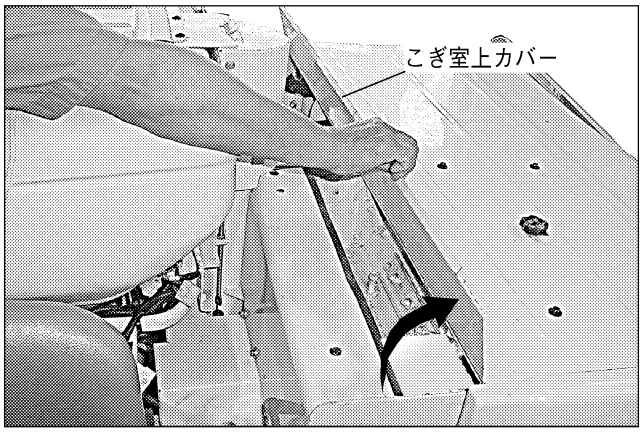
4．ワラ切カマの交換

⚠警告　傷害事故防止のために

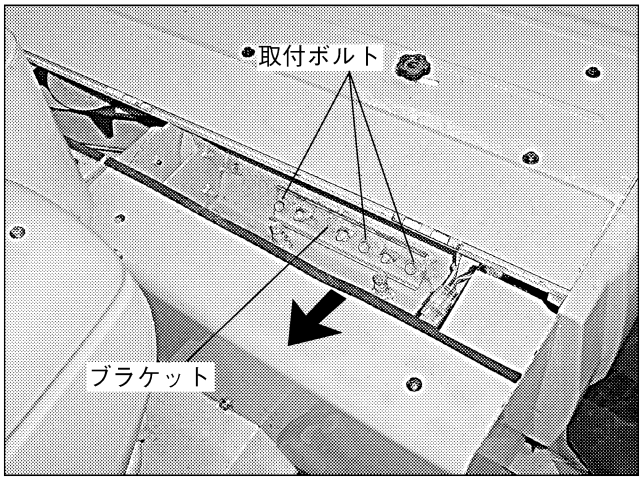
◆こぎ室上カバーを開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行なってください。
◆刃部に手をかけないでください。
◆ワラ切カマをグラインダ等で研磨して，再使用しないでください。

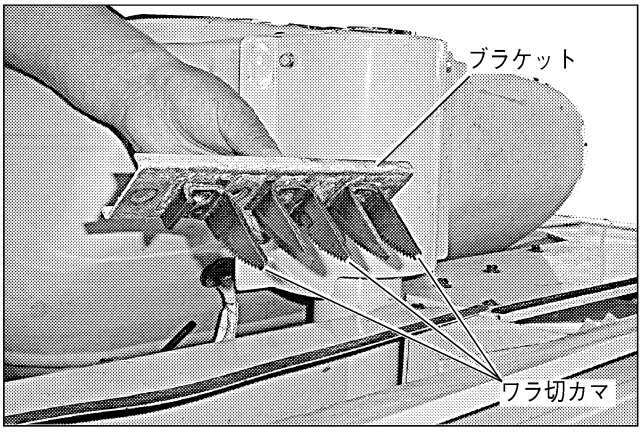
❶　ワラ切カマの取外し

(1)　こぎ室上カバーを開けます。

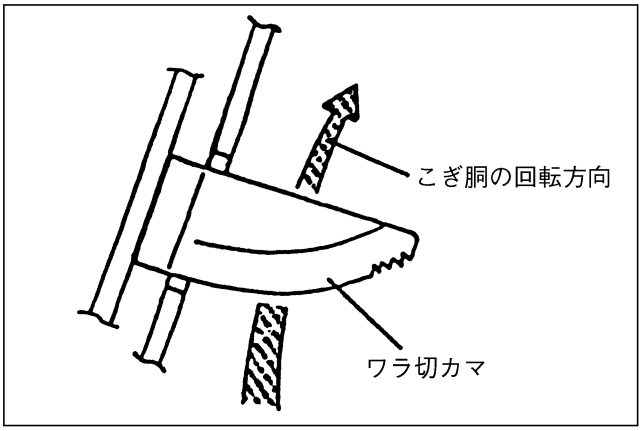


(2)　ワラ切カマ取付ボルトをゆるめて外し，ブラケットごとワラ切カマを手前に引き出します。





(3)　ブラケットからワラ切カマを外します。



❷　ワラ切カマの取付け

ワラ切カマの組付け方向に注意して真っ直ぐブラケットとガタがないように締付けます。

取扱いのポイント

- **ワラ切カマの中央にこぎ歯がくるように取付けてください。**
- **ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下します。ワラ切カマを取外し，新品と交換してください。(「お買いあげ先」でおもとめください。)**

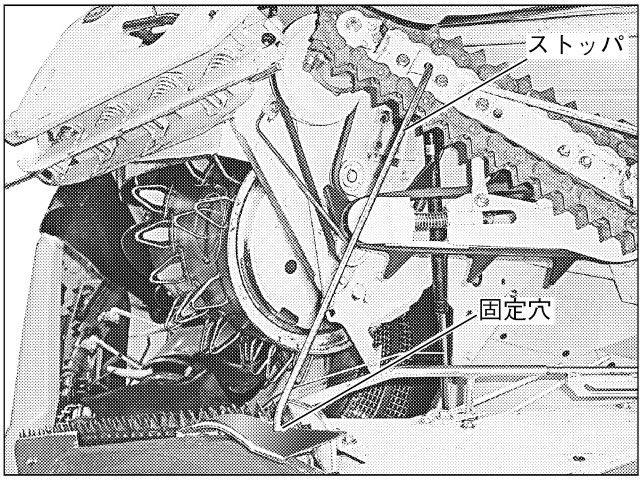
5．こぎ歯の点検と交換

⚠警告　傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆脱こくこぎ室カバーを開いたときは，ストッパをかけてください。

❶　開閉レバーを持上げて脱こくこぎ室カバーを開き，ストッパを固定穴にかけます。

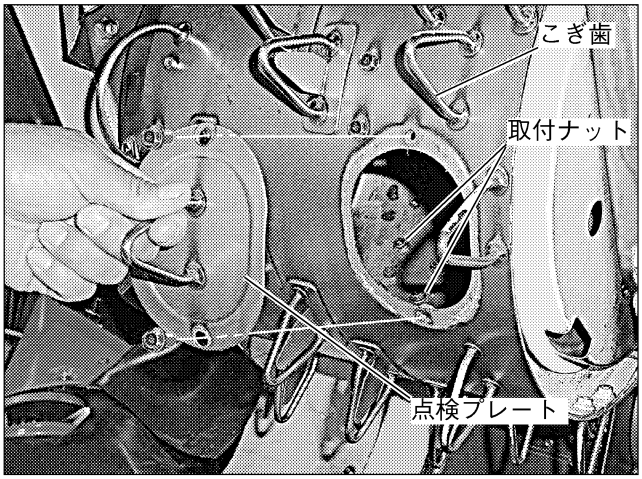


❷　こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいこぎ歯は交換します。

こぎ歯の締付けが緩んでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換及び取付ナットの締込みは，点検プレートを外して行います。



取扱いのポイント

- こぎ胴の点検プレートのボルトの頭が摩耗すると外せなくなるため，ボルトの頭が摩耗し始めたら交換してください。

6．ホース類の点検と交換

⚠警告　ヤケドや火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれてないか確認し，損傷したりもれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出しヤケドをする場合があります。

燃料ホース，ラジエータホース等の燃料もれ，水もれがないかを点検します。また，締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部がゆるんでいないか点検をします。

取扱いのポイント

- 燃料ホースは定期交換部品ですので，「お買いあげ先」で２年ごとに交換してください。
- 燃料ホースを交換した時は，燃料のエア抜きをしてください。（82ページ参照）

5．各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

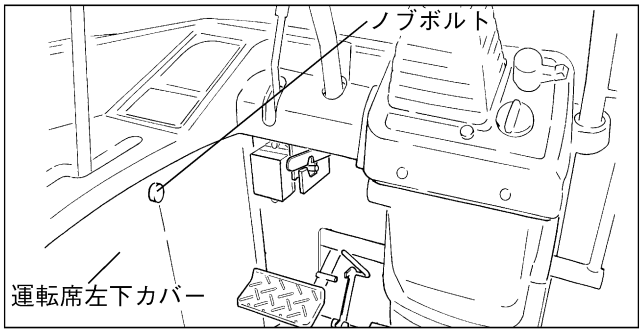
◆調整後カバーを取付けてください。

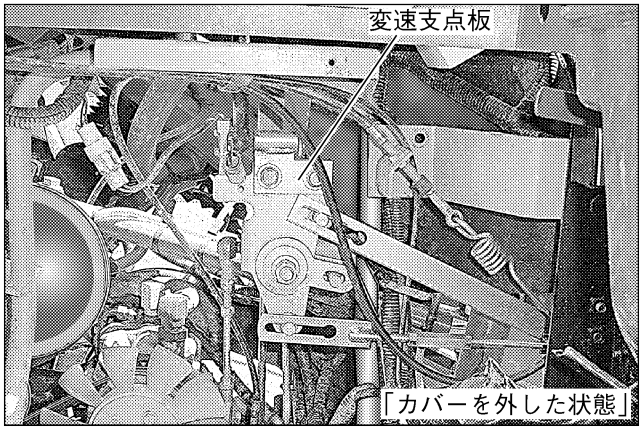
「各部の取外し」

1．運転席左下カバーの取外しかた

・**外部駐車ブレーキレバー**及び**走行駆動ベルト**の点検は**運転席左下カバー**を取外して行います。

・カバーを取付けているノブボルト1本を外し，カバーを取外します。





「カバーを外した状態」

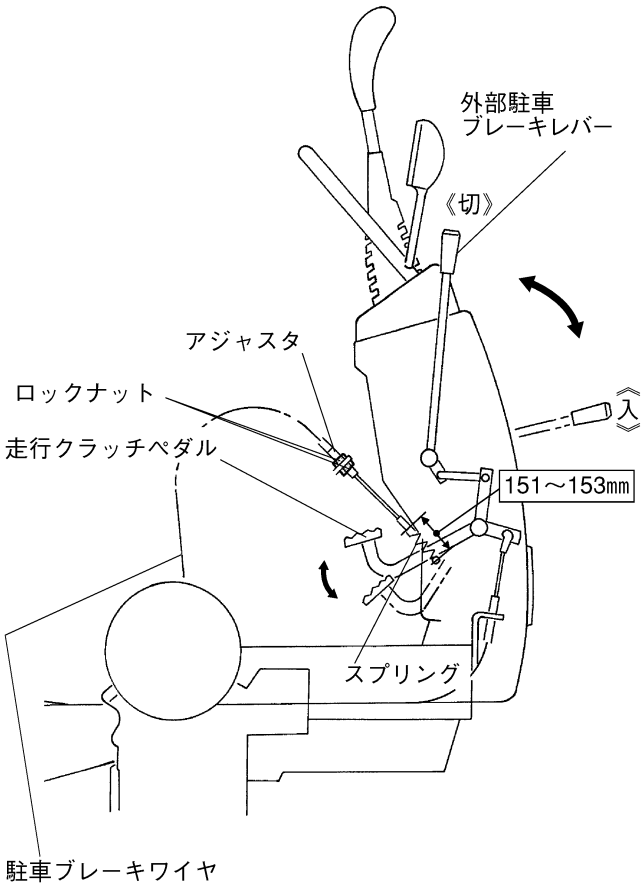
「レバーの点検，調整」

2．外部駐車ブレーキレバー

・坂道で外部駐車ブレーキレバーを《**入**》位置にした時，機械は停車しますか。

❶ **点検**……外部駐車ブレーキレバーを《**入**》にした時スプリングの長さが 151～153㎜ になっていますか。

❷ **調整**……運転席パネル下の駐車ブレーキワイヤのロックナットをゆるめてアジャスタで調整します。



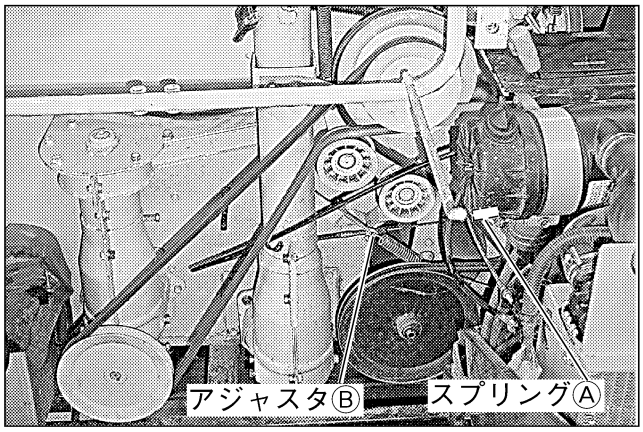
3．刈取クラッチレバー

❶ 点検

ホッパ下部のベルトカバーA，Bを取外し，刈取クラッチレバーを《入》にした時，スプリングⒶの長さが 8 3～8 6㎜ になっていますか。

❷ 調整

刈取クラッチワイヤのロックナットをゆるめて，アジャスタⒷで調整します。



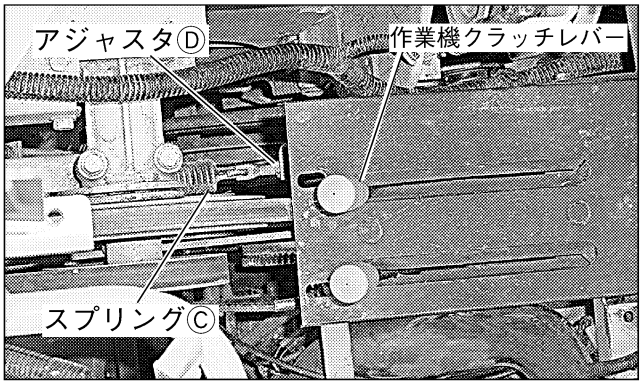
4．作業機クラッチレバー

❶ 点検

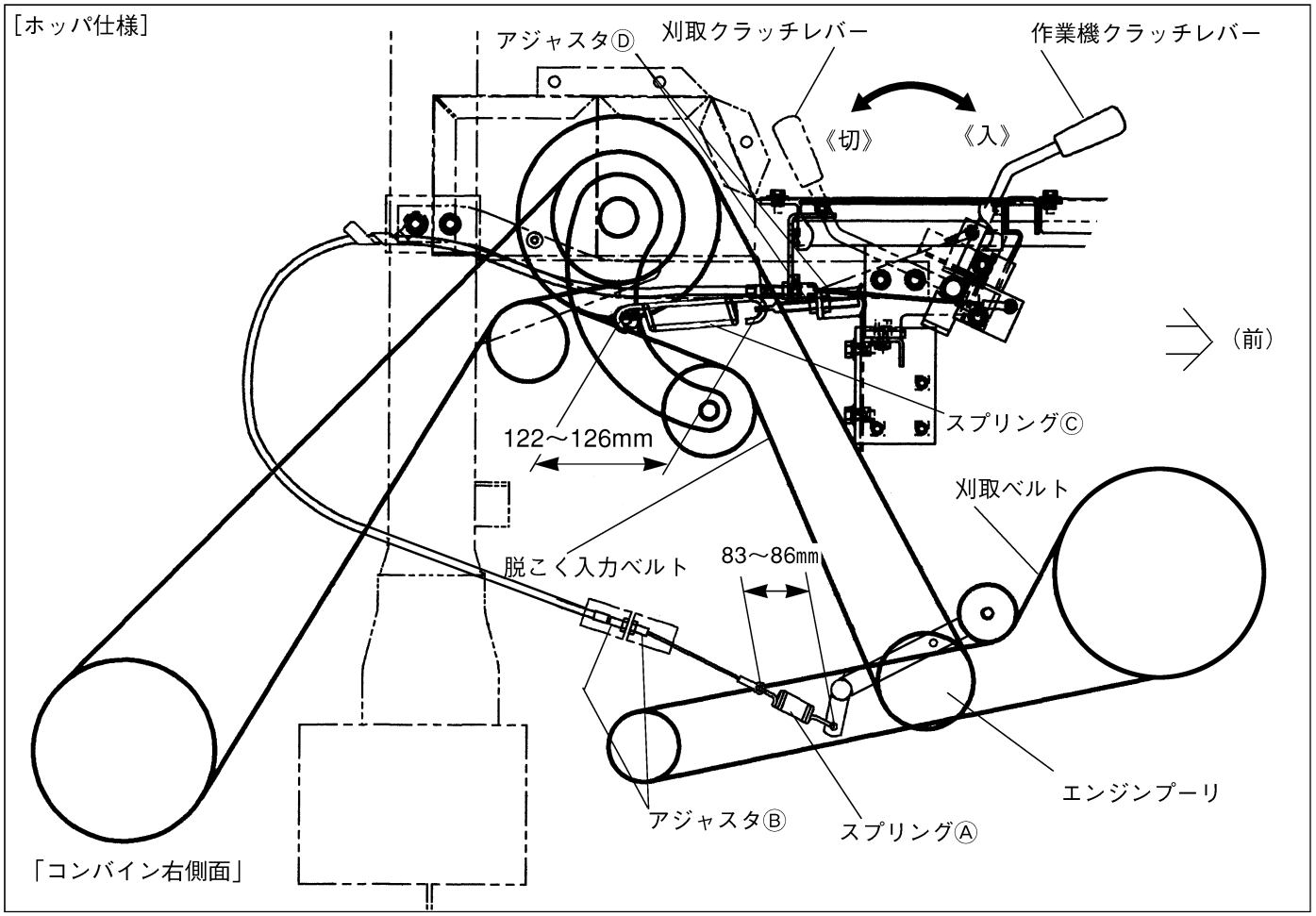
サイドパネル後ろ側のカバーを取外し，作業機クラッチレバーを《入》にした時，スプリングⒸの長さが 122～126mm になっていますか。

❷ 調整

(1) 作業機クラッチワイヤのロックナットをゆるめて，アジャスタⒹでスプリングⒸの長さを調整します。

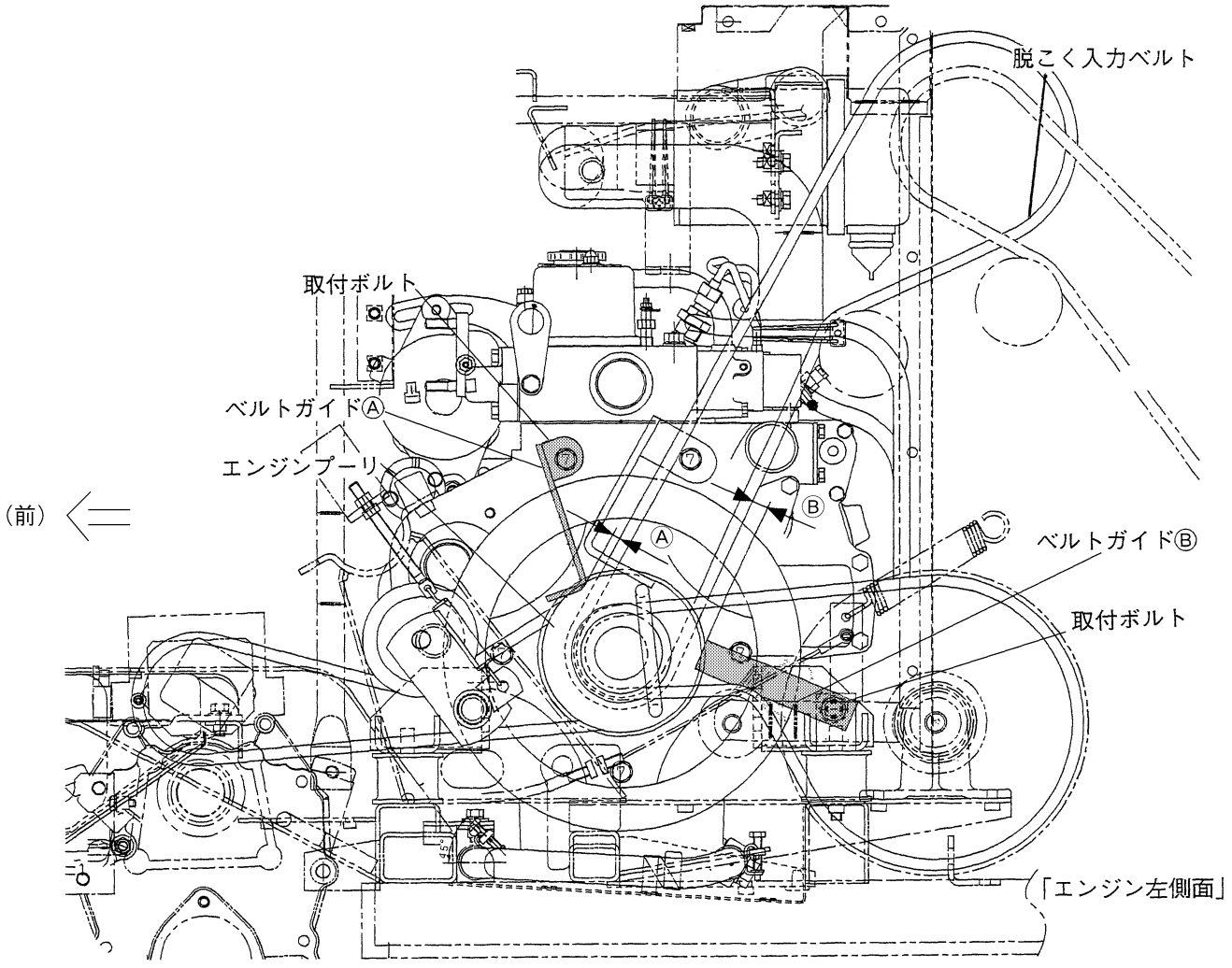


［ホッパ仕様］



❸ ベルトガイドの調整……

(1) 作業機クラッチレバーを《**入**》にした時，脱こく入力ベルトとベルトガイドⒶ，Ⓑのスキマ Ⓐ＝3～5㎜ Ⓑ＝6～9㎜ になるように取付ボルトで調整します。



5．こく粒排出レバー［グレンタンク仕様］

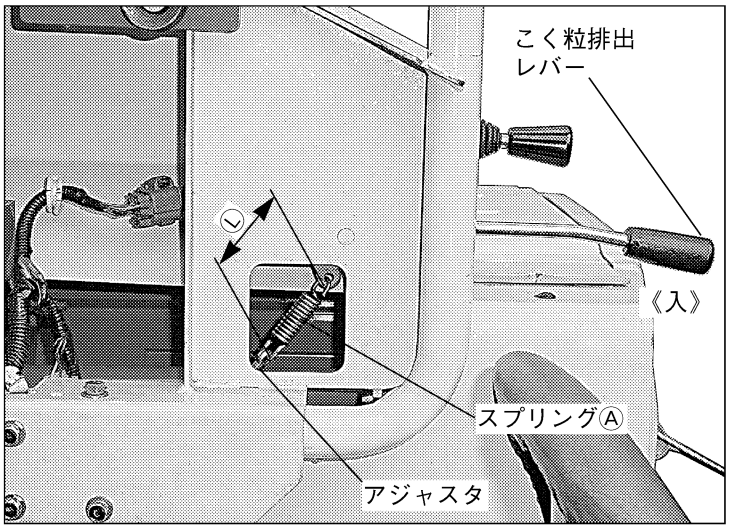
❶ 点検

こく粒排出レバー「**入**」のとき，スプリングの長さⓁが 68～70㎜ になっていますか。

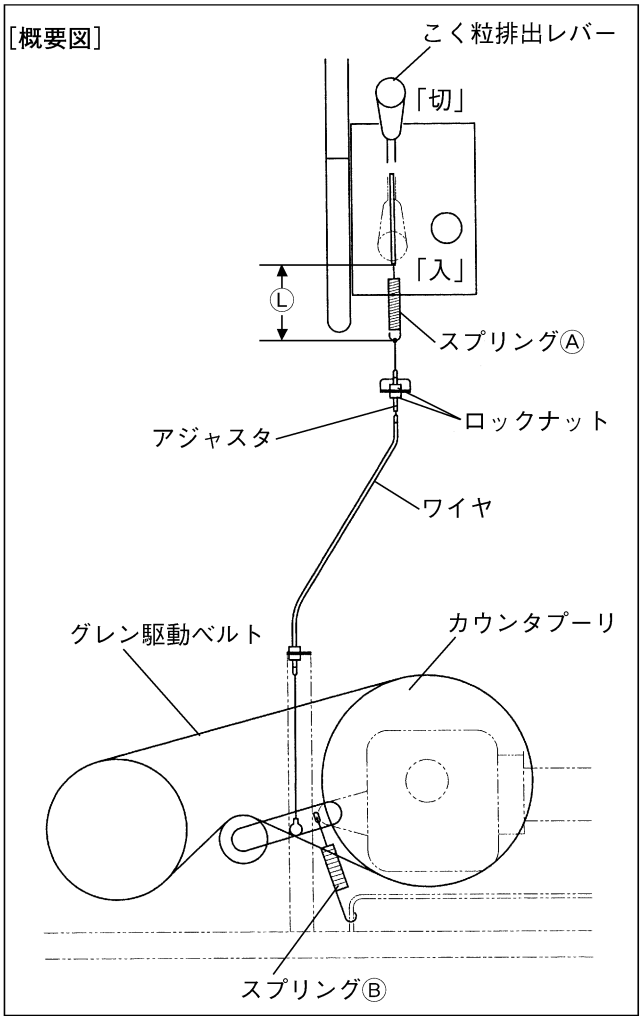
❷ 調整

(1) こく粒排出レバーを《**入**》にし，スプリングⒶの長さⓁを計ります。

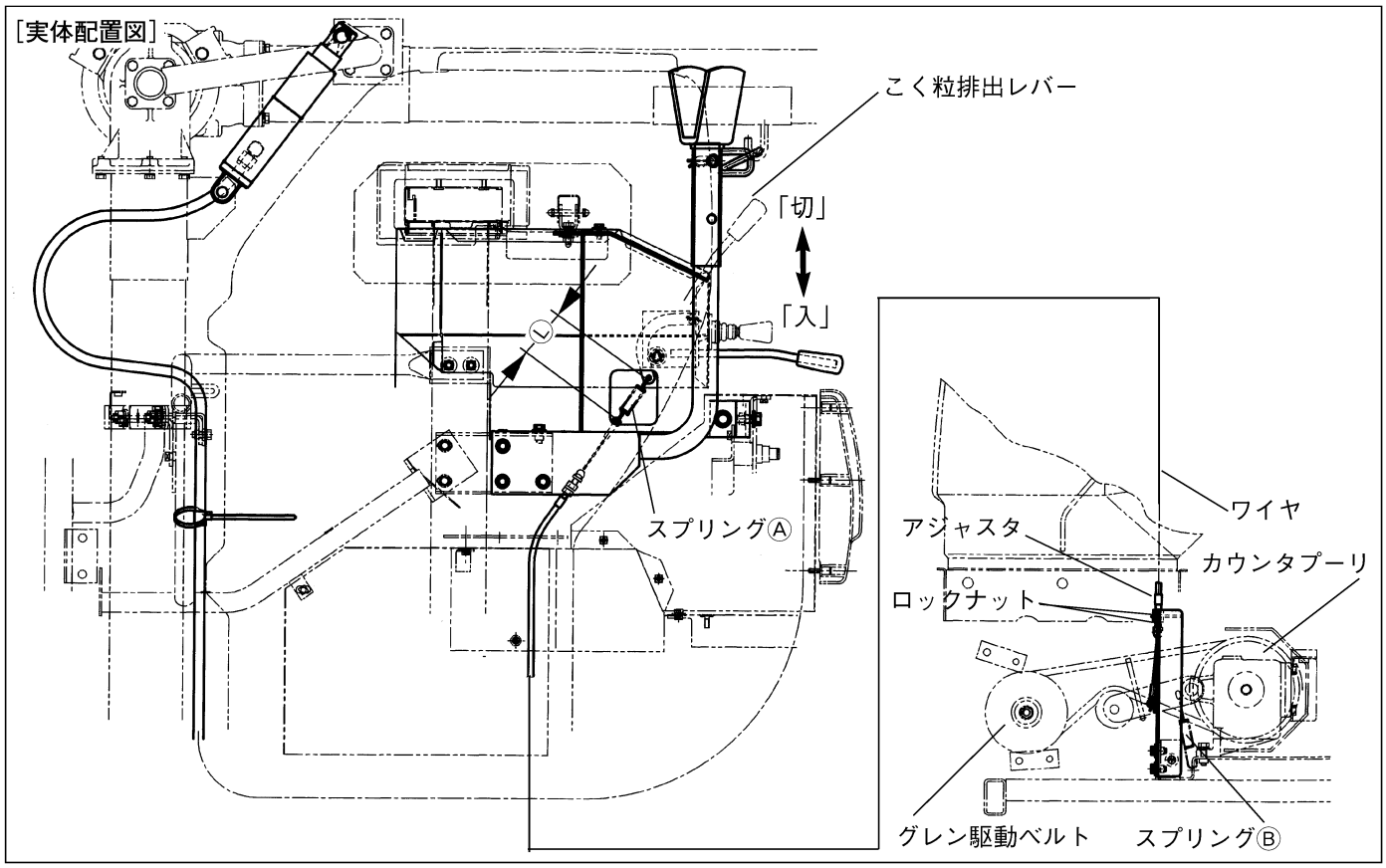
(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタ部で調整します。



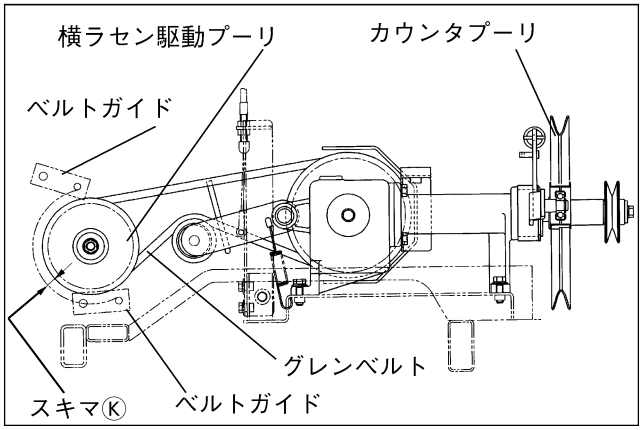
［概要図］



［実体配置図］



(3) ベルトガイドとグレンベルトのスキマⓀが 10～12㎜ になるようにベルトガイドを調整します。



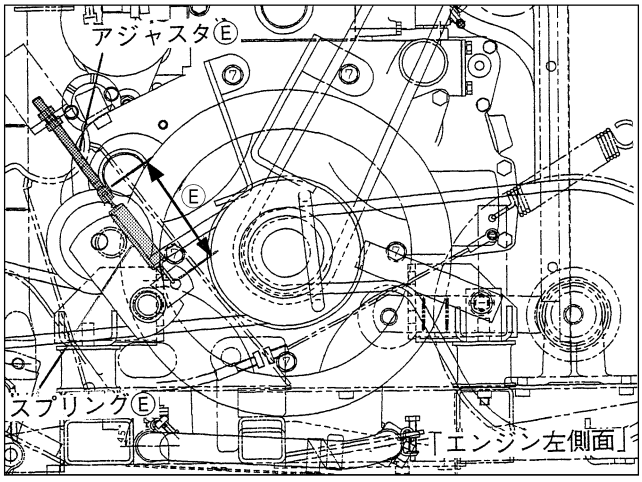
「ベルトの点検・調整」

6．走行駆動ベルト

・運転席左下のカバーを取外して行います。

❶ **点検**……テンションスプリングを引張っているスプリングⒺの長さが 94～96㎜ になっていますか。

❷ **調整**……テンションを張っているレバーをゆるめアジャスタⒺで調整します。



7．カウンタ駆動ベルト

ベルトカバーを取外し，カウンタ駆動ベルトの張り及びクラッチワイヤの点検を行います。

❶ **点検**……［ホッパ仕様］

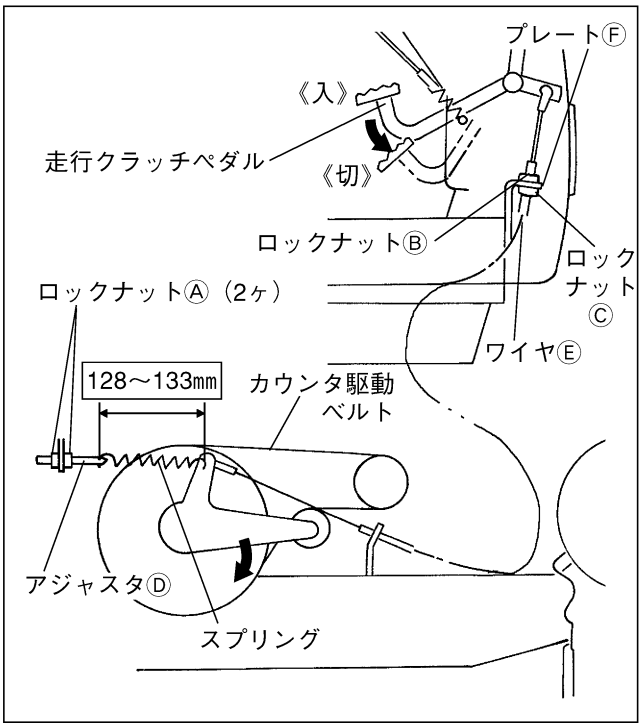
(1) 走行クラッチペダルが《**入**》の時，スプリングの長さが 128～133㎜ になっていますか。

(2) 走行クラッチペダルを踏んだ（《**切**》にした）時，刈取部が停止するか点検します。

❷ **調整**……［ホッパ仕様］

(1) ロックナットⒷ，Ⓒをゆるめてワイヤを遊ばせます。

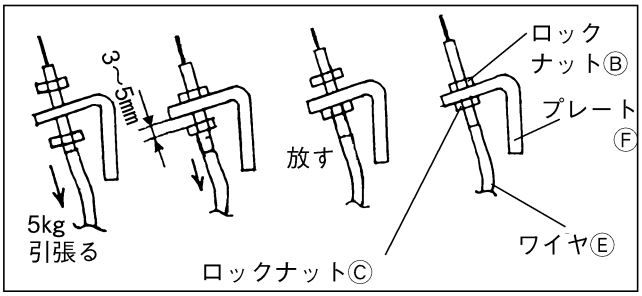
(2) スプリングのロックナットⒶをゆるめアジャスタⒹでスプリング長さを調整します。



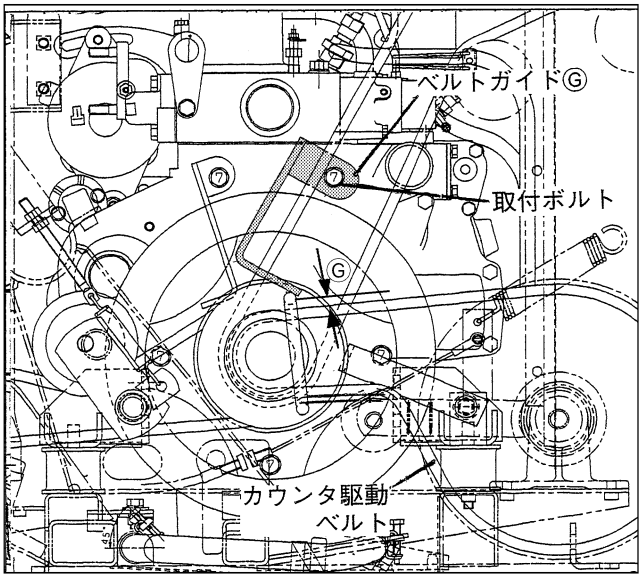
(3) ロックナットⒷ，Ⓒを締め，ワイヤⒺのアウター（ワイヤ外側の被覆）を手で下側に5㎏程度の力（タイトアームが動かない程度の荷重）で引張り，ロックナットⒷをプレートⒻに当たる位置まで調整後，プレートⒻとロックナットⒸのスキマを3～5㎜取ります。

(4) ワイヤⒺのアウターを放して，プレートⒻにロックナットⒸを当て，ロックナットⒷを締めて固定します。

※ 3～5㎜ の遊びを確認願います。遊びがないと刈取中，刈取部が停止する場合があります。



(5) 走行クラッチペダルが《入》の状態でベルトガイドⒼとカウンタ駆動ベルトのスキマⒼが 3〜5mm になるように取付ボルトで調整します。



❸ 確認（前ページの❷調整を参照）

(1) 作業クラッチと，刈取クラッチを《入》にした状態で，走行クラッチペダル又は外部駐車ブレーキを入り，切りして，刈取部が確実に停止することを確認します。

❹ 点検……［グレンタンク仕様］

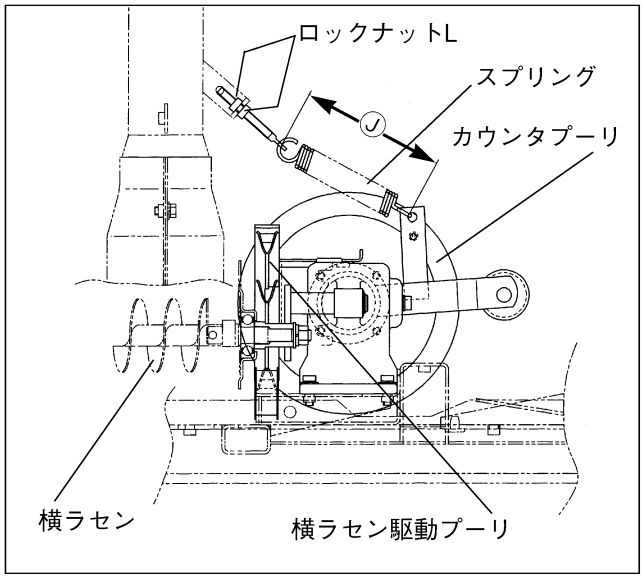
(1) グレンタンクをオープンし，ベルトカバーを取外します。

(2) スプリング長Ⓙが 148〜150mm ですか。

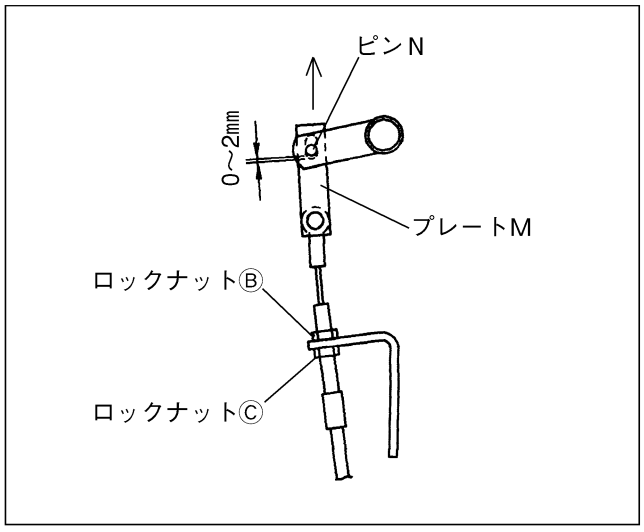
❺ 調整……［グレンタンク仕様］

(1) ロックナットＬをゆるめ，アジャスタでスプリング長を調整します。

(2) ロックナットＬを締付けます。



(3) プレートＭを矢印方向へ引張り，ピンＮとプレートＭの長穴のスキマが 0〜2mm となる様ロックナットⒷ，Ⓒで調整します。



8．エンジンファンベルト

⚠警告 ヤケド防止のために

◆ファンベルトの点検・調節はエンジンが冷えてから行なってください。

❶ 点検

ファンベルトの長い部分の中央部を指で押し，タワミ量が 10〜13㎜ となっていますか。

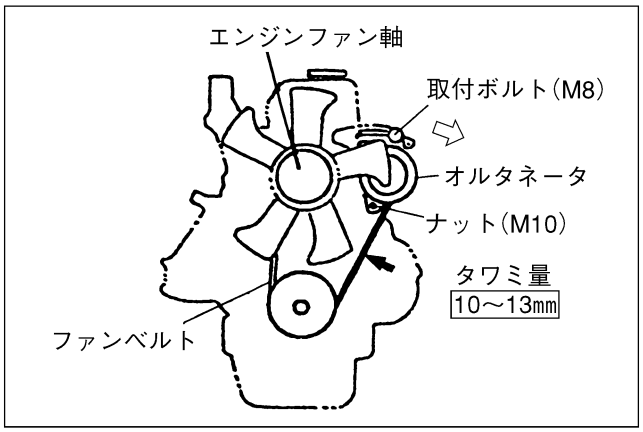
❷ 調整

(1) エンジンカバーを開きます。

(2) オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）をゆるめます。

・オルタネータを手前（⇨）に倒すとベルトが張れます。

(3) 調整後，取付ボルトナットを締付けます。

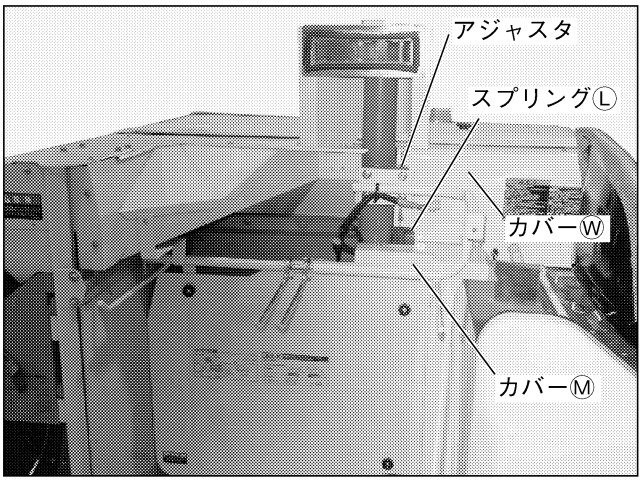


取扱いのポイント

●調整ができなくなったら新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換した時は，各スプリングの寸法やベルトガイド等を正規の寸法に調整してください。

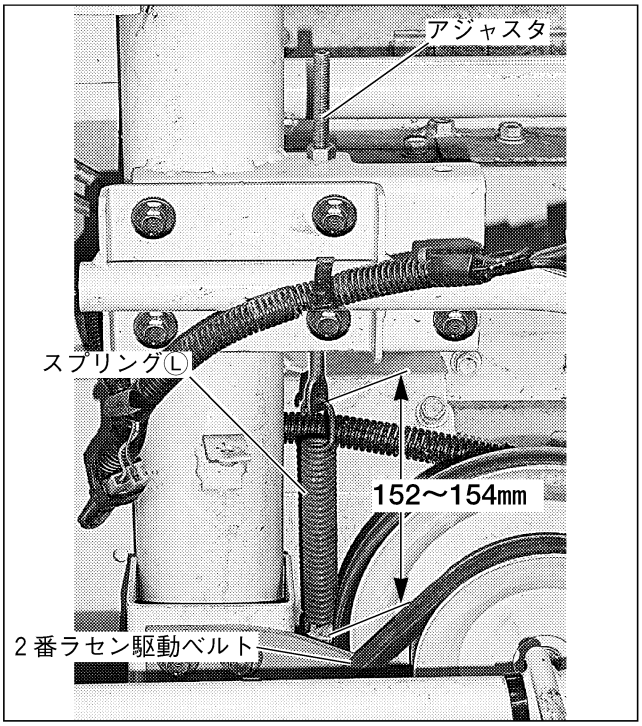
9．２番ラセン駆動ベルト

・［**グレンタンク仕様**］は，グレンタンクをオープンし，［**ホッパ仕様**］は，ホッパとハンガを取外し，カバーⓂを外します。



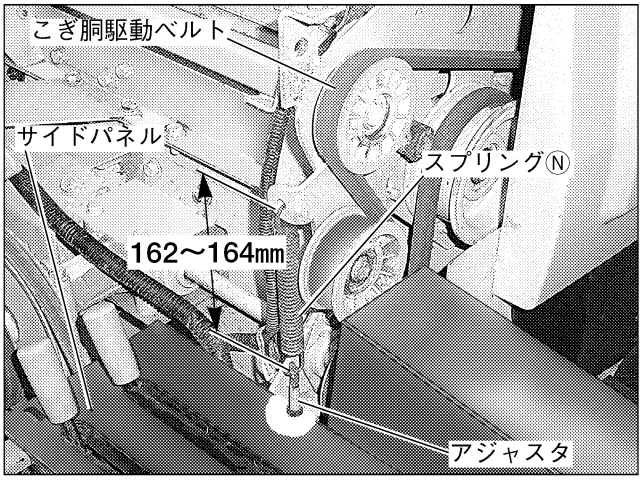
❶ 点検……テンションプーリを引張っているスプリングⓁの長さが 152〜154㎜ になっていますか。

❷ 調整……スプリングⓁのアジャスタのナットを緩めて調整します。調整後はナットを締め付けます。



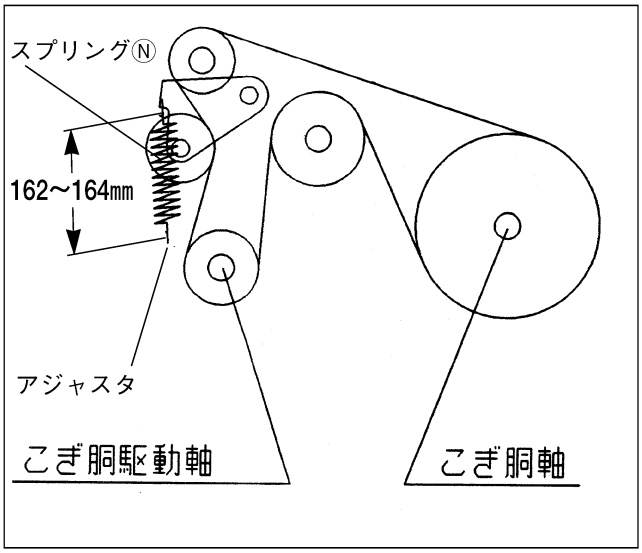
10．こぎ胴駆動ベルト

・カバーⓌを外します。



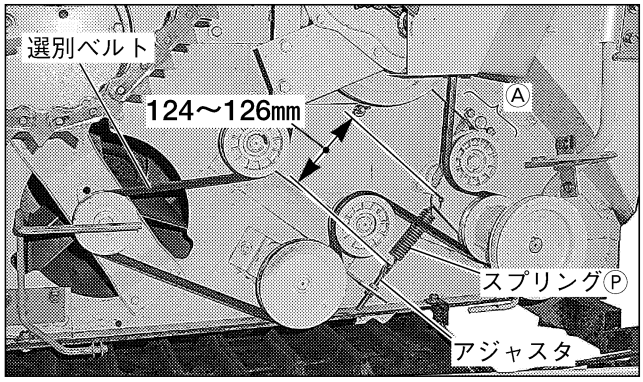
❶ **点検**……テンションプーリを引張っているスプリングⓃの長さが **162～164mm** になっていますか。

❷ **調整**……スプリングⓃのアジャスタのナットを緩めて調整します。調整後はナットを締め付けます。



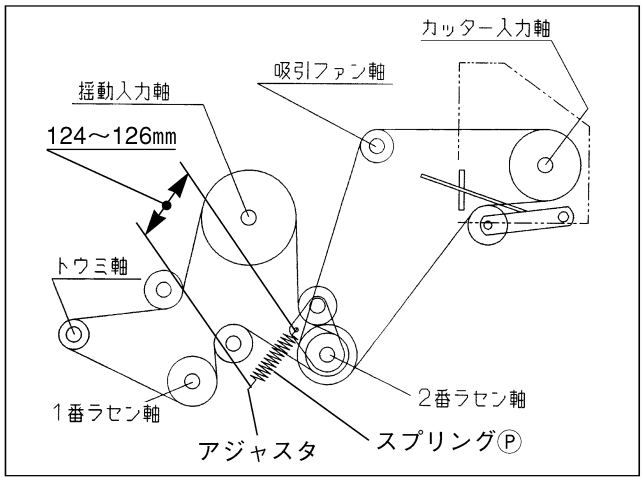
11．選別ベルト

・脱こくサイドカバー（上），（下）を外します。



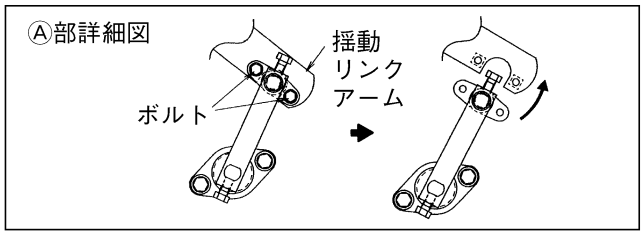
❶ **点検**……ベルトを張っているテンションプーリのスプリングⓅの長さが **124～126mm** になっていますか。

❷ **調整**……スプリングⓅのアジャスタのナットを緩めて調整します。調整後はナットを締め付けます。



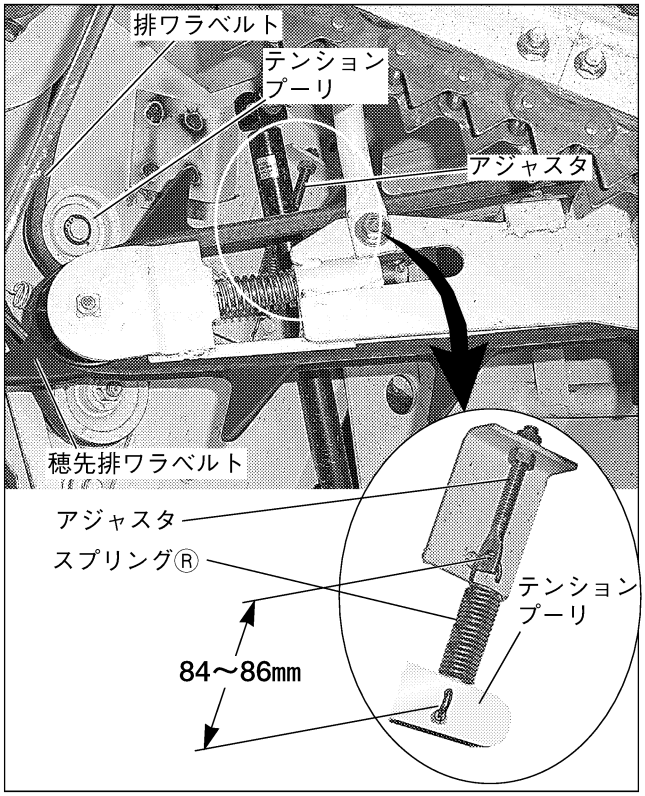
❸ **交換**

1．アジャスタのナットをゆるめ，選別ベルトの張りを解除します。
2．ボルト２本を外します。
3．揺動リンクアームを矢印の方向に持ち上げます。
4．選別ベルトを外します。
5．１～４と逆の手順でベルトを取付けます。



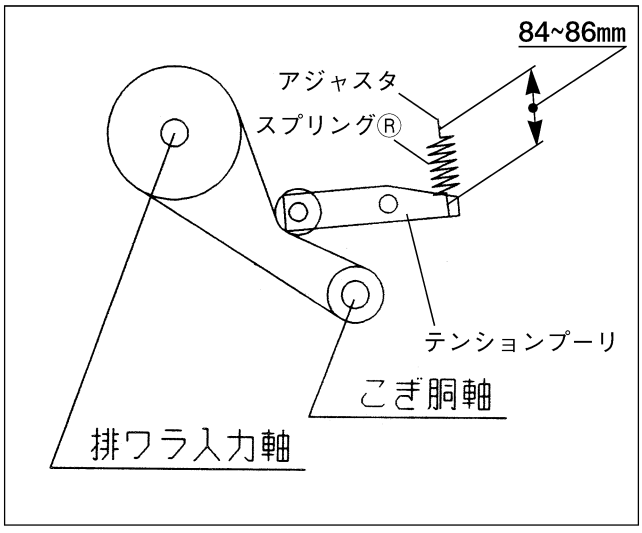
12. 排ワラ入力ベルト

・脱こくこぎ室カバーをオープンします。



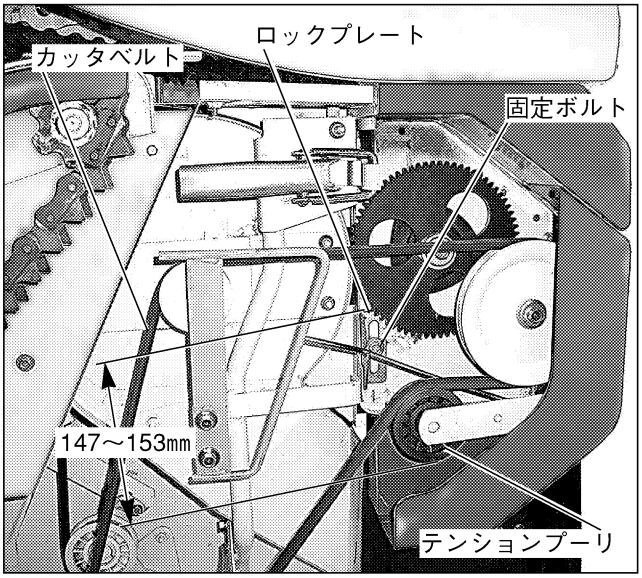
❶ **点検**……ベルトを張っているテンションプーリのスプリング�Rの長さが **84～86mm** になっていますか。

❷ **調整**……スプリング�Rのアジャスタのナットを緩めて調整します。調整後はナットを締め付けます。



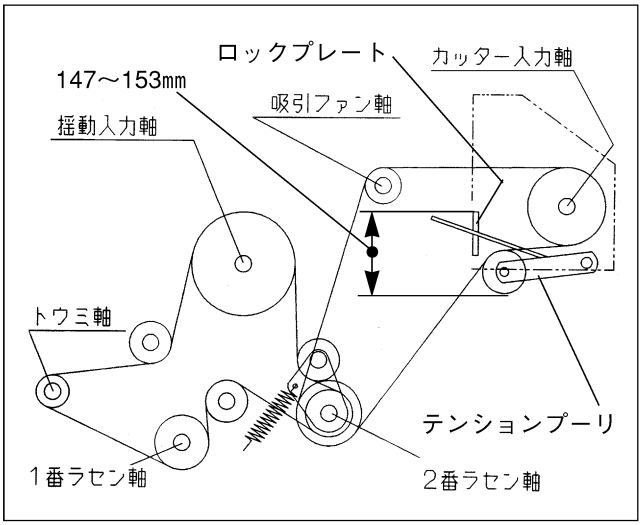
13. カッタベルト

・脱こくサイドカバー（上），（下）を外します。



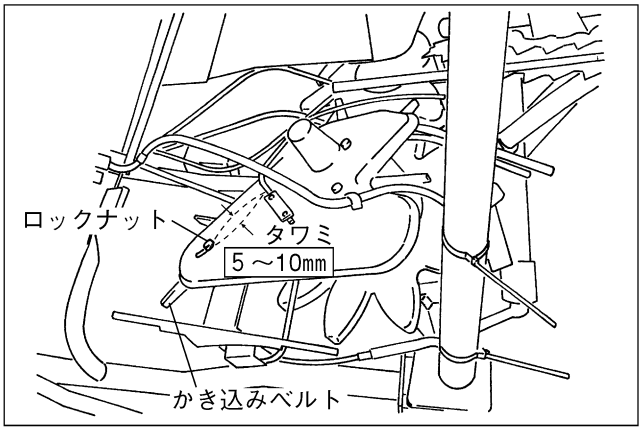
❶ **点検**……ロックプレートの上端と，テンションプーリの下端の長さが，**147～153mm** になっていますか。

❷ **調整**……ロックプレートの固定ボルトを緩めてロックプレート位置を調整します。調整後はボルトを締め付けます。



14．かき込みベルト（刈取部）

・引起しサイドカバー（右）（左）を外して左右のかき込みベルトを点検します。



❶ **点検**……ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5～10mm になっていますか。

❷ **調整**……アイドラプーリのロックナットをゆるめ，アイドラプーリを引張って調整します。

15．穂先ハイワラベルト

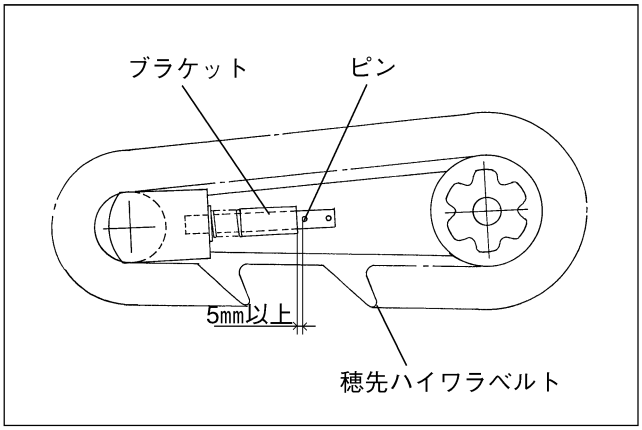
❶ **点検**

ブラケットとピンのスキマが 5㎜以上 になっていますか。

❷ **調整**

⑴ こぎ胴部を開きます。

⑵ 5㎜以下になっていたらハイワラベルトを交換します。



「チェンの点検・調整」

16．穂先チェン

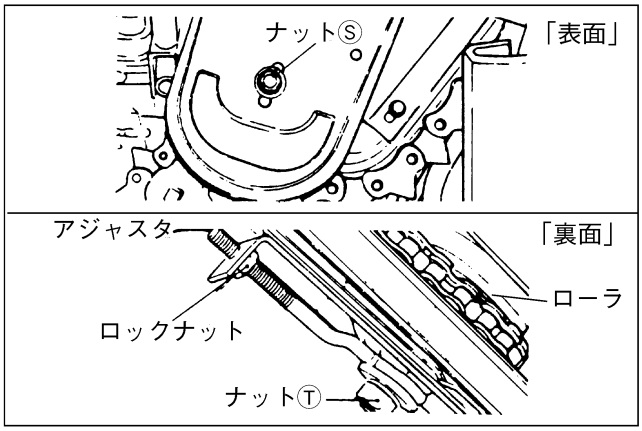
穂先チェンの張りを点検します。

❶ **点検**……搬送側でない側の中央部を軽く引きタワミ量が 5㎜ 位になっていますか。

❷ **調整**……連動側ローラを固定しているナットⓈ・Ⓣをゆるめ，アジャスタで張ります。

取扱いのポイント

●ローラの軸が倒れないように調整してください。



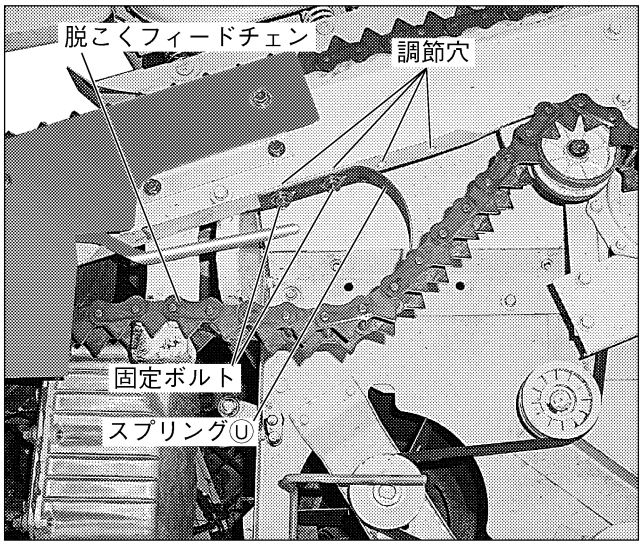
17．脱こくフィードチェン

・脱こくサイドカバー(上)(下)を取外してフィードチェンの張りを点検します。

❶ **点検**……脱こくフィードチェンとスプリングⓊにスキマがないですか。

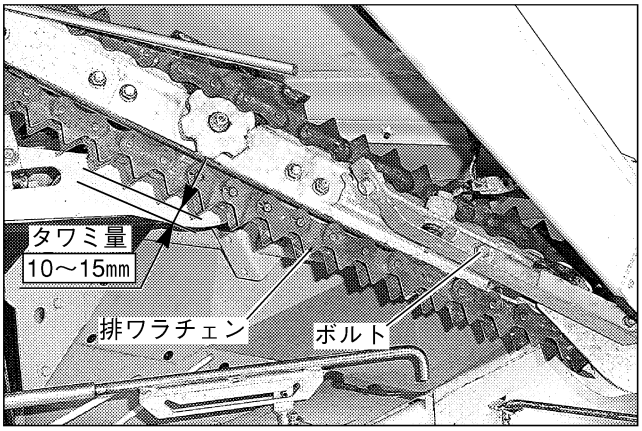
❷ **調整**……スプリングⓊの固定ボルトを緩め，スプリングを左右にスライドさせるか，固定ボルトを取外し，調節穴位置を変更して，フィードチェンとスプリングⓊのスキマがなくなる様にします。

スプリングのスライドで調整できなくなった場合はチェンの「**半駒リンク**」を外します。



18．排ワラチェン

・脱こくこぎ室カバーを開いて排ワラチェンの張りを点検します。



❶ **点検**……排ワラチェンの中央部を軽く引きタワミ量が **10～15㎜** になっていますか。

❷ **調整**……ボルト１本をゆるめると自動的に調整できます。調整後はボルトを締付けます。

なお調整ができなくなったときはチェンの「**半駒リンク**」を外します。

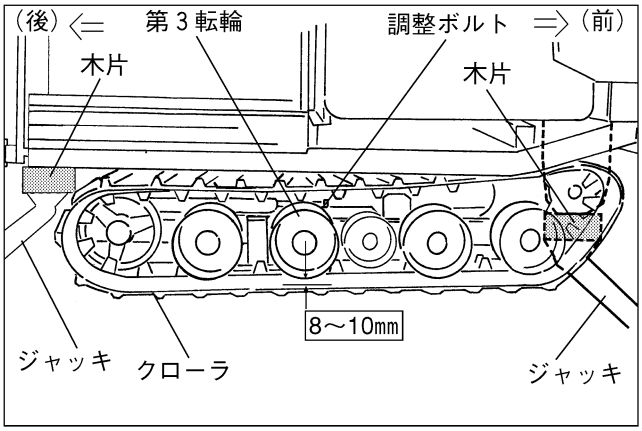
「クローラの点検・調整」

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ガレージジャッキがめり込んだり移動したりしない平坦な場所で行なってください。
◆ガレージジャッキは２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は機体のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚をかませて落下，転倒防止をしてください。

19．クローラ

❶ **点検**……フレームをジャッキアップした状態で第３転輪とクローラのスキマが **8～10㎜** になっていますか。



❷ **調整**……ロックナットをゆるめ調整ボルトで調整します。
調整ボルトを締込むとクローラが張り，ゆるめるとクローラがゆるみます。

取扱いのポイント

- トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けるとケースが破損する恐れがありますので，木片をかませて行なってください。
- （後）側のガレージジャッキはフレームを持上げてください。

「刈刃の上下調節」

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈刃の着脱作業をするときは，厚手の手袋をして行なってください。
◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いてけがをすることがあります。
◆刈刃の点検調整するときは，刈取部を上げ，油圧固定レバーを《油圧固定》位置にして，刈取部の下に固定脚等を入れて作業してください。

20．刈　　刃

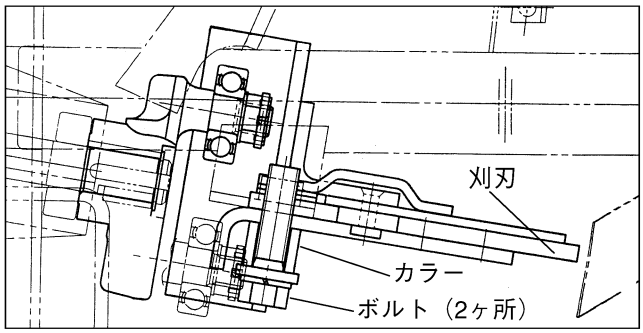
❶ **刈刃の上下調節**

・出荷のときは「**上セット**」になっています。
裏作等のために刈株を低くしたいときは，刈刃を「**下セット**」にすることができます。

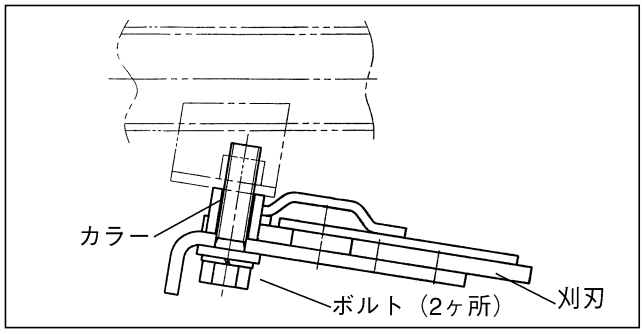
❷ 刈刃取付ボルト（２ヶ所）を緩めて，刈刃を手でささえながら，ボルトを外しカラーを入替えます。

❸ ボルトを締付ます。

「**上セット（出荷状態）**」



「**下セット**」



長期格納のしかた

・シーズンが終わったらつぎの作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。



◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電でヤケドや損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホースの老化や，傷による燃料もれがあると火災の原因になります。作業前後に点検し，損傷したりもれている場合は交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆機械にシートカバーをかける時はエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱い時にシートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布でふき取ります。

❷ 脱こく内部およびホッパのゴミ・残溜こく粒などを掃除口よりきれいに取除きます。
（「**脱こく内部の掃除**」の項を参照）

2．錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面にグリスを塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆ないようにします。

❸ 塗装がはげた個所は補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行う時は平坦な格納場所で駐車ブレーキをかけ，各クラッチレバーを《**切**》にしエンジンが冷えてから行います。

❶ エンジンコントロールレバーはいっぱいに戻しておきます。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満タンにしておきます。

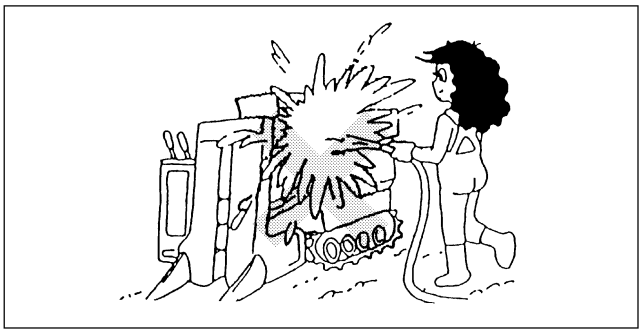
❸ 冬期気温が0℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（73～74ページ参照）

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に該当する項目について点検・整備します。

取扱いのポイント

- **エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には水をかけないでください。**



5．格　　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

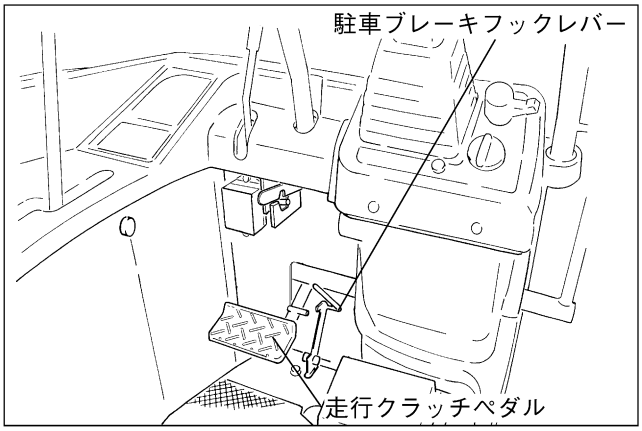
❶　「**クローラ**」の下には板等を敷いておきます。

❷　各レバーは《**切**》・《**N**》（**中立**）の位置にします。

❸　「**ナローガイド（左）**」「**補助モミ受台**」を収納し，デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けておきます。

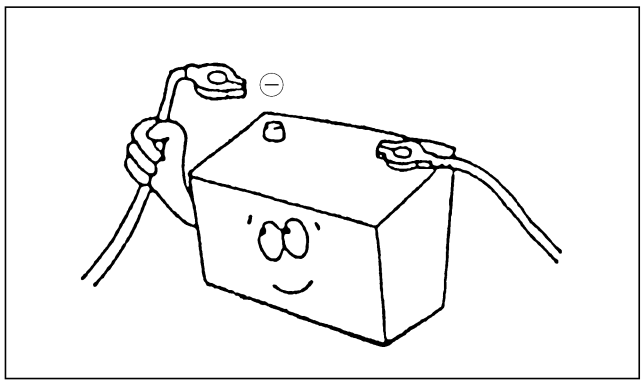
❹　刈取部を下げて，スタータスイッチの「**キー**」を抜取ります。

❺　駐車ブレーキフックレバーをかけます。



❻　クローラに「**歯止め**」をします。

❼　「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか，㊀側のコードをはずしておきます。１ケ月に１回，バッテリ補充電のためエンジンを約10分間回します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**
- **エンジンを始動する前に，バッテリターミナル等保管する時に処置した項目を復元してください。**

6．再使用にあたって

格納後，はじめて使用するときには各部の点検を入念に行った後に運転します。

❶　エンジンを回す前に，バッテリターミナル等保管する時に処置した項目を正しく復元します。

❷　「**運転まえの点検**」を確実に行います。

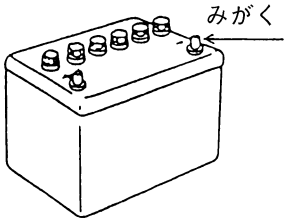
不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは「**型式名**」，「**機械番号（製造番号）**」，「**エンジン番号**」をあわせてお知らせください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。点検処置は参照ページの安全上の項目をよく読んでから行なってください。

1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶ 作業機クラッチレバーが《**入**》になっている。	●作業機クラッチレバーを《**切**》にする。	18
	❷ クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。	14
	❸ こく粒排出レバーが《**入**》になっている。	●こく粒排出レバーを《**切**》にします。	22
	❹ バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。	83～85
	❺ メインヒューズが切れている。	●配線の短絡個所を点検し，修正後，メインヒューズを交換します。	24～26
	❻ バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	83～85
	❼ 《**スタータ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	24～26

不調時の処置

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶　燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し,エア抜きをします。（燃料タンク容量……13Ｌ）	71
	❷・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアがたまっている。	●エア抜きをします。	81～82
	❸　《**マイコン・計器・ランプ・ホーン・燃料ポンプ**》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（15Ａ）を交換します。	24～26
エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる	❶　燃料系統に水・ゴミの混入。	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタを交換します。	81～82
	❷　エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換します。	80
	❸　ラジエータ防じんフィルタの目詰まり。	●防じんフィルタを掃除します。	80
	❹　エンジンオイルの不良（汚れ）または不足。	●指定のオイルを補給または交換します。	72
	❺　冷却水の不足。	●冷却水を補給します。	73～74
	❻　エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整します。	114
	❼　《**マイコン・計器・ランプ・ホーン・燃料ポンプ**》ヒューズが切れているため燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（15Ａ）を交換します。	24～26

2．走行・運転操作部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
主変速（無段変速）レバーを操作しても走行しない	❶　油圧オイルタンクのオイル不足。	●規定量まで油圧作動油を補給します。	75
マルチステアリングレバーを操作しても，刈取部が上昇・下降しない	❶　油圧固定レバーが《**油圧固定**》位置になっている。	●油圧固定レバーを《**解除**》にする。	18

3．電気・自動制御部

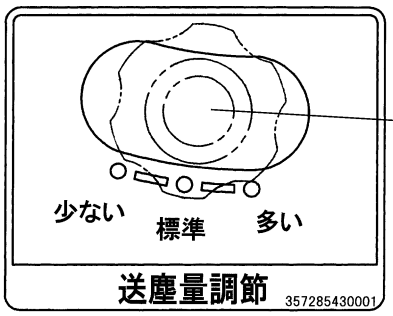
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
モニタランプが点灯しない	❶　《**マイコン・計器・ランプ・ホーン・燃料ポンプ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（15A）を交換します。	24～26
	❷　ランプの電球が切れている。	●電球を交換します。	134
前照灯・ホーン・バックブザー・方向指示器が点灯又は作動しない	❶　《**マイコン・計器・ランプ・ホーン・燃料ポンプ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（15A）を交換します。	24～26
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶　《**こぎ深さ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 こぎ深制御ヒューズ……20A	24～26
	❷　刈取部のこぎ深センサにワラクズがたまっている。	●ワラクズを取除きます。	63
方向自動制御（ジャストディレクタ）が作動しない［A仕様］	❶　《**操向・方向**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（15A）を交換します。	24～26
	❷　刈取部の方向センサに草・泥・ワラクズ等がたまっている。	●草・泥・ワラクズ等を取除きます。	—

4. 刈　取　部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶　搬送通路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置します。 ①作業機クラッチレバーを《**切**》にします。 ②エンジンを停止します。 ③刈取搬送部の詰まり個所を取除きます。 ④エンジンを始動します。 ⑤作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**入**》にして確認します。 **取扱いのポイント** ●**デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	―
刈取部が動かない	❶　刈取クラッチワイヤの調整不良。（ベルトがスリップしている）	●刈取クラッチワイヤの調整をします。	109
刈株の長さにムラがある	❶　刈刃の注油不足。	●刈刃に十分注油します。	79
	❷　刈刃の調整不良。(刈刃のスキマが広い)	●調整ライナでスキマを調整します。	105
	❸　刈刃の摩耗。	●刈刃を交換します。	105
	❹　マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条にそって運転するときは，急激な操作はさけます。	(43～46)
刈取部から脱こく部への搬送引きつぎが悪い	❶　搬送通路に雑草・ワラクズ・泥等が溜まっている。	●搬送通路の雑草・ワラクズ・泥等を取除きます。	―
	❷　「**深こぎ**」または「**浅こぎ**」となっている。	●適正こぎ深さで作業をします。	62～63
刈取スライドが重い，作動しない	❶　スライド部の注油不足。	●刈取スライド固定レバー摺動部に注油します。	78
	❷　こぎ深さが深くなっている。	●こぎ深さ手動スイッチの《**浅こぎ**》側を押してこぎ深さを最も浅い状態にします。	41

5. 脱　こ　く　部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	❶ 排ワラチェン部に詰まりがある。 （排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動） ❷ 脱こくフィードチェン終端部エンジン停止スイッチ作動 （脱こくフィードチェン終端部エンジン停止スイッチ作動）	●つぎの手順により処置します。 ①作業機クラッチレバーを《**切**》にします。 ②排ワラ関係の詰まり個所を取除きます。 ③排ワラチェンの張りを点検・調整します。 ④エンジンを始動します。 ⑤作業機クラッチレバーを《**入**》にして確認します。	―
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物にあった回転計の値になっているか確認し回転計を見て，《**イネ・ムギ，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	40
	❷ ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●こぎ胴駆動ベルトを張ります。 ●２番ラセン駆動ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。 ●カッタベルトを張ります。	109 115 114 115 116
	❸ こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	62
	❹ 作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ます。 ●受網の掃除。	87～88
	❺ 刈り取り時期が早く、青い作物を刈り取っている。	●刈り取り時期を待って刈取ます。 ●作業速度を下げ低能率で作業します。	17～18
	❻ 揺動フィンの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてフィンの調整をします。	19，50
	❼ １番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●掃除口を閉じます。	92

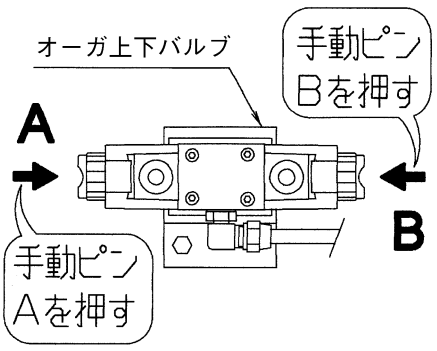
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶　作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	87〜88
	❷　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	62〜63
	❸　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物にあったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《**イネ・ムギ，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	40
	❹　刈取り速度が早すぎる。	●主変速レバーで速度を作業速度の低側に下げます。	17〜18 45
	❺　送じんがスムーズでない。  	●送じん量調節ダイヤルを≪**多い**≫側の位置にします。 送じん量調節ダイヤル	50
	❻　ワラ切カマが切れない。	●ワラ切カマを交換します。	106
	❼　揺動フィンの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてフィンの調整をします。	50

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
三番ロスが多い	❶　こぎ深さが「**深こぎ**」のため、こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	62〜63
	❷　能率のあげすぎにより，揺動流板にワラクズ等が停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，作業速度下げて作業します。	17〜18 45
	❸　作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	87〜88
	❹　刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度内で，できるだけ低能率で作業をします。	17〜18 45
	❺　揺動フィンの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてフィンの調整をします。	50
こぎ残しが多い	❶　こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	62〜63
	❷　こぎ胴の回転が低い。	●こぎ胴回転を規定回転にあわせてマークの範囲内になるようにして作業をします。	40
	❸　デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーをこきざみに操作する。（強く操作すると，「**ブレーキ**」がきき，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります。） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	—

6．ワラ処理部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
切れ味が悪く，馬力をとる	❶　カッタ刃の摩耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	98〜104
	❷　排ワラの搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。 ●こぎ深さ位置を適正にします。	17〜18, 45 62〜63
	❸　ワラがぬれているか，雑草が多いためカッタ軸に巻付が発生しています。	●エンジンを停止し，巻付ワラ草を除去します。	—
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶　排ワラチェン・ベルトの張り不良。	●チェン・ベルトを張ります。	116〜118
	❷　こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	62〜63
	❸　刈取速度が遅く搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。	17〜18 41〜46

7．グレンタンク部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
排出オーガ操作レバーを操作しても，動かない	❶　《**グレン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 《**グレン**》ヒューズ…20A	24〜26
	❷　オーガ上下バルブのゴミかみ。  ［オーガ上下バルブを上方から見た図］	●エンジンを始動しオーガ上下バルブの「**上昇**」,「**下降**」それぞれの手動ピンを数回押すと正常にもどる事があります。 （オーガ上下バルブはグレンタンクをオープンすると，下方にあります。） 機能確認 / チェック方法 上　げ / Aを押す 下　げ / Bを押す **取扱いのポイント** ●**水，又はスチームでの洗浄は厳禁。**	—
こく粒排出レバーを操作してもこく粒が出ない	❶　ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整します。	111
	❷　タンク内のこく粒が流れない。（シャッタ部で滞留している）	●こく粒排出レバーを繰返し操作します。	—

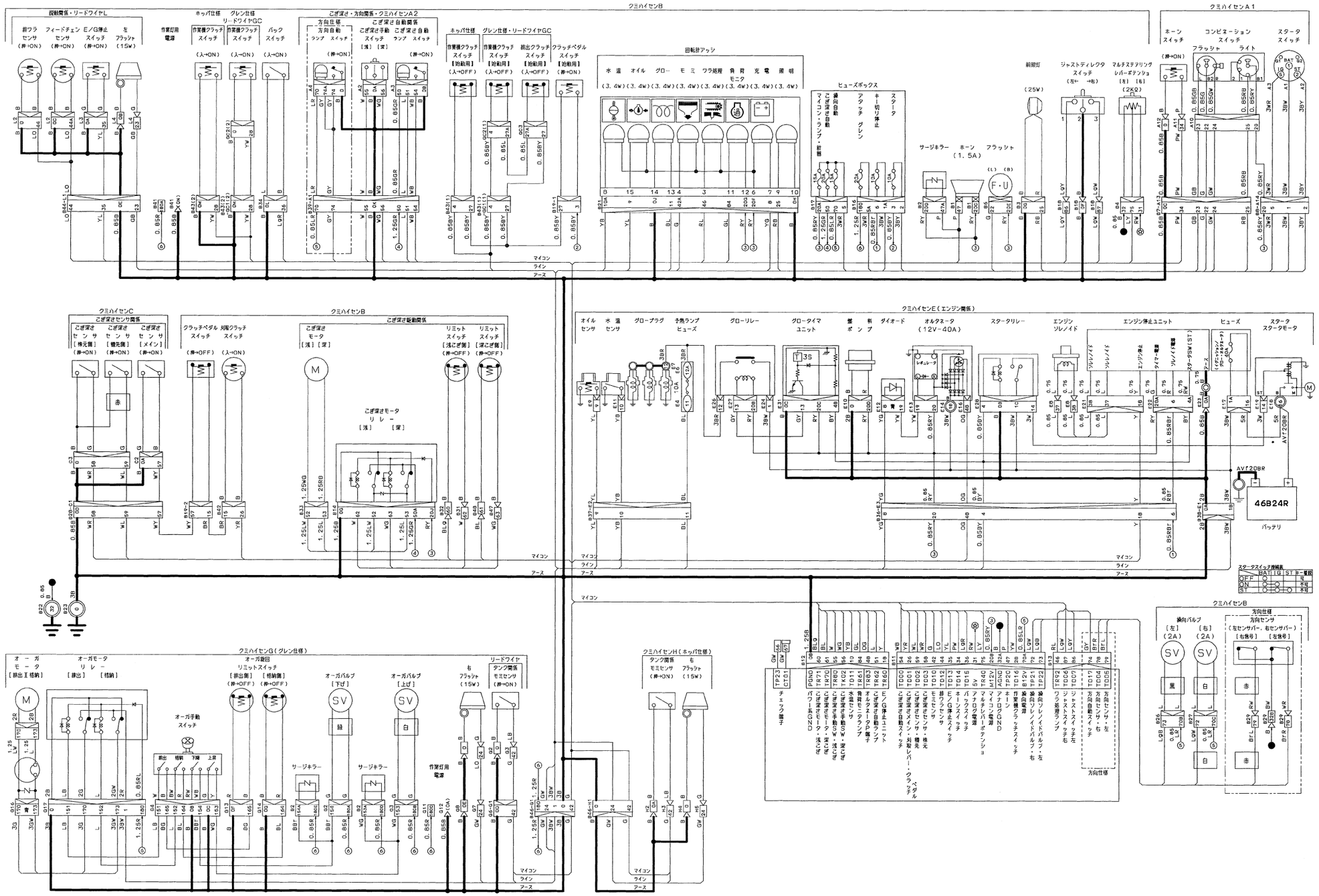
付　　表

1．主要諸元

型式名				VMS15	VMS15G
区分				KC	GKC
機体寸法（格納時）	全長		(mm)	2,680	
	全幅		(mm)	1,585	
	全高		(mm)	1,570	1,930
機体質量（重量）			(kg)	830	985
エンジン	型式名			三菱L3C型	
	種類			水冷3気筒立形ディーゼルエンジン	
	総排気量		(L)	0.808	
	出力／回転速度		(kW{PS}/rpm)	11 {15}／2,700	
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量		(L)	13	
	始動方式			セルモータ式	
	バッテリ		(V·Ah)	12・36	
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	300×900	350×900
		中心距離	(mm)	700（轍間750）	800
		平均接地圧	(kPa{kgf/cm²})	15.1 {0.15}	15.3 {0.16}
	変速方式			油圧モータ一式（HST）	
	変速段数		(段)	前進無段・後進無段（副変速2段）	
	走行速度（m/s）	前進		0～1.2	
		後進		0～1.0	
刈取部	刈取り条数		(条)	2	
	デバイダ先端間隔		(mm)	785～835	
	刃幅		(mm)	750	
	刈取スライド量		(mm)	150	
	刈高さ範囲		(mm)	40～150	
	こぎ深さ調節方式			電動式（自動・手動併用）	
脱こく部	脱こく方式			複胴下こぎ軸流式	
	こぎ胴	径×幅	(mm)	365×330	
		回転速度	(rpm)	555	
	処理胴	径×幅	(mm)	90×550	
		回転速度	(rpm)	1,360	
こく粒処理部	こく粒処理方式			ホッパ付袋詰	グレンタンク
	タンク（ホッパ）容量		(L)	100	330
	吐出口数		(口)	2	－
排ワラ処理装置				ディスク型カッタ	
適応作物全長			(mm)	600～1,200	
倒伏適応性			(度)	追刈：85°以下，向刈：70°以下	
作業能率			(min/10a)	45～100	

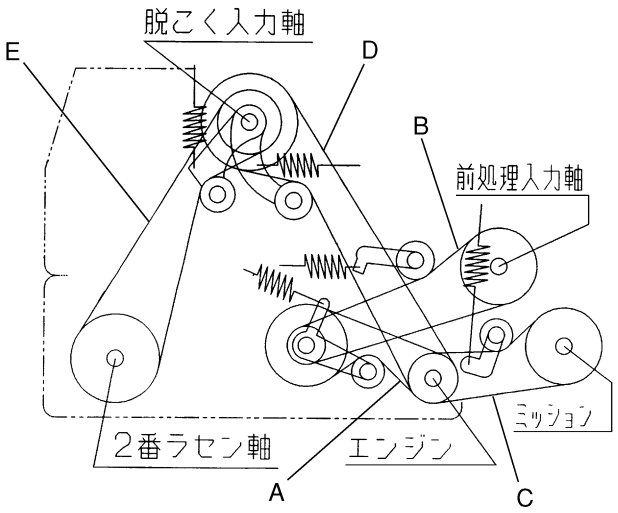
・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

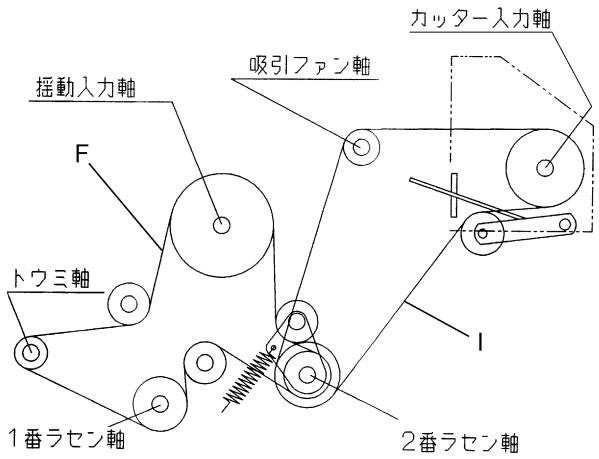
2. 電気配線図

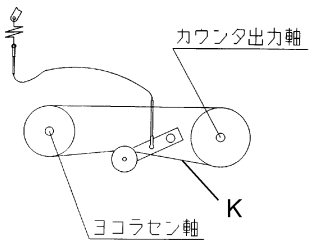

クミハイセンB
クミハイセンA1
クミハイセンC
クミハイセンE（エンジン関係）
クミハイセンG（グレン仕様）
クミハイセンH（キッパ仕様）
マイコン
ライン
アース
ヒューズボックス
回転計アッシ
前照灯
(25W)
ジャストディレクタ スイッチ
マルチステアリング レバーポテンショ
(2KΩ)
ホーン スイッチ
コンビネーション スイッチ
スタータ スイッチ
フラッシャ
ライト
サージキラー
ホーン
(1.5A)
フラッシャ
作業灯用 電源
作業クラッチ スイッチ
バック スイッチ
方向自動 ランプ スイッチ
こぎ深さ手動 スイッチ
こぎ深さ自動 ランプ スイッチ
クラッチペダル スイッチ
【始動用】
【排出用】
【格納用】
こぎ深さセンサ関係
こぎ深さ センサ
【株元側】
【穂先側】
【メイン】
こぎ深さ駆動関係
こぎ深さ モータ
こぎ深さモータ リレー
リミット スイッチ
【浅こぎ側】
【深こぎ側】
オーガ モータ リレー
【排出】
【格納】
オーガ駆回 リミットスイッチ
オーガ手動 スイッチ
排出
格納
下降
上昇
オーガバルブ
【下げ】
【上げ】
右 フラッシャ (15W)
リードワイヤ
タンク関係 モミセンサ
(→ON)
タンク関係 右 モミセンサ (→ON) フラッシャ (15W)
オイル センサ
水温 センサ
グロープラグ
予熱ランプ ヒューズ
グローリレー
グロータイマ ユニット
燃料 ポンプ
ダイオード
オルタネータ (12V-40A)
スタータリレー
エンジン ソレノイド
エンジン停止ユニット
ヒューズ
スタータ スタータモータ
バッテリ
46B24R
AVF20BR
AVF20GR
スタータスイッチ接続表
OFF
ON
ST
電装
水温
オイル
グロー
モミ
ワラ焼煙
負荷
充電
照明
キー切り停止
アクセル グレン
ヘッドライト 前照灯
ヘッドライト 前照灯 ロービーム
ヘッドライト 前照灯 ハイビーム
ジャストディレクタ スイッチ 左
ジャストディレクタ スイッチ 右
ワラ焼煙ランプ
ホーン
マイコン電源
マルチレバーポテンショ
アナログ電源
バックスイッチ
作業灯電源
クラッチスイッチ
作業灯スイッチ
こぎ深さセンサ・株元
こぎ深さセンサ・穂先
こぎ深さセンサ・メイン
こぎ深さ自動スイッチ
こぎ深さ手動スイッチ
こぎ深さモーター・浅こぎ側
こぎ深さモーター・深こぎ側
こぎ深さリミットスイッチ・浅こぎ側
こぎ深さリミットスイッチ・深こぎ側
こぎ深さ自動ランプ
こぎ深さ手動ランプ
水温センサ
負荷センサ
オルタネータ・端子
エンジン停止ユニット
オーガモーター・排出
オーガモーター・格納
オーガリミットスイッチ・排出
オーガリミットスイッチ・格納
オーガ手動スイッチ
オーガ自動スイッチ
オーガバルブ・下げ
オーガバルブ・上げ
サージキラー
作業灯用電源
燃料センサ
モミセンサ
グロープラグ
グローリレー
グロータイマユニット
燃料ポンプ
ダイオード
オルタネータ
スタータリレー
エンジンソレノイド
エンジン停止ユニット
スタータモータ
ヒューズ
バッテリ
ジャストディレクタ スイッチ
ワラ焼煙ランプ
ジャストディレクタ スイッチ 左
ジャストディレクタ スイッチ 右
方向センサ・左
方向センサ・右
方向自動スイッチ
方向仕様
方向センサ
（左センサバー、右センサバー）
【右後号】
【左後号】
操向バルブ
【左】 (2A)
【右】 (2A)
SV
黒
白
赤
緑
青

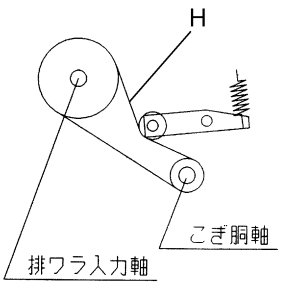
3. ベルト一覧表

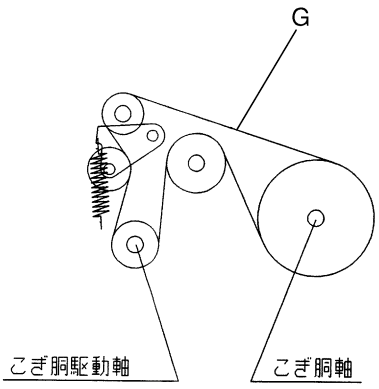
記号	伝動系統	本数	部品番号	ベルトサイズ	ベルト名称
A	エンジンPTO軸～カウンタ軸	1	3572 5531 000	LB40	カウンタ駆動ベルト
B	カウンタ軸～刈取軸	1	0852 1500 055	SB55	刈取ベルト
C	エンジンPTO軸～ミッション主軸	1	3556 0054 000	SB40.5	走行駆動ベルト
D	エンジンPTO軸～脱こく入力軸	1	0852 1200 056	LB56	脱こく入力ベルト
E	脱こく入力軸～2番ラセン軸	1	0852 1200 069	LB69	2番ラセン駆動ベルト
F	2番ラセン軸～唐箕軸	1	3572 6691 000	LA74	選別ベルト
G	こぎ胴駆動軸～こぎ胴軸	1	3572 6145 000	SB70	こぎ胴駆動ベルト
H	こぎ胴軸～排ワラ入力軸	1	0851 1200 035	LA35	排ワラ入力ベルト
I	2番ラセン軸～カッタ入力軸	1	0852 1200 069	LB69	カッタベルト
J	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	MD079696	905㎜	エンジンファンベルト
K	カウンタ出力軸～横ラセン軸	1	3572 5531 000	LB40	グレン駆動ベルト

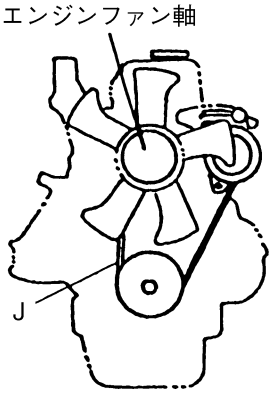






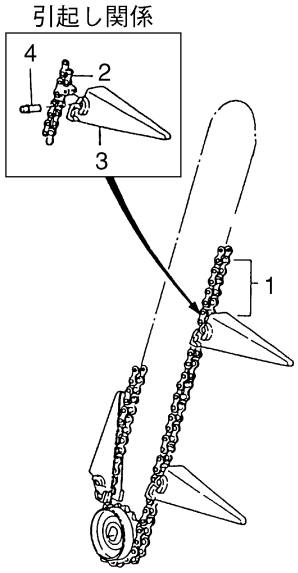


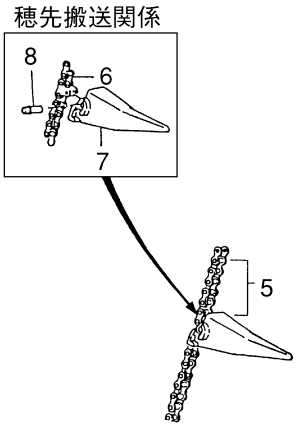




4．主な消耗部品

1．爪関係

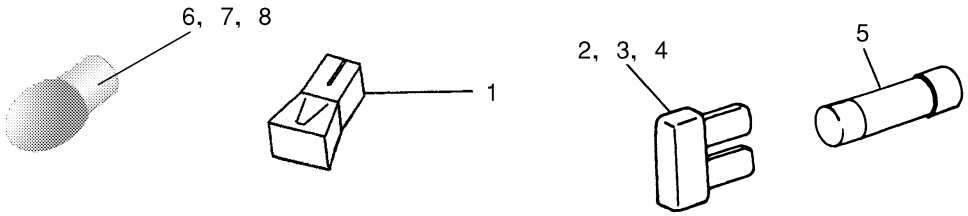




No.	部品名称	部品番号	備考
1	チェンアッセンブリ（2組）	3556 4437 000	
2	チェン（2本）	3556 4438 000	
3	ツメ（20個）	3544 4427 001	
4	ツメトリツケピン（20個）	3523 4428 000	
5	チェンアッセンブリ（1個）	3556 5221 000	
6	チェン（1本）	3556 5222 000	
7	ツメ（9本）	3501 5247 000	
8	ツメトリツケピン（9本）	3523 4428 000	

・ご用命のときは，「部品番号」をお知らせください。

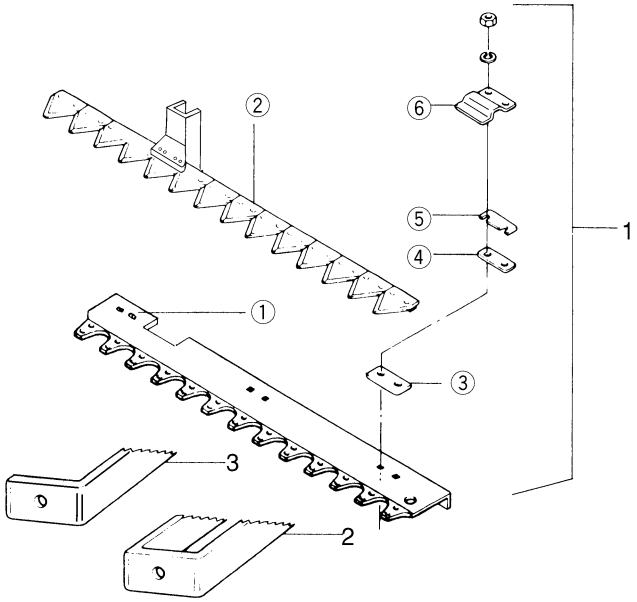
2．ヒューズ，ランプ



No.	部品名称	部品番号	備考
1	メインヒューズ	3559 0861 200	40A
2	ヒューズ	0980 1001 505	15A
3	ヒューズ	0980 1001 005	10A
4	ヒューズ	0980 1002 005	20A
5	ヒューズ	0980 1001 001	10A
6	前照灯バルブ	3555 0901 300	12V27W
7	方向指示バルブ	0980 8121 501	12V15W
8	モニタバルブ	0980 8120 348	12V3.4W

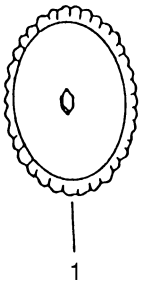
・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

3．刈刃・カマ関係



No.	部品名称	部品番号	備考
1	カリハアッセンブリ	3556 4352 000	
①	ウケハアッセンブリ	3556 4353 000	
②	ナイフバーアッセンブリ	3556 4355 000	
③	マサツイタ　(3個)	3690 4914 000	
④	ライナ	3518 4357 000	
⑤	シム	3690 4912 000	
⑥	カリハオサエ　(3個)	3690 4911 000	t =0.2㎜
2	ワラキリカマ　(2個)	3704 7321 000	
3	ワラキリカマ　(1個)	3544 7223 000	

4．カッタ関係



No.	部品名称	個数		部品番号	備考
		D13-16	D13-31,SD13-31		
1	ノコバ	16	31	3572 8817 000	

5．アタッチメント（別売り）

・次のアタッチメントを基本作業機または部品として準備しておりますのでご利用ください。

	型式（部品番号）	品　　名	備　　考
基本作業機・部品	KN－M13	ノッタ	株元・穂先結束両用
	D13-16	ディスクカッタ16	切断長60㎜
	D13-31	ディスクカッタ31	切断長30㎜
	SD13-31	スーパーディスクカッタ	切断長30㎜
	S－M13D	ディスクカッタ用ドロッパ	
	SP－M6DX	スーパーデバイダ	
	R－KSM13	スタンドノッタ	
	BW－VM13	バランスウェイト	8.5㎏ ノッタ作業時のバランス調整用
	PA－M13	パラソルボス	
	VMS15G－OSK	オーガソウサキット	電動クラッチ方式

6．潤滑油について

オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

1．エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル（SAE・10W－30），マルチGDオイル（10W－30）
全農	クミアイエンジンオイル（ディーゼル用）
日石三菱	ダイヤモンドHDS－3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル

・やむをえず他メーカのオイルを使用される場合はAPIサービス分類CD級オイルをお使いください。

2．油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル（SAE・10W－30）
日石三菱	ダイヤモンドハイドロフルードEP46 スーパーハイランド46

をお使いください。

3．ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル（SAE・10W－30） マルチGBオイル（SAE80W），マルチSHPギヤオイル（SAE90）
全農	クミアイギヤオイル（SAE80W）
日石三菱	ダイヤモンドハイポイドギヤオイル（SAE80W） ダイヤモンドハイポイドギヤオイル（SAE140） ダイヤモンドSHPギヤオイル（SAE90，GL－5級）

をお使いください。

4. 三菱農機 (純正油) マルチオイル

・マルチＳＴＯＵ（ストー）オイルは１種類でエンジンオイル又はギヤオイルとして１年中ご使用いただけるオールシーズンタイプです。
・マルチＧＤオイルはエンジン専用オイルです。
・マルチＧＢオイルはギヤおよび湿式ブレーキの特性を考えて開発された，ギヤ（Ｇ）と湿式ブレーキ（Ｂ）専用オイルです。
・マルチSHPギヤオイルは，ギヤ専用オイルです。
・お買い求めは，弊社販売店で取扱っていますのでご相談ください。



性状＼品名		マルチSTOUオイル	マルチGDオイル	マルチGBオイル	マルチSHPギヤオイル
密度	15℃ g／cm³	0.881	0.872	0.893	0.900
引火点	℃	210	229	230	230
流動点	℃	－37.5	－26.1	－35.0	－22.5
動粘度cSt	@ 40℃	62.0	67.5	78.4	188.5
	@ 100℃	10.8	11.4	9.8	17.5
粘度指数		168	163	104	100
ＡＰＩサービス分類		SD／CD／GL－4	SH／CD	GL－4	GL－5
ＳＡＥ粘度番号		10W－30	10W－30	80W	90
荷姿		ドラム・20Ｌ缶	18.9Ｌ缶	20Ｌ缶	ドラム・20Ｌ缶

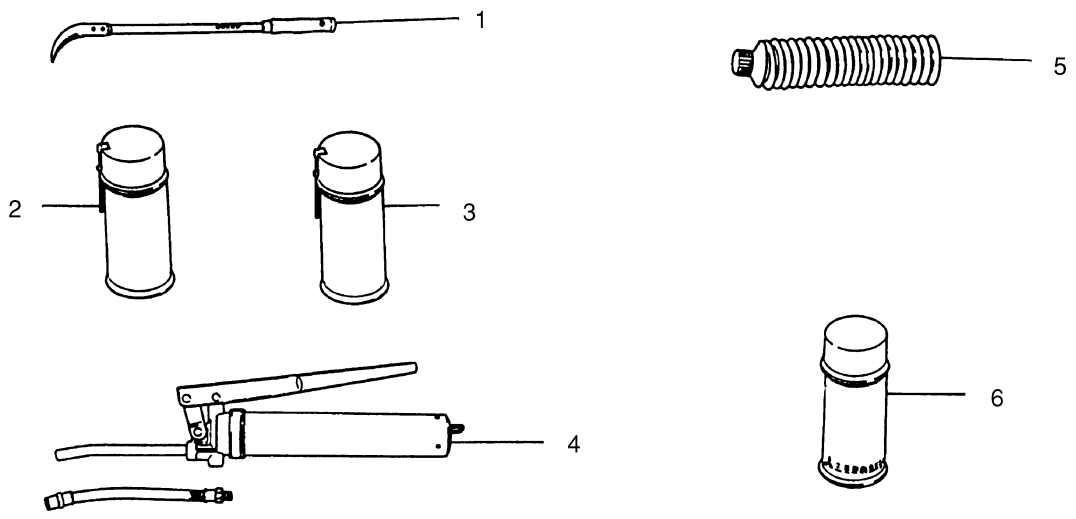
取扱いのポイント

● マルチGBオイルはエンジンオイルとしては使用できません。

7．コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商　品　番　号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用
6	カラースプレー（赤）	0975　0000　270	
	〃　（白）	0975　0000　160	補修用塗料
	〃　（黒）	0975　0000　470	



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

8．用語解説

取扱説明書に使用している用語の意味は次の通りです。

ア行

アタッチメント……コンバイン購入後に取付ける装置です。

インジケータランプ……機械の状態を知らせるランプです。

エアクリーナエレメント……空気清浄器用のフィルタです。

HST……油圧ポンプと油圧モータを組合わせた無段変速機です。

カ行

刈取スライド……刈取部を左右にスライド（横移動）させる装置です。あぜぎわ刈や中割り刈りに使用する。

コンビネーションスイッチ……前照灯と方向指示灯の操作機能を１つにまとめたスイッチです。

サ行

送じん量調整ノブ……こぎ室のワラクズの流れを調整するレバーです。

タ行

デバイダ……分草板のことをいいます。

トルクリミッタ……作業中にワラなどが巻付き異常な力が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐ安全装置です。

ナ行

ナローガイド……刈取る作物を分ける刈取部誘導稈です。

ノッタ……ワラの結束機です。

ハ行

バンパ……デバイダ先端に取付ける危険防止用の保護板です。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

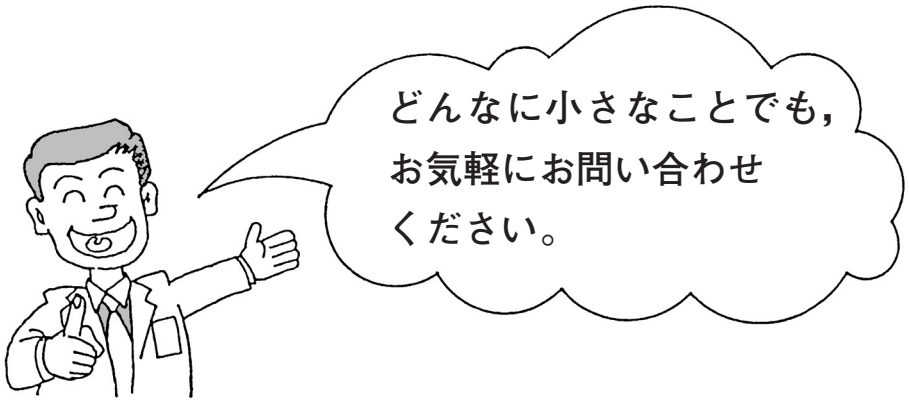
●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)